

韓國研究財團 登載學術誌

Journal of Japanese Studies

# 日本研究

第95號

2022

(NRF-2022-S1A8A1094983)

This journal was supported by the NRF(National Research Foundation of Korea) Grant funded by the MOE(Ministry of Education)  
(NRF-2022-S1A8A1094983)

2023. 3

韓國外國語大學校

日本研究所



# 日本研究

•第95號•

〈目次〉

---

## 【日本語學】

- 複合動詞のコロケーションに関する実証的分析  
- 「受け入れる」と「受け止める」を事例に - ..... 金光成 ..... 7
- 메타버스 플랫폼 게더타운을 활용한 일본어 수업 제안 ..... 김태희 ..... 33
- 일한 양 언어의 조리동사 대조연구  
- 조리 전 단계를 중심으로 - ..... 은수희 ..... 59
- 社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する反応  
- 韓日大学生調査を中心に - ..... 河正一·趙智英·金民主 ..... 83

## 【日本文學】

- 나가이 다카시 원작 『나가사키의 중』과 동명의 가요·영화,  
부록 「마닐라의 비극」과 그 서사성 ..... 심수경·황규삼 ..... 107
- 모리사키 가즈에 『가라유키상』의 서사 분석  
- 비가시화되는 식민주의 - ..... 오미정 ..... 133
- 일본 근대아동교양총서 『소학생전집』의 간행양상에 대한 연구 ..... 조은애 ..... 153

## 【日本學】

- 에도(江戸)의 정원수 가게와 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)의 원예생활  
..... 김미진 ..... 179
- 자위대의 연화(軟化) 지향과 제국 일본과의 연속성  
- 자위대 내부의 성폭행 문제를 축(軸)으로 - ..... 노병호 ..... 203
- 일본의 디지털 경쟁력 추이와 현황 ..... 박용구 ..... 231
- 쓰카 고헤이와 미즈키 시게루의 ‘일본군 위안부’  
- 『딸에게 들려주는 조국/아버지의 전기』를 매개로 - ..... 최은수 ..... 259

## 【書評】

- 安藤宏 著『太宰治論』(東京大学出版会、2021)에 대한 서평 ..... 정세진 ..... 283
- 제7회 한국외국어대학교 일본연구소 차세대 연구자상 ..... 289

【日本語學】



## 複合動詞のコロケーションに関する実証的分析

－「受け入れる」と「受け止める」を事例に－

金光成\*

### 〈目次〉

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| I.はじめに            | 4. 名詞修飾       |
| II. 先行研究の検討       | 5. サブコーパスとPMW |
| III. 事例分析         | IV. おわりに      |
| 1. 助詞や名詞とのコロケーション | 1. 分析の結果      |
| 2. 副詞とのコロケーション    | 2. 本研究の意義     |
| 3. 近接動詞とのコロケーション  |               |

Key Words : 복합동사(compound verbs), 언어관계(collocation), 코퍼스(corpus), 유의어(synonym), 수용(acceptance)

### I.はじめに

複合動詞の意味や用法を適切に捉えるためには(i)複合動詞のコロケーションと(ii)複合動詞が使用される文脈に関する理解が必要である。しかし、複合動詞に関する従来の研究では形態論や統語論の観点から複合動詞の結合関係に注目する傾向が相対的に強かった。もちろん、複合動詞の結合関係と関わる論理を明らかにすることは複合動詞に関する理解を深めることにつながると思われる。複合動詞の意味論を発展させるためには、従来のアプローチに加え、複合動詞のコロケーションや文脈に関する分析も進めていく必要がある。

\* 中央大学校アジア文化学部 副教授, 日本語学

複合動詞の中でも使用頻度が高く、類義語の関係にある複合動詞は日本語教育の観点から優先的に分析を行う必要があると考えられる。本稿では類義語の関係にありながら、使用頻度の高い「受け入れる」と「受け止める」を事例分析の対象とする。『複合動詞レキシコン』<sup>1)</sup>には2,759語の複合動詞が収録されているが、これらの複合動詞の頻度を『NLT』<sup>2)</sup>で調べてみると「受け入れる」の頻度は64,025件で全体の中で5位、「受け止める」の頻度は31,022件で全体の中で21位であった。そして「受け入れる」と「受け止める」はそれぞれ「V+入れる」と「V+止める」に属する事例の中でその頻度が最も高かった<sup>3)</sup>。「受け入れる」と「受け止める」は(1)のようにその用法が類似している例が見られる。

- (1)a. 不安になるのは事実を受け入れていないからでは。  
 b. 不安になるのは事実を受け止めていないからでは。  
 c. いただいたご意見を受け入れ、分かりやすい説明を行えるよう心がけます。  
 d. いただいたご意見を受け止め、分かりやすい説明を行えるよう心がけます。

このように「受け入れる」と「受け止める」はコロケーションにおいて重なる部分があるが、辞書ではこれらの複合動詞をどのように定義しているのだろうか。『デジタル大辞泉』と『大辞林』では以下のように「受け入れる」と「受け止める」の意味を提示している。

『デジタル大辞泉』

- 「受け入れる」 (1) 受けて入れる。  
                   「水を器に～れる」  
 (2) 人や物を迎え入れたり、引き取ったりする。

---

1) 『複合動詞レキシコン』については「<https://vlexicon.ninjal.ac.jp/>」を参照されたい。  
 2) 『NLT』については「<https://tsukubawebcorpus.jp/>」を参照されたい。  
 3) 「V+入れる」の中で頻度が最も高い3つの事例は「受け入れる(64,025件)、取り入れる(45,042件)、仕入れる(7,277件)」で、「V+止める」の中で頻度が最も高い3つの事例は「受け止める(31,022件)、食い止める(3,786件)、突き止める(3,574件)」であった。

- 「留学生を～れる」「海外の文化を～れる」
- (3) 人の意見や要求などを認める。  
「主張を～れる」
- 「受け止める」 (1) 自分の方に向かってくるものを支えて、その進行や攻撃を止める。  
「ボールを～める」
- (2) 事柄の意味をしっかりと理解する。自分の問題として認識する。  
「忠告を謙虚に～める」

『大辞林』(第四版)

- 「受け入れる」 (1) 人の言うことや要求などを聞き入れる。  
「反対意見を～れる」
- (2) 引き取って、世話をする。  
「難民を～れる」
- (3) 受け取って収める。また、他からもたらされたものを取り入れる。  
「納入品を～れる」「仏教の風習を～れる」
- 「受け止める」 (1) 飛んできた物や落ちてきた物を手や腕で支えて進行を止める。  
「ボールを～める」
- (2) 攻撃を食い止める。  
「猛烈な突っ張りをがっちり～める」
- (3) 外からの働きかけを受けてそれに対応する。取り組む。  
「自分自身の問題として～める」

『デジタル大辞泉』と『大辞林』の内容を比較してみると定義の仕方に違いが見られる。「受け入れる」の定義に関しては『デジタル大辞泉』での(3)の意味(‘人の意見や要求を認める。’)が『大辞林』での(1)の意味(‘人の言うことや要求などを聞き入れる。’)に対応するが、『デジタル大辞泉』は思考の側面に、『大辞林』は行為の側面に重きを置きながら意味と述べている。このような傾向は「受け止める」の定義からも伺える。「受け止める」の定義に関しては『デジタル大辞泉』での(2)の意味(‘事柄の意味をしっかりと理解する。自分の問題として認識する。’)が『大辞林』での(3)の意味(‘外からの働きかけを受けてそれに対応する。取り組む’)に対応しているが、『デジタル大辞泉』が『大辞林』より、思

考と関わる側面に焦点を当てている。このような辞書上の定義から「受け入れる」と「受け止める」の意味には思考や行為と関わる二面性が認められると考えられる。本稿では以上のような定義を踏まえて「受け入れる」と「受け止める」のコロケーションや文脈に関する実証的な分析を試みる。

## II. 先行研究の検討

本章ではコーパスを活用して個々の複合動詞のコロケーションを分析した先行研究について検討する。個々の複合動詞のコロケーションとは個々の複合動詞と‘名詞、助詞、動詞、助動詞、副詞’などの共起関係を指す。個々の複合動詞のコロケーションに関する先行研究は分析の対象によって次のように分けられる。

- [1] 複合動詞と名詞とのコロケーションを分析した研究  
：村田(2013、2020、2021)、郭(2017、2018、2019)、何(2015)、中溝・坂井・金森(2016)、柴・趙(2017)、徐(2018)など
- [2] 複合動詞と助動詞とのコロケーションを分析した研究  
：柴・趙(2017)、村田年(2020、2021)
- [3] 複合動詞と副詞とのコロケーションを分析した研究  
：金(2016a、2016b、2018)、村田年(2020、2021)
- [4] 統計的指標を分析に活用した研究  
：中溝・坂井・金森(2016)、柴・趙(2017)

以上のように先行研究の中でその数が最も多かったのは複合動詞と名詞のコロケーションを分析したものである。ここで検討の対象になっている名詞は基本的にヲ格を取る目的語である。名詞とのコロケーションを検討した先行研究に比べて助動詞や副詞とのコロケーション、統計的指標を検討した先行研究は相対的にその数が少ない。先行研究の中でも多角的に複合動詞のコロケーションを分析したものとしては柴・趙(2017)と村田年(2020、2021)が

挙げられる。柴・趙(2017)は『筑波ウェブコーパス』を用いて「見落とす、見過ごす、見逃す」のコロケーションを分析している。具体的には名詞(目的語)や助動詞とのコロケーションだけでなく、統計的指標も分析に活用している。そして、村田年(2020、2021)は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて「押しつける」のコロケーションを分析している。具体的には名詞(目的語)、副詞、助動詞とのコロケーションについて分析を行ったものであるが、統計的指標は分析に活用していない。

本稿では類義語の関係にある複合動詞を分析の対象としているので同じく類義語の複合動詞を分析した柴・趙(2017)に焦点を当ててもう少し具体的に検討する。柴・趙(2017)は、先述したように、「見落とす、見過ごす、見逃す」のコロケーションについて分析したものである。柴・趙(2017)は辞書や先行研究の内容を踏まえた上で、コーパス検索システム『NLT』を活用した分析を行っている。分析対象を(i)「見落とす」と「見過ごす」、(ii)「見落とす」と「見逃す」、(iii)「見過ごす」と「見逃す」の三つのグループに分けて、目的語とのコロケーションを頻度、MIスコア、ログダイスに基づいて分析している。例えば、「見落とす」と「見過ごす」の目的語とのコロケーションを分析した節では「それぞれの複合動詞のみと共起する名詞」と「両方の複合動詞と共起する名詞」について頻度、MIスコア、ログダイスを参照しながら分析している。このようなアプローチは類義語間の違いだけでなく、共通点もより客観的な形で捉えられるという利点がある。

次章では類義語の関係にある複合動詞のコロケーションを複合動詞と共起する「助詞、名詞、動詞、助動詞、副詞」、「統計的指標」、「文脈」などを考慮しながら分析を進めていくことにする。

### Ⅲ. 事例分析

本章では受容を表す複合動詞である「受け入れる」と「受け止める」のコロケーションに焦点を当てて用法上の違いについて実証的な分析を行う。表1

は『NLT』の「パターン頻度順」パネルを参照したものであるが、共起するパターンが10%を超えるケースを提示している。

〈表 1〉「受け入れる」と「受け止める」のコロケーション

受け入れる			受け止める		
パターン	頻度	比率	パターン	頻度	比率
…を受け入れる	32,647	51.0%	…を受け止める	12,842	41.4%
…に受け入れる	11,883	18.6%	…に受け止める	7,487	24.1%
受け入れる ⇨ 動詞	18,769	29.3%	受け止める ⇨ 動詞	8,962	28.9%
受け入れる + 名詞	13,521	21.1%	受け止める + 名詞	3,786	12.2%
受け入れて + 動詞	12,579	19.6%	受け止めて + 動詞	7,031	22.7%
動詞 ⇐ 受け入れる	10,567	16.5%	動詞 ⇐ 受け止める	4,462	14.4%
副詞 ⇐ 受け入れる	8,595	13.4%	副詞 ⇐ 受け止める	6,008	19.4%

表1からは「受け入れる」と「受け止める」がどのようなコロケーションで多く用いられているのかが確認できる。以下では、具体的なコロケーションを検討するが、まず、1節では助詞や名詞とのコロケーションについて検討する。2節では副詞とのコロケーション、3節では名詞修飾、4節では近接動詞に焦点を当てて分析を行う。そして5節ではサブコーパスとPMWに注目して目立つ傾向を検討する。

### 1. 助詞や名詞とのコロケーション

表1から確認できるように「受け入れる」や「受け止める」との共起頻度が最も高いものは助詞「を」である。本節では「～を受け入れる」や「～を受け止める」がどの種の名詞と共起するのか、また、その特徴は何かについて分析する。そして、「～に受け入れる」や「～に受け止める」と共起する名詞についても分析を行うことにする。

1) 「～を受け入れる」と「～を受け止める」

『NLT』で「受け入れる」と「受け止める」について2語比較検索を行った。以下の事例は「～を受け入れる」と共起する名詞の中でLD差<sup>4)</sup>が3以上で頻度が50以上のものである<sup>5)</sup>。ここではLD差が5以上のグループと(5未満)3以上のグループに分けている。実線の名詞は「～を受け止める」との共起頻度が5未満で、点線の名詞は「～を受け止める」との共起頻度が10未満である。

<u>留学生(8.14, 471)</u>	<u>移民(7.52, 245)</u>	<u>研修生(7.46, 201)</u>	<u>患者(7.24, 325)</u>
<u>者(7.12, 1,121)</u>	<u>文化(6.72, 231)</u>	<u>名(6.51, 97)</u>	<u>難民(6.47, 117)</u>
<u>金(6.23, 79)</u>	<u>ボランティア(6.21, 96)</u>	<u>学生(6.12, 430)</u>	<u>がれき(5.94, 74)</u>
<u>イエス(5.90, 87)</u>	<u>クッキー(5.75, 67)</u>	<u>生(5.64, 234)</u>	<u>条件(5.57, 104)</u>
<u>児童(5.53, 57)</u>	<u>人(5.33, 809)</u>	<u>実習(5.33, 79)</u>	<u>見学(5.23, 71)</u>
<u>派遣(4.86, 84)</u>	<u>客(4.78, 80)</u>	<u>人々(4.52, 75)</u>	<u>他人(4.36, 67)</u>
<u>さん(4.34, 330)</u>	<u>医(4.34, 60)</u>	<u>入院(4.26, 51)</u>	<u>生徒(4.24, 131)</u>
<u>案(4.19, 92)</u>	<u>他者(4.12, 53)</u>	<u>ほう(4.11, 175)</u>	<u>児(4.01, 70)</u>
<u>観(4.00, 135)</u>	<u>様(3.83, 103)</u>	<u>たち(3.46, 259)</u>	<u>申し出(3.38, 69)</u>
<u>達(3.13, 57)</u>	<u>提案(3.08, 279)</u>	<u>物(3.06, 79)</u>	<u>考え方(3.05, 95)</u>
<u>自身(3.03, 114)</u>			

これらの事例は意味的特性を考慮すると以下のように大きく3つのグループに分けられる。

- [1] 留学生、移民、研修生、患者、者、名、難民、ボランティア、学生、生、児童、人、客、人々、他人、さん、医、生徒、他者、児、様、たち、達、自身、イエス；実習、見学、派遣、入院

4) LDはコロケーションの強さを示す統計値の一つで、最もバランスのとれた指標であるという評価を受けている(cf.Rychlý2008)。LD差が大きいほどコロケーションの結びつきが相対的に強いことを意味する。

5) 例えば、留学生(8.14, 471)で「8.14」はLD差を、「471」は頻度を表している。

- [2] 金、がれき、物  
 [3] 文化、条件、案、観、申し出、提案、考え方

[1]は基本的に人を表す事例で、[2]は物理的な対象を表す事例である。そして、[3]は抽象的な対象を表す事例である。[1]～[3]を見ると、「～を受け入れる」との共起関係が相対的に強い名詞には人と関わる事例が最も多く、物理的な対象と関わる事例は少ないことが確認できる。[1]の事例の中で「実習、見学、派遣、入院」は直接人を指すものではないが、人の活動を指す表現として用いられている。[3]の事例の中ではある種のアイディアや提案と関わるものが目立つ。具体的な用例としては(2)のような例が挙げられる。

- (2)a. 外国からの留学生を積極的に受け入れ、ともに学べる環境を用意しています。  
 b. 人口減少時代を迎えて、移民を受け入れよと主張している人がいる。  
 c. もちろん、汚染されたがれきを受け入れることはできないことです。  
 d. 自国の文化をきちんと学んだ上で、他国の文化を受け入れようとする姿勢を身につける必要があります。

次に「～を受け止める」との共起関係が相対的に強い事例を検討してみよう。以下の事例は「～を受け止める」と共起する名詞の中でLD差が3以上で頻度が20以上のものである<sup>6)</sup>。

<u>重み</u> (6.33, 40)	<u>攻撃</u> (6.13, 58)	<u>衝撃</u> (5.25, 42)	<u>視線</u> (5.13, 43)
<u>提起</u> (4.69, 25)	<u>ボール</u> (4.50, 35)	<u>警告</u> (4.20, 20)	<u>動き</u> (4.18, 31)
<u>体重</u> (4.06, 24)	<u>声</u> (3.85, 239)	<u>ニーズ</u> (3.47, 51)	<u>悩み</u> (3.32, 91)
<u>思い</u> (3.00, 486)			

これらの事例は次のように大きく2つのグループに分けられる。

6) 「～を受け止める」と共起する名詞の中で検討の対象とする事例の頻度が「～を受け入れる」と異なるのは「受け入れる」と「受け止める」の総頻度の差を考慮したからである。

- [1] 重み、視線、提起、警告、動き、声、ニーズ、悩み、思い
- [2] 攻撃、衝撃、ボール、体重

[1]の事例は多様であるが、基本的にある種の課題や問題として認識される対象と関わっているという点で共通している。[2]の事例は物理的な働きかけと関わっていると同時に、負担になりうる対象でもある<sup>7)</sup>。具体的な用例としては(3)のような例が挙げられる。

- (3)a. この得票の重みをしっかりと受け止め、これから政治の現場で仕事をさせていただきます。
- b. 今後もお客様の声を大事に受け止めて改善していきたいと思っております。
- c. ベルギー軍は英仏軍が援軍として到達するまでの間、ドイツ軍の攻撃を受け止めるために国境線沿いに展開しました。

続いて「～を受け入れる」と「～を受け止める」のコロケーションが類似している事例を検討してみよう。以下の事例はLD差が±1以下で頻度が20以上のケースである<sup>8)</sup>。ここではLD差が±1以下の事例を二つのグループに分けてあるが、上のグループは相対的に「～を受け入れる」との共起関係が強い事例<sup>9)</sup>で、下のグループは相対的に「～を受け止める」との共起関係が強い事例<sup>10)</sup>である。ちなみに『NLT』では「～を受け止める」と相対的に強く共起する名詞のLD差にはマイナス記号がついているが、ここでは省略する。

事実(0.04, 396/346) 体(0.09, 33/30) 情報(0.34, 92/71) 責任(0.51, 34/22)  
 現実(0.54, 666/408) 状況(0.56, 186/120) 現状(0.57, 120/68) アドバイス(0.62, 67/34)

---

7) 「衝撃」を[2]のところに提示してあるが、「衝撃」は物理的な働きかけだけでなく、精神的な働きかけを表す際にも用いられていることが観察される。  
 8) ここでは意味上の特徴を把握しにくい形式名詞や代名詞の事例は除いてある。  
 9) 例えば、事実(0.04, 396/346)で「0.04」はLD差を、「396」と「346」はそれぞれ「～を受け入れる」や「～を受け止める」との共起頻度を表している。  
 10) 例えば、行動(0.06, 22/23)で「0.06」はLD差を、「22」と「23」はそれぞれ「～を受け止める」や「～を受け入れる」との共起頻度を表している。

人生(0.66, 46/26)	愛(0.82, 53/24)	変化(0.87, 183/90)	
行動(0.06, 22/23)	さ(0.07, 169/165)	内容(0.09, 45/44)	判決(0.12, 37/48)
意見(0.21, 219/204)	痛み(0.27, 31/31)	流れ(0.34, 30/28)	言葉(0.37, 276/224)
結果(0.41, 188/148)	要望(0.54, 102/93)	感情(0.63, 110/86)	話(0.69, 96/62)
物事(0.81, 55/46)	力(0.95, 109/58)	心(0.98, 74/39)	

以上の事例の中にはある種の内容(「事実、情報、内容、判決、意見、言葉、結果、要望、話」、状況(「現実、状況、現状、変化、人生、流れ」、感情(「愛、痛み、感情、心」と関わるものが特に多く見られる。「～を受け入れる」と「～を受け止める」のコロケーションが類似している具体的な用例としては(4)のような例が挙げられるが、意味上の違いはあまり明確ではない。

- (4) a. 原因探しや犯人探しを止めて、現実を受け入れたとき、心は平安になります。
- b. 現実を受け止める勇気がなくて婦人科の検査を怠っていた。
- c. 優れたピアノ講師であれば、まずはあなたの意見を受け入れ、積極的にあなたの相談にのってくれるでしょう。
- d. 強引に売り込むのではなく、お客様の意見を受け止めながら展開していく技術が必要になります。

「～を受け入れる」と「～を受け止める」のコロケーションが類似しているケースでは「受け入れる」と「受け止める」が共通して何かを認めることを表している。「受け入れる」と「受け止める」の意味上の違いを確認できる客観的な指標としては副詞とのコロケーションが参照できると考えられる。「受け入れる」や「受け止める」と副詞のコロケーションについては2節で検討する。

## 2) 「～に受け入れる」と「～に受け止める」

表2で見られるように助詞「を」に次いで「受け入れる」や「受け止める」と多く共起している助詞は「に」である。『NLT』で「～に受け入れる」や「～に受け

止める」と共起する名詞の中でLD差が3以上の事例を検討してみると、「～に受け止める」と共起するものは「深刻に、真摯に、敏感に」などのように全て副詞として用いられていた。このようなケースに関しては2節で他の副詞と一緒に分析を行うことにする。ここでは「～に受け入れる」と共起する名詞の中でLD差が3以上で頻度が50以上である事例について検討する。以下の事例の中で実線の名詞は「～に受け止める」との共起頻度が5未満で、点線の名詞は「～に受け止める」との共起頻度が10未満である。

<u>市場(6.74, 110)</u>	<u>社会(6.41, 258)</u>	<u>女性(5.68, 52)</u>	<u>お客様(5.19, 74)</u>
<u>世の中(5.07, 64)</u>	<u>層(4.61, 64)</u>	<u>ユーザー(4.45, 63)</u>	人々(3.97, 209)
<u>人(3.65, 377)</u>	<u>者(3.46, 221)</u>	<u>国民(3.00, 65)</u>	

以上の事例は「市場、社会、世の中」のように人が活動する領域と関わっているものと「女性、お客様、ユーザー」などのように何かを消費する(または、使用する)人と関わっているものに分けられる。具体的な用例としては(5)のような例が挙げられる。

- (5) a. 結局のところ発明が市場に受け入れられなければはじまらないわけです。
- b. 福祉の専門家が福祉制度を改革しようとしても提言がすんなり社会に受け入れられません。
- c. コーヒーは主に都市部の女性に受け入れられていたのです。
- d. 本当にいいメニューは、必ずお客様に受け入れられ、定着していくはずで

(5)のように「～に受け入れる」は基本的に受身形で用いられ<sup>11)</sup>、ある種の活動の場や消費者の間で認められることを表している。

続いて、次節では「受け入れる」と「受け止める」の用法が重なる部分について副詞とのコロケーションに注目しながら具体的な分析を行う。

---

11) 『NLT』の統計を参照すると「受け入れる」が「れる・られる」と結合して用いられたケースは13,868件(21.7%)であったのに対して「受け止める」が「れる・られる」と結合して用いられたケースは3,300件(10.6%)であった。

## 2. 副詞とのコロケーション

本節では「受け入れる」や「受け止める」がそれぞれどの種の副詞と相対的に強く共起するののかについて検討する。まず、「受け入れる」と共起する副詞の中でLD差が3以上で頻度が50以上の事例には次のようなものが観察された。以下の事例の中で実線の副詞は「受け止める」との共起頻度が5未満で、点線の副詞は「受け止める」との共起頻度が10未満である。

とうてい(6.79, 128) ほとんど(5.79, 56) 容易に(5.72, 88) 絶対に(5.17, 76)  
 無批判に(4.98, 103) 一般(4.99, 129) まったく(4.72, 133) どんどん(4.60, 50)  
 すんなり(4.29, 339) 完全に(4.16, 92) なかなか(4.05, 455) 簡単に(3.63, 139)  
 すでに(3.62, 112) 無条件に(3.46, 117) どうしても(3.40, 143) 徐々に(3.24, 60)

以上の事例から目立つのは「受け入れる」と共起する副詞には何かを受容することの難しさの程度と関わっているものが比較的多いという点である。例えば、「とうてい、まったく、どうしても、絶対に、なかなか」は受容の難しさを、「すんなり、簡単に、無批判に、無条件に、安易に、どんどん」は受容のしやすさを表す副詞として捉えられる。他には「完全に、ほとんど、一般に」のように割合と、「徐々に、すでに」のように時間的な側面と関わっている副詞も見られる。具体的な用例の一部としては(6)のような例が挙げられる。

- (6) a. 今回示された「考え方」には、被害者側が到底受け入れられない三つの問題があります。  
 b. これは彼女の意見をまったく受け入れていないことになります。  
 c. 他者から提示された価値観、ルール、命令を無批判に受け入れることのほうが、精神的に楽だからだ。  
 d. たぶん信頼してる人からの言葉はすんなり受け入れるってのが、お前らしいよ。

次に「受け止める」と共起する副詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上の事例に次のようなものが観察された。以下の事例の中で実線の副詞は「受け入れ

る」との共起頻度が5未満で、点線の副詞は「受け入れる」との共起頻度が10未満である。

深刻に(8.39, 300) 厳粛に(7.67, 138) 真摯に(6.59, 1,295) 敏感に(5.33, 33)  
 的確に(4.91, 30) 真剣に(4.78, 348) 丁寧(4.55, 44) しっかり(4.49, 1,391)  
 ふうに(4.36, 291) 前向きに(4.10, 54) きちっと(3.77, 34) 大切に(3.63, 61)  
 どう(3.17, 1,235)

以上の事例は大きく「深刻に、厳粛に、真摯に、真剣に、丁寧に、前向きに、大切に」のように共通して真面目な態度を表す副詞と「的確に、しっかり、きちっと、敏感に」のように共通して的確な行為を表す副詞に分けられる。そして、「受け止める」は「どう」と共起する頻度も相対的に高い<sup>12)</sup>が、「どう受け止めるか、どう受け止めていますか、どう受け止めたらよいか」などのように何かについてどのように認識しているのかを問う場面で用いられていることが確認できる。具体的な用例としては(7)のような例が挙げられる。

- (7)a. 今の日本人の食生活の乱れを深刻に受け止めている人がいます。
- b. その気づきを真摯に受け止め、行動する事で本当の自分に出会える気がします。
- c. また世界の潮流を的確に受け止め、それを日本の関係者にフィードバックする動きも大切なことである。
- d. 相手の言っていることやその気持ちをしっかり受け止めることが本当に聴くことです。
- e. 人生は現実の問題よりも、現実をどう受け止めて、それを変えていくかのほうが大切です。

以上の検討から「受け入れる」は受容の難しさや受容のしやすさを表す副詞と共起する傾向が相対的に強い<sup>12)</sup>のに対して、「受け止める」は真面目な態度や的確な行為を表す副詞と共起する傾向が相対的に強いことが確認できた<sup>13)</sup>。

12) ちなみに「どう受け入れる」の頻度は138件であった。

13) 「受け入れる」や「受け止める」と共起する副詞の中でLD差が±1以下で頻度が30以上の

## 3. 近接動詞とのコロケーション

近接動詞とは当該動詞と3～5語以内で共起する動詞を指す用語である。まず、「受け入れる」や「受け止める」の後に位置する近接動詞から検討してみよう。「受け入れる」の後に位置する近接動詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上の事例としては以下のようなものが観察された。ここで実線の動詞は「受け止める」との共起頻度が5未満で、点線の動詞は「受け止める」との共起頻度が10未満である。

<u>拒否する(5.81, 65)</u>	<u>拒む(5.37, 32)</u>	<u>表明する(5.10, 35)</u>	<u>整える(4.82, 69)</u>
<u>整う(4.40, 84)</u>	<u>許す(4.20, 42)</u>	<u>決定する(3.78, 31)</u>	<u>限る(3.39, 35)</u>
<u>愛する(3.32, 57)</u>	<u>意味する(3.28, 34)</u>	<u>受け入れる(3.25, 183)</u>	<u>設定する(3.15, 30)</u>
<u>増える(3.04, 43)</u>			

「受け入れる」の後に位置する近接動詞を見ると「拒否する、拒む、許す、受け入れる」のように受容に対する賛否と密接に関わっている事例が相対的に多いことが分かる。「表明する」や「決定する」の用法も基本的には受容に賛成することと関わっている。そして「受け入れる」の後に位置する近接動詞の中には「整える、整う、設定する」のようにある種の環境の構築と関わっている事例も目立つ。具体的な用例としては(8)のような例が挙げられる。

- (8)a. 患者は十分な説明を受けた後に治療を受け入れるか、または拒否する権利を有する。
- b. 一方、政府も、和解案を受け入れることを表明しました。
- c. 電子書籍が広く受け入れられる態勢がようやく整ったということなのだろう。

「受け止める」の後に位置する近接動詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上

---

ものには「むしろ、いったん、いかに、やはり、当然、まず、同時に、丸ごと」などが見られた。

の事例は「受け止める」だけであった。「受け止める」は基本的に拒否ではなく受容することを表す際に用いられる傾向が相対的に強い<sup>14)</sup>。具体的な用例としては(9)のような例が挙げられる。

- (9)a. 首相も「もちろんです。こういう問題は党を超えて、受け止められるものは受け止めます」と応じました。
- b. その患者さんの苦しみを共に受け止めて、それを受け止めながら、患者さんご自身が自分なりの回答を見いだしていく過程に寄り添うことを心がけています。

続いて「受け入れる」や「受け止める」の前に位置する近接動詞を検討する。「受け入れる」の前に位置する近接動詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上の事例としては以下のようなものが見られた。

受け入れる(5.14, 154) 希望する(4.64, 43) 喜ぶ(4.40, 46) 愛する(3.96, 68)  
信じる(3.30, 52) 超える(3.14, 46) 許す(3.09, 56)

「受け入れる」の前に位置する近接動詞の中でLDと頻度が最も高かったのは「受け入れる」だった。その用例を見ると(10a)～(10c)のように受容と関わる判断を問題にしていることが観察される。

- (10)a. 受け容れられる部分、受け容れられない部分がある。
- b. 自分の信じる「正しい」考えを「受け入れる」か「受け入れない」かどちらかしか議論はありません。
- c. その際、相手の主張をよく聞き、受け入れるべき点は受け入れるという姿勢が必要でしょう。

他に「受け入れる」の前に位置する近接動詞には「希望する、喜ぶ、愛す

---

14) ちなみに、「受け入れない」のLDと頻度は3.01と2,200であったのに対して、「受け止めない」のLDと頻度は1.31と673であった。

る、信じる、許す」のような事例も見られるが、これらの動詞は肯定的な態度と関わっているという点で共通している。具体的な用例としては(11)のような例が挙げられる。

- (11)a. また改革される側が喜んでその改革を受け容れるようにしなければならない。  
b. 視聴者に愛されて受け入れられる作品に出演できるのはうれしい。

「受け止める」の場合、その前に位置する近接動詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上の条件を満たすものは見られなかった<sup>15)</sup>。

以上の考察を通して「受け入れる」と「受け止める」がどの種の動詞との結びつきが相対的に強いかを確認することができた。「受け入れる」の近接動詞には受容に対する賛否や判断を表すものが多かった。そして「受け止める」の近接動詞の中で設定した条件を満たすものは「受け止める」しかなかった。

#### 4. 名詞修飾

本節では「受け入れる」や「受け止める」が名詞を修飾するケースについて分析を行う。まず、「受け入れる」が修飾する名詞の中でLD差が3以上で頻度が30以上の事例としては以下のようなものが確認できた。ちなみに、実線の名詞は「受け止める」との共起頻度が5未満で、点線の名詞は「受け止める」との共起頻度が10未満である。

<u>素地(6.76, 51)</u>	<u>施設(6.08, 70)</u>	<u>体制(5.53, 152)</u>	<u>土壌(5.03, 44)</u>
<u>企業(4.94, 63)</u>	<u>他(4.94, 31)</u>	<u>態勢(4.58, 44)</u>	<u>場合(4.29, 157)</u>
<u>社会(4.26, 39)</u>	<u>余地(4.18, 55)</u>	<u>方針(3.81, 38)</u>	<u>気(3.40, 43)</u>
<u>際(3.31, 52)</u>	<u>準備(3.18, 140)</u>	<u>可能性(3.10, 35)</u>	<u>制度(3.04, 34)</u>

15) LD差が3以上で頻度が20以上の近接動詞には「投げる」が見られた。「投げる」は「キャッチボールとは、一回投げて一回受け止めるのが普通ですね」のように基本的にボールのようなものが対象になっているケースが大部分であった。

学校(3.00, 33)

この事例の中で目立つのは大部分が何かを受け入れられる土台と関係しているということである。「施設、企業、学校、体制、制度、社会、土壌、素地、態勢」などのように具体的なものから抽象性の高いものまで多様である。「余地、方針、準備、気」も何かを受け入れられる土台に近い事例として考えられる。すでに出来上がっているものではないが、土台の形成につながる概念であるからである。具体的な用例の一部としては次のような例が挙げられる。

- (12)a. 小学校就学前の子どもを受け入れる施設として幼稚園と保育園があります。
- b. 米国には、女性の大統領を受け入れる素地は出来たが、黒人の大統領はまだ早い、受け入れられないという主張であった。
- c. 本学では、海外の研究者を積極的に受け入れる体制を取っています。
- d. 東北地方で被災されてるたくさんの方々を受け入れる準備を進めていき、共に暮らしていけるような街づくりを推進します。

次に「受け止める」が名詞を修飾するケースを検討してみたが、LD差が3以上で頻度が30以上の事例は見られなかった。「受け止める」は、「受け入れる」とは異なり、特定の名詞と共起する傾向があまり強くないことが確認できた。

## 5. サブコーパスとPMW

本節では「受け入れる」と「受け止める」の用法とサブコーパス(レジスター)の関係について目立つ傾向を中心に分析を行う。ここでは『中納言』を活用して『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を調べるが、サブコーパスごとの語数が異なるのでPMW(百万語あたりの頻度)に基づいてサブコーパス間の違いを検討する。表2は「受け入れる」と「受け止める」の粗頻度とPMWを提示したものである<sup>16)</sup>。

---

16) 「受け入れる」や「受け止める」を『中納言』で検索してみると「受け入れ」や「受け止め」のような形で名詞として用いられている事例も含まれていたため、そのような事例は手

〈表 2〉「受け入れる」と「受け止める」の粗頻度とPMW

レジスター		受け入れる		受け止める	
		粗頻度	PMW	粗頻度	PMW
出版 サブコーパス	書籍	1,630	57.08	717	25.11
	雑誌	137	30.82	88	19.79
	新聞	83	60.57	51	37.21
図書館 サブコーパス	書籍	1,657	54.54	701	23.07
特定目的 サブコーパス	ベストセラー	125	33.40	82	21.91
	知恵袋	276	26.90	87	8.48
	法律	1	0.92	0	0
	国会会議録	181	35.47	319	62.51
	広報紙	48	12.78	34	9.05
	教科書	38	40.92	14	15.07
	白書	168	34.40	24	4.91
	ブログ	287	28.15	139	13.63

「受け止める」は基本的に「受け入れる」に比べてPMWが低い。ただ、国会会議録のサブコーパスでは「受け止める」のPMWが高いことが確認できる。国会会議録で使われた「受け止める」の具体的な用例としては(13)のような例が挙げられる。

- (13)a. 前堀内通産大臣のこの指摘について、通産省、石油公団は真摯に受けとめるべきだと私は思うわけです。
- b. 西側の数カ国が既に参加を拒否していることをどのように受けとめておられますか、お尋ねいたします。
- c. 古今和歌集にこうなっている、この歌はこんなに平和な愛の歌だ、人が愛し合うすばらしい歌だ、こういうふうに受けとめている国民の人もたくさんおるよと。

---

作業で除いた。

d. 私は、今までの憲法をめぐる議論には、二つの側面があったと受けとめて  
おります。

国会会議録で用いられた「受け止める」の用例(319件)を検討してみると、「真摯に、厳粛に、深刻に、謙虚に、素直に、重く、しっかり」などのように真面目な態度や的確な行為を表す副詞的成分と共起する「受け止める」の用例が97件で最も多かった。(13a)はその用例の一つである。二番目に頻度の高かったコロケーションは(13b)のように「どのように」や「どう」と共起するケースで51件が見られた。三番目に頻度が高かったコロケーションは(13c)のように「～ふうに」と共起するケースで49件が見られた。そして四番目に頻度が高かったコロケーションは(13d)のように「～と」と共起するケースで39件が見られた。以上のような国会会議録での「受け止める」の用いられ方やPMWを検討してみると、「受け止める」の使用が物事に対する認識や判断について議論する国会会議録のジャンル上の特性を反映していることが見えてくる。「受け止める」は、共起する副詞の意味を考慮すると、「受け入れる」に比べて認識や判断の重みを感じられるという点で国会会議録というジャンルとの相性が相対的にいいと考えられる。

続いて「受け入れる」の用例について検討してみよう。「受け入れる」は国会会議録以外では「受け止める」よりPMWが高かったが、その差が最も大きかったのは書籍(図書館)と白書であった。ただ、書籍(図書館)の場合、一つのジャンルとしての特性を有していないので書籍(図書館)のサブコーパスと「受け入れる」の用法の関係性を論じることはあまり有意味ではない<sup>17)</sup>。そこで、ここでは白書のサブコーパスで用いられた「受け入れる」の用法を検討する。白書で使われた「受け入れる」の具体的な用例としては(14)のような例が挙げられる。

17) 書籍(図書館)には「文学、歴史、哲学、社会科学、自然科学、芸術・美術」などのジャンルが含まれている。この中で「受け入れる」の数が最も多かったのは社会科学(503件)であるが、そのPMWを計算してみると16.55であった。それは白書のサブコーパスでの「受け入れる」と「受け止める」のPMWの差より小さいものである。

- (14)a. また、途上国からの研修員の受入れも行っており、同年度は六百九名の研修員を受け入れた。
- b. 非核兵器国は、国際原子力機関と保障措置協定を締結し、国内の平和的な原子力活動に係るすべての核物質について保障措置を受け入れること。
- c. さらに個人輸入体験発表会の開催など広く一般国民に様々な催しを通じて外国製品を積極的に受け入れるよう呼びかけを行った。

白書で用いられた「受け入れる」の用例(168件)を検討してみると、その数が最も多かったのは(14a)のように人を表す名詞類と共起するケースで95件であった。二番目に多かったのは(14b)のように措置や要請などと共起するケースで29件が見られた。三番目に多かったのは(14c)のように物理的な対象と共起するケースで15件が見られた。白書は政府が各分野と関わる現状や展望などを知らせる一種の報告書であるが、そのため、客観的な状況の描写が中心になっている。

#### IV. おわりに

本稿では類義語の関係にある複合動詞「受け入れる」と「受け止める」の用法についてコロケーションを中心に分析を行った。以下では分析の結果と本研究の意義について簡単に述べることにする。

##### 1. 分析の結果

本稿では複合動詞のコロケーションに関する先行研究を踏まえた上で、「助詞や名詞、副詞、近接動詞」とのコロケーション、名詞修飾、サブコーパスとPMWについて実証的な分析を試みた。分析の主な内容は以下のようにまとめられる。

[1] 「名詞+助詞+受け入れる」の中では「[人と関わる対象]+を+受け入れ

る」の共起関係が相対的に強かった。

- [2] 「名詞+助詞+受け止める」の中では「[課題や問題などと認識される対象]+を+受け止める」の共起関係が相対的に強かった。
- [3] 「名詞+を+受け入れる」や「名詞+を+受け止める」のコロケーションが重なる際に共起する名詞は内容や状況などを表すものであった。
- [4] 「受け入れる」は受容の難しさややすさを表す副詞との共起関係が相対的に強かった。
- [5] 「受け止める」は真面目な態度や的確な行為などを表す副詞との共起関係が相対的に強かった。
- [6] 「受け入れる」は受容の判断と関わる動詞との共起関係が相対的に強かった。
- [7] 「受け入れる」が修飾する名詞の中で共起関係が相対的に強かった事例はある種の土台を表すものであった。
- [8] 「受け入れる」のPMWは白書のサブコーパスで相対的に高く、「受け止める」のPMWは国会会議録のサブコーパスで相対的に高かった。
- [9] 「受け止める」と相対的に強く共起する名詞や副詞、「受け止める」が相対的に多く生起するサブコーパスなどを考慮すると「受け入れる」に比べて「受け止める」には認識や行為の重みが認められる。また、「受け止める」は対象を課題や問題として捉えていることを意味する動詞であると言える。

## 2. 本研究の意義

本研究の意義に関しては次の二点を挙げておきたい。一つは複合動詞のコロケーションに関する先行研究を検討した上でより体系的な分析の可能性を示したことである。複合動詞に関する従来の研究ではその結合関係に注目する傾向が強かった。しかし、そのようなアプローチだけでは複合動詞の意味や用法が適切に捉えられない。そこで最近の研究では第II章で紹介したように複合動詞が用いられるコロケーションに注目した分析が行われている。さらに、一部の先行研究では複合動詞が使用される文脈やジャンルにまで分析

の範囲を広げている(cf.村田・山崎(2012)、村田(2013、2015)、郭(2018、2019)、金(2017、2020、2022))。ただ、複合動詞の用法と文脈やジャンルの関係性に関する分析は基本的に多様な複合動詞を検討の対象として一つ一つの複合動詞を丁寧に検討することはできていない。そのため、個々の複合動詞のコロケーションに焦点を当てた分析も同時に進めていく必要があると考えられる。本研究ではそのような問題意識から行われた一つの事例分析であると言える。複合動詞に関する今後の研究では形態論や統語論の観点からの分析に加え、まだ不十分である意味論の観点からの分析も積み重ねていく必要がある。

もう一つの意義としてはイメージスキーマの質的な特性を明らかにしていく上で今回の分析結果が参考になるという点である。イメージスキーマは認知プロセスの基盤として活用されている前概念的な構造である(cf. Johnson(1987:1-17)、Lakoff(1987:271-278)、Grady(2005:35-55)、Evans& Green(2006:179-189)、山梨(2000:138-168)、松本(2003:49-184))。一般にその構造的な側面が注目される傾向があるが、Johnson(2005)が指摘しているようにイメージスキーマには構造的な側面だけでなく感情や感覚のような質的な側面も結びついている。「受け入れる」や「受け止める」は両方ともある対象をある領域に移動させる構造と関わっているが、分析結果から見えてくるように質的には微妙に異なる特性を見せている。イメージスキーマの特性を適切に捉えるためにはそれと関わる類義語に関する分析が求められる。

### 〈参考文献〉

- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房 pp.1-177  
 \_\_\_\_\_(2013)『複合動詞研究の最先端』ひつじ書房 pp.1-468  
 金光成(2016a)「オノマトペとの共起関係から見えてくる日本語複合動詞の主観性-「V+つける」を事例に-」『日本研究』 pp.9-28  
 \_\_\_\_\_(2016b)「日本語複合動詞の主観性とコロケーションに関する記述的研究-「V+こむ」を事例に-」『日本語学研究』49 pp.3-23  
 \_\_\_\_\_(2017)「プロトタイプシナリオに基づく複合動詞教育の提案-克服のプロトタイプ

- \_\_\_\_\_ プシナリオを中心に-」『日本文化研究』63 pp.101-122
- \_\_\_\_\_ (2018) 「量の副詞と共起する日本語複合動詞の特性に関する考察」『日語日文学』78 pp.23-41
- \_\_\_\_\_ (2020) 「複合動詞の用法と文脈に関する意味中心の研究-物理的な症状を表す複合動詞を中心に-」『日本文化研究』75 pp.99-123
- \_\_\_\_\_ (2022) 「使用文脈を考慮した複合動詞の研究-心理的な症状を表す複合動詞を中心に-」『日語日文学研究』120 pp.23-44
- \_\_\_\_\_ 郭翼飛(2017) 「旅行業界における複合動詞の使用状況:「風景」を中心に」『国学院大学日本語教育研究』8 pp.106-111
- \_\_\_\_\_ (2018) 「産業に関する書籍における複合動詞の使用状況:後項動詞を中心に」『国学院大学大学院文学研究科論集』45 pp.118-107
- \_\_\_\_\_ (2019) 「医療業界における複合動詞の使用状況:医療アプリを中心に」『国学院大学大学院文学研究科論集』46 pp.64-52
- \_\_\_\_\_ 徐敏徹(2018) 「「飲み倒す」とはどういう意味なのか:Google検索を利用した日本語の低頻度複合動詞の分析」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3 国立国語研究所 pp.221-235
- \_\_\_\_\_ 谷口一美(2003) 『認知意味論の新展開:メトニミーとメタファー』 研究社 pp.1-151
- \_\_\_\_\_ 柴宝華・趙海城(2017) 「コーパスに基づいた類義語分析-「見落とす」「見過ごす」「見逃す」を例に」『明星大学研究紀要』53 pp.27-46
- \_\_\_\_\_ 陳奕廷・松本曜(2018) 『日本語語彙的複合動詞の意味と体系-コンストラクション形態論とフレーム意味論』ひつじ書房 pp.1-344
- \_\_\_\_\_ 中溝朋子・坂井美恵子・金森由美(2016) 「BCCWJを利用した反復相・反復強意相の機能動詞「繰り返す」「積む」「重ねる」の異同:名詞の共起状況を手掛かりに」『大学教育』(山口大学大学教育機構)13 pp.24-37
- \_\_\_\_\_ 姫野昌子(1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房 pp.1-267
- \_\_\_\_\_ 何志明(2015) 「日本語複合動詞のコロケーション」『日本語学研究』44 pp.167-181
- \_\_\_\_\_ 松本曜(1998) 「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114 pp.37-83
- \_\_\_\_\_ (2003) 『認知意味論』大修館書店 pp.49-184
- \_\_\_\_\_ 村田年・山崎誠(2012) 「自然科学系書籍における複合動詞の使用傾向-後項動詞を指標として-」『日本語と日本語教育』40 pp.83-112
- \_\_\_\_\_ 村田年(2013) 「社会科学系書籍における複合動詞の使用傾向:後項動詞を指標として」『日本語と日本語教育』41 pp.67-95
- \_\_\_\_\_ (2015) 「文学書籍における複合動詞の使用傾向:22の後項動詞を指標として」『日本語と日本語教育』43 pp.61-80
- \_\_\_\_\_ 山梨正明(2000) 『認知言語学原理』くろしお出版 pp.138-168
- \_\_\_\_\_ Barsalou, Lawrence W. 1999. "Perceptual Symbol Systems." Behavioral and Brain

- Sciences 22, pp.577-660
- Cienki, Alan 1997. "Some properties and groupings of image schemas." In Marjoligin Verspoor, Kee Dong Lee, and Eve Sweetser (eds.), *Lexical and Syntactical Constructions and the Construction of Meaning*. Benjamins, pp.3-15
- Evans, Vyvyan and Melanie Green. 2006. *Cognitive Linguistics: An Introduction*. Edinburgh University Press, pp.179-189
- Grady, Joseph E. 2005. "Image schemas and perception: Refining a definition." In Beate Hampe and Joseph E. Grady (eds.), *From Perception to Meaning*. Mouton de Gruyter, pp.35-55
- Johnson, Mark 1987. *The Body in the Mind: The Bodily Basis of Meaning, Imagination, and Reason*. University of Chicago Press, pp.1-17
- \_\_\_\_\_ 2005. "The philosophical significance of image schemas." In Beate Hampe and Joseph E. Grady (eds.), *From Perception to Meaning*. Mouton de Gruyter, pp.15-34
- Lakoff, George. 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*. University of Chicago Press, pp.271-278
- Rychlý, Pavel 2008. 'A lexicographer-friendly association score,' in Sojka, P. and Horák, A. (eds), *Proceedings of Second Workshop on Recent Advances in Slavonic Natural Languages Processing*. RASLAN 2008, pp.6-9

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

〈요지〉

복합동사의 언어관계에 관한 실증적 분석

- 「受け入れる」와 「受け止める」를 사례로 -

김 광 성

일본어 복합동사에 관한 연구나 교육을 내실이 있는 것으로 만들어나가기 위해서는 언어관계와 문맥에 대한 검토가 필요하다. 하지만 복합동사에 관한 종래의 연구에서는 언어관계 및 문맥에 대한 분석이 본격적으로 이루어지지 못한 측면이 있다. 본고에서는 코퍼스를 활용하여 유의어 관계에 있는 복합동사의 의미와 용법에 관한 분석을 진행하였다. 구체적으로는 수용의 의미를 나타내는 「受け入れる」와 「受け止める」의 언어관계에 초점을 맞추어 각각의 의미와 용법을 살펴보았다. 분석결과, 다음과 같은 내용을 알 수 있었다. (1) 「~を受け入れる」는 사람과 관련된 대상과의 공기관계가 상대적으로 강했으며, 「~を受け止める」는 과제나 문제 등으로 인식된 대상과의 공기관계가 상대적으로 강했다. (2) 「~を受け入れる」와 「~を受け止める」가 내용이나 상황을 나타내는 명사와 공기할 때 유사한 언어관계를 보였다. (3) 「受け入れる」는 수용의 어려움이나 용이함을 나타내는 부사와의 공기관계가 상대적으로 강했으며, 「受け止める」는 진지한 태도나 정확한 행동을 나타내는 부사와의 공기관계가 상대적으로 강했다. (4) 「受け入れる」는 수용의 판단과 관련된 동사와의 공기관계가 상대적으로 강했다. (5) 「受け入れる」가 수식하는 명사 중에서 공기관계가 상대적으로 강했던 것은 토대를 나타내는 명사였다. (6) 「受け入れる」의 PMW는 백서에서, 「受け止める」의 PMW는 국회의회의록에서 상대적으로 높았다.

〈Abstract〉

An Empirical Analysis on the Collocation of Compound Verbs  
- A Case Study of 「受け入れる」 and 「受け止める」 -

Kim, Kwang-Sung

In order to make research or education on Japanese compound verbs fruitful, it is necessary to analyze collocation and context. However, in the previous studies on compound verbs, there is an aspect in which the analysis of collocation and context has not been sufficiently performed. In this paper, the meaning and usage of compound verbs in a synonym relationship were analyzed using corpus. Specifically, I focused on the collocation of 「受け入れる」 and 「受け止める」, which represent the meaning of acceptance, and examined their meaning and usage. As a result of the analysis, the following contents were found. (1) 「～を受け入れる」 had a relatively strong collocation relationship with a person-related noun, and 「～を受け止める」 had a relatively strong collocation relationship with a noun recognized as a task or problem. (2) When 「～を受け入れる」 and 「～を受け止める」 were used with nouns indicating content or situation, they showed similar collocation intensity. (3) 「受け入れる」 had a relatively strong collocation relationship with an adverb indicating difficulty or ease of acceptance, and 「受け止める」 had a relatively strong collocation relationship with an adverb indicating a serious attitude or correct action. (4) 「受け入れる」 had a relatively strong relationship with the verb related to the judgment of acceptance. (5) Among the nouns that 「受け入れる」 modifies, it was the noun representing the foundation that had a relatively strong collocation relationship. (6) The PMW of 「受け入れる」 was relatively high in the white paper, and the PMW of 「受け止める」 was relatively high in the minutes of the National Assembly.

## 메타버스 플랫폼 게더타운을 활용한 일본어 수업 제안\*

김 태 희\*\*

### <目次>

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| I. 머리말                      | IV. 메타버스 플랫폼에 대한 학습자의 친숙성 탐색 |
| II. 연구의 배경과 선행연구 검토         | V. 맺음말                       |
| III. 수업 활용을 위한 교수자의 게더타운 조작 |                              |

Key Words : 메타버스(Metaverse), 갠저타운(gather.town), 줌(ZOOM),  
친しみやすさ(familiarity), 操作性(ease)

### I. 머리말

코로나 팬데믹으로 실시간 화상 플랫폼을 통한 수업이 일반화되었다. 강제적이었다고 느낄 만큼 불가피한 선택이었지만, 우리는 디지털 환경에 적응하게 되었고 원거리에서도 실시간으로 강의를 할 수 있는 교수역량을 얻게 되었다. 코로나 팬데믹 이전 실시간 화상 수업은 교육 현장에서 부분적으로 이용되었으나, 이제는 줌(ZOOM)이나 구글 미트(google meet), 마이크로소프트 팀즈(MS teams) 등 화상 플랫폼을 제어하고 운영할 수 있는 능력을 모든 교수자가 갖게 된 것이다.

김미경 외(2022:29-37 참조)는 『세븐테크』라는 책에서 앞으로 세상을 혁신

\* 이 논문은 2022년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임.  
(NRF-2022S1A5A8051024)

\*\* 중앙대학교 일본연구소 연구원, 일어교육전공

적으로 바뀌놓을 7가지 IT 기술은 2025년 무렵에야 시작될 것으로 예상되었지만 세븐 테크 사이클은 그보다 5년 정도가 더 앞당겨져 2020년에 이미 시작되어 버렸다고 언급하였다. 그 이유는 바로 코로나19 팬데믹 때문이다. 그는 코로나가 진화의 시계를 빠르게 당겨 놓았고 이제 세븐 테크를 중심으로 하는 IT 혁명의 막이 올랐다는 것이다.<sup>1)</sup> 메타버스(metaverse)는 이러한 ‘다양한 테크 놀로지’의 종합체이다. 많은 전문가들은 머지않은 미래에 우리가 많은 시간을 메타버스에서 머물게 될 것이라 전망하고 있다.

그렇다면 교육연구에서 메타버스의 활용은 어떠할까. 예컨대, 가상 도서관을 만들어 일본어, 일본관련 전자책을 대여하고 책에 관한 커뮤니티를 만들어 활용할 수도 있지만 그것은 학교나 기관 등에서 할 수 있는 일일 것 같다. 또한, 아바타가 거리 이곳 저곳을 산책하거나 쇼핑 하면서 일본어를 사용하고 언어문화적 체험을 할 수 있도록 일본어 마을을 만들 수 있지만 그것 역시 기업이나 연구소 규모의 협력이 필요한 일이다. 그렇다면 일본어 교육에 종사하는 교수자나 연구자가 개인 차원에서 메타버스를 교육적으로 활용하는 방법에는 무엇이 있을까?

필자는 메타버스 플랫폼을 활용하여 수업을 진행해 보았다. 줌을 통한 비대면 수업에서 학습자와 상호작용의 어려움을 극복하고자 하는 시도였다. 교수자와 학습자에게 활용과 조작의 용이성, 대면수업에 준하는 적절한 거리감과 공간감, 상호작용의 가능성 등을 고려하여 게더타운(Gather.town)이라는 플랫폼을 선택하였다.

본 연구는 이 시도에 대한 첫 번째 보고로서, 교수자의 수업 준비과정을 보고한다. 이 과정에서 교수자가 느낀 점과 문제 해결 사례 등을 소개한다. 그리고 메타버스 플랫폼에 대한 학습자의 관심과 경험, 수업 과정에서 느낀 조작 용이성 등을 분석하여 학습자가 느끼는 친숙성을 가늠하고자 한다. 이는 학습자의 수업

1) 이 책에서, 세븐테크란 PC, 윈도우, 인터넷이 불러온 지식혁명, 스마트폰과 소셜미디어가 만들어낸 모바일 혁명에 이어 앞으로 세상을 혁신적으로 바꿀 일곱 가지 IT기술(클라우드 컴퓨팅, 사물인터넷, 인공지능, 블록체인, 로봇공학, 증강현실(AR) 및 가상현실(VR), 그리고 메타버스)을 말한다고 밝히고, 그 중에서도 메타버스는 앞에서 열거한 여섯 가지 기술이 모두 모인 기술의 집합체로서 가장 중심적인 역할을 하게 될 것이고 언급하였다(김미경 외 2022:29-45 참조).

준비도 파악이라는 측면에서 교수-학습 설계 시 교수자가 인식하고 있어야 할 사항이다.

이상과 같은 보고를 통하여 교수자의 매체 활용 능력 향상, 학습자의 수업 준비도 파악이라는 면에서 교수역량 향상에 기여하는 것을 목적으로 한다.

## II. 연구의 배경과 선행연구 검토

MZ세대를 ‘디지털 네이티브’라고 흔히 지칭하지만, ‘MZ세대’라는 명칭은 연령의 폭이 넓어 그들이 콘텐츠를 생산하고 공유하고 소비하는 디지털의 종류는 연령대에 따라 다르다고 생각한다.<sup>2)</sup>

메타버스 플랫폼에서 놀며 자라는 세대는 현재 시점에서 10대 청소년이나 어린이가 가장 많을 것이다. 매일경제(2021.4.7.일자)는 미국 16세 미만 청소년의 55%가 가입한 것으로 알려진 로블록스 이용자는 하루 평균 약 156분 로블록스에 머문다고 보도하였다.<sup>3)</sup> 로블록스는 가상현실(VR) 게임 플랫폼으로 메타버스를 대중화시킨 미국의 게임업체이다. 이 기사는 또, 전 세계 이용자 2억명을 보유한 네이버의 메타버스 플랫폼 제페토(ZEPETO)는 이용자의 80%가 10대 청소년이라고 보도하였다. MZ세대 중 현재 시점의 대학생이 SNS나 유튜브(YouTube)나 틱톡(TikTok) 등을 통해 콘텐츠를 생산, 공유, 소비하는 데에 보다 익숙한 세대라면, 5년 후쯤에는 메타버스 플랫폼에서 놀며 자란 세대가 대학생이 될 것이다.

그렇다면 메타버스는 무엇을 지칭하는 개념일까. ‘메타버스’는 1992년 ‘닐 스테프슨(Neal Stephenson)의 소설 『스노우 크래시(Snow Crash)』에 처음 등장한 용어이다. 초월, 가상세계 등을 의미하는 ‘meta’와 우주, 세계 등을 의미하는

---

2) MZ세대란 1980년대 초반~1990년대 중반에 출생한 M세대와 1990년대 중·후반~2010년에 출생한 Z세대를 합친 말이다.

3) 매일경제 2021년 4월 17일 (박수호) ‘네이버 “제페토” 이용자만 2억 명...“메타버스” 무섭네

<https://www.mk.co.kr/economy/view.php?sc=50000001&year=2021&no=333917>  
(검색일 : 2023.02.04)

‘universe’를 합성한 표현이다.

〈표 1〉 메타버스의 유형<sup>4)</sup>

㉠증강현실	㉡라이프로그 세계
현실세계의 모습 위에 가상의 물체를 덧붙여서 보여주는 기술 포켓몬고, HUD <sup>5)</sup> 등	자신의 삶에 관한 다양한 경험과 정보를 기록하여 저장하고 때로는 공유하는 활동 인스타그램, 트위터, 카카오톡 등
㉢거울 세계	㉣가상 세계
실제 세계의 모습, 정보 구조 등을 가져가서 복사하듯이 만들어 낸 메타버스 구글 어스, 줌, 구글미트 등	현실과 다른 공간, 시대, 문화적 배경, 등장인물, 사회 제도 등을 디자인 해 놓고, 그 속에서 살아가는 메타버스 게임 포트나이트, 제페토 등

메타버스의 유형은 다양하게 정의할 수 있으나, 미국의 비영리 기술단체인 미래가속화연구재단(Acceleration Studies Foundation, ASF)이 2007년에 제시한 것이 많이 인용되어 왔다. 이 분류에 따르면 메타버스는 위 〈표 1〉과 같이 증강현실(augmented reality) 세계, 라이프로그(Lifelogging) 세계, 거울 세계(mirror worlds), 가상 세계(virtual worlds) 등으로 나타난다(C. bridges etc. 2007:5 참조). 그러나 이 분류는 현재 시점에 비해 아직 스마트폰 조차 보급되지 않았던 시기의 분류라는 점, 최근의 기술적, 문화적 발전 등을 고려할 때, ‘㉡라이프로그 세계’나 ‘㉢거울 세계’를 메타버스로 보는 데는 무리가 있다는 의견도 있다(이시한 2021:32-38 참조). 이에 따라, ‘메타버스’는 현재 ‘자신을 대리하는 아바타(Avatar)를 통해 활동하는 현실과 융합된 3차원(3D) 가상공간’(한상열 2021:20, 한송이 외 2021:1794 참조)이라는 의미로 통상적으로 사용되고 있다.

메타버스의 기술적 유형은 점차 혼합된 새로운 형태의 서비스로 진화하고 있다. 교육계에서도 가상 세계와 현실 세계를 합쳐 새로운 환경이나 시각화 정보를 만들고 실시간으로 상호작용이 가능한 혼합현실(Mixed Reality)의 형태로 주목받기 시작했다. 메타버스는 경제, 사회, 문화, 교육 등 다양한 영역에서 가상세계와 연결하여 현실세계를 교차시킨다. 현실의 한계를 극복하고 확장시

4) 〈표1〉과 각주2)~각주5)의 설명은 김상균(2000:44-216) 참조.

5) HUD(Head Up Display)는 자동차 앞 유리에 주행속도, 길 안내 등을 나타내는 이미지이다.

키는 가능성이 무한대로 펼쳐지는 것이다. 이러한 메타버스가 교육에서는 어떻게 활용되고 있는지 살펴본다.

외국어 교육 분야에서 박진철(2021)은 한국어 교육에서 메타버스 활용 가능성을 탐색하였고, 장지영(2021)은 게더타운에서 한국어 말하기 수업을 실천하고 보고하였다. 윤희수(2021)는 ‘게더 타운(Gather.town)’과 ‘클래스킥(Classkick)’을 통해 온라인 수업에서 상호작용의 증진을 제안하였다. 이선헬외(2010)는 액티브월드(Active Worlds)라는 가상현실 플랫폼에 접속하여 듣기 자료를 청취하고 개별학습 후 채팅을 통해 협동학습을 수행하였다. 또한, 이계연(2021)은 아랍어 의료통역 학습에서 가상현실앱인 구글의 익스페디션(Expedition)을 통해 의료상황의 대화를 시청하며 시행한 통역연습에 대해 보고하였다. 그 밖에 일어교육에서는 아직까지 연구가 보고되지 않고 있다.

고등교육에서 메타버스 활용에 관한 연구는 주로 교육공학과 교육학 분야에서 주로 연구가 이루어지고 있다. 홍희경(2021)은 메타버스의 종류와 특징 및 메타버스를 가속화 하는 혁신 요인 등을 제시하였다. 신복진 외(2008)은 세컨드라이프(secondlife)라는 가상현실에서 디지털 스토리텔링 활동을 수행하였다. 이가영 외(2021)은 게더타운 활용 수업 사례를 보고하였고, 배윤희 외(2022)는 자체 구축한 ‘TU-메타캠퍼스’에서 콘텐츠를 통해 학습한 효과를 분석하여 교육적 활용 가능성을 조망하였다.

메타버스라는 새로운 세계는 상상 이상의 무한한 가능성과 확장성을 가지고 있다. 그러나 ‘메타버스의 확산 속도에 비추어 교육적 활용은 아직 시작 단계에 불과하다(박진철 2022:141).’ 외국어교육 분야에서도 연구가 미비한 실정이다. 이처럼 연구가 부족한 이유는 무엇일까?

본 연구는 외국어교육, 특히 일어교육에서 메타버스 플랫폼 활용에 관한 수업 연구가 활기를 띠기 위해 중요한 선결 요건 중 하나가 교수자의 매체 활용 역량이라고 생각한다.

한송이 외(2022:1798-1803)는 서울 소재 A대학의 교수자를 대상으로 온라인 설문조사와 심층면담을 분석하였다. 이 연구를 자세히 살펴보면, 메타버스 활용 교육에 대해 교수자들은 긍정적인 의식을 가지고 있지만, 메타버스 수업을 효과적으로 운영할 수 있는 역량의 부재를 어려움 중 하나라고 보고하였다.

교수자 중 ‘단어는 들어본 적이 있으나, 정확한 의미는 잘 모른다’는 답변이 23.33%, ‘메타버스의 의미를 타인에게 설명할 수 있다’는 답변이 53.33%로 나타났다. 더불어 ‘메타버스 플랫폼 안에 나의 아바타가 있고 기본적인 활동(아바타 꾸미기, 월드에 들어가기)이 가능하다’는 6.67%, ‘메타버스 플랫폼 안에서 나의 아바타를 활용하여 상호작용 활동(친구 만들기, 사진 찍기 등)이 가능하다’ 16.67%, ‘메타버스 플랫폼 안에서 나의 월드를 만들 수 있다’는 응답자는 0%로 나타나, 메타버스에 대한 관심은 높지만 메타버스에 대한 지식수준은 높지 않은 편이라고 보고하였다.

메타버스의 교육적 활용이 메타버스의 사회적 확산 속도와 균형을 이루기 위하여 가장 필요한 요건 중 하나가 활용 역량일 것이다. 위 보고에서 ‘메타버스 수업을 효과적으로 운영할 수 있는 역량의 부재’나, ‘메타버스에 대한 지식수준은 높지 않은 편’라는 답변을 통해 교수자들이 메타버스에 대해 갖는 관심에 비해, 아바타를 만들고 공간을 구축하여 운영하는 조작 능력이 장애물이 되고 있다는 것을 알 수 있다. 관심에 비해 친숙성이 낮은 것이다.

이와 같은 상황을 고려할 때, 활용면에서 친숙함을 느낄 수 있고 조작이 간편한 플랫폼인 게더타운을 활용해 보는 것은 좋은 시도가 될 것이다.

위 선행연구 중, 게더타운에 관한 보고를 수업 가능성 측면에서 살펴보면, 장지영(2021:285)은 ‘현재까지 개발되어있는 메타버스 플랫폼 중 가장 교육적 활용도가 높으며 줌의 장점을 대부분 가지고 있다’고 언급하고 있다. 윤희수(2021:149)는 ‘교수자와 학습자가 직접 가상공간을 학습자와 교수 내용에 맞게 꾸미는 것이 가능하다, 별도의 어플리케이션을 설치할 필요 없이, 웹환경에서 크롬을 이용하여 바로 접속이 가능하다’고 설명하였다. 또한, 이가영 외(2021:154 참조)는 ‘학습자들이 사용법을 쉽게 배울 수 있고, 참가자 계정이 없어도 링크만 있으면 쉽게 입장할 수 있다’고 언급하였다.

교수자 뿐 아니라 학습자 입장에서도, ‘메타버스 플랫폼’에 관한 수업이 아닌 이상, 활용과 조작의 용이성과 친숙성은 더욱 중요한 고려사항이 될 것이다. 선행연구 중 학습자 입장에서 조작의 용이성과 친숙성에 관해 본격적으로 보고한 연구는 찾아보기 어렵지만, 장지영(2021:297)에서 게더타운 한국어 말하기 수업 후 외국인 학습자가 작성한 의견 중 ‘줄하고 비슷했어요. 쉽게 사용할 수

있었어요’ 라는 의견과, ‘처음에 친구들은 게더타운 기능을 잘 사용하는데 저는 너무 힘들었어요’라는 의견이 눈에 띈다. 이 두 의견을 통해, 어려움을 느끼는 학습자도 있지만, 대체로 쉽게 게더타운을 조작하여 수업에 참여할 수 있다는 단서는 얻을 수 있었다. 그러나 어려움을 느끼는 비율이 어느 정도 인지, 학습자가 메타버스 플랫폼에 대해 갖는 친숙함은 어느 정도인지 등에 대해서는 판단하기 어렵다.

따라서 본 연구는 교수자 입장에서 메타버스 플랫폼을 활용한 일본어 수업의 준비과정과 그 과정에서 겪은 어려움 등을 보고하고자 한다. 또한, 메타버스 플랫폼에 대한 학습자의 관심과 경험, 수업에서 느낀 게더타운의 조작 용이성과 친숙성 등에 관해 보고하고자 한다. 이 보고는 현시점에서 교수자의 매체 활용 능력 향상과 학습자의 수업 준비도 파악을 위한 참고자료로 활용되기를 기대한다.

### III. 수업 활용을 위한 교수자의 게더타운 조작

메타버스 플랫폼 게더타운은 공간을 픽셀 형태의 타일로 만들고, 사이월드를 연상케 하는 2D 그래픽의 작고 단순한 아바타가 공간을 이동하며 상호작용하도록 고안되었다. 거기에 줌과 같은 화상회의 기능까지 제공하고 있어, 앞 <표 1>에서 ‘㉔거울세계’와 ‘㉕가상세계’가 결합된 혼합현실 세계라고 볼 수 있겠다. 따라서 줌 등 화상회의 플랫폼의 조작에 익숙한 교수자와 학습자가 가장 쉽게 활용할 수 있는 메타버스 플랫폼 중 하나라고 할 수 있다. 회원 가입 없이 구글 아이디로 바로 로그인 가능하고, 링크를 통해 쉽게 참여할 수 있다. 교수자 입장에서 커스터마이징이 비교적 단순하고 쉽게 가능하다는 점과 학습자 입장에서 수업 참여가 쉽다는 점, 다른 아바타가 접근하면 소통이 활성화되고 멀어지면 비디오와 소리가 차단되는 등 현실과 비슷한 공감감과 거리감을 느낄 수 있어, 줌 등 화상회의 플랫폼이 주는 피로감을 경감시킬 수 있다는 점을 가장 큰 특징으로 들 수 있다.

이 장에서는 수업활용을 위한 교수자의 게더타운 조작 과정과 문제 해결과정, 게더타운 활용 수업에 대한 개요를 보고한다.

## 1. 교수자의 게더타운 조작

먼저, 교수자는 게더타운에 로그인 하여 학습공간(교실)을 만들어야 한다.<sup>6)</sup> 필자는 아래 <그림 1>과 같이 제공된 교실 템플릿을 활용하여 수업 활용에 적당한 형태로 오브젝트를 설치하거나 변경하여 사용하였다.

<그림 1> 게더타운 교실 템플릿 화면 설명



\*①강의 공간 타일 ②조별활동 공간 타일 ③교수자 공간 타일  
④교수자 조별활동 참관 타일 ⑤스포트라이트 타일 ⑥포털 타일

위 <그림 1>에서 ①은 강의공간이다. ②와 ③은 ‘프라이빗 에리어(Private Area)’ 효과가 부여되어 있다. 아바타가 ②의 각 회의실 타일에 위치하면 같은 방 구성원끼리는 얼굴을 볼 수 있고 대화가 가능하지만, 다른 방과는 차단이 되어, 현실 상황과 매우 비슷하다. ③역시 학습자 아바타가 이 타일로 이동하면 마치 연구실에 온 것처럼 외부의 아바타와 차단된 상황에서 교수자와 대화할 수 있다.<sup>7)</sup>

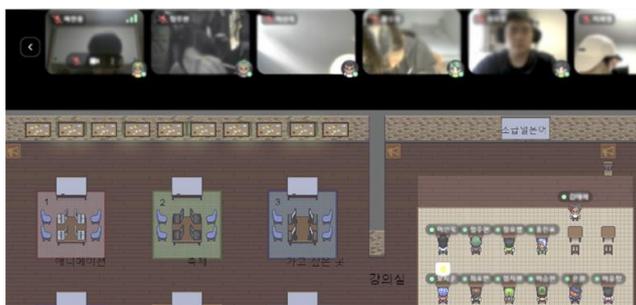
6) 별도의 회원가입 절차 없이 구글 아이디로 간편하게 로그인이 가능하다. 또한, 학습공간은 다양한 형태로 만들 수가 있는데, 필자의 경우 게더타운에서 만들어 제공하는 교실 템플릿을 이용하였다. 게더타운 로그인부터 교실 만들기, 만들어진 템플릿 사용하기 등에 관해서는 유튜브에 매우 많은 설명 영상이 있으니 손쉽게 참고하여 익힐 수 있다.

7) 전술한 바와 같이 게더타운의 모든 공간은 픽셀형태의 타일로 이루어져 있다. 이 타일에 특별한 효과(타일효과, Tile Effects)를 통해 다양한 기능을 부여할 수 있다. 필자가 선택

④의 색깔별 타일은 교수자가 간편하게 조별활동 공간과 소통할 수 있는 기능을 제공한다. 교수자 아바타가 각 타일을 밟으면 같은 색(같은 번호)의 조원들과 소통이 가능하게 된다. ⑤에서는 모두가 주목해야 할 공지나 발언을 할 수 있다.

다음 <그림 2>는 수업 상황에서 교실에 앉아 있는 학습자 아바타와 학습자 얼굴이 보이는 화면 일부이다. 이처럼 게더타운은 학습자 얼굴이 보이는 ‘ⓒ거울 세계’와 ‘@가상 세계’(앞 <그림 1>의 유형 참조)가 융합된 형태이다. 줌과 같은 화상회의 플랫폼에 익숙한 교수자에게 친숙함을 줄 수 있다.

<그림 2> 강의 장면 일부와 아바타 예시



위 <그림 1>의 ②, ③과 같이 프라이빗 에리어 효과가 부여된 공간에서는 모든 구성원의 비디오와 마이크가 활성화되지만, 그렇지 않은 곳에서는 현실 세계의 거리감이 적용된다. 아바타끼리 다가가면 비디오와 마이크가 켜지면서 상대방의 모습을 보며 대화가 가능하지만, 아바타의 거리가 멀어질수록 비디오와 오디오가 서서히 흐려지다가 사라진다. 이러한 점이 줌 등 화상회의 플랫폼과 큰 차이점이고, 학습자 입장에서는 피로감이 줄어들게 된다. 자신의 얼굴이 모든 구성원에게 계속해서 노출된다는 부담이 피로감으로 이어지기 때문이다.

<그림 1>의 설명으로 돌아가, ⑥에는 ‘포털(Portal)’이라는 타일효과를 부여하였다.<sup>8)</sup> 또한, ①-1~①-5는 교수자가 필요에 따라 임의로 설치할 수 있는 오브

한 템플릿에는 ②와 ③에 ‘프라이빗 에리어’ 기능이 부여되어 있으나, 제공된 템플릿을 사용하더라도 사용자가 전술한 타일효과나 그 외 다양한 기능을 추가 또는 제거할 수 있다.

8) 이 기능은 두 개의 다른 공간을 연결해 준다. 본 수업①, 수업②에서는 교실에서 벗어나

젝트 중 일부이다. 학습자가 이 오브젝트에 다가가면 노랗게 반전이 되고 키보드 ‘X’를 누르면 오브젝트가 실행된다.

‘㉠-1’은 유튜브 링크를 연결하여 학습자 아바타가 자유롭게 시청하도록 한 모니터이고, ‘㉠-2’는 각 소그룹 구성원 이름을 게시한 게시판이다. ‘㉠-3’에서는 필자가 제작해 둔 동영상 게시하기 위한 방법을 모색하였다. ‘㉠-1’과 같이 유튜브를 연결하는 것은 손쉬운 데 반해, 교수가 제작한 동영상을 오브젝트에 넣어두는 기능은 발견하지 못하여 고심하였다. 이 경우, 패들릿이라는 온라인 플랫폼(<https://ko.padlet.com/>)을 활용하여 문제를 해결할 수 있다. 패들릿에 동영상을 넣어 오브젝트에 링크로 연결할 수 있다.

‘㉠-4’는 화이트보드인데 참여자들이 실시간으로 화면을 공유하며 소통할 수는 있지만, 강의용으로는 적합하지 않았다. 줌 등 화상회의 플랫폼에서 강의자가 화면을 공유하여 PPT나 화이트보드에 필기를 하는 경우가 있다. 이때의 화이트보드와 ‘㉠-4’의 화이트보드는 쓰임이 달라, 강의용으로 화면공유를 통해 사용할 수는 없었다.

〈그림 3〉 게더타운의 기능 및 도구 표시줄



교실 템플릿에 들어가면, 앞 게더타운 교실을 나타낸 〈그림 1〉의 아래쪽에 위 〈그림 3〉과 같이 기능 및 도구가 표시된 줄이 보인다. 왼쪽부터 보라색 포도 모양은 홈으로 돌아가거나 로그아웃 등으로 연결되고, 그 오른쪽으로 아바타 편집, 오디오 제어, 비디오 제어, 이모티콘, 모니터, 확성기 모양이 보이는데, 이 중 모니터 모양을 클릭하면 교수가 강의 시 화면공유를 할 수 있게 된다. 이 기능은 다른 화상회의 플랫폼과 같이 강의자가 컴퓨터 바탕화면에 띄워 둔

---

휴식할 수 있는 별도의 공간(카페)를 만들어 연결되도록 설정해 두었다. 이처럼 ‘포털’ 기능을 통하여 무한대로 공간을 연결하는 자유로운 커스터마이징이 가능하다. 하지만 본 연구에서는 논의사항과 관련이 적어 카페 화면은 제시하지 않았다.

PPT나 기타 자료 등을 공유할 수 있다. 하지만 화이트보드 기능이 없어, 필자의 경우 컴퓨터의 '삼성노트(Samsung Notes)'라는 노트 및 그래픽 어플을 띄워 필기하며 설명할 수 있었다.<sup>9)</sup>

'㉠-5'는 벽에 게시판을 걸어둔 모양의 오브젝트로 이 오브젝트에 구글 설문 링크를 연결해 심어두었다.

이처럼 각종 수업자료를 오브젝트에 심어두어 학습자 아바타가 자유롭게 교실을 돌아다니며 시각자료를 시청하거나 조별 활동 시 자신의 자리에서 개인 노트북을 통해 자료를 볼 수 있도록 하였다.

교수자 입장에서 수업준비를 하면서 느낀 점을 기술하면 다음과 같다. 코로나 판데믹으로 처음으로 비대면 수업을 준비하면서 줌이라는 플랫폼을 익히는 데 필자는 많은 심리적 부담을 느꼈다. 낯선 것에 대한 두려움 때문이다. 그러나 유튜브 등을 통해 설명 영상을 찾아보며 하나씩 따라 하고 모르는 기능은 검색 등을 통해 배우며 작동법을 익혔다. 그리고 모의 수업을 해 보면서 첫 수업을 준비했던 기억이 난다. 게더타운 역시 그런 심리적 부담감과 배움의 과정을 거쳐 교실을 만들고 오브젝트의 기능을 익히면서 수업을 준비했다. 줌을 처음 대할 때만큼 어려웠지만 점차 익숙해졌고, 줌 보다 기능이 많기 때문에 첫 수업 준비를 위해 줌 더 많은 준비가 필요했다. 두 번째 수업은 오브젝트에 연결해 두는 자료 링크만 변경하여 큰 준비 없이 진행할 수 있었다.

학습자는 전술한 바와 같이 로그인이나 앱 설치 없이 교수자가 제시한 초대링크에 따라 게더타운 입장이 가능하다. 게더타운에 입장하면 아바타 생성과 닉네임 입력 후 바로 수업에 참여하게 된다. 이 과정이 매우 간단하여 처음 이용하는 학습자에게도 어려움이 없을 것으로 예상된다. 다만, 아직까지 PC에서 사용이 최적화되어 있어 스마트폰에서도 PC버전으로 이용해야 하는 불편함이 있었다.

다음으로 게더타운 활용 수업에 대한 개요를 소개하고자 한다.

---

9) 장지영(2021:295)에서는 '<https://app.tryeraser.com>'에서 제공하는 화이트보드를 이용하였다고 보고하고 있어, 참고할 수 있을 듯하다.

## 2. 수업개요와 수업준비

메타버스 플랫폼 게더타운(gather.town)을 활용한 수업은 2022년 2학기에 서울 소재 C대학의 초급일본어 수업(이하, 수업①이라 칭한다)과 일본어문학과 3학년 전공수업(이하, 수업②라 칭한다)에서 시도되었다. 다음 <표 2>를 통하여 수업①과 수업②의 과목 개요를 제시한다.

<표 2> 수업①과 수업②의 과목 개요

	수업①	수업②
과목명	초급일본어	일본어 음성의 이해와 응용
수업시기	2022년 2학기	2022년 2학기
수업형태	대면과 비대면 혼합 수업	
학습자 구성	여 21명, 남 19명(총 40명)	여 9명, 남 10명(총 19명)
수업인원	수업①(40명)+수업②(19명)=총합 59명	

위 수업①과 수업②는 모두 강의계획서에 게더타운 수업을 예고하고, 1차시 수업 오리엔테이션에서 게더타운 수업에 관해 구두로 다시 한 번 예고하였다. 게더타운 수업 전 주에 대면수업을 통해 5~10분 정도를 할애하여 게더타운 입장 방법 설명에 관한 유튜브 영상을 시청하여 교수자가 구두로 설명을 침언하였고, 이클래스(e-class) 공지게시판에도 이 영상의 링크를 게시하여 학습자가 개인적으로 다시 시청할 수 있도록 하였다.<sup>10)</sup>

또한, 수업 전에 이클래스 공지 게시판에 수업과 입장에 관한 안내를 공지하였다. 공지 내용 중 일부를 요약하여 제시하면 다음과 같다.

10) 유튜브에는 학습자 및 참여자 입장에서 참여 방법을 쉽게 설명한 영상이 다수 업로드 되어 있다. 예를 들어, ‘게더타운 입장 방법’ 등의 키워드를 치면 많은 영상을 검색할 수 있다. 참고로 필자가 참고한 영상은 다음과 같다.  
디지털 생활제안 ‘게더타운 참가자를 위한 알면 유용한 필수 기능: gather.town 참가자용 가이드\_컴퓨터ver.’ <https://youtu.be/n6OcZQiel5o> (검색일 : 2022.09.21)

〈수업 참여 방법 및 유의 사항〉

- ㉠ 게더타운은 PC에서 사용이 최적화되어 있어 휴대폰으로 사용하기에는 불편함이 있으므로 가급적 PC로 접속하기 바랍니다(휴대폰에서도 PC모드로 사용해야 합니다).
- ㉡ 크롬 웹 브라우저를 이용하여 구글에 로그인 된 상태에서 다음 링크로 들어오면 됩니다. (<https://app.gather.town/invite?token=3EPFffP3Rjm2M0dh9lk5>)
- ㉢ 아바타 이름은 실명으로 입력 세요.
- ㉣ 시험적으로 미리 입장해 보는 것도 좋겠습니다. 수업 30분 전부터 교실에서 기다리겠습니다.
- ㉤ 교수자에게 긴급하게 연락해야 할 일이 있을 때는 010-\*\*\*\*-\*\*\*\*입니다.

수업①은 5주차와 6주차 수업에서 A, B 그룹으로 나누어 수업하였다. 이 수업의 학습자 수는 총 40명이었고, 게더타운에서 프리버전으로 이용할 수 있는 인원의 한도가 25명이기 때문에 5, 6주차 대체휴일로 인한 보강 형식으로 같은 수업을 두 번 실시하고, 각 수업 말미에 학습자 의견을 수집하였다.<sup>11)</sup> 또한, 10주차 수업 후에 팔로잉조사를 간략히 시행하였다. 수업①에서 학습자는 1회(3시간) 게더타운 수업을 경험하였다. 수업②는 9주차와 12주차에 수업인원 2회(6시간) 전원이 게더타운에서 수업 하였고 각 수업 말미에 학습자 의견을 수집하였다.<sup>12)</sup>

#### IV. 메타버스 플랫폼에 대한 학습자의 친숙성 탐색

학습자 의견 설문조사는 수업 말미에 게더타운 교실에 설치해 둔 게시판 오브젝트에 구글 설문을 링크로 연결하여 진행하였다.

아래 〈그림 4〉는 〈그림 1〉 ‘㉠-5’의 모습이다. 이 때 학습자 화면에는 구글 설문식이 보이고 간편하게 설문에 응할 수 있게 된다.

11) 학습자는 5차시와 6차시 수업 중 한 수업만 참여하도록 사전에 안내하였다.

12) 수업 내용에 관한 상세한 보고는 차후에 보고하고자 한다.

〈그림 4〉 설문조사에 응하는 수업① 아바타



수업①과 수업②에서 실시한 설문조사 중 본 연구에서는 메타버스 플랫폼이 나 게더타운 방문경험, 조작 용이성 등 친숙성을 가늠할 수 있는 일부 질문과 답변에 대하여 보고한다. 본 연구에서 보고할 설문조사 질문을 제시하면 아래 〈표 3〉과 같다.

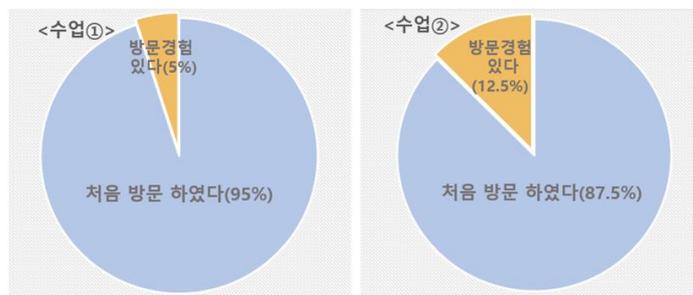
〈표 3〉 설문조사 질문 일부

수업 ①	[질문1] 나는 게더타운이라는 플랫폼을 처음 방문하였다.	
	<b>[질문2] 게더타운에서 아바타를 만들고 수업에 참여하기 쉬웠다.</b>	
수업 ②	설문 1	[질문1] 나는 게더타운이라는 플랫폼을 처음 방문하였다.
		[질문2] 나는 게더타운 이외의 메타버스 플랫폼에 방문한 적이 있다.
		[질문2-1] 어떤 플랫폼에 방문하였습니까?
		[질문2-2] 위에서 답한 플랫폼의 방문 목적이나 이유는 주로 무엇입니까?
		[질문3] 나는 메타버스 플랫폼에 관심이 있다.
		[질문3-2] 그 이유를 써 주세요.
	설문 2	<b>[4질문] 게더타운을 2번째 이용하니 처음보다 쉽게 느껴진다.</b>

수업①의 설문조사 후, 질문을 추가하거나 수정하여 수업②의 설문조사를 진행하였다. 수업①의 답변인원은 40명(수강생 총 40명)이었고, 수업②의 답변인원은 〈설문 1〉 16명(수강생 총 19명), 〈설문 2〉 17명(수강생 총 19명)이었다. 위 설문문의 답변을 보고하면 다음과 같다.

먼저 공통적인 [질문1]에 대하여 대부분의 학습자가 ‘게더타운을 처음 방문하였다’고 답변하였다. 게더타운은 20대~30대 직장인의 이용이 활발한 것으로 알려져 있는데, 본 수업①과 수업②에서 20대 초중반인 대학생 학습자는 아직 방문경험이 적은 것으로 나타났다.

<그림 5> 수업①과 수업② 학습자의 게더타운 방문 경험



위 <그림 5>는 이러한 학습자의 답변을 그래프로 표현한 것이다. 수업①과 수업②에서 각각 2명의 학생이 방문 경험이 있다고 답하였다. 위 <그림 5>에서는 수업②의 학습자 수가 적어 비율적으로 많아 보인다. 위 결과를 통해 게더타운이라는 플랫폼에 방문 경험이 없는 학습자가 많은 것을 알 수 있다. 게더타운은 앞에서 ‘교육적 활용도가 높다’고 언급하였지만, 실제 대학 수업에서 메타버스 플랫폼을 활용하는 수업은 시작 단계에 있어 학습자 대다수가 이용 경험이 없는 것 같다.

다음으로 수업①의 [질문2]를 살펴본다. 앞의 <표 3>에 굵은 글씨로 표시된 수업①의 [질문2]는 학습자가 느낀 게더타운 조작 용이성을 묻는 질문이라는 점에서 이후에 교수자가 게더타운 활용 여부를 결정하는 구체적 지표가 될 수 있을 것이다. 질문에 대한 답변을 리커트 5점 척도로 분석한 결과 답변 평균은 4.55로 나타나, 전체적으로 학습자들은 매우 쉽다고 느낀 것을 알 수 있다. 답변 결과를 다각도로 탐색하기 위해 학습자 구성을 분류해 보았다. 다음 <그림 6>은 학습자의 전공 계열과 성별에 따라 학습자 구성을 표시한 것이다.

〈그림 6〉 수업①의 학습자 구성



위 〈그림 6〉의 구성에 따라 답변 평균을 살펴보면 다음 〈표 4〉와 같다.

〈표 4〉 수업① [질문2]에 대한 답변 평균<sup>13)</sup>

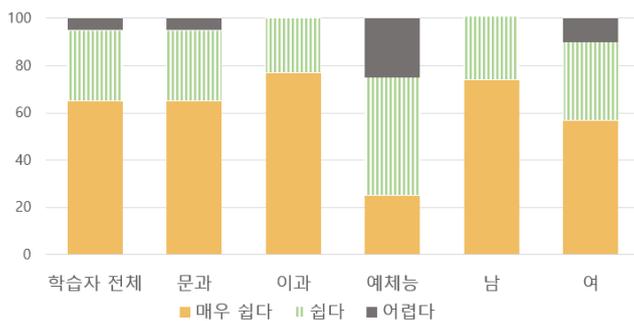
학습자 구성	전체	전공 계열별			남녀별	
		문과	이과	예체능	남	여
답변 평균	4.55	4.57	4.77	3.75	4.74	4.38
표준편차	0.75	0.72	0.44	1.26	0.45	0.92

위 〈표 4〉를 보면 학습자 구성별 답변 평균을 전체 평균과 비교해 보면 크지는 않지만 눈여겨볼 만한 차이점을 발견할 수 있다. 전공계열별로는 이과, 문과, 예체능 학과 순으로, 남녀별로는 남, 여 순으로 평균이 높았다. 아래 〈그림 7〉은 〈표 4〉의 답변 비율을 각각 100% 기준으로 계산하여 표시한 것이다.

계열별 분류에서 문과 계열에 비해 이과 계열과 특히, 예체능 계열이 인원수가 적었기 때문에 단순히 비교하기에는 어려움이 있지만, 본 조사에서 문과 계열 학습자는 〈그림 7〉의 첫 번째 막대인 ‘학습자 전체’와 비교해 볼 때 비율이 거의 같아 평균 수준인 것을 알 수 있다. 또한, 이과 계열 학습자는 매우 쉽다고 느꼈고, 예체능계 학습자는 편차가 있어, 이과 계열 학습자와 큰 차이를 보인다. 더불어, 남녀 비교에서는 여학생보다 남학생이 월등히 쉽게 느낀 것으로 나타났다.

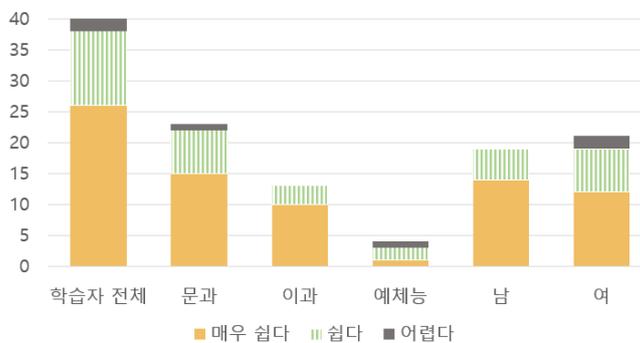
13) 평균과 표준편차 모두 소수 둘째자리에서 반올림 하였다.

〈그림 7〉 수업① [질문2]에 대한 답변 분석(답변 비율별)



또한, 〈표 4〉를 답변 인원수를 기준으로 비교하여 그래프로 표시한 것이 다음 〈그림 8〉이다.

〈그림 8〉 수업① [질문2]에 대한 답변 분석(인원별)



위 〈그림 8〉을 보면 ‘■ 어렵다’고 답변한 학습자가 총 2명 있었는데, 각각 문과계열, 예체능계열 전공의 여학생이었다. 10차시 수업 후 ‘■ 어렵다’고 답한 문과계열 여학생에게 간단한 팔로잉조사를 하였다. 이 학생은 게더타운 수업 참여가 어려웠다고 느낀 이유에 대해, 게더타운 입장 시 오류가 있어 20~30분간 5~6회에 걸쳐 시도했다고 답변하였다. 그 밖에도 입장 시나 수업 도중 오류가 있었다고 말해 준 학습자가 4~5명 정도 있었다. 이 때 나갔다가 다시 들어오거나

컴퓨터를 켜다가 다시 켜거나, 인터넷 연결 상태를 확인하는 등의 조치를 통해 큰 어려움 없이 수업에 참여했다고 답변했으나, 위 학습자의 경우 오류 대처에 어려움을 느낀 것으로 보인다. 줌으로 수업을 하는 동안에도 입장에 안되거나 수업 도중 퇴장이 되는 등의 오류는 가끔 겪어오고 있다.

또, '■ 매우 쉽다'고 느낀 학습자는 전체 65%(26명)<sup>14)</sup>, '▣ 쉽다'고 느낀 학습자는 전체 30%(12명)로 나타났고, '보통이다'나 '매우 어렵다'고 답한 학습자는 없었다. 이처럼 대부분의 학습자는 게더타운 수업에 큰 어려움 없이 참여하였고, 이후 교수자, 동료학습자와 상호작용하였다.

대부분의 학습자가 방문 경험이 없음에도 불구하고, 게더타운에 접속하여 아바타를 만들고 교실에 들어와 교수자, 동료 학습자와 상호작용 하는데 어려움을 느끼지 않은 것은 학습자들이 이미 줌이라는 화상회의 플랫폼에 익숙한 상태이고, 그 밖에도 SNS나 게임 플랫폼 등에 익숙하기 때문인 것으로 생각된다. 특히 남녀 비교에서 여학생보다 남학생이 월등히 쉽게 느낀 것은 게임 플랫폼을 조작해 온 경험이 큰 요인이라 생각된다. 여학생보다 남학생이 온라인 게임을 더 많이 하는 경향이 있기 때문이다.

이상과 같은 수업①의 조사를 통해 일본어 수업에서 게더타운 활용에 큰 어려움이 없음을 확인하고, 수업②의 조사에서는 앞에 제시한 <표 3>과 같이 [질문2]의 내용을 바꾸어 게더타운 외의 메타버스 플랫폼에 방문한 적이 있는지, 어떤 목적으로 어디에 방문했는지 등 질문을 수정하거나 추가하여 2회에 걸쳐 실시하였다. 이 수업은 문과계열 일본어문학과 전공 수업이다.

수업②의 [질문2] '나는 게더타운 이외의 메타버스 플랫폼에 방문한 적이 있다'에 대하여 2명(12.5%)의 학습자가 다른 플랫폼을 방문한 적이 있다고 답하였고, [질문2-1]과 [질문2-2]의 답변을 보면, '체페도, 아바타 꾸미기를 하고 싶었습니다. ㅎㅎ', '이프랜드, 서포터즈 발대식을 했었고 앱으로 하는 것이라 폰으로도 할 수 있었음'이라고 답하였다. 두 명을 제외한 나머지 학습자(14명,

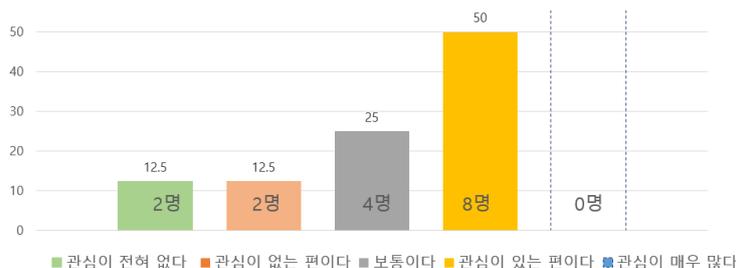
14) 세부적으로는 문과 계열에서 '■ 매우 쉽다'가 37.5%(15명), '▣ 쉽다'가 17.5%(7명), '■ 어렵다'가 2.5%(2명)으로 나타났다. 이과 계열에서는 '■ 매우 쉽다'가 25%(13명), '▣ 쉽다'가 7.5%(3명), 예체능 계열에서는 '■ 매우 쉽다'가 2.5%(1명), '▣ 쉽다'가 5%(2명), '■ 어렵다'가 2.3%(1명)으로 나타났다.

87.5%)는 본 수업을 통해 처음으로 메타버스 플랫폼을 체험해 본 것이다.

흔히들 MZ세대를 ‘디지털 네이티브(Digital Native)’라고 부른다. ‘어린 시절 부터 인터넷과 디지털 기기에 익숙하고 SNS문화에 익숙하여 디지털 친화도가 높다’(홍희경 2021:3 참조)는 뜻이다. 그런 의미에서 이미 많은 학습자가 메타버스 플랫폼에 친숙할 것이라고 예상할 수 있지만, 그렇지만은 않았다. 이러한 현상은 다음 질문을 통해서도 확인할 수 있다.

[질문3] ‘나는 메타버스 플랫폼에 관심이 있다’에 관해 리커트 5점 척도에 따라 답변한 결과를 백분율 기준으로 제시하면 다음 <그림 9>와 같다.

<그림 9> 수업②의 [질문3] 답변



위 <그림 9>를 통해 수업② 학습자들은 메타버스 플랫폼에 대한 관심이 높은 편이 아닌 것으로 보인다. 답변 평균은 3.13(표준편차:1.09)으로 ‘보통이다’ 수준에 가까운 것 같다. 위와 같은 답변을 한 이유에 대해 ‘■ 관심이 전혀 없다’고 답한 학습자는 ‘메타버스에 대해 잘 모르고 어렵다고 생각했다’, ‘■ 관심이 없는 편이다’고 답한 학습자는 ‘잘 모르는 분야이다’, ‘■ 보통이다’고 답한 학습자는 ‘그냥 이런 것이 있지라고만 생각하고 있었다’, ‘깊게 생각해 본 적 없다’라고 답하였다. ‘■ 관심이 있는 편이다’고 답한 학습자는 ‘요즘 각광받는 분야이다보니 언젠가는 체험해보고 싶었기 때문입니다’, ‘색다른 수업이 가능한 것 같습니다’, ‘색다른 환경에서 소통하는 것이 재미있었음’ 등의 답변을 써 주었다. ‘■ 관심이 매우 많다’고 답한 학습자는 없었다.

본 수업② 이전에 각각 87.5%의 학습자가 게더타운 방문 경험과 여타의 메타버스 플랫폼 방문경험이 없던 것에 비하면 메타버스 플랫폼에 대한 관심은 그

보다는 높은 것 같다.

또한, 수업②의 [질문4] ‘게더타운을 2번째 이용하니 처음보다 쉽게 느껴진다’는 질문에 대하여 1명(6%)을 제외한 대부분의 학습자(94%, 17명)가 ‘그렇다’고 답변하였다. 이 질문도 앞 <표 3>에 굵은 글씨로 표시된 수업①의 [질문2]와 함께 게더타운 조작 용이성을 기늙할 수 있다는 점에서 이후에 교수자가 게더타운 활용 여부를 결정하는 구체적 지표가 될 수 있을 것이다.

이상과 같이 대학 일본어 수업에서 학습자들은 대체로 어려움 없이 게더타운을 이용하였다. 그 이유는 전술한 바와 같이, 게더타운은 줌과 비슷한 화상회의와 아바타가 활동하는 가상세계가 결합된 플랫폼이라는 점을 들 수 있겠다. 화상회의에 익숙한 대학의 교수자나 학습자가 가장 쉽게 활용할 수 있는 플랫폼 중 하나라고 생각된다.

이상의 분석을 종합해 보면, 수업②의 문과계열 학습자는 현시점에 메타버스에 관심이 큰 것은 아닌 편이고 메타버스 플랫폼 방문 경험은 관심보다 더 낮은 것을 알 수 있었다. 또한, 관심도에 비해 메타버스 플랫폼을 활용한 수업에 대체로 어려움 없이 참여한 것으로 나타났다. 이 답변을 <그림 8>, <그림 9>와 비교해 보면, 학습자는 방문 경험이 적거나 없어도 막상 사용해 보면 금방 친숙지는 소양을 갖고 있는 듯 했다. ‘디지털 네이티브’라고 불리는 세대답게 게더타운 수업 참여에서 조작 상의 어떠한 두려움이나 주저함 등은 엿보이지 않았다. 조작법을 배우기보다는 직관적으로 이것저것 눌러보며 스스로 사용하는 모습을 관찰할 수 있었다.

## V. 맺음말

본 연구는 교수자의 매체 활용 능력 향상, 학습자의 수업 준비도 파악이라는 면에서 교수역량 향상에 기여하는 것을 목적으로 메타버스 플랫폼 게더타운을 소개하고, 교수자의 수업 준비과정과 학습자 의견을 보고하였다.

교수자는 제공된 템플릿을 적절히 활용하고 일부 오브젝트를 추가하거나 수정하는 정도로 교실을 커스터마이징 할 수 있었으나, 수업 활용을 위하여 줌,

구글 미트 등 실시간 화상회의 플랫폼보다는 많은 시간이 필요하였다. 물론 공간을 직접 만들어 다양한 분위기를 연출할 수도 있다. 교수자 세대는 메타버스에 대한 관심은 있으나 친숙성이 부족하여, 수업 준비 시 참고 가능한 다양한 수업 보고와 더불어, 조작을 위한 개인적 노력이 필요하다는 것을 알 수 있었다. 특히, 플랫폼 조작과 수업 실행에서 겪게 되는 다양한 사례가 서로 다른 시점으로 보고된다면 참고자료의 역할을 할 수 있을 것이다.

학습자의 경우, 응답자 대부분이 게더타운을 비롯한 메타버스 플랫폼 방문 경험이 없음에도, 게더타운에 접속하여 아바타를 만들고 교실에 들어와 교수자, 동료 학습자와 상호작용 하는데 어려움을 느끼지 않은 것으로 나타났다. 그 이유는 본 연구의 수업①과 수업②의 학습자들이 이미 줌이라는 화상회의 플랫폼에 익숙한 상태이고, 그 밖에도 SNS나 게임 플랫폼 등에 익숙하기 때문인 것으로 생각된다. 현 시점의 학습자 세대는 메타버스 플랫폼 방문 경험에 비해 조작에 익숙하고 어려움 없이 친숙해지는 모습을 확인하였다.

‘메타버스 플랫폼’에 관한 수업이 아닌 이상, 일본어 수업에서 메타버스 플랫폼을 활용하기 위해 교수자와 학습자 모두에게 활용과 조작의 용이성은 중요한 고려 사항이다. 줌 등 화상회의 플랫폼의 조작에 익숙한 교수자와 학습자에게 친숙성을 준다는 점에서 게더타운을 활용한 수업은 시도해 볼 만한 장점을 가지고 있었다.

더불어 향후에는 게더타운 이외에도 로블록스(Roblox), 제페토, 이프랜드(ifland), 포트나이트(Fortnite) 등 다양한 메타버스 플랫폼에서 놀며 자란 청소년들이 대학생이 될 날이 올 것이다. 이 학습자들과 더욱 원활히 상호작용을 하기 위하여 위와 같은 플랫폼을 활용하는 교수역량은 앞으로 더 크게 요구될 것이라 생각된다.

본 연구에서는 소개하지 못했으나 수업 활용 결과, 줌 등 화상회의 플랫폼에 비해 게더타운은 소그룹 회의실 등으로 이동이 간편하여 학습자 아바타가 활발히 움직이는 것을 볼 수 있었다. 또한, 상호작용이 활성화되는 효과를 보여주었고, 상호작용 양상에 있어 대면수업과는 또 다른 특징을 보여주기도 하였다. 이와 같은 상호작용에 관한 보고는 차후에 진행하고자 한다.

### 〈참고문헌〉

- 박진철(2021) 「한국어 교육에서의 메타버스(Metaverse) 활용 가능성 탐색」 『한국언어문화학』 18(3) 국제한국언어문화학회 pp.117-146
- 배윤희, 신윤희, 이수정(2022) 「메타버스 활용 수업 운영 및 학습자 인식 연구: 예비대학 물리학 수업을 대상으로」 『한국콘텐츠학회논문지』 22(12) 한국콘텐츠학회 pp.64-76
- 신복진, 박형성(2008) 「가상현실에서 디지털 스토리텔링 형태가 학습자의 재미와 이해에 미치는 영향」 『정보교육학회논문지』 12(4) 한국정보교육학회 pp.417-425
- 이계연(2021) 「가상현실을 활용한 한국어-아랍어 의료통역 교수 모델」 『번역학연구』 22(5) 한국번역학회 pp.181-203
- 이가영, 한송이(2022) 「대학에서의 메타버스 활용 수업 사례 연구-A대학 사범대 교직 강좌 운영 사례를 중심으로-」 『문화와 융합』 44(6) 한국문화융합학회 pp.145-164
- 이선혜, 정동빈(2010) 「대학생들의 3D 가상현실을 이용한 채팅의 영어학습 효과」 『영어어문교육』 16(1) 한국영어어문교육학회 pp.233-257
- 윤희수(2021) 「한국어 온라인 수업 발전 방향 모색-상호작용 증진을 중심으로-」 국제한국언어문화학회 국제한국언어문화학회 학술대회 pp.143-153
- 장지영(2021) 「메타버스(Metaverse)를 활용한 한국어 말하기 수업 방안 연구-게더타운(Gather.town)을 중심으로」 『한국어 교육』 32(4) 국제한국어교육학회 pp.279-301
- 한상열(2021) 「메타버스 플랫폼 현황과 전망」 『Future Horizon+』 1,2(49) 과학기술정책연구원 pp.19-24
- 한송이, 노양진(2021) 「메타버스 활용 교육에 대한 대학 교수자의 인식 연구」 『디지털콘텐츠학회논문지』 22(11) 한국디지털콘텐츠학회 pp.1793-1806
- 홍희경(2021) 「메타버스의 교육적 적용을 위한 탐색적 연구」 『문화와 융합』 43 한국문화융합학회 pp.1-23

### 〈참고도서〉

- 김미경 외(2022) 『3년 후 당신의 미래를 바꿀 7가지 기술 세븐테크』 웅진지식하우스 pp.29-37
- 김상균(2020) 『메타버스: 디지털 지구, 뜨는 것들의 세상』 플랜비디자인 pp.11-216
- 윤진, 이현도(2022) 『메타버스 입문자를 위한 게더타운 완전활용법』 이지스퍼블리싱 pp.14-177
- 이시한(2021) 『미래의 부와 기회를 선점하는 7대 메가트렌드』 다산북스 pp.32-38

### <웹 검색 자료>

- 매일경제 2021년 4월 17일 (박수호) ‘네이버 “제페토” 이용자만 2억명...“메타버스” 무섭네~  
<https://www.mk.co.kr/economy/view.php?sc=50000001&year=2021&no=333917> (검색일 : 2023.02.04)
- 디지털 생활제안 ‘게더타운 참가자를 위한 알면 유용한 필수 기능: gather.town 참가자용 가이드\_컴퓨터ver.’ <https://youtu.be/n6OcZQiel5o> (검색일 : 2022.09.21)
- C. bridges, J. Hummel, J. Hursthouse, R. Moss(2007), A Metaverse Roadmap: Pathways to the 3D Web, Acceleration Studies Foundation, p.5 <https://www.w3.org/2008/WebVideo/Annotations/wiki/images/1/19/MetaverseRoadmapOverview.pdf>. (검색일 : 2023.02.17)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

## 〈要旨〉

### メタバースプラットフォームであるゲザータウンを取り入れた 日本語の授業提案

金 泰 姫

本研究は、ゲザータウンというメタバースプラットフォームで日本語の授業を行い、そのプロセスの一部について報告したものである。報告は教師と学習者が感じた操作性と親しみやすさという観点から行われた。

まず、教師の立場からは、授業準備において使いこなせるまでのプロセスを詳しく説明した。ゲザータウンの授業の準備において、教室は提供されたテンプレートを利用し簡単に作ることができた。そして様々なオブジェクトを追加し、授業の準備を行った。ユーチューブ動画やグーグルアンケート、グーグルスライドなどをオブジェクトにリンクを貼り、授業に活用した。教師としては、Web会議プラットフォームであるズームやグーグルミートなどよりは操作が複雑だったと思われる。最初の授業の準備のためにズームより長い時間がかかった。二番目の授業のためにはオブジェクトのリンクを変える以外は手間があまり掛らなかった。

なお、学習者の立場からは、アンケート調査の中、アクセスと参加、操作のしやすさ、メタバースプラットフォームに対する親しみやすさなどが推測できる項目を分析した。分析を行ったところ、現在の大学生の学習者にはゲザータウンを含め、メタバースプラットフォームの体験経験はあまりないということが分かった。それにもかかわらず、授業へのアクセスと参加において、操作に戸惑いを感じることはあまりないということがわかった。

〈Abstract〉

Proposal of Japanese Classes Using GatherTown, a Metabus Platform

Kim Tae-Hee

This study utilizes the Metaverse platform GatherTown in Japanese language classes and reports some of its contents. This report was written with a focus on ease of use from the standpoint of instructors and learners.

First of all, from the instructor's point of view, the operation for class preparation was explained in detail. In GatherTown, classrooms were easily created using the provided templates. The class was prepared by adding an object there. Objects were used in class by linking YouTube videos, Google surveys, and Google slides. As a teacher, I felt that the operation was more complicated than Zoom or Google Meet, which are real-time video platforms. I needed more time than Zoom to prepare for my first class. For the second lesson it was enough to change the object links.

In addition, some items from the survey were analyzed and reported on the learner's position. It was an item that showed the position of GatherTown, ease of operation, and familiarity with the metaverse platform. As a result of the analysis, it was found that the current college student learners did not have much experience visiting metaverse platforms such as GatherTown. Nevertheless, it was found that they did not feel any difficulty in manipulation during the class participation process.

## 일한 양 언어의 조리동사 대조연구\*

– 조리 전 단계를 중심으로 –

은 수 희\*\*

### <目次>

I. 머리말	IV. 「조리 전 단계」 동사의 의미확장 양상
II. 선행연구 및 조리동사의 분류	V. 맺음말
III. 「조리 전 단계」 동사의 대조	

Key Words : 調理動詞(cooking verbs), 材料準備動詞(material preparation verbs),  
下ごしらえ動詞(material handling verbs), 食文化(culinary culture),  
意味拡張(extension of meaning)

### I. 머리말

식생활에 있어 인간을 다른 동물과 구별하는 특징의 하나가 조리(調理)라 할 수 있다. 자연에서 얻을 수 있는 식재료를 도구를 이용하여 다듬고, 다시 불과 열을 이용하여 익히는 과정을 거쳐 먹기 좋게 그릇에 담으면 비로소 완성된 조리가 된다.

이와 같이, 조리가 완성되기까지는 크게 세 가지의 단계를 거치게 된다. 재료를 준비하고 손질하는 「조리 전 단계」, 가열과 비가열로 나눌 수 있는 「조리 중 단계」, 조리된 음식을 적절히 담아내고 먹는 방법을 포함하는 「조리 후 단계」가 있다. 이러한 단계에서 제시되는 동사를 통틀어 「조리동사」라고 할 수 있다.

\* 이 논문은 2020년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임.  
(NRF-2020S1A5B5A17088757)

\*\* 숙명여자대학교 일본학과 강사, 일본어학

아래 예문은 [굴청 담그는 방법]을 소개하는 인터넷판 잡지<sup>1)</sup>의 일부이며 조리를 준비하는 과정에서 여러 가지 동사가 등장하는 것을 확인할 수 있다.

- ① 소금을 푼 물에 굴을 담가 깨끗이 씻어 준다.
- ② 베이킹소다를 이용해 다시 한 번 굴을 닦아 준다.
- ③ 식초를 물에 풀어 20분 정도 굴을 담가 놓았다가 꺼내 물기를 제거한다.
- ④ 굴을 가로로 최대한 얇게 썬다.
- ⑤ 끓인 물에 소독한 유리병에 굴, 설탕 순으로 반복해 넣어 준다.
- ⑥ 마지막으로 올리고당이나 꿀을 한 스푼 정도 넣어 마무리해 준다.

「풀다」, 「담그다」, 「씻다」, 「닦다」, 「꺼내다」, 「제거하다」, 「썰다」, 「넣다」 등 재료를 준비하는 과정에서 실로 다양한 조리 동사가 등장하고 있다. 굴청의 본격적인 시식까지는 발효의 과정도 필요하겠지만, 재료의 준비와 손질만으로도 하나의 요리가 완성되는 경우이다.

한편, 상당히 많은 조리의 중간 과정에서 나타나는 「씻다」, 「다듬다」, 「자르다」, 「썰다」 등의 동사가 조리에서 중요한 역할을 함은 말할 나위도 없다.

일본은 전통적으로 제철 식재료를 이용하여 계절감을 즐기는 요리들이 발달하였으며, 생선회나 초밥은 날 것을 익히거나 저장의 과정을 거치지 않고 재료를 준비하고 손질하는 것으로 요리가 완성되는 대표 음식이다. 또 한국요리 가운데 재료 본연의 신선함이 맛을 좌우하며, 최근에는 생식 식품에 관한 관심이 뜨겁다.

이러한 사실에 근거하여, 본 연구에서는 「조리 전 단계」에 사용하는 조리동사에 한정하여 일본어와 한국어에서 어떠한 부분에서 풍부하게 나타나는지 또는 어떠한 표현의 차이를 보이는지 양 언어의 양상을 대조 고찰하고자 한다. 이것을 통해서 일본어와 한국어의 조리동사의 특징뿐 아니라 양국의 식문화의 특성도 엿볼 수 있을 것이다.

연구 방법으로는 먼저, 사전 및 선행연구와 조리법 관련 서적에서 「조리 전 단계」에 관한 동사를 추출한다. 그리고 사전의 용례뿐 아니라 실제로 어떻게

1) Queen '새콤달콤 영양 충전 굴, 겨울이 기다려지는 이유'

<http://www.queen.co.kr/news/articleView.html?idxno=217946>(검색일 : 2022.12.30)

사용되는지 코퍼스와 인터넷 신문기사 검색, 레시피 관련 사이트 등의 다양한 자료를 통하여 용례를 찾아보고 일본어와 한국어의 표현 양상을 살펴본다. 그리고 나아가 조리동사의 의미에서 확장되어 사용되는 양상에서 보이는 특징을 고찰해 보고자 한다.

## II. 선행연구 및 조리동사의 분류

### 1. 선행연구

조리동사에 관한 일본어와 한국어의 대조 연구는 주로 「가열 조리동사」에 한정하여 사전상의 기술을 토대로 기본적인 의미분석을 중심으로 이루어지고 있으나, 은수희(2019)에서는 일본국립국어연구원의 『分類語彙表』와 요리관련 서적에서 앞서 발표된 연구들 보다 많은 숫자의 「가열조리동사」의 표제어를 추출하여 양 언어 각각 「물을 매개로」, 「기름을 매개로」, 「공기를 매개로」, 「연기를 매개로」로 나누어 실제 사용되는 예문을 중심으로 고찰하였다. 일본어와 한국어의 「가열조리동사」는 비슷한 부분이 많다고 하지만 그 가운데 나타나는 표현의 차이에 주목하였다.

또한 은수희(2020)에서는 혼합과 발효를 중심으로 한 「비가열 조리동사」로 범위를 한정하여 일본어와 한국어에 어떠한 표현이 나타나는지 고찰하고 나아가 「비가열 조리동사」의 의미의 파생 양상을 밝혀 보고자 하였다. 그 결과, 양 언어의 「비가열 조리동사」 가운데 순수하게 요리의 의미로만 사용되는 동사는 용례가 적고, 많은 동사가 일반동사의 의미에서 조리의 의미로 의미가 확장되어 나타나는 양상을 확인할 수 있었다.

일본요리에서 사용되는 어휘에 관한 연구로 김직수(2011)에서는 생선, 고기, 면, 야채 요리와 관련된 자료를 대상으로 어휘조사를 실시하여, 전체 요리분야와 각 요리분야에서 사용되는 어휘의 특징을 「요리도구」, 「요리재료」, 「요리방법」으로 분류하여 그 안에 포함되는 어휘간의 상관관계를 분석하고 있다. 상위어 속에 「切る, 加える, 入れる, 炒める, 熱する, 振る, 混ぜる, 煮る」 등과 같이

요리의 방법을 나타내는 어휘들이 다수 관찰되었는데, 가열 조리동사가 아닌 조리 전 단계에 사용되는 동사의 숫자가 더 많은 결과에 주목하고자 한다.

강창임(2008)에서는 일본요리를 기술할 때 어떤 어휘를 사용하며 식문화와 어떤 관련이 있는가에 대한 심층적인 연구가 미비하다는 관점에서 일본 여행 잡지에 나타난 관서요리 어휘의 특징에 대해 분석하고 있다. 조리법을 나타내는 동사 중에서 「1위 加える(7.2%), 3위 入れる(6.5%), 4위 かける(6.1%), 7위 つける(3.6%), 9위 切る(2.5%)」 등 재료를 준비하고 손질하는 과정의 동사가 높은 비중으로 나타남을 확인할 수 있다.

이 뿐만 아니라 박윤진(2016), 이정숙(2015)에서도 여성 결혼 이민자를 대상으로 각각 요리 관련 동사의 한국어 교육 방안과 한국 음식명 어휘 교육 방안에 대하여 고찰하고 있다.

이처럼, 조리 어휘에 관한 연구는 일본어와 한국어의 대조적 관점에서, 혹은 한국어 교육적 측면에서 다양하게 이루어지고 있으나 「조리동사」에 관한 총체적이고 체계적인 연구는 부족하며, 더욱이 조리는 준비하는 과정에서 나타나는 동사에 관해 언급한 연구는 거의 없다고 해도 과언이 아니다. 본 연구에서는 일본어와 한국어의 대조연구라는 측면에서 구체적인 용례를 통해서 실제 사용 양상의 차이를 고찰하면서 일차적인 의미 분류에 그치지 않고, 동사의 의미가 확장되어 사용되는 양상까지 살펴보는 것에 목적이 있다.

## 2. 조리동사의 분류

「조리동사」는 조리를 준비하고 직접 조리를 하며, 완성된 조리를 먹는 단계까지의 모든 과정을 통틀어 일컫는다. 제 1단계로 요리를 준비하는 동사(조리 전)와, 제 2단계로 불과 열을 사용하는 가열 조리동사와, 불과 열을 사용하지 않는 비가열 조리동사(조리 중), 그리고 제 3단계로 음식을 담고 먹는 방법에 관한 동사(조리 후)로 나눌 수 있다.<sup>2)</sup>

2) 권형찬(2003)에서는 요리를 준비하는 단계부터, 요리를 본격적으로 조리하는 단계와, 요리를 마무리하는 과정까지를 모두 포함하였다. 요리 동사의 성분 분석을 통해 요리 동사들이 의미적으로 떨어져서 나온 것이 아니라 각 단계에서 긴밀하게 연관되어 있고 그 속에서

〈표 1〉 조리동사의 분류

			동사 예
조리 전	재료 준비하기	담그기	담그다(浸す), 행구다(ゆすぐ)
		거르기	거르다(濾す), 짜다(絞る)
		분리하기	깎아내다(削る), 깨다(割る)
	재료 손질하기	섞기	섞다(混ぜる), 마르다(まぶす)
		썰기	썰다(切る), 으깨다(砕く)
		갈기	갈다(下ろす), 갈다(研ぐ)
	반죽하기	반죽하다(捏ねる), 밀다(伸ばす)	
조리 중	가열	물을 매개로	끓이다(煮る), 삶다(蒸す)
		기름을 매개로	굽다(焼く), 튀기다(揚げる)
		열만으로	볶다(煎る), 튀다(焙じる)
	비가열	가공 및 혼합	넣다(詰める), 무치다(和える)
		저장 및 발효	절이다(漬ける), 숙성하다(熟成する)
조리 후		담는 방법	끼얌다(振り掛ける), 푸다(よそう)
		먹는 방법	비비다(混ぜる), 말다(巻く)

본격적인 조리의 과정을 나타내는 「조리 중」 단계에서는 불과 열의 사용의 유무에 따라 「가열 조리동사」와 「비가열 조리동사」로 나눌 수 있으며, 각각의 분류와 대조고찰은 필자가 연구를 진행하여 결과물을 발표한 바 있다. (은수희 2019, 2020)

따라서 본 연구에서는 「조리 전 단계」를 「재료 준비하기」와 「재료 손질하기」로 분류하고 각 하위항목을 위의 표와 같이 나누어 진행하고자 한다. 「재료 준비하기」는 재료를 다루기 쉽도록 먹을 수 있는 부분과 먹을 수 없는 부분으로 나누는 과정들이 포함되며, 「재료 손질하기」는 준비된 재료를 가지고 본격적인 요리에 앞서 행해지는 과정을 의미한다. 이러한 과정은 불과 열로 익히기 전의 과정이 되기도 하며 재료의 준비와 손질만으로도 조리가 완성되기도 한다.

먼저 「재료 준비하기」의 과정은 〈담그기〉, 〈거르기〉, 〈분리하기〉, 〈섞기〉로 나눌 수 있다. 〈담그기〉는 조리를 하기 위한 재료를 물이나 액체에 담가 풀고

체계를 형성하고 있는 것을 밝히고 있다.

적시고 축여서 행궤내는 과정을 나타내는 동사의 분류이다. <거르기>는 수분이 가득한 재료나 입자가 고르지 못한 가루를 압착 및 여과, 건조의 과정 속에서 사용되는 동사가 속하게 된다. <분리하기>는 재료를 깔고 벗기고 쪼개는 과정을 통하여 요리에 사용되는 부분을 분리하는 과정을 말하며, <섞기>는 분리된 재료가 잘 어우러지도록 버무리거나 혼합하는 과정의 동사들을 의미한다.

한편, 「재료 손질하기」는 <썰기>, <갈기>, <반죽하기>로 분류된다. <썰기>는 조리 준비 중에 맛 성분이 잘 스며들고 열이 골고루 퍼지기 위해서 칼질을 하는 행위인데, 자르고 베고 저미는 과정을 나타내는 동사가 속하며 <갈기>는 손으로 뭉개거나 으깨기, 도구를 사용하여 부수고 치고 앙금내는 모든 과정을 포함한다. <반죽하기>는 재료를 치고 밀고 뽑고 주무르는 행위를 나타내는 동사의 분류이다.

### Ⅲ. 「조리 전 단계」 동사의 대조

#### 1. 재료 준비동사

일본어와 한국어의 <담그기>, <거르기>, <분리하기>, <섞기>의 동사를 살펴보면 다음과 같다.

〈표 2〉 재료 준비동사

	일본어	한국어
담그기	洗う, 入れる, 晒す, 湿らす, 注ぐ, 浸ける, とぐ, 流す, ぬらす, ふやかす, 浸す, ゆすぐ	뒹다, 담그다, 불리다, 수비하다 <sup>3)</sup> , 씻다, 우려내다, 적시다, 축이다, 풀다, 행구다
거르기	かける, 切る <sup>4)</sup> , 濾す, 漉む, 絞る, とる, 抜く, 濾過する	거르다, 꺼내다, 거품하다, 건지다, 내리다, 빼다, 짜다, 바래다, 받치다, 여과하다, 제거하다, 해감하다

3) 곡식의 가루나 그릇을 만드는 흙 따위를 물속에 넣고 휘저어 잡물을 없애다. 『표준국어대사전』

4) 「切る」동사는 <썰기>에서 본격적으로 등장하지만, <거르기> 분류에서는 「水(水氣)を切

분리하기	抉る, 掻き出す, 削る, 割く, 裂く, 捌く, 絞る, とる, 剥く, 搦る, 溶ける, 取り除く, 抜く, 除く, 剥がす, 剥ぐ, 引き裂く, 挽く, 篩う, 解す, 剥く, 筆る, 破る, 分ける, 割る	가르다, 까다, 깎아내다, 깨뜨리다/깨트리다 <sup>5)</sup> , 긁어내다, 녹이다, 다듬다, 따다, 떼다, 도려내다, 뜨다, 바르다, 말라내다, 뺄다, 벗기다, 부수다, 분리하다, 찌다, 제거하다, 쪼개다, 찢다, 터뜨리다/터트리다, 치다, 파내다
섞기	合わせる, 泡立てる, 入れる, かける, 加える, 添える, そそぐ, つける, ぶっかける, 解す, 混ぜ合わせる, まぶす, 回しかける	개다, 거품내다, 넣다, 더하다, 뒤말다, 깨다, 무치다, 묻히다, 밀간하다, 바르다, 버무리다, 범벅하다, 붓다, 뿌리다, 비비다, 섞다, 입히다, 젓다, 풀다

1) 담그기

재료를 물로 씻거나 불리고 액체에 넣어두는 과정의 <담그기>에 관한 일본어와 한국어의 예문을 제시하면 다음과 같다.

- (1) 米は研いで30分水中に浸し、ざるに上げ15分水気を切ります。炊飯器に米、同量の水、オイスターソース、紹興酒を加え炊きます。  
(小松菜の中華風菜飯, cookpad)
- (2) 【作り方】タマネギはみじん切りにしてバター5グラムで炒め、冷まします。パン粉に牛乳を加え、ふやかします。  
(朝日新聞 2017.5.26)
- (3) ①토란은 쌀뜨물에 살짝 끓이면 아린 맛도 제거하고, 껍질도 쉽게 벗길 수 있다. ②다시다 등을 우린 물을 준비한다(멸치, 다시마, 표고버섯, 양파 등). ③뭉쌀을 불려서 그 물과 함께 갈아서 준비해 둔다.  
(프레시안 2018.1.20)
- (4) じゃがいもは皮をむいて細い千切りにし、10分以上水にさらし、水気を切る。  
(新じゃがとツナの青じそ炒め, cookpad)
- (5) 소금 1 큰술을 넣은 소금물에 매실을 담그고 반나절 정도 기다린다. 소금물에

る」의 형태로만 사용된다.

5) ‘깨뜨리다’와 ‘깨트리다’ 둘 다 표준어로 인정하고 있다. 『표준국어대사전』

질이면 매실 특유의 아삭한 맛을 더할 수 있다.

(톱스타뉴스 2017.6.5)

위의 예문에서 알 수 있는 바와 같이, 일본어의 「浸す」, 「ふやかす」, 「さらす」와 한국어 「불리다」, 「담그다」는 쌀을 물에 불리는 과정, 재료를 우유나 소금물에 넣어두는 과정 등 딱딱하게 굳은 재료를 일정 시간 동안 액체 속에 넣어서 부드럽게 하는 과정을 나타내는 대표적인 <담그기> 동사이다.

한편, 물에 흔들어 씻어 내는 의미의 「ゆすぐ」와 이에 대응되는 「행구다」는 용례(6)의 「さっと」, 용례(7)의 「여러 번」이라는 표현과 같이 비교적 짧은 시간에 반복적으로 이루어지는 과정과 연결된다.

(6) ひじきを水で戻してさっとゆすぐ。

(ワカメときのこの炊き込みご飯, cookpad)

(7) 소면은 끓는 물에 삶은 뒤 체에 받쳐 흐르는 찬물에 여러 번 행군다.

(레이디경향 2022.5.28)

이 밖에도 「水にさらす」는 물에 담그어 불순물을 제거하는 과정을 나타내는 데, 액체뿐만 아니라 「粉をさらす」가 되면 가루를 물에 행구어 희게 만드는 과정을 의미하며 「晒し粉」은 「표백분」의 의미로 사용된다.

## 2) 거르기

<거르기>는 수분을 없애거나, 찌꺼기나 건더기가 있는 상태에서 체나 칠망, 거름종이를 활용하여 입자가 큰 부분을 걸러내는 의미이다.

용례(8)에서는 물기를 제거하다는 의미로 「水を切る」가 활용되고 있으며 「切る」는 칼로 썰어 끊어내는 의미의 동사이지만 <거르기>에서는 「水を切る」, 「水気を切る」의 형태만 해당된다. 일본어는 「水切りの道具」와 같이 간결한 명사표현이 가능한데 비해, 한국어는 「물을 빼는 도구」와 같이 동사표현이 자연스럽게 대응된다.

(8) 水切りの道具が無くても大丈夫です。沢山のサラダでも一気に水が切れます。

そのまま保存が出来るのでとても便利です。

(レジ袋1つで完全にサラダの水を切る方法, cookpad)

용례(9)에서는 파스타를 조리하는 과정에서 볶아 둔 오일과 마늘을 철망으로 거르는 과정에서 「濾す」가 사용되었으며 주로 액체에 포함된 물질을 여과하는 의미로 사용된다. 용례(10)과 같이 밀가루를 체에 걸러서 고운 입자를 사용한다는 의미로 「ふるいにかける」 표현이 사용된다. 한국어는 「거르다」, 「받치다」, 「치다」 등이 대응하며 「거르다」, 「받치다」는 액체와 가루 모두 사용되며 「치다」는 주로 가루를 거르는 표현으로 사용된다.

- (9) ②フライパンにオリーブオイル大きじ3と①のにんにくを入れ、弱火で焦がさないように炒める。③金網等で濾し、ガーリックチップとガーリックオイルに分けておく。

(和風たらこパスタ, cookpad)

- (10) 日本の中力粉の場合は一旦ふるいにかけるのをオススメします。

(breakfast waffles, cookpad)

- (11) ③ 연두부를 체에 걸러 부드럽게 만들어준다. 순두부를 사용해도 좋다. ④ 체에 거른 두부와 녹인 카카오매스를 섞어주고, 적당한 단맛을 위해 기호에 따라 알룰로스를 넣어준다.

(연합뉴스 2003.2.5)

- (12) 현미는 쌀과 한 데 섞어 깨끗이 씻는다. 물에 담가 2시간 정도 불린 뒤 체에 받친 다...현미쌀가루와 베이킹파우더를 체에 쳐 넣고 주걱을 세워 살살 섞어준다.

(푸드경제신문 2021.9.23)

다음 용례는 어패류를 손질할 때 바닷물에서 모래나 찌꺼기를 뺀어 내게 만드는 과정에 대한 표현으로 일본어는 「砂抜きする」 한국어는 「해감하다」로 나타난다.

- (13) 事前に砂抜きをせずに濾して残っている砂を除くので短時間で簡単に完成してすぐに食べられる手抜きでも美味しいアサリのスパ!

(砂抜きあさりで時短簡単・美味スパゲティ, cookpad)

(14) 보통 어패류 해감하실 때 소금물에 해감을 많이 하시죠? 꼬막은 소금물이 아닌 맹물에 해감해도 된다는 사실.

(꼬막무침 그리고 해감 및 손질법, 만개의 레시피)

### 3) 분리하기

〈분리하기〉는 회를 뜨거나 생선 가시를 발라내고 껍질을 벗기며 계란을 깨트리는 등 식재료를 섭취할 수 있는 부분과 그렇지 않은 부분으로 나누는 과정에 해당한다.

용례(15)에서는 닭의 뼈를 빼내는 과정에서 「抜く」, 「とる」가 사용되었고 용례(16)에서는 생선의 뼈를 제거하는 표현으로 「骨抜き」로 활용되고 있다. 용례(17)에서는 계의 껍질에서 살을 골라내는 같은 의미로 「身をほぐす」 표현이 사용되었는데, 한국어로는 「가시(뼈)를 발라내다」, 「살을 발라내다」 양쪽으로 다 사용하는 점에서 일본어와 차이가 나타난다.

(15) 生の時に骨を抜くよりも、切込みを入れて焼いてからの方が熱いけど骨を取るのが楽チンです。

(基本の手羽先焼き, cookpad)

(16) 魚のアラを焼き、骨抜きをして桜の花の塩漬けを混ぜアカモク(海藻)を入れ丼ぶりにしました。桜の香りが良いです。

(魚のアラと桜の花の丼ぶり, cookpad)

(17) 炊きあがったら、昆布を取り出し、少しさまして、蟹の身をほぐして混ぜる。

(かに飯, cookpad)

(18) 뼈째 곱게 가는 미꾸라지 추어탕과 달걀, 비란내를 없애기 위해 쌀뜨물에 삶은 고등어를 일일이 손으로 가시를 발라내고 살을 으갠다.

(조선일보 2023.1.7)

(19) 살은 반만 발라내고 반은 껍질째 흐르는 물에 씻는다. 해감을 아무리 잘해도 살 속에 갯벌 흙이 조금은 남아 있기 때문이다.

(가톨릭평화신문 2022.12.18)

한편, 생선을 회로 만드는 과정을 나타내는 「さばく」는 한국어 표현으로는 「회를 뜨다(치다)」와 대응하며, 「おろす」는 주로 〈갈기〉의 의미로 사용되지만,

용례(21)과 같이 「三枚おろし」<sup>6)</sup>는 생선을 손질하는 방법의 일종으로 오른쪽 살, 왼쪽 살, 등뼈의 세 부분으로 나누는 것을 말하는 독특한 표현이다. 용례(21)에서는 대구 생선의 가르고 뼈를 빼내고 피를 제거하는 준비 과정에서 「下ろす」, 「すきとる」, 「抜く」 등의 동사를 확인할 수 있다.

(20) 魚の駅「生地」にあるようなキトキトな「白カレイ」を準備してくださいね。「白カレイ」をさばいていきます。(魚の駅ではさばいて発送できますので言ってくださいね)

(白カレイの唐揚げあんかけ、魚の駅生地, cookpad)

(21) マダラを3枚におろして、腹骨をすきとり、血合い骨を抜いて、薄く塩をしておく！

(マダラとエリンギの甘酢あんかけ, cookpad)

「재료 준비하기」 분류 중에서 <분리하기>에 속하는 동사의 수가 가장 많으며 어패류를 손질하는 과정이 용례로 많이 나타나는데 해산물 요리가 발달한 일본의 식문화와도 관련이 있다고 판단된다.

#### 4) 섞기

<섞기>는 가루를 액체에 넣어 풀거나 액체와 액체가 잘 합쳐지도록 하는데 사용되는 동사이다.

용례(22)에서는 초콜릿을 만들기 위하여 반죽을 준비하는 단계에서 「ほぐす」, 「かける」, 「入れる」, 「泡立てる」 등의 <섞기> 동사가 많이 활용되었고, 용례(23)과 같이 카레 가루를 물과 섞는 과정에서 「넣다」, 「풀다」 등의 동사가 활용되었다.

(22) 別のボウルに卵を入れてほぐし湯せんにかけるながらきび砂糖を少しずつ入れ

---

6) 魚を右身・左身・中骨の3つに切り分けること。魚の頭・内臓を除いてから、包丁を中骨にそって入れ、右身・左身を切り離す。[생선을 오른쪽 살, 왼쪽 살, 등뼈의 세 갈래로 잘라내는 것. 생선의 머리·내장을 제외한 후 칼을 등뼈에 따라 넣어서 오른쪽 살·왼쪽 살을 떼어낸다.] cookpad:[https://cookpad.com/cooking\\_basics/6663](https://cookpad.com/cooking_basics/6663)(검색일 : 2023.01.15)

て電動ミキサーで泡立てます。

(フォンダンショコラ, cookpad)

- (23) 백세카레 2/3봉과 생크림 1cup을 넣고 잘 풀어 뚜껑을 닫고 가열한다.  
(부드럽게 즐기는 로제카레, 만개의레시피)

일반적으로 「入れる」, 「かける」는 가루나 액체 등 상관없이 끼얹고 뿌리는 의미로 사용하지만, 용례(24), (25)에서 나타나는 「まぶす」는 주로 밀가루나 빵가루, 콩고물, 설탕이나 소금과 같은 가루를 골고루 바를 때 사용하는 동사이다. 한국어는 「묻히다」, 「바르다」, 「입히다」 등이 대응되며 용례(26)과 (27)에서는 각각 감자가루와 카레가루를 재료에 더하는 표현으로 사용되고 있다.

- (24) 素揚げしてカレー粉と塩をまぶすだけの簡単レシピです。

(さつまいもスティック(カレー風味), cookpad)

- (25) 砂糖に絡めてからきな粉をまぶすことでしっかりきな粉が全体に絡まる!

(焼いてまぶすだけ! 「無限さつまいも」, cookpad)

- (26) ‘생활의달인’ 수원탕수육, 감자가루 입혀 3번튀긴 바삭함 “부드러워”

(스포츠한국 2018.2.26)

- (27) 가지, 호박(주키니면 더 좋다), 콜리플라워, 감자, 단호박, 양파 등을 굵직하게 썰어 오일, 소금, 후추, 카레가루에 대강 버무려 오븐에 구워 먹는 방법도 있다.  
연근, 우엉, 고구마에 카레가루를 묻혀 튀겨 먹어도 일품이다.

(신동아 2022.8.28)

## 2. 재료 손질동사

일본어와 한국어의 〈썰기〉, 〈갈기〉, 〈반죽하기〉의 동사를 살펴보면 다음과 같다.

〈표 3〉 재료 손질동사

	일본어	한국어
썰기	挟り取る, 刻む, 切り裂く, 切り抜く, 切る, 砕く, 潰す, 揉み潰す, 分ける	가르다, 나누다, 다지다, 등분하다, 베다, 썰다, 에다, 자르다, 쪽내다, 찢다, 찢다, 치다, 타다, 토막내다, 칼집내다
갈기	臼搗く, 下ろす, 砕く, 削る, 壊す, 摩り下ろす, 摩る, 潰す, 叩く, 研ぐ, 躡る, 挽く	갈다, 깎다, 몽개다, 뺑다, 부수다, 앙금내다, 으깨다, 작말하다, 저미다, 찢다
반죽하기	押し伸ばす, かき混ぜる, 捏ね返す, 捏ねる, 叩く, 練る, 塗る, 伸ばす, 揉む	개다, 떼다, 말다, 밀다, 몽개다, 반죽하다, 반짓다, 뺨다, 빗다, 이기다, 주무르다, 치다, 치대다

1) 썰기

〈썰기〉 과정은 모든 조리에서 있어서 기본이 되고 필수적인 과정이라고 볼 수 있으며, 갖은 재료들을 먹기 좋게 혹은 보기 좋게 하기 위하여 썰는 것은 반드시 필요하며 칼, 가위 등 날카로운 것을 이용하여 조리하는 방법이다. 정의상(2021)에서는 일본에서는 선도가 높은 생선을 날로 먹는 사시미 등의 생식 문화가 발달해 칼로 생선을 자르는 기술이 조리법의 하나로 취급되며 어떤 방법으로 어떻게 자르느냐에 따라 사시미의 식감과 맛이 달라진다고 소개하였다.<sup>7)</sup>

용례(28),(29)에서는 무, 양파, 대파 등의 재료를 썰는 방법으로 일본어와 한국어 각각 「千切り」, 「細切り」, 「채썰다」, 「얇게 썰다」, 「어슷썰다」 등이 사용되었으며 그 밖에도 요리 재료와 방법에 따라서 「切る/썰다」에 관한 일본어와 한국어 표현이 매우 다양하다.<sup>8)</sup>

7) 정의상(2021) 『문화로 맛보는 맛있는 일본요리』 시사일본어사 p.28

8) [厚切り, いちょう切り, 薄切り, 大切り, 角切り, くし切り, 小口切り, そぎ切り, 細切り, 千切り, 斜切り, ぶつ切り, みじん切り, 乱切り, 輪切り]  
[작둑썰기, 나박썰기, 마구썰기, 막대썰기, 반달썰기, 솔방울썰기, 어슷썰기, 원형썰기, 은행잎썰기, 저며썰기, 채썰기, 통썰기, 편썰기]

(28) 大根、人参は千切りにするか、2-3mmのスライサーで細切りに。しめじは食べやすい大きさに手で割く。

(千切り大根の炒め煮, cookpad)

(29) 양파는 채썰고, 무는 얇게 썰고, 대파는 어슷썬다. 오징어의 뼈와 눈알은 제거하고 다리는 강하게 훑어 발판을 제거한 후, 먹기 좋은 크기로 썬다.

(영양사 오렌지버거의 영양 식재료 한 스푼)

## 2) 갈기

〈갈기〉는 도구나 손으로 재료를 갈고 으개는 과정에 해당하는 동사들이다. 용례(30)에서는 강판을 이용하여 무를 잘게 만드는 과정을 「下ろす」, 「すりおろす」라는 동사로 나타나며, 같은 의미로 한국어 용례에서는 무를 강판에 「갈다」로 나타난다. 일본요리에 많이 활용되는 「大根おろし」는 무를 갈아 만든 것으로 생선구이나 소바 등의 다양한 음식에 곁들이게 되며 요리의 맛을 살리고 소화도 촉진시키는 효과가 있으며, 「おろしそば」를 주문하면 훨씬 많은 양의 오로시가 나온다.<sup>9)</sup>

(30) 大根は下ろし金で下ろすことで生活習慣病予防や、発ガン物質の解毒作用のある酵素が著しく分泌されるそう。…大根約400グラムを…すりおろす!

(大根(なめたけ)えのきだけ, cookpad)

(31) 무를 강판에 갈아 소금을 넣어 섞은 뒤 껍데기를 제거한 굴을 넣고 상처가 나지 않도록 손으로 조심스럽게 살살 섞는다.

(여성조선 2022.11.30)

용례(32)에서는 건조된 미역을 잘게 만드는 과정으로 「叩く」와 「砕く」가 사용되고 있고, 용례(33)에서는 쌀을 고운 가루로 만드는 과정으로 「작말하다」, 「빻다」 등의 동사가 활용되었다.

(32) ワカメは、ポリ袋等に入れて、棒で叩いて細かく細く砕く。

(ワカメときのこの炊き込みご飯, cookpad)

---

9) 정의상(2021) 전계서 p.210 참조

(33) ‘규곤시의방’ ‘음식디미방’에는 ‘복숭이꽃 필 때 쌀을 튀겨 작말하여 누룩을 만들어 서늘한 곳에 두었다가 여름에 백미를 깨끗이 씻어 곱게 뺠아 구멍떡을 만들어 익도록 삶아 식거든 쌀 한 말에 누룩 서되 혹은 두되씩 넣되, 누룩가루를 두서너 번 체에 쳐야 부드러워진다.

(영남일보 2015.3.26)

### 3) 반죽하기

〈반죽하기〉는 가루에 액체를 부어 이겨 내는 과정에서 사용되는 동사들이다. 「반죽하기」의 대표적인 일본어 동사인 「伸ばす」와 「こねる」, 한국어의 「빚다」, 「밀다」는 만두, 과자를 요리하는 데 있어 가루를 반죽하고 형태를 만드는 과정에서 나타난다.

(34) だが、料理を良い状態で提供するため、手間はかかるが「可能な限り作り置きしない」強いこだわりがある。例えば餃子なら、オーダーごとに生地を伸ばして皮を作るところから準備する。

(朝日新聞 2018.2.1)

(35) 次に魅せられたのがピザだった。「生地をこねて、トッピングを考えて、窯で焼いて……、作る楽しさがあった」。イタリア料理店で腕を磨き、自分の店を開いた。

(朝日新聞 2018.1.9)

(36) 새해 떡국에 올리는 탐스러운 만두는 복주머니를 닮았다. 예전에는 온 식구가 둘러앉아 이숙한 밤까지 만두를 빚었다. 어머니가 정성껏 준비한 소를 큰 양푼에 담아내 오시면 큰 도마 위에 밀가루 반죽을 밀대로 쓱쓱 밀어 주전자 뚜껑으로 쿡쿡 찍어냈다.

(미주중앙일보 2018.1.6)

이 밖에도 〈반죽하기〉에 관한 한국어 표현으로 「이기다」, 「치대다」 등 다양하며, 「반짓다」는 과자나 떡을 둥글고 얇은 조각 모양으로 만들다는 의미로만 사용되는 조리동사이다. 곡물을 이용한 떡 요리가 발달한 한국에서 〈반죽하기〉 단계와 관련된 다양한 표현이 나타난다.

## IV. 「조리 전 단계」동사의 의미확장 양상

본 연구에서 의미하는 동사의 의미확장 양상이란 일차적인 의미의 조리동사에서 다양한 표현으로 확장되는 양상을 의미하며, 잘게 부수다는 의미의 조리동사「する」가 「깨를 갈다」는 의미에서 「아침하다」는 의미로 확장되는 「ごまをすり」와 같은 관용표현도 포함한다.

〈거르기〉 과정에서 나타나는 한국어 「짜내다」의 용례로 살펴보고자 한다.

- (37) 홀푸드 스토리 관계자는 “품질 좋은 국산 통깨를 전통방식으로 짜낸 기름”이라며 “무침, 비빔밥 등 요리에 넣으면 음식의 고소한 풍미가 확 살아난다”고 말했다.  
(FAM타임스 2017.12.18)
- (38) ‘무박 2일’로 청년들이 짜낸 일자리 아이디어는 무엇?  
(중앙일보 2017.10.10)

「짜내다」는 도구를 이용하여 누르거나 비틀어서 내용물 걸러지도록 하는 의미의 동사인데, 용례 (37)처럼 「기름을 짜내다」라는 의미에서 용례 (38)처럼 「아이디어를 짜내다」, 「지혜를 짜내다」와 같이 온 힘을 다하여 생각을 모으는 의미로 확장되어 사용된다.

한편, 일본어에서도 「油をしぼる」(39)에서 「アイデアを絞る」(40)과 같이 한국어와 비슷한 의미확장을 보이지만, 「油をしぼる」표현이 관용구로서 호되게 꾸중을 듣는다는 의미로 사용되는 점은 대조적이다.

- (39) …そのとき、申し込まれた中に、エゴマの油をしぼって天プラを揚げたいという方がいらっしゃいました。エゴマの種はしぼっても、歩留りが悪く、不純物も多いうえに空気に触れると固まりやすいのです。  
『うおつか流清貧の食卓』
- (40) 各セグメントことにアイデアが出そろったところで、アイデア絞り込みの基準を作った。アイデアを絞る過程で、むやみに絞り込むと客観的な判断が失われる恐れがある。

『大前研一のアタッカーズ・ビジネススクール』

이 밖에도 알맹이와 껍질을 분리하는 의미의 「벗기다」가 용례(42)에서처럼 「옷을 벗기다」로 사용되면 몸담아온 조직이나 권력에서 멀어짐을 뜻하는 의미로 확장되기도 한다.

(41) 토란 껍질을 벗기다 토란 진이 손에 묻어 가려울 땀 식초를 바르면 괜찮아진다.  
(중부일보 2019.8.1)

(42) 야권은 강하게 반발하며 여권을 비판했다. 조해진 미래통합당 의원은 이날 CBS 라디오에 출연해 “윤 총장의 옷을 벗기기 위한 시나리오가 돌아가고 있다”고 말했다.  
(문화일보 2020.6.22)

한편, 조리의 의미로 「벗기다」와 비슷하게 사용하는 일본어의 「剥ぐ」는 관용 표현에서는 차이점이 보인다. 용례(43)에서는 요리의 재료를 준비하는 과정으로 닭의 껍질을 떼어내는 의미로 사용되었는데, 용례(44)에서는 「面の皮を剥ぐ」로 사용되면서 뻔뻔하고 제멋대로인 사람의 본색을 밝히고 부끄러움을 주는 것이라는 의미로 확장되었다. 비슷한 표현으로 한국어는 「베일을 벗기다」, 「가면을 벗기다」와 같은 관용적 표현을 들 수 있으며 양 언어 간의 표현상의 차이를 확인할 수 있다.

(43) ①鶏は皮を剥ぐ。②鍋にお湯を沸かす。  
(鶏チャーシュー, cookpad)  
(44) 私はこの題目を捉えて、折を見て彼の面の皮をはがしてやります。  
『西太后』

재료를 다듬을 때 불필요한 부분을 베거나 도려내서 파내는 비슷한 의미로 사용되는 「えぐる」와 「도려내다」는 의미확장 측면에서 공통점과 차이점을 확인할 수 있다. 용례(45)에서는 호박 케이크를 만드는 준비 과정으로 호박씨를 스푼으로 파내는 과정에서 「えぐる」가 사용되었고, 용례(46)에서는 아보카도의 씨를 제거하는 과정에서 「도려내다」가 사용되었다. 용례(47)과 (48)에서는 「胸をえぐる」, 「기슴 속을 도려내다」 마음을 아프게 하다는 안타까운 의미로 비슷하

게 사용된다. 한편, 「えぐる」의 확장의미로 상대방의 약점을 날카롭게 지적하다는 의미는 일본어에만 나타나는 표현이며 용례(49)와 같이 「問題点をえぐる」라는 표현으로 문제점을 찾아내고 지적하는 의미로 사용할 수 있다.

(45) カボチャを切って中の種をスプーンなどでえぐり取る。

(カボチャケーキ, cookpad)

(46) 학계에서는 ‘아보카도 손(아보카도의 딱딱한 씨를 도려내다 같이 미끄러지면서 손을 베는 경우)’이라는 말까지 나오게 됐다.

(경향신문 2021.7.14)

(47) まるでガラス細工のような言葉が敷きつめられた中にひとつ、胸をえぐるのような詩を見つけたよ。

『メビウス・レター』

(48) 가해자는 제대로 기억하지 못할 그 날의 상처는 피해자들의 가슴 속을 도려내다 못해 커다란 구멍으로 번져가기 마련이다.

(블로터 2023.1.3)

(49) つようにいろいろな事をまとめたものではあっても、必ずしも調査研究や発見の問題点をえぐるような形にはなっていない。

『社会学的想像力』

아래 「そそぐ」는 액체를 따르는 의미로 사용되는 조리동사이며 용례(50)에서는 스프를 만드는 과정에서 뜨거운 물을 붓는 의미로 사용되는데, 용례(51)에서는 관용구 표현으로 판매 경쟁의 기세를 돋우고 부채질하는 의미의 「油をそそぐ」로 사용되고 있다. 한국어로도 「기름을 붓다」는 비슷한 의미로의 확장 양상을 나타낸다. 한편, 반대 표현의 관용구로는 「찬물을 끼었다」가 있으며 좋은 분위기를 망치거나 트집을 잡는 의미로 사용되는데 「水を差す」도 비슷한 양상이 나타난다.

(50) マグカップにダンダを適量いれてお湯をそそぐだけです。

(ダンダにお湯をそそぐだけスープ, cookpad)

(51) この朝日、毎日の熾烈な販売競争に油をそそいだのは、日清日露、そして第一次世界大戦とたび重なる戦争の勃発であった。

『メディアの興亡』

용례(52)의 「뿌리다」는 밀간을 위하여 여러 가지 양념들을 골고루 흐트러뜨리는 의미에서 용례(53)과 같이 「고춧가루를 뿌리다」는 관용구로 사용되면 어떠한 일이나 계획에 헤풀을 놓는 비유적인 의미로 확장된다.

(52) ① 불고기용 쇠고기에 소금·후추·청주를 뿌려 밀간한다. ② 부추와 미나리는 5~6cm로 자르고 양배추잎은 데친 후 식힌다.

(농민신문 2023.2.6)

(53) 김 감독은 “고춧가루를 뿌리기에는 이미 (울산의 우승이)99.9% 결정된거 아닙니까”라고 했다. 김 감독은 지난 9월 울산과 맞대결에서도 “이미 울산의 우승이 확정된 것 아니냐”고 업살을 피우면서도 2-1로 승리했던 적이 있다.

(스포츠경향 2022.10.11)

용례(54)에서처럼 요리를 위한 재료를 준비하는 단계에서 사용되는 표현이 용례(55)에서는 「두부모를 자르다」로 사용되면서 본인의 입장을 분명하게 하면서 어떤 요구가 여지없이 거절당함을 비유적으로 이르는 말로 확장되었다.

(54) 두부 한 모를 반(1/2)으로 자르고 1/2로 자른 것을 1/2쪽으로 잘라주었어요. 스팸은 작은 통 1/2통 남아있는 것으로 7쪽 만들어 준비했어요.

(간단하면서 잘 어울리는 스팸 두부 샌드, 만개의 레시피)

(55) 다만 그는 “검찰 장악을 위해 거칠게 두부모 자르듯 수사권을 조정했기 때문에 (검찰 수사기) 쉬워 보이지 않는다”며 “민주당은 거대 여당의 힘을 남용해 형사 소송법 법안을 통과시켰다.

(이데일리 2021.3.13)

살펴본 바와 같이, 재료를 썰고, 섞고, 다듬는 과정의 의미가 확장되어 새로운 의미로 나타나기도 하며, 전혀 다른 의미의 관용표현으로 바뀌기도 한다. 조리 과정에서는 비슷한 의미로 대응되는 일본어와 한국어의 표현이 확장 양상에서는 상당히 다른 모습으로 나타나는 점은 대조연구 측면에서 흥미로운 결과이다.

## V. 맺음말

일본어와 한국어의 조리어휘에 관한 대조연구는 여러 가지 측면에서 시도되고 있으나 「조리 전 단계」의 조리동사를 중심으로 한 연구는 미비한 실정이다. 더욱이 일차적인 의미뿐만 아니라 의미의 확장양상을 아우르는 선행연구는 찾을 수 없었다.

본 논문에서는 일본어와 한국어의 조리동사 가운데 「재료 준비동사」, 「재료 손질동사」의 조리동사로 범위를 한정하여 양 언어에 어떠한 표현이 나타나는지 고찰해 보고 나아가 조리동사의 의미의 확장양상을 밝혀 보고자 하였다.

이를 위해 먼저, 선행연구 및 사전과 요리관련 서적에서 「조리 전 단계」의 조리동사의 표제어를 추출하였고 각각 「재료 준비동사」, 「재료 손질동사」로 나누어 보았다. 일본어와 한국어의 조리동사는 비슷한 부분이 많다고 하지만 그 가운데 나타나는 표현의 차이에 따른 차이점을 발견할 수 있었다. 또한 일본어는 상대적으로 생선을 손질하는 표현에 관한 〈분리하기〉 동사가 많으며, 한국어는 가루를 이겨 떡을 만드는 과정의 〈반죽하기〉 표현이 다양한 것을 확인하였다.

한편 일본어 한국어 모두 조리의 기본의미에서 출발하여 다양한 의미로 활발하게 확장되고 있는 부분을 확인할 수 있었다. 양 언어가 비슷하게 확장되는 경우가 있는가 하면, 각각 다른 양상으로 확장되기도 하는 점은 어휘가 지닌 흥미로운 부분이다.

음식의 종류와 조리 방법 및 음식 문화의 발달에서 비롯되는 표현의 차이가 조리동사의 사용양상과도 관계가 있다고 판단되며 일본어와 한국어의 조리어휘를 정리해 보면 양국의 음식문화의 차이도 명확하게 밝혀 볼 수 있을 것이다. 또한 양국의 음식명에는 동사들이 많이 활용되기도 하며 요리명과 조리방법의 측면에서의 대조연구를 앞으로의 과제로 삼고 싶다.

### 〈참고문헌〉

- 강창임(2007) 「여행 잡지에 나타난 한국 음식 어휘의 특징 -일본에서 발간된 한국소개 여행 잡지를 대상으로 하여-」 『日本研究』31 한국외국어대학교 일본연구소

일한 양 언어의 조리동사 대조연구 ..... 은수희...79

pp.347-367

권형찬(2003) 『요리 동사의 의미 성분분석 -요리 방법과 단계를 중심으로-』 경기대학교 석사학위논문 pp.1-51

김직수(2011) 「일본요리분야에서 사용되는 어휘의 고찰」 『日本文化学報』49 한국일본문화학회 pp.19-36

박윤진(2016) 『요리 관련 동사의 한국어교육 방안 연구 -결혼이민자를 대상으로-』 충북대학교 교육대학원 외국어로서의 한국어교육전공 석사학위논문 pp.1-121

은수희(2019) 「한·일 양언어의 가열조리동사 대조연구 -의미적인 측면을 중심으로-」 『日本語教育研究』46 한국일본어교육학회 pp.107-122

\_\_\_\_\_ (2020) 「한·일 양언어의 비가열 조리동사 대조연구 -혼합과 발효를 중심으로-」 『日本語学研究』64 한국일본어학회 pp.137-154

이시게나오미치(2017) 『일본의 식문화』어문학사 pp.15-398

이정숙(2015) 『여성 결혼이민자를 위한 한국 음식명 어휘 교육방안 연구』중부대학교대학원 한국어학과 석사학위논문 pp.1-92

정의상(2021) 『문화로 맛보는 맛있는 일본요리』시사일본어사 pp.9-399

張元哉·陸明実(2012) 「日韓の料理名に現れる調理方法の特徴」 『日本語学研究』33 韓国日本語学会 pp.171-184

堤人美(2020) 『新しいおせちとごちそう料理』朝日新聞出版 pp.8-125

本谷恵津子(2005) 『基本の家庭料理(和食篇)』婦人之友社 pp.130-135

山口仲美(2000) 「味と味覚を表す語彙と表現」 『日本語学』19(6) 大修館書店 pp.30-35

### 〈용례수집〉

국립국어연구원(1999) 『표준국어대사전』 두산동아

고려대학교민족문화연구원(2009) 『고려대한국어대사전』 고려대학교민족문화연구원

国語国立研究所編(2004) 『分類語彙表』 大日本図書刊

国立国語研究所 『KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」少納言』

인터넷판 일간지 주간지

만개의레시피(<https://www.10000recipe.com>)

cookpad(<https://cookpad.com>)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일

심사완료 : 2023년 03월 08일

게재확정 : 2023년 03월 13일

<要旨>

日韓両言語における調理動詞対照研究

－ 調理前の段階を中心に －

殷守希

日本語と韓国語の調理に関する研究は、多岐にわたって行われているが、主に「加熱調理動詞」を中心であり、「調理前の段階」を扱う研究は少ない。さらに、調理の一次的な意味だけでなく、意味的な拡張様相を合わせた先行研究はほとんど見つからなかった。

このような点に着目し、本論文では、日本語と韓国語の調理動詞のうち、本格的な調理に先立って準備段階に範囲を限定する。そして両言語において、どのような表現が現れるのかを考察し、さらに調理動詞の意味の派生様相を明らかにしようとした。

このため、まず先行研究と辞典および料理関連書から「調理前段階の動詞」を抽出し、「材料準備動詞」、「下ごしらえ動詞」に分類した。また、「材料準備動詞」を〈浸す〉、〈濾す〉、〈分ける〉、〈混ぜる〉に、「下ごしらえ動詞」の段階を〈切る〉、〈下ろす〉、〈捏ねる〉に分け、それぞれの動詞を分類した。

日本語と韓国語の「調理動詞」は表現の側面において似たような部分が多いが、その中でも表現の違いによる相違点が見られることが確認できた。また、調理動詞としては似たような意味で使われる日本語と韓国語が、意味拡張の様相では、異なる意味で表れるところも対照研究の側面での興味深い結果になる。

このような考察の結果は、言語的側面だけでは説明しきれない部分があり、文化的側面との関係も見てみる必要がある。料理の種類と調理方法及び食文化の発達による表現の差が調理動詞の使用様相とも関係があると判断され、日本語と韓国語のより広い範囲の調理語彙をまとめてみると両国の食文化の差も明確に現われると思われる。

〈Abstract〉

A Comparative Study of Cooking Verb in Korean and Japanese  
- Focusing on the Pre-cooking Stage -

Eun, Soo-Hee

Study on cooking of Japanese and Korean has been conducted in a wide variety of ways, but it mainly focuses on “cooked cooking verbs” and few of the study deal with “pre-cooking steps”. Furthermore, few prior studies that combine not only the primary meaning of cooking but also the semantic expansion aspects have been found.

With this in mind, this paper limits the scope of cooking verbs in Japanese and Korean to the preparation stage prior to full-scale cooking. And examined what expressions appeared in both languages, and further tried to clarify the derivative aspects of the meaning of the cooking verb.

To this end, “pre-cooking verbs” were extracted from prior research, dictionaries and cooking-related books, and classified into “material handling verbs” and “pre-cooking verbs.” In addition, the stages of the preparation verbs are divided into <dip>, <filter>, <divide>, and <mix>, and the material handling verbs are divided into <cut>, <dip>, and <knead>, respective verbs are classified.

Japanese and Korean “cooking verbs” have many similarities in terms of expression, but it has been confirmed that there are differences due to differences in expression. Another interesting result of the comparative study is that Japanese and Korean, which are used in similar meanings as cooking verbs, are expressed in different meanings in terms of semantic extension.

The results of such considerations cannot be explained by linguistic aspects alone, and it is necessary to look at the relationship with cultural aspects. The difference in expression due to the development of cooking methods and food culture is also considered to be related to the use of cooking verbs, and the difference in food culture between the two countries can be seen by summarizing a wider range of cooking vocabulary.

## 社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する反応\*

— 韓日大学生調査を中心に —

河正一\*\*・趙智英\*\*\*・金民主\*\*\*\*

### 〈目次〉

- |               |             |
|---------------|-------------|
| I. はじめに       | IV. 分析結果と考察 |
| II. 先行研究      | V. おわりに     |
| III. アンケートの概要 |             |

Key Words: 무례(impoliteness), 사회적 가치(social values), 공격적 발화(aggressive utterances), 불쾌감(displeasure), 반응(response)

### I.はじめに

社会の民主化・情報化・国際化が進むにつれ、言語学では相互作用におけるポライトな言語行動の研究が盛んに行われ、その中でもBrown & Levinson (1987/2011、以下B&Lと略す)のポライトネス理論は最も脚光を浴びるようになってきた。ところが、ポライトネス理論の台頭は、ポライトな言語行動としての言語行動だけが重視される偏重をももたらした。その結果、相手に対する断り表現や不満表明にさえも、攻撃的かつ批判的な言語行動としての反駁や批判などは、分析の対象としてあまり取り扱われてこなかった。つま

\* 本研究はJSPS科研費JP20K13138の助成を受けたものである。

\*\* 大阪公立大学 国際基幹教育機構院 准教授, 言語学専攻

\*\*\* 同志社大学 学習支援・教育開発センター 助教, 文学専攻

\*\*\*\* 光州教育大学校 学部生

り、ポライトネスの捉え方からすべての言語行動を分析するということが当然のことであると思うようになり、それに反するインポライトな言語行動は望ましくない、避けなければならない否定的な対象として、いわゆるポライトな言語行動に反する一例としてしか扱わないという言語研究の偏りをもたらしてしまった(河 2022:82)。

インポライトネスは、社会的価値を脅かす言語行動として、互いの社会的価値の衝突から生じる言語行動である。ゆえに、インポライトネスの研究は、社会的秩序や価値体系を明確に示すことにつながり、円滑なコミュニケーションの手助けとなる。

本稿は、韓国と日本の中学生(河・森岡 2022)・高校生調査(河 2022)の継続研究として、韓国と日本の大学生を対象に攻撃的発言がどの程度、相手の社会的価値を脅かすか、すなわち攻撃的発言に対する不愉快度と、それに対する反応の相関関係を分析する。

## II. 先行研究

従来のインポライトネスに関する研究は<sup>1)</sup>、B&L(1987/2011)のフェイス概念<sup>2)</sup>からポライトネスに反する周辺的な言語行動として、インポライトネスの捉え方や話者の言語ストラテジーなどに焦点が置かれた研究が大半であった。

話者の言語ストラテジーではなく、聴者の反応に焦点を当てた研究としてはCulpeper, Bousfield & Wichmann(2003)やBousfield(2008)などがある。しか

---

1) インポライトネス研究の動向や問題点については、紙幅上、割愛する。詳細は、河(2014、2017)または藪内(2015)を参照されたい。

2) B&L(1987/2011)は、社会の成員は皆ある種の基本的な欲求、すなわちネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスを持っているとする。ネガティブ・フェイスとは自分の行動が他人によって干渉されてほしくないという欲求であり、ポジティブ・フェイスとは自分が大切にしている物や価値や行動などを他人によって理解されたり高く評価されたりしたいという欲求である。この二つのフェイスを脅かすような行動がフェイス侵害行為(Face-threatening Acts)である(河2022:82)。

し、いずれの研究においても聴者の反応のストラテジーに焦点が置かれたため、本稿の目的である攻撃的発言に対する不愉快度とその反応の相関関係を読み取ることができない。

一方、이성범(2015)は、①社会的力関係における話者の攻撃的発言が明示的か非明示的か、②聴者の責任の有無によって、聴者の印象と反応を調査している。調査結果、まず話者の攻撃的発言に対する聴者の印象と反応には聴者の責任の有無が最も重要な要因として働く。その上、攻撃的発言が明示的か非明示的に関わらず、女性のほうが男性より攻撃性を高く感じる。なお、聴者の責任の有無によって、責任のない場合に比べ、あるほうが攻撃の度合いを低く認識する。いわゆる、聴者の責任が一種のフィルターとなり、話者の攻撃的発言をろ過するマスク効果をもたらす。さらに、男女を問わず、聴者の責任のない話者の明示的な攻撃的発言に最も攻撃の度合いを感じるという(河 2022:84)。

이성범(2015)の研究は、攻撃的発言の明示性の有無、対人関係における社会的要因、聴者の責任の有無を考慮した点は優れている。しかし、攻撃的発言の場面の分類基準が明確ではないという点と聴者の反応がポライトネスの観点に偏っている点が不十分である<sup>3)</sup>。

上記の問題点を踏まえ、河・森岡(2022)、河(2022)では日本と韓国中学生・高校生を対象に社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する不愉快度と、それに対する反応を調査している。しかし、本稿は紙幅上、中学生・高校生の結果は割愛し、大学生調査のみを分析・考察する。

### III. アンケートの概要

言語行動の評価は、談話参加者における社会的価値とは何かと共に、社会的力関係における利益の衝突がいかに反映されて言語行動として現れるか、これらの要因を考慮しなければならない。そこで、利益の衝突として現れる

---

3) 河(2022) p.84.

攻撃的発言を相手の責任の有無に置き換え、聴者の責任による攻撃的発言と聴者の責任ではない攻撃的発言に分ける。その上、攻撃的発言の対象として、「性格」「能力」「外見」「所属」に分ける<sup>4)</sup>。つまり、社会的力関係や利益の衝突(責任の有無)、攻撃の対象を総合的に考慮し(24場面)、下記のように攻撃的発言に対する印象と反応を尋ねた。

### 場面

廊下で出くわした寮の隣部屋の友達に「夜は少し静かにして、テレビの音量もちょっと下げてくださいよ。」と言われた。

1. 発言を聞いてどの程度、不愉快に感じますか?



2. 発言を聞いてどのような反応を示しますか?

- ① 何も言わず、沈黙する。
- ② ごめん。これから注意するね。
- ③ 気を付けても壁が薄いから全部聞こえてしまうみたいだね。
- ④ 私なりにそんなにうるさくないと思うけれど。
- ⑤ 隣部屋だからそれくらいは理解してくれないと、そんなことで文句を言うのは失礼じゃない。

従来の多くの調査方法では、河(2019)が指摘したように特定の場面に対する言語ストラテジーを直接、記入する談話完成タスク(DCT)が多かった。しかし、談話完成タスクは、意識的であれ、無意識的であれ、円滑な言語コミュニケーションとしてのポライトな言語ストラテジーへの偏りが生じやす

4) 本稿で用いた攻撃的発言の対象は、われわれが社会的活動を営むうえで、重視する価値体系とは何か、また価値体系に影響を及ぼしやすい要因とは何かという観点から、日本人の価値体系(原 2013)や韓国人の価値体系(김태운 2016)、ほめの対象に働く価値観の日韓中比較(関崎・金・趙 2017)を参照し、「性格」「能力」「外見」「所属」を取り出している。

いがゆえに、相手に対する攻撃的かつ批判的なインポライトネスの要素が表れにくい。このことは、多くの断り・不満表明の先行研究において、インポライトネスに関わる言語行動がほとんど表れなかったことから示唆される<sup>5)</sup>。

そこで、本調査では이성범(2015)を参照し<sup>6)</sup>、攻撃的発言に対する反応として、それぞれの場面においてA~Eというストラテジーを提示し選択する方法を採用した(下記は、能力の例である)。

A(沈黙：何も言わず、沈黙する)

何も言わず、沈黙する。

B(謝罪：謝罪する)

申し訳ございません。すぐやり直します。

C(解明・言い訳：解明または言い訳をする)

申し訳ございません。徹夜で作業していたので、ミスが多かったと思います。

D(反駁：自分の考え方を明確に示す)

申し訳ございませんが、企画書とゆとり世代とは関係ないと思いますが。

E(批判：相手の失礼さを指摘・批判する)

企画書のミスのごとで、ゆとり世代はためだというのは、失礼じゃありませんか。

以上、中学生(河・森岡 2022)・高校生調査(河 2022)と同様に社会的力関係(「話者」聴者」「話者=聴者」「話者<聴者」)や責任の有無、攻撃の対象(「性格」「能力」「外見」「所属」)を取り入れ、下記の24の質問項目を作成した<sup>7)</sup>。

---

5) 河(2019)は、言語行動に関する日韓対照研究のうち、研究対象として多く取り上げられてきた「敬語」「呼称」「依頼」「謝罪」「ほめ」「断り」「不満」を中心に研究動向を概観し、今後の課題と展望について述べている。

6) 이성범(2015)は、「沈黙する」「謝罪する」「解明する」「意見を開陳する」「積極的に反駁する」これら5つを反応として設定している。

7) 調査内容は基本的に河・森岡(2022)の中学生調査及び・河(2022)の高校生調査と同様である。しかし、社会的力関係を考慮した上で作成したため、多少の変更はある。

1. 今日<sup>1</sup>は来週<sup>2</sup>の文化祭<sup>3</sup>のための打ち合わせ<sup>4</sup>があった。しかし電車<sup>5</sup>で居眠り<sup>6</sup>をして、乗り過ぎ<sup>7</sup>してしまって40分<sup>8</sup>ぐらい遅<sup>9</sup>れて到着<sup>10</sup>した。その際<sup>11</sup>先輩<sup>12</sup>に「**大事な打ち合わせに遅刻するなんてあり得ない。まったくだらしがないんだから。**」と言われた。
2. 一週間<sup>13</sup>頑張<sup>14</sup>って作成<sup>15</sup>した文化祭<sup>16</sup>の企画書<sup>17</sup>を後輩<sup>18</sup>に見せたら後輩<sup>19</sup>に「**これ、それぞれの行事の時間が全然考慮<sup>20</sup>されていないので、使いものにならないんじゃないですか。**」と言われた。
3. 友達<sup>21</sup>に昨日<sup>22</sup>、好きな人<sup>23</sup>に告白<sup>24</sup>したか慚<sup>25</sup>られたという話<sup>26</sup>をしたら友達<sup>27</sup>に「**もうちょっとおしゃれてよ。顔<sup>28</sup>があまりいけてないから。**」と言われた。
4. 自分<sup>29</sup>の出身<sup>30</sup>高校<sup>31</sup>の野球部<sup>32</sup>はそれほど強<sup>33</sup>くないが、昨日<sup>34</sup>の試合<sup>35</sup>でも大き<sup>36</sup>く負<sup>37</sup>けてしまった。それを聞いた先輩<sup>38</sup>に「**また負けたって。そんなに弱<sup>39</sup>いなら野球部<sup>40</sup>をなくしたほうがいいんじゃない。**」と言われた。
5. 学校<sup>41</sup>で共同作業<sup>42</sup>をしていたが、自分<sup>43</sup>のミス<sup>44</sup>でもないことで、友達<sup>45</sup>に「**また間違<sup>46</sup>ってる？ もうちょっときちんとしてよ。まったく。**」と言われた。
6. 朝<sup>47</sup>から友だち<sup>48</sup>と小高い丘<sup>49</sup>をハイキング<sup>50</sup>していたが、1時間<sup>51</sup>くらい歩き回<sup>52</sup>ったらもう歩<sup>53</sup>けないくらい疲<sup>54</sup>れてしまい、友達<sup>55</sup>に帰<sup>56</sup>ることを提案<sup>57</sup>した。そしたら友達<sup>58</sup>に「**だめだよ。まだ1時間<sup>59</sup>くらいしか経<sup>60</sup>ってない。太<sup>61</sup>りすぎ。ダイエット<sup>62</sup>してよ。**」と言われた。
7. 一週間<sup>63</sup>頑張<sup>64</sup>って作成<sup>65</sup>した文化祭<sup>66</sup>の企画書<sup>67</sup>を先輩<sup>68</sup>に見せたら、先輩<sup>69</sup>に「**これ、それぞれの行事の時間が全然考慮<sup>70</sup>されていないじゃん。まったく、使えないな。**」と言われた。
8. グループ<sup>71</sup>発表<sup>72</sup>の結果<sup>73</sup>、自分<sup>74</sup>のグループ<sup>75</sup>が最下位<sup>76</sup>であった。それを聞いた別のグループ<sup>77</sup>の友達<sup>78</sup>に「**最下位<sup>79</sup>だって？ レベル<sup>80</sup>低い。**」と言われた。
9. 学校<sup>81</sup>の部活<sup>82</sup>で農業<sup>83</sup>ボランティア<sup>84</sup>に参加<sup>85</sup>した。午前中<sup>86</sup>に畑<sup>87</sup>仕事をしたら疲<sup>88</sup>れてしまって、後輩<sup>89</sup>に休憩<sup>90</sup>することを提案<sup>91</sup>した。すると、後輩<sup>92</sup>に「**30分<sup>93</sup>前<sup>94</sup>も休み<sup>95</sup>ましたけど。先輩<sup>96</sup>は太<sup>97</sup>りすぎですよ。ダイエット<sup>98</sup>してください。**」と言われた。
10. 電車<sup>99</sup>で居眠り<sup>100</sup>をして乗り過ぎ<sup>101</sup>してしまい、友達<sup>102</sup>との待ち合わせ<sup>103</sup>の場所<sup>104</sup>に40分<sup>105</sup>ぐらい遅<sup>106</sup>れてしまった。待ち合わせ<sup>107</sup>の場所<sup>108</sup>についたら、友達<sup>109</sup>に「**待ち合わせの時間<sup>110</sup>1時<sup>111</sup>だったよね。なんで毎回<sup>112</sup>遅刻<sup>113</sup>するのよ。本当にだらしがない。**」と言われた。
11. 今朝<sup>114</sup>部活<sup>115</sup>の先輩<sup>116</sup>に呼ばれて「**最近<sup>117</sup>1年生<sup>118</sup>の遅刻<sup>119</sup>が多いみたいけど、お前<sup>120</sup>がしっかり<sup>121</sup>していないからじゃないか。もっときちん<sup>122</sup>とやれよ。**」と言われた。
12. 部活<sup>123</sup>の帰り<sup>124</sup>に自分<sup>125</sup>の第一印象<sup>126</sup>について後輩<sup>127</sup>に聞いたら「**ぶっきらぼう<sup>128</sup>で冷たい印象<sup>129</sup>でした。先輩<sup>130</sup>は強面<sup>131</sup>なので笑<sup>132</sup>わないと人<sup>133</sup>から怖<sup>134</sup>がられると思います。**」と言われた。
13. 友達<sup>135</sup>と一緒にそれぞれの出身<sup>136</sup>校<sup>137</sup>のマラソン<sup>138</sup>を応援<sup>139</sup>したが、残念ながら自分<sup>140</sup>の出身<sup>141</sup>校<sup>142</sup>は予選<sup>143</sup>落ち<sup>144</sup>て終わ<sup>145</sup>ってしまった。すると友達<sup>146</sup>に「**お前<sup>147</sup>の学校<sup>148</sup>、毎回<sup>149</sup>参加<sup>150</sup>す**

る意味ある?」と言われた。

14. 電車の人身事故のため友達との待ち合わせの場所に40分ぐらい遅れてしまった。待ち合わせの場所についたら友達に「待ち合わせの時間1時だったよね。なんで毎回、遅刻するのよ。本当にだらしない。」と言われた。
15. 学校の部活で農業ボランティアに参加した。午前中に畑仕事をしたら疲れてしまい、先輩に休憩することを提案した。すると先輩に「何言ってるんだ。30分前も休んだでしょう。太ってるからじゃん。ダイエットしろよ。」と言われた。
16. 学校の部活同士のバスケット試合でうちの部活は1回戦で負けてしまった。その時、先輩に「めっちゃ弱いですね。多分小学生にも勝てないかも。」と言われた。
17. 今日は電車の人身事故のせいで、来週の文化祭の打ち合わせに40分ぐらい遅れて到着した。その際、先輩に「大事な打ち合わせに遅刻するなんてあり得ない。まったくだらしないんだから。」と言われた。
18. 部活に参加してみたら1年生の遅刻が目立っていた。その際、先輩に「最近1年生の遅刻が多いです。3年生の先輩がみんなのお手本にならず、毎回遅刻するからじゃないですか。先輩らしくお手本を見せてください。」と言われた。
19. 自分の出身高校の野球部はそれほど強くないが、昨日の試合でも大きく負けてしまった。それを聞いた先輩に「また負けたんですね。そんなに弱いなら、野球部をなくしたほうがいいんじゃないですか。」と言われた。
20. 部活の新入部員歓迎会で、自己紹介をしたら先輩に「もうちょっとハツラツで体格のいい先輩が欲しかったな。」と言われた。
21. 今日は来週の文化祭のための打ち合わせがあった。しかし電車の人身事故のため、40分ぐらい遅れて到着した。すると先輩に「待ち合わせの時間1時でしたよね。大事な打ち合わせを遅刻するなんて、しっかりしてくださいよ。」と言われた。
22. 授業の共同発表のため自分なりに色々調べた内容を友達に見せたら、友達に「内容があまり面白くないし、発表のテーマと趣旨がまったく合わない。」と言われた。
23. 学校の部活同士のバスケット試合でうちの部活は1回戦で負けてしまった。その時、先輩に「めっちゃ弱いじゃん。多分、小学生にも勝てないかも。」と言われた。
24. 今日は来週の文化祭のための打ち合わせがあった。しかし電車で居眠りをして、乗り過ごしてしまって、40分ぐらい遅れて到着した。その際、先輩に「待ち合わせの時間1時でしたよね。大事な打ち合わせを遅刻するなんて、しっかりしてくださいよ。」と言われた。

24の質問項目を社会的力関係や責任の有無、攻撃の対象によって分類すると、表1となる。

〈表 1〉 24の質問項目の詳細(話者=話、聴者=聴)<sup>8)</sup>

		1	17	10	14	24	21
性格	力関係	話>聴	話>聴	話=聴	話=聴	話<聴	話<聴
	責任	有	無	有	無	有	無
		7	11	22	5	2	18
能力	力関係	話>聴	話>聴	話=聴	話=聴	話<聴	話<聴
	責任	有	無	有	無	有	無
		15	20	6	3	9	12
外見	力関係	話>聴	話>聴	話=聴	話=聴	話<聴	話<聴
	責任	有	無	有	無	有	無
		23	4	8	13	16	19
所属	力関係	話>聴	話>聴	話=聴	話=聴	話<聴	話<聴
	責任	有	無	有	無	有	無

例えば、「性格」における質問1と17は、聴者の責任の有無、すなわち居眠りと人身事故を理由に遅刻した際に、先輩(話者)に言われる場面であり、10と14では、友人に言われる場面で、24と21は、後輩に言われる場面である。同様に聴者の責任の有無によって少し状況は違うものの、「能力」「外見」「所属」においても同様の組み合わせで作られた。

#### IV. 分析結果と考察

今回の調査対象は、中学生・高校生の継続調査として大学生である。一般に人々の言語の一生の骨組みがほぼ決まる言語形成期は、2歳～3歳から12歳～13歳頃までと言われる(日本語教育学会編 2005:803)。ということは、中学生の時期に言語形成期が終わり、高校生・大学生の時期を経て言語意識及び価値体系が確立していく。とりわけ、大学生の時期は、高校生の時期とは異

8) 河・森岡(2022)の中学生調査及び・河(2022)の高校生調査と同様である。

なって高い教養と専門的能力を培うと共に、アルバイトや就職活動を通じて多様な対人関係や社会性を身に着ける時期でもある。ゆえに、今回の大学生調査は各々の段階の言語形成期から発達期、さらに言語運用能力またはコミュニケーション能力の変化を比較・分析するに当たって有効である。

本調査は、2020年11月から2021年8月にわたって行った。有効回答者の内訳は、表2の通りである。

〈表 2〉 回答者の内訳

		A大学(日本)	B大学(日本)	C大学(韓国)
性別	男	40	60	123
	女	68	28	122
合計		196		225

24問の「不愉快」×「国」の2要因分散分析を行った結果(SPSS)、「不愉快」の主効果は  $[F(23,10097)=154.01, p<.001]$  で有意であり、「不愉快」と「国」の交互作用は0.1%水準で有意であった( $[F(23,1007)=49.15, p<.001]$ )。しかし「国」の単純主効果は有意ではなかった( $[F(1,439)=0.49, n.s.]$ )。分析は「性格」「能力」「外見」「所属」における「不愉快度」とそれに対する「反応」を「責任の有無」「社会的力関係」「男女差」について論じていく。

### 1. 「性格」の結果

「性格」の結果をまとめると、表3となる。

〈表 3〉 「性格」に対する不愉快度(網掛け:責任なし)

	1: 話>聴			10: 話=聴			24: 話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	1.9	2.0	1.9	1.6	1.7	1.7	1.8	2.0	1.9
韓国	2.2	2.4	2.3	2.1	2.6	2.4	3.2	3.3	3.2
	17: 話>聴			14: 話=聴			21: 話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	2.8	3.2	3.0	2.8	3.3	3.0	2.7	3.2	3.0
韓国	2.7	2.8	2.8	2.6	2.6	2.6	3.5	3.3	3.4

責任の有無と関連して日韓共にすべての質問において聴者の責任のない場合が聴者の責任のある場合より不愉快度が強く表れたものの、日本のほうがより大きな差がついた。なお責任のある場合のみ、韓国の不愉快度が強く示された。社会的力関係では、日本は不愉快度の差があまり見られなかったが、韓国では後輩から言われる場合は有意に不愉快度が強く表れた。男女差では9)、日本は責任の有無に問わず、すべての質問で女性の不愉快度が強く表れた。韓国でも21番以外は女性の不愉快度が強く表れた<sup>10)</sup>。つまり、日韓共に責任の有無が不愉快度に及ぼす影響が高いが、社会的力関係では日本より韓国のほうが重視される。なお、日韓共に女性のほうがより不愉快さを感じる。

不愉快度に対する反応では(付録参照)、日本は社会的力関係を問わず、責任のある場合は「B(謝罪) > C(解明・言い訳) > …」で、責任のない場合は「C(解明・言い訳) > B(謝罪) > …」であった。一方、韓国では責任のある場合は「B(謝罪) > C(解明・言い訳) > …(先輩)」 「C(解明・言い訳) > B(謝罪) > …(友人と後輩)」で、責任のない場合は「C(解明・言い訳) > B(謝罪) > …(先輩と友人)」 「C(解明・言い訳) > D(反駁) > …(後輩)」で、社会的力関係によって反応が異なる傾向が見られた。ところが、日韓共に男女による反応の差はそれほど顕著ではなかった。

## 1. 「能力」の結果

「能力」の結果をまとめると、表4となる。

9) 日本の「不愉快」×「性別」における「不愉快」の主効果は $[F(23,4462)=78.93, p<.001]$ で、「不愉快」と「性別」の交互作用は $[F(23,4462)=2.87, p<.001]$ で、性別の単純主効果は $[F(1,194)=25.67, p<.001]$ であった。韓国の「不愉快」の主効果は $[F(23,5589)=146.23, p<.001]$ で、「不愉快」と「性別」の交互作用は $[F(23,5589)=23.31, p<.001]$ で、性別の単純主効果は、 $[F(1,243)=30.91, p<.001]$ であった。

10) 紙幅上、小数点以下一桁にしたため、韓国における14番の不愉快度が男女共に2.6となっている(四捨五入)。しかし、実は「男性:2.59」「女性:2.63」で、女性のほうが高い。

〈表 4〉「能力」に対する不愉快度(網掛け:責任なし)

	7:話>聴			22:話=聴			2:話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	3.6	3.8	3.7	2.6	3.1	2.8	2.8	3.3	3.1
韓国	2.9	3.2	3.0	2.6	3.3	2.9	2.8	2.8	2.8
	11:話>聴			5:話=聴			18:話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	3.3	3.7	3.5	3.4	3.9	3.6	3.5	3.8	3.6
韓国	2.9	3.2	3.0	3.2	3.6	3.4	3.9	4.2	4.0

責任の有無と関連して日韓共に先輩に言われる7番と11番のペア以外に有意に高く現れた。社会的力関係では、日本はそれほど差は見られなかったが、韓国は責任のない場合のみ「先輩<友人<後輩」に対する不愉快度が有意に高く現れた。男女差では、日韓共に責任の有無及び社会的力関係を問わず、女性のほうが不愉快度が高く表れる傾向が見られた<sup>11)</sup>。つまり、日韓共に能力に対する責任の有無が不愉快度に及ぼす影響が高く、かつ女性のほうが不愉快さを高く覚える。ところが、社会的力関係においては日本より韓国のほうが重視する傾向がある。

反応では、日本は責任のある場合は「B(謝罪)>D(反駁)>…(先輩)」「B(謝罪)>C(解明・言い訳)>…(友人と後輩)」で、責任のない場合は「C(解明・言い訳)>B(謝罪)>…(先輩と後輩)」「C(解明・言い訳)>D(反駁)>…(友人)」であった。しかし、社会的力関係ではそれほど違いは見られなかった。韓国は責任のある場合は「B(謝罪)>C(解明・言い訳)>…」で、責任のない場合は「B(謝罪)>D(反駁)>…(先輩)」「D(反駁)>C(解明・言い訳)>…(友人)」「E(批判)>D(反駁)>…(後輩)」のように社会的力関係による反応が見られた。ところが、日韓共に女性の不愉快度が高かったものの、反応ではそれほど顕著な差は見られなかった。

11) 2番の韓国の結果は、「男性:2.80」「女性:2.84」である。

## 1. 「外見」の結果

「外見」の結果をまとめると、表5となる。

〈表 5〉「外見」に対する不愉快度(網掛け:責任なし)

	15: 話>聴			6: 話=聴			9: 話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	2.8	3.8	3.3	2.7	3.7	3.2	2.8	3.5	3.2
韓国	3.1	4.3	3.7	3.0	4.4	3.7	3.4	4.5	4.0
	20: 話>聴			3: 話=聴			12: 話<聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	2.9	3.4	3.2	3.6	4.2	3.9	2.4	2.7	2.5
韓国	2.3	2.9	2.6	3.3	4.2	3.7	2.3	2.8	2.6

責任の有無と関連して日韓共に顕著な相違点は見られないものの、韓国では責任のないほうがむしろ不愉快度が低く表れる傾向が見られた。社会的力関係では、責任のある場合は日本ではあまり差が見られなかったが、韓国では後輩に対する不愉快度が有意に高かった。責任のない場合では、日韓共に「友人」に対する不愉快度が「先輩」と「後輩」に比べて有意に高く現れた。男女差では、日韓共にすべての質問において女性の不愉快度が有意に高く表れた。つまり、日韓共に外見に対する責任の有無が不愉快度に及ぼす影響はそれほど明白ではないが、やや韓国の方が社会的力関係を重視する傾向がある。そして、日韓共に女性のほうが外見に対する不愉快さを覚える。

反応では、日本は責任のある場合は「B(謝罪)>C(説明・言い訳)>…(先輩と友人)」「C(説明・言い訳)>B(謝罪)>…(後輩)」で、責任のない場合は、「B(謝罪)>C(説明・言い訳)>…(先輩と後輩)」「C(説明・言い訳)>A(沈黙)>…(友人)」であった。韓国は責任のある場合は「C(説明・言い訳)>A(沈黙)>…(先輩)」「E(批判)>C(説明・言い訳)>…(友人)」「D(反駁)>E(批判)>…(後輩)」で、責任のない場合は「C(説明・言い訳)>D(反駁)>…(先輩と後輩)」と「D(反駁)>E(批判)>…(友人)」であった。社会的力関係では不愉快度が高くなるに

つれ、日韓共に多様な反応のストラテジーが見られ、さらに日韓共に「A(沈黙)」という反応の割合が特に女性のほうで増加している。そして、日韓共に女性のほうが男性より重い反応を示す傾向があり、不愉快度と反応における一定の相関関係が見られる。

### 1. 「所属」の結果

「所属」の結果をまとめると、表6となる。

〈表 6〉「所属」に対する不愉快度(網掛け:責任なし)

	23 : 話 > 聴			8 : 話 = 聴			16 : 話 < 聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	2.8	3.2	3.0	3.1	3.8	3.4	3.7	4.0	3.9
韓国	3.1	3.6	3.4	3.7	4.1	3.9	3.5	4.0	3.8
	4 : 話 > 聴			13 : 話 = 聴			19 : 話 < 聴		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
日本	3.7	4.1	3.9	3.5	3.8	3.6	3.4	3.9	3.6
韓国	2.9	2.4	2.7	2.9	2.6	2.8	3.7	4.4	4.0

責任の有無と関連して日本は「先輩」と「友人」では不愉快度が高くなるものの、「後輩」に対しては不愉快度が下がった。しかし、韓国では「後輩」以外、むしろ責任のない場合の「先輩」と「友人」の不愉快が低く表れた。社会的力関係では、日本は責任のある場合のみ「先輩 < 友人 < 後輩」の有意差が見られたが、責任のない場合は顕著な差は見られなかった。一方、韓国では責任のある場合は「先輩」に比べ、「友人」と「後輩」の有意差が見られたものの、責任のない場合は「後輩」のみ有意に不愉快度が高く表れた。男女差では、日本はすべての質問に対して女性の不愉快度が有意に高かった。韓国は聴者の責任のある場合は有意に女性の不愉快度が高く表れたが、聴者の責任のない場合は、顕著な差は見られなかった。つまり、日韓共に責任の有無が不愉快度に影響を及ぼすものの、日本は責任のある場合に比べて責任のないほうが高

い。一方、韓国はその逆の傾向が見られる。なお、責任のある場合のみ日韓共に社会的力関係が考慮された反応が見られる。そして日本のほうがより女性の不愉快度が顕著に高い。

反応では、日本は責任のある場合は「B(謝罪)〉D(反駁)〉…(先輩と後輩)」「D(反駁)〉A(沈黙)〉…(友人)」で、責任のない場合は、「D(反駁)〉B(謝罪)〉…」であった。韓国は責任のある場合は「B(謝罪)〉D(反駁)〉…(先輩)」「D(反駁)〉E(批判)〉…(友人と後輩)」で、責任のない場合は「D(反駁)〉A(沈黙)〉…(先輩)」「D(反駁)〉C(説明・言い訳)〉…(友人)」「D(反駁)〉E(批判)〉…(後輩)」であった。ということは、日本は責任の有無が重視され、韓国は責任の有無だけでなく社会的力関係も考慮される。男女差では日韓共に女性のほうが重い反応を示す傾向があり、なおかつ女性による「A(沈黙)」の反応が多く見られる。

## 1. 考察

攻撃の対象別による結果をまとめると表7となる。

〈表 7〉 攻撃の対象別の不愉快度(網掛け：責任なし)

	責任あり								責任なし							
	性格		能力		外見		所属		性格		能力		外見		所属	
	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓	日	韓
男	1.8	2.5	3.0	2.7	2.8	3.2	3.2	3.4	2.7	2.9	3.4	3.3	2.9	2.6	3.5	3.2
女	1.9	2.7	3.4	3.1	3.7	4.4	3.6	3.9	3.2	2.9	3.8	3.6	3.5	3.3	3.9	3.1
計	1.8	2.6	3.2	2.9	3.2	3.8	3.4	3.7	3.0	2.9	3.6	3.5	3.2	3.0	3.7	3.1

聴者の責任のある場合、日本は「所属〉外見〉能力〉性格」<sup>12)</sup>で、韓国は「外見〉所属〉能力〉性格」であり、「外見」に対する韓国の女性の不愉快度が著しく高かったのが日韓の差を生み出した。聴者の責任のない場合、日本は「所

12) 日本は「所属3.43〉外見3.21〉能力3.19〉性格1.84」である。

属〉能力〉外見〉性格」で、韓国は「能力〉所属〉外見〉性格」である。すなわち、聴者の責任のある場合では、「能力」を除いて韓国の不愉快度が高く表れ、聴者の責任のない場合では、すべての対象において日本の不愉快度が高く表れた。

そして、日韓共に男女の不愉快度に対する意識の差が顕著である。日本は、聴者の責任の有無を問わず、すべての対象において女性の不愉快度が高かった。韓国でも聴者の責任のない「所属」を除いて女性の不愉快度が高く表れた。とりわけ、日韓共に聴者の責任の有無を問わず、「外見」に対する不愉快度の差が顕著である。

井出(2006)は、言葉遣いに対する男女の意識について、一般に女性のほうが頻繁に丁寧な言葉を使っているため、女性は言葉の丁寧度評価も低くなる傾向があるという。つまり、通常丁寧な言葉遣いからかけ離れた攻撃的発言のため、丁寧度評価が下がり、その結果、不愉快度が高くなったと考えられる<sup>13)</sup>。

反応では、日韓共に不愉快度が高くなるにつれ、その反応も重くなる傾向が見られるが、日本より韓国のほうが重い反応を示す傾向がある<sup>14)</sup>。日本は、「性格」「能力」では聴者の責任の有無によって、B(謝罪)とC(説明・言い訳)の使い分けというパターンが見られた。そして、「外見」でもB(謝罪)とC(説明・言い訳)が多いものの、最も不愉快度が高かった「所属」ではB(謝罪)とD(反駁)の反応が多かった。一方、韓国は「性格」ではB(謝罪)とC(説明・言い訳)、「能力」ではB(謝罪)、D(反駁)、E(批判)、「外見」ではC(説明・言い訳)、D(反駁)、E(批判)、「所属」ではB(謝罪)とD(反駁)のように攻撃の対象や聴者の責任の有無、社会的力関係によって多様な反応が見られた。つまり、日本

---

13) 井出(2006) pp.172-173.

14) 李(2004)では、日本で第二言語として日本語を勉強する学習者(JSL)と韓国で外国語として日本語を勉強する学習者(JFL)に焦点を当て、JFLのほうがJSLに比べ、よりフェイス侵害行為の度合いの高いストラテジーを選択する傾向があることから、学習環境が不満表明ストラテジーの選択に影響を与えていると指摘している。このことは、韓国のほうが相手の攻撃的発言に対してより明確に反応を示す傾向があるという今回の結果と相通じる。

は社会的力関係より聴者の責任の有無が反応の選択に大きく作用する一方、韓国は聴者の責任の有無はもとより、社会的力関係もある程度重視する傾向がある。

なお、日本は聴者の責任の有無と関連して「性格」「能力」「所属」では聴者の責任のない場合の不愉快度が高くなるが、韓国ではむしろ「外見」「所属」の不愉快度が低くなる。ところが、その反応は聴者の責任のある場合と比較した場合でもそれほど変わらない。つまり、聴者の責任の有無より「外見」や「所属」という攻撃の対象を一層重んじることへの表れであろう。

さらに、不愉快度が高くなっても、中学生(河・森岡 2022)・高校生調査(河2022)に比べて最も強いE(批判)の反応がそれほど見られなかった。日本では聴者の責任の有無を問わず、そして韓国では18番(能力：責任あり、後輩)と6番(外見：責任なし、友人)だけであった。相手に社会的価値が脅かされたにもかかわらず、それに応酬をしない。すなわち相手への強い批判を避けることにより、さらなる攻撃を受けかねない状況を避けるためであろう。このことは、日韓共に不愉快度が高い「外見」「所属」の反応として、A(沈黙)が一定の割合で表れ、とりわけ女性の使用率が高くなることと相通じる<sup>15)</sup>。

最後に、日韓共に不愉快度が高くなるにつれ(特に「外見」「所属」)、女性は男性より重い反応が示す傾向が見られた。

## V. おわりに

日韓大学生調査を通じ、相手の社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する不愉快度と、それに対する反応の相関関係を分析した。今後は、中学生・大学生調査との相違点や類似点について分析を進めたい。

---

15) 沈黙という行為は、相手の攻撃的発言に対する衝突を避けるための戦略としても、または相手の攻撃的発言に対する不満や無視するための戦略としても用いられる。今回の結果を踏まえ、フェイスの防御としての沈黙か、フェイスの攻撃としての沈黙かについて、今後分析が必要であろう。

相手の社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する研究は近頃徐々に広がりつつある。とはいえ、従来のB&L(1987/2011)のポライトネスに囚われず、多様な観点からのアプローチが必要である。例えば、河(2014)が社会的価値を脅かす要因として提示した「不利益表明」「自己顕示表明」「否定的評価表明」の攻撃の度合いが社会的力関係やジェンダー、さらに異なる言語文化ではいかに現れるかも今後必要であろう。また、今回の調査は社会的な関りを持つ対人関係(先輩・友人・後輩)を中心に調査したが、三宅(1994)が提唱した「ウチ」「ソト」「ヨソ」という日本の社会・文化的特徴を取り入れた観点も今後の課題として考えられる。

#### 〈参考文献〉

- 李善姫(2004) 「韓国人日本語学習者の「不満表明」について」『日本語教育』123 日本語教育学会 pp.27-36
- 井出祥子(2006) 『わきまの語用論』大修館書店 pp.172-173
- 関崎博紀・金庚芬・趙海城(2017) 「ほめの対象に働く価値観の日韓中比較：大学生へのアンケート調査の結果に対する因子分析を通して」『社会言語科学』20(1) 社会言語学会 pp.161-175
- 日本語教育学会編(2005) 『新版日本語教育事典』大修館書店
- 河正一(2014) 「インポライトネスにおけるフェイス侵害行為の考察」『地域政策研究』17(1) 高崎経済大学地域政策学会 pp.93-116
- 河正一(2017) 「韓国語教育におけるインポライトネスの教授法：社会的・文化的価値体系及び言語的側面からの提案」『韓国語教育研究』7 日本韓国語教育学会 pp.139-157
- 河正一(2019) 「社会言語学的調査の状況：言語行動に関する日韓対照研究を中心に」『計量国語学』31-8 計量国語学会 pp.572-588
- 河正一(2022) 「攻撃的発言に対する韓日高校生の反応：日韓対照研究」『日本言語文化』59 韓国日本言語文化学会 pp.81-103
- 河正一・森岡千広(2022) 「社会的価値を脅かす攻撃的発言に対する反応：日韓中学生調査を中心に」『日本韓国研究』2 日本韓国研究会 pp.63-81
- 原聡(2013) 『日本人の価値観(異文化理解の基礎を築く)』かまくら春秋社 pp.11-22.
- 三宅和子(1994) 「「詫び」以外で使われる詫び表現：その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係」『日本語教育』82 日本語教育学会 pp.134-146

- 藪内昭男(2015) 『ポライトネスとフェイス研究の諸相：大きな物語を求めて』 リーベル出版 pp.162-185
- 김태운(2016) 「한국인의 가치체계 변화 분석 및 가치체계 재분류: 2013년 한국인 의식·가치관 조사 보고서를 활용하여」 『언어와 문화』 12-2 pp.85-112
- 이성범(2015) 『언어적 무례함에 대한 실험화용적 연구: 공격성 발화를 중심으로』 서강대학교출판부 pp.1-158
- Bousfield, D. (2008) *Impoliteness in Interaction*, Amsterdam, John Benjamins.
- Brown, P., & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. 田中典子ほか編『ポライトネス：言語使用における、ある普遍現象』 研究社 pp.55-83
- Culpeper, J., Bousfield, D., & Wichmann, A. (2003) Impoliteness revisited: with special reference to dynamic and prosodic aspects. *Journal of Pragmatics* 35:1545-1579

付録1. 反応(網掛け：責任なし)

No	性	日本	韓国	
性格	1	男	B84.0>C14.0>A=D1.0>E0	B61.0>C35.8>D1.6>A=E0.8
		女	B88.5>C9.4>A=D1.0>E0	B73.0>C25.4>A=D0.8>E0
		計	B86.2>C11.7>A=D1.0>E0	B66.9>C30.6>D1.2>A0.8>E0.4
	17	男	C59.0>B34.0>D5.0>A2.0>E0	C77.2>B14.6>D4.1>A3.3>E0.8
		女	C64.6>B29.2>E4.2>D2.1>E0	C74.6>B23.0>D1.6>E0.8>A0
		計	C61.7>B31.6>D3.6>E2.0>A1.0	C75.9>B18.8>D2.9>A1.6>E0.8
	10	男	B85.0>C10.0>A4.0>D1.0>E0	C61.0>B26.0>D8.9>A2.4>E1.6
		女	B82.3>C16.7>A1.0>D=E0	C55.7>B32.0>D9.0>E2.5>A0.8
		計	B83.7>C13.3>A2.6>D0.5>E0	C58.4>B29.0>D9.0>E2.0>A1.6
	14	男	C75.0>B18.0>D=E3.0>A1.0	C58.5>D17.9>B13.8>E6.5>A3.3
		女	C77.1>B9.4>D7.3>E5.2>A1.0	C64.8>B18.9>D12.3>E4.1>A0
		計	C76.0>B13.8>D5.1>E4.1>1.0	C61.6>B16.3>D15.1>E5.3>A1.6
	24	男	B82.0>C>16.0>A=E1.0	C46.3>B=E19.5>D11.4>A3.3
		女	B88.5>C8.3>A2.1>E1.0	C50.0>B24.6>D13.9>E11.5>A0
		計	B85.2>C12.2>A1.5>E1.0	C48.2>B22.0>E15.5>D12.7>A1.6
	21	男	C58.0>B37.0>E4.0>D1.0	C31.7>D27.6>E24.4>B13.0>A3.3
		女	C72.9>B19.8>E5.2>D2.1	C49.2>D28.7>E15.6>B6.6>A0
		計	C65.3>B28.6>E4.6>D1.5	C40.4>D28.2>E20.0>B9.8>A1.6
能力	7	男	B62.0>D16.0>C13.0>E5.0>A4.0	B43.9>C39.0>D12.2>E3.3>A1.6
		女	B71.9>D16.7>C6.3>A3.1>E2.1	B46.7>C39.3>D9.8>A2.5>E1.6
		計	B66.8>D16.3>C9.7>A=E3.6	B45.3>C39.2>D11.0>E2.4>A2.0
	11	男	B44.0>C39.0>D11.0>E5.0>A1.0	D37.4>B35.8>C17.9>E6.5>A2.4
		女	C50.0>B27.1>E15.6>D7.3>A0	B40.2>C26.2>D22.1>E9.0>A2.5
		計	C44.4>B35.7>E10.2>D9.2>A0.5	B38.0>D29.8>C22.0>E7.8>A2.4
	22	男	B50.0>C33.0>D=E7.0>A3.0	B41.5>C22.8>D17.1>A11.4>7.3
		女	B42.7>C26.0>D12.5>E11.5>A7.3	B33.6>C24.6>D23.0>A12.3>E6.6
		計	B46.4>C29.6>D9.7>E9.2>A5.1	B>37.6>C23.7>D20.0>A11.8>E6.9
	5	男	C50.0>B20.0>D17.0>A8.0>E5.0	C36.6>D33.3>E16.3>B11.4>A2.4
		女	C36.5>D21.9>E16.7>B15.6>A9.4	D35.2>C25.4>B=E16.4>A6.6
		計	C43.4>D19.4>B17.9>E10.7>A8.7	D34.3>C31.0>E16.3>B13.9>A4.5
	2	男	B75.0>C16.0>D5.0>A3.0>E1.0	C41.5>B30.9>D17.1>E7.3>A3.3
		女	B80.2>C10.4>A6.3>D3.1>E0	B55.7>C30.3>D11.5>A1.6>E0.8
		計	B77.6>C13.3>A4.6>D4.1>E0.5	B43.3>C35.9>D14.3>E4.1>A2.4
	18	男	C43.0>B24.0>D23.0>E8.0>A2.0	E40.7>D37.4>C9.8>B8.1>A4.1
		女	C49.0>B20.8>D18.8>E9.4>A2.1	E50.0>D34.4>B=C5.7>A4.1
		計	C45.9>B22.4>D20.9>E8.7>A2.0	E45.3>D35.9>C7.8>B6.9>A4.1
外見	15	男	B54.0>C21.0>A13.0>D10.0>E2.0	C43.1>B25.2>D16.3>A13.8>E1.6
		女	C27.1>B26.0>A24.0>E13.5>D9.4	A43.4>C22.1>D18.0>B10.7>E5.7
		計	B40.3>C24.0>A18.4>D9.7>E7.7	C32.7>A28.6>B18.0>D17.1>E3.7
	20	男	B39.0>C30.0>D16.0>A13.0>E2.0	C50.4>D22.0>B21.1>A4.9>E1.6
女	B34.4>C30.2>D18.8>A12.5>E4.2	D36.1>C35.2>A19.7>B9.0>E0		

	計	B36.7>C30.1>D17.3>A12.8>E3.1	C42.9>D29.0>B15.1>A12.2>E0.8	
6	男	B35.0>C28.0>D18.0>A14.0>E5.0	C30.9>E24.4>D23.6>A12.2>B8.9	
	女	A29.2>C20.8>B19.8>D15.6>E14.6	E40.2>D24.6>C21.3>A11.5>B2.5	
	計	B27.6>C24.5>A21.4>D16.8>E9.7	E32.3>C26.1>D24.1>A11.8>B5.7	
3	男	C48.0>A23.0>D18.0>B6.0>E5.0	D28.5>C26.0>E23.6>A15.4>B6.5	
	女	C42.7>A22.9>E16.7>D9.4>B8.3	E32.8>D30.3>A26.2>C8.2>B2.5	
	計	C45.4>A23.0>D13.8>E10.7>B7.1	D29.4>E28.2>A20.8>C17.1>B4.5	
9	男	B37.0>C33.0>E13.0>D9.0>A8.0	D39.0>E21.1>C19.5>B12.2>A8.1	
	女	C32.3>A21.9>D20.8>B=D12.5	E41.8>D33.6>A12.3>C7.4>B4.9	
	計	C32.7>B25.0>A=D14.8>E12.8	D36.3>E31.4>C13.5>A10.2>B8.6	
12	男	B59.0>C31.0>A6.0>D=E2.0	C43.1>B30.1>D17.9>A6.5>E2.4	
	女	B68.8>C15.6>A6.3>D5.2>E4.2	D32.8>C27.9>B18.9>A10.7>E9.8	
	計	B63.8>C23.5>A>6.1>D3.6>E3.1	C35.5>D25.3>B24.5>A8.6>E6.1	
所 屬	23	男	B70.0>D21.0>C7.0>A=E1.0	B56.9>C=D17.9>E4.1>A3.3
		女	B78.1>D11.5>C4.2>A=E3.1	B55.7>D19.7>C15.6>A5.7>E3.3
		計	B74.0>D16.3>C5.6>A=E2.0	B56.3>D18.8>C16.7>A4.5>E3.7
	4	男	B34.0>D30.0>A14.0>C13.0>E9.0	D36.6>C31.7>B18.7>A8.1>E4.9
		女	D40.6>B26.0>A15.6>E9.4>C8.3	A42.6>D23.0>C18.0>B14.8>E1.6
		計	D35.2>B30.1>A14.8>C10.7>E9.2	D29.8>A25.3>C24.9>B16.7>E3.3
	8	男	D29.0>B23.0>A22.0>E20.0>C6.0	D46.3>E30.1>A9.8>B8.1>C5.7
		女	D39.6>A25.0>E19.8>B12.5>C3.1	E41.8>D34.4>A15.6>B=C4.1
		計	D34.2>A23.5>E19.9>B17.9>C4.6	D40.4>E35.9>A12.7>B6.1>C4.9
	13	男	D46.0>B16.0>E15.0>C12.0>A11.0	D38.2>C30.1>E12.2>B11.4>A8.1
		女	D37.5>B21.9>A17.7>E16.7>C6.3	D32.8>A=C27.9>B=E5.7
		計	D41.8>B18.9>E15.8>A14.3>C9.2	D35.5>C29.0>A18.0>E9.0>B8.6
	16	男	B44.0>D28.0>E14.0>C8.0>A6.0	D33.3>E32.5>B21.1>C7.3>A5.7
		女	B39.6>D26.0>E16.7>A12.5>C5.2	D33.6>E32.0>C13.1>B11.5>A9.8
		計	B41.8>D27.0>E15.3>A9.2>C6.6	D33.5>E32.2>B16.3>C10.2>A7.8
	19	男	D33.0>B29.0>A16.0>E12.0>C10.0	D45.5>E26.0>B=C11.4>A5.7
		女	A26.0>D24.0>B22.9>E19.8>C7.3	D50.0>E31.1>A11.5>C5.7>B1.6
		計	D28.6>B26.0>A20.9>E15.8>C8.7	D47.8>E28.6>A=C8.6>B6.5

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
 심사완료 : 2023년 03월 08일  
 게재확정 : 2023년 03월 13일

〈요지〉

사회적 가치를 위협하는 공격적인 발화에 대한 반응  
- 한일 대학생 조사를 중심으로 -

하정일 · 조지영 · 김민주

본 연구는 한국과 일본의 대학생을 대상으로 공격적인 발화가 어느 정도 상대방의 사회적 가치를 위협하는가, 즉 공격적 발화에 대한 불쾌감과 그에 대한 반응을 분석했다. 분석 결과는 다음과 같다.

- 공격적 발화에 대한 반응으로 양국은 공통적으로 불쾌감이 높아짐에 따라 반응도 격해지지만 한국이 일본보다 격한 반응을 보였다.
- 일본은 사회적 힘 관계보다 청자의 책임 유무가 반응 선택에 중요한 요인으로 작용하는 반면 한국은 청자의 책임 유무뿐만 아니라 사회적 힘 관계도 중시하는 경향이 나타났다.
- 양국 모두 여성이 남성보다 공격적이 발화에 대한 불쾌감이 높게 나타나는 경향이 보였다.

〈Abstract〉

Korean and Japanese College Student Responses to Aggressive Statements

Ha, Jeong-Il · Cho, Ji-Young · Kim, Min-Ju

This study analyzed the degree of aggressive speech threatening the social values of conversation partners or displeasure with aggressive speech and reactions to it in Korean and Japanese college students.

The analysis results were as follows:

- Both Korean and Japanese college students showed more fervent reactions to the growing displeasure with aggressive speech, but the former was more fervent than the latter.
- Whether the listener was responsible or not worked as a more important factor in the choice of a faction in Japan than social power relations. In Korea, they tended to place importance on social power relations as well as the responsibility of the listener.
- Both in Korea and Japan, women tended to have greater displeasure with aggressive speech than men.

【日本文學】



## 나카이 다카시 원작 『나가사키의 중』과 동명의 가요·영화, 부록 『마닐라의 비극』과 그 서사성

심수경\* · 황규삼\*\*

### <目次>

I. 머리말	IV. 가요와 영화 「나가사키의 중」의 서사
II. 에세이 『나가사키의 중』의 서사	V. 맺음말
III. 부록 「마닐라의 비극」의 서사	

Key Words : 長崎原爆(Nagasaki Atomic Bomb), GHQの検閲(Censorship of GHQ), マニラの悲劇(Tragedy of Manila), 原作と歌謡曲・映画のナラティブの差(the Difference in Narrative between the Original Work and Popular Song and the Movie), 原子力案内書から神の摂理へ (From the Atomic Energy Guide to the Providence of God)

### I. 머리말

‘분노의 히로시마, 기도하는 나가사키(怒りの広島、祈りの長崎)’라는 말은 세계에서 유일하게 피폭도시가 된 히로시마와 나가사키의, 원자폭탄에 대한 태도와 관점을 잘 드러내는 표현이다. 일본 내에서 원폭을 이야기할 때 대부분 히로시마를 그 대변자로 하고 있을 만큼, 히로시마는 원폭 피해의 상징, 원(수)폭 반대의 상징이 되곤 한다. 이에 비해 일본에서 나가사키는 피폭된 도시이지만, 원자폭탄이 투하된 것을 ‘신의 섭리’로 보고 있다는 인식이 강하다. ‘기도하는

\* 제1저자. 서일대학교 비즈니스일본어과 조교수, 일본근현대문학문화 전공

\*\* 교신저자. 서일대학교 비즈니스일본어과 교수, 일본어학 전공

나가사키'라는 표현은 이 인식에 기인하는 바가 클 것이다. 그리고 이것은 나가이 다카시(永井隆, 1908-1951. 이하 '나가이'를 병용)의 작품과 사상에 의하는 바가 크다고 보는 것이 일반적이다.

나가이 다카시는 1945년 8월 9일 원자폭탄이 투하된 나가사키에서 원폭으로 부상당한 몸으로 피폭자 구호활동을 펼친 나가사키의대 교수이다. 그는 1949년 1월 『나가사키의 종(長崎の鐘)』을 출판하는데, 이 작품은 나가사키에 원자폭탄이 투하되었을 당시의 혼란과 피해상황, 인명구조와 치료활동 등을 기록한 에세이 형식의 원폭체험 수기이다. 나가이 본인도 피폭자라는 면에서 피폭 증언의 의미도 가진 『나가사키의 종』은 발간되자 베스트셀러가 되었다.<sup>1)</sup> 나가이는 이 에세이에서 나가사키 원폭 투하를 '신의 섭리'로 보고 있고, 이것은 나가이에 대한 비판의 요인이 되고 있다. 즉, 원폭을 '신의 섭리'로 보는 나가이의 사상은 원폭에 대한 정치적 여론을 억제하여 미국의 책임론을 말하기 어려운 상황을 초래하였다는 비판과, 원자력 사용을 긍정하였다는 등의 이유로 비판에 직면하기도 한다.<sup>2)</sup>

하지만, '신의 섭리'론의 확산과 '기도하는 나가사키'의 이미지가 형성되고 고착된 데에는 가요, 영화, 연극 등 대중미디어의 영향이 크다고 보는 것이 본 논문의 관점이다. 에세이 『나가사키의 종』은 출판되자 곧 여러 형태의 대중미디어로 재생산되는데, 본 논문에서는 이점에 주목한다. 에세이가 출판되자 곧이어

1) 辻村明(1981) 「資料1. 戦後ベストセラー・リスト」『戦後日本の大衆心理』東京大学出版会 p.ii. 이 자료에 의하면, 『나가사키의 종』보다 앞서 1948년 발행된 『この子を残して』(講談社)는 1948년-49년 모두 베스트셀러에 포함되어 있다.

2) 비판적 견해로는 高橋真司(1994)『長崎にあって哲学する—核時代の死と生』北樹出版가 대표적이다. 선행연구는 주로 종교적인 관점에서 접근하고 있는데, 일본에서의 연구로는 우라카미 번제설과 나가이의 원폭관을 다룬 논구(西村明(2002)의 「祈りの長崎—永井隆と原爆死者」, 岡本洋之(2011) 「永井隆はなぜ原爆死が神の摂理だと強調したのか?—「ケガレ」から考える試み」등), 나가이의 순교관에 관한 논구(三輪地塩(2019)「永井隆の「殉教観」」등), 가톨릭과의 관계 속에서 논한 연구(四條知恵(2015)『浦上の原爆の語り』등) 등이 있으며, 한국의 선행연구로는 나가사키의 이중적 차별을 논한 연구(오성숙(2021) 「사회적 차별과 서벌턴(나가사키 피폭자)-가톨릭 신자 나가이 다카시의 『나가사키의 종』을 중심으로-), 나가이의 사상이 담긴 대중문화가 지역에 끼친 영향을 논한 연구(박수경(2013) 「대중문화의, 진혼의 원폭도시 나가사키 생산-나가이 다카시를 중심으로-」) 등이 대표적이다.

같은 해 3월에는 연극 「나가사키의 중」이 공연<sup>3)</sup>되고, 역시 같은 해 7월에는 동명의 가요곡 〈나가사키의 중〉이 발매된다. 1950년에는 오바 히데오(大庭秀雄) 감독에 의해 영화 「나가사키의 중」이 제작되어 개봉된다. 이들 대중미디어에서의 서사가 나카이 다카시와 그의 에세이에 대한 이미지 형성과 확산에 영향을 미쳤을 것으로 생각된다.

따라서 본 논문에서는 ‘기도하는 나가사키’의 이미지 형성에 주요 요인으로 인식되는 나카이 다카시의 에세이 『나가사키의 중』의 서사를 살펴보고, 나카이와 그의 작품의 이미지에 크게 영향을 미쳤을 것으로 생각되는 가요, 영화를 중심으로 그 서사를 분석한다. 더욱이 당시 GHQ(연합군 총사령부)의 검열로 인해 원쪽 서사에는 제약이 따르고 있었던 상황 하에 『나가사키의 중』이 출판되고 가요곡과 영화가 제작되었다는 점에서, 이들 서사의 방향성을 살펴볼 필요가 있다. 한편, 에세이 『나가사키의 중』은 2차 세계대전 당시 일본군이 필리핀에서 행한 대살상에 대한 기록집인 「마닐라의 비극(マニラの悲劇)」의 합본을 전제로 출판이 허가되었다. 본 논문에서는 이 기록집에도 주의를 기울이면서 이들 작품의 서사를 조명한다.<sup>4)</sup>

## II. 에세이 『나가사키의 중』의 서사

### 1. 에세이 『나가사키의 중』의 서사 유형과 수용 요인

에세이 『나가사키의 중』은 『나가사키신문(長崎新聞)』의 두 기자에게 1946년 봄 문화총서용 집필을 의뢰받아 같은 해 9월 완성<sup>5)</sup>된, 전체 12장으로 구성되어

3) 片岡弥吉(1961) 『永井隆の生涯』サンパウロ p.273, 초판은 1952년 中央出版社 발행

4) 본고에서 사용하는 텍스트로는 에세이 『나가사키의 중』은 1949년 1월 발간된 히비야출판사(日比谷出版者) 초판을 사용하며, 영화는 1950년 쇼치쿠(松竹)에서 제작된 오바 히데오 감독의 영화를 사용한다. 또, 에세이 『나가사키의 중』의 한국어 인용은 페어퍼로드 출판사에서 간행한 박정임역(2021) 『나가사키의 중』을 사용한다. 그 외의 모든 인용문의 번역은 필자에 의한다.

5) 나가사키 신문의 나카지마 기요시(中島清), 구마쿠라 가즈오(熊倉一夫) 두 기자는 “꼭심지

있는 에세이다. 1장에서 5장까지는 원폭 투하 직전의 풍경 묘사에서 시작하여 폭발 당시의 상황과 구조작업을 그리고 있고, 6장에서 10장까지와 12장은 원자 폭탄의 원리와 원자력의 힘, 원자병의 치료에 대해 설명하고 있다. 11장에서는 나가이의 원폭피해에 대한 생각이 종교적 관점에서 서사되어 있다. 즉, 에세이의 내용은 크게 세 가지로 나누어 볼 수 있는데, 하나는 폭발 순간의 묘사와 구조작업에 대한 것이고, 또 하나는 원자폭탄의 원리를 포함해 원자력에 대한 것이다. 세 번째는 종교적 관점에 대한 서사 부분이지만, 여기에 해당하는 것은 단 하나의 장에 불과하다.

먼저, 구호활동에 대한 내용에는 나가이가 동료 의사와 간호사들과 부상자 구호활동을 펼치는 모습과, 본인도 부상당한 몸으로 피폭자들을 구조하고 치료 해가는 과정이 생생하게 묘사되어 있다. 당시 나가사키대학에서도 848명의 피폭 사망자가 나왔고, 나가사키 의과대학의 의사, 간호사 중에서도 사상자가 많았다. 나가이 자신도 피폭으로 관자놀이의 동맥혈관이 끊긴 채 부상자 구호에 나섰다. 이 에세이는 1949년 베스트셀러 4위<sup>6)</sup>에 오르고, 7만 부의 판매부수<sup>7)</sup>를 기록하는데, 그들의 이러한 구호활동이 독자들에게 감동 스토리로 전해져 인기 요인의 하나가 되었을 것으로 생각된다. 여기에 더해, 비록 패전했고 피폭 피해를 당했지만 자신보다 타인의 목숨을 살리기 위해 동분서주하는, ‘평화를 사랑하는 일본인 의사’라는 스토리로 수용되었을 가능성도 있을 것이다.

나가이는 이 책 서문에서 “의사의 시선”으로 쓴 책이지만 의학적 기록은 아니며 의학 논문도 아니라고 말하며, 원폭 후의 상황이 “과학자의 자세를 유지하기

---

에 있으면서 살아남은 사람은 적다. 그중에서 체험기를 쓸 수 있는 문화인은 극히 일부다.”라고 하며 설득했다고 한다. 하지만, 1946년 12월 나가사키신문사가 분열해 총서기획은 어렵게 되었고, 전국지로 옮긴 구마쿠라기자가 출판계에 밝은 의학박사 시키바 류자부로에게 원고를 넘기고 출판을 약속받으면서 출판에 이르게 되었다.(『長崎新聞』[https://www.nagasaki-np.co.jp/peace\\_article/2770/](https://www.nagasaki-np.co.jp/peace_article/2770/) 검색일: 2023.1.20.) 당시 히비야출판사의 발행인(대표) 시키바 준조(式場俊三)는 시키바 류자부로의 동생이라고 한다.(浜田研吾(2020)『俳優と戦争と活字と』筑摩書房 p.322)

6) 山本昭宏(2015) 『核と日本人』中央公論新社, p.4 1949년의 베스트셀러 1위는 『나가사키의 중』보다 한 해 앞서 발간된 『この子を残して』이다.

7) 水田九八二郎(1997) 『原爆文献を読む-原爆関係書2176冊』中公文庫 p.32. 인용은 박수경(2013) 앞의 논문 「대중문화의, 진혼의 원폭도시 나가사키 생산」 p.135에서 재인용.

는 불가능”했고, 따라서 이 책은 과학적 기록도 문학적 르포르도 아닌, 인간적인 수기라고 말한다.(p.8) 하지만 독자들에게는 이 작품이 의사이자 과학자에 의해 쓰인 글로 수용되었을 가능성이 높다. 무엇보다 나카이가 방사선과 의사이면서 피폭자라는 점이 독자들에게 부각되었을 것으로 보인다. 더욱이 나카이 자신은 의학적 기록이 아니라고 하지만, 피폭증에 대해 서술된 내용은 의사가 환자를 치료하며 기록한 진료기록이나 진료일지와 유사한 서사임을 알 수 있다. 예를 들면 다음과 같은 내용이다.

돌담 뒤나 무너진 건물 구석으로 도망쳐 화를 피했는데 갑자기 몸이 말을 듣지 않는다는 사람들이 내게 묻는다. 나 자신도 똑같은 증상을 겪고 있었다. 마치 송년회에서 진탕 먹고 마셔댄 다음 날의 숙취 같은 불쾌한 상태다. 술을 마신 적이 없어서 숙취의 느낌을 모른다면 대신 뱃멀미를 떠올려보면 된다. 전신 권태감, 두통, 오심, 구역, 현기증, 탈진 등과 같은 불쾌한 증상이다. 이 증상들은 예전에 내가 라듐 실험에 열중했을 당시 자주 경험했던 감마선 중독 증상과 똑같다.(중략) 감마선은(중략) 웬만한 콘크리트 벽도 통과하기 때문에 실내에 있던 사람도 모두 감마선에 노출된 것이다. (p.110)

위의 인용문에서 보듯 처음 경험한 원폭증에 대해 “숙취 같은 불쾌한 상태”라는 일상에서 흔히 볼 수 있는 친숙한 비유를 사용하여 일반인들이 알기 쉽게 설명하고 있다.

또 하나, 이 글에서는 실제로 ‘원자’나 ‘원자폭탄’에 대한 내용이 과학적으로 설명되어 있다.

원자력, 즉 원자가 창조된 순간부터 원자핵 내부에 잠재해 있는 힘. 원자의 형태를 유지하고 그 작용의 원천이 되는 힘. 그것은 원자의 체적에 비하면 놀라울 만큼 막대한 에너지이자, 실로 만물유전의 원동력이다. (중략) 원자폭탄은 인공태양이라고 해도 좋을 것이다. 이 거대한 원자력은 원자의 분열과 동시에 해방되며, 단숨에 만물을 압살한다. 원자분열은 진공 상태, 공기 중, 땅속, 물속 등 환경에 따라 발생하는 현상이 각기 다르다. 이번에는 공기 중에서 분열했다. 방출된 거대한 힘이 먼저 공기분자를 사방으로 밀어내면서 거대한 풍압이 사방으로 진행된다. (pp.94-95)

원자력과 원자폭탄에 대해 설명하는 이 글은 독자들에게 방사선과 의사로서의 전문성을 부각시키고 있다. 이 글은 마치 원자력에 대해 전혀 모르는 이들을 위한 입문서와 같은 역할을 하고 있는데, 이 책의 타이틀이 처음에는 「원자시대의 개막(原子時代の開幕)」이었던 것에서도 알 수 있듯이 원자력에 대한 설명은 이 에세이를 구성하는 중심 내용이다. 뿐만 아니라 이 책이 1945년 8월에서 10월 사이에 작성한 『나가사키의대 원자폭탄 구호 보고서(長崎医大原子爆弾救護報告書)』<sup>8)</sup>를 기초로 쓴 글이라는 점을 고려하면, 에세이의 중심내용이 방사선과 전문의로서 본 원자력과 피폭증, 구호방법 등에 있다는 것을 알기는 어렵지 않다. 나가이는 『나가사키의 중』에서 ‘많은 사람이 원자폭탄에 대해 두려워하고 또 궁금해하고, 자신은 원자폭탄의 폭발 현장에 있었던 사람이므로 자신이 보고 듣고 느끼고 관찰한 것을 그대로 전하고 싶다’<sup>9)</sup>고 밝히고 있는데, 이 점에서 ‘두려움과 궁금증’에 대한 안내는 기본적으로 달성된 것으로 보인다. 당시는 원자폭탄이 불러올 피해에 대한 지식이나 상식이 거의 없는 상태였고, 따라서 대중을 독자로 한 이 책에서 쉽게 원자폭탄의 위력뿐 아니라, 원폭으로 인한 부상의 종류와 그 증상, 치료법 등을 알기 쉽게 설명하고 있어 세계에서 유일한 피폭국이 된 일본 국민들에게 궁금증을 해소해 줄 만한 내용이었다고 볼 수 있다. 이 점 또한 이 에세이 수용 요인의 하나로 볼 수 있을 것이다. 거기에서 더 나아가 원자력의 효용성과 앞으로의 이용 발전 가능성을 설명하고 있어<sup>10)</sup> 미지의 과학에 대한 초보자용 안내서와 같은 기능을 발휘하고 있다. 다시 말해, 에세이는 가톨릭 신자로서보다는 의학자로서의 면모가 중점적으로 드러나 있는 서사임을 알 수 있다.

8) “昭和20年8月～10月の救護活動についての学長あての報告書”로 되어 있고, 작성자는 “物理的療法科助教授第11救護隊長 永井隆”로 되어 있다. (長崎大学 原爆後障害医療研究所 資料収集保存・解析部: <https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/abcenter/nagai/index.html> 검색일: 2023.1.20.)

9) 나가이 다카시 저, 박정임 역(2021) 『나가사키의 중』 페이퍼로드 p.7

10) 이것은 당시 원자력의 평화적 이용에 대한 목소리가 높아지는 것과도 궤를 같이 한다.

## 2. ‘나가사키 천벌’설과 ‘신의 섭리’

『나가사키의 중』에서 ‘신의 섭리’를 언급한 내용은 에세이 후반부에 나가사키 피폭사망자 합동장례 조문(弔文)을 통해 드러난다. 다음은 그 일부이다.

8월 15일 종전이 선언되었고, 세계 곳곳에서 평화의 날을 맞이했습니다. 그리고 그날은 성모의 승천축일이기도 했습니다. 우라카미 성당이 성모님에게 바쳐졌다는 생각이 듭니다.(중략) 이것이 과연 단순한 우연일까요? 아니면 하나님의 깊은 뜻일까요. 일본의 전투력에 중지부를 찍은 최후의 원자폭탄은 원래 다른 도시에 떨어질 예정이었습니다. 하지만 그날 예정된 도시의 상공에는 구름이 짙게 드리워졌고 조준폭격이 불가능했습니다. 갑자기 예정을 바꿔 예비 목표지였던 나가사키에 투하되었으며, 더구나 나가사키의 군수공장을 조준했지만 구름과 바람의 영향으로 빗겨 가면서 북쪽에 있던 성당 정면에 떨어지게 되었다는 이야기를 들었습니다. 만약 이것이 사실이라면 미군의 비행사가 우라카미를 노렸던 것이 아니라, 신의 섭리에 따라 폭탄이 이곳으로 오게 되었다고 생각할 수도 있을 것입니다.(중략)(pp.175-176)

1945년 11월 23일 우라카미 성당에서 행해진 가톨릭 피폭 사망자 합동장례에서 낭독된 이 조문에는 원자폭탄이 다른 도시에 투하될 예정이었으나 기상 상황에 의해 나가사키에 투하되었고, 더욱이 구름과 바람의 영향으로 예비 목표지였던 곳에서 벗어나 성당 정면에 떨어지게 된 것은 신의 섭리라는 논리이다. 이러한 나카이의 논리에 대해 시인 야마다 칸(山田かん)은 「위선자 나카이 다카시에 대한 고발(偽善者・永井隆への告発)」이라는 글을 통해, 나카이가 가톨릭 신앙을 이용해 피폭실태를 왜곡했다고 비판한다.<sup>11)</sup> 과연 비신자(非信者)의 관점에서 보면 황당한 논리로 보일 수 있다. 하지만 나카이 다카시의 사상은 정치적 접근보다는 나카이의 인생관 내지 종교관 등을 통해 종합적으로 판단할 필요가 있다.

먼저, 우라카미 지역이 오랫동안 종교적 탄압과 차별에 시달려 왔다<sup>12)</sup>는 사

11) 山田かん(1972)『潮』 pp.231-237. 본 논문에서는 四篠知恵(2015)『浦上の原爆の語り—永井隆からローマ教皇へ』 未来社 pp.49-50에서 재인용

12) 오성숙(2021)『사회적 차별과 서벌턴(나가사키 피폭자)-가톨릭 신자 나카이 다카시의

실을 상기할 필요가 있다. 나가사키에 투하된 플루토늄 원자폭탄 팻맨(Fat Man)은, 파괴력 면에서 히로시마에 투하된 우라늄 리틀보이(Little Boy)보다 약 1.3배 강력한 것이었다.<sup>13)</sup> 하지만 히로시마의 원폭사망자 수가 14만 명, 나가사키는 7만 3천여 명으로 추정되고 있어<sup>14)</sup>, 파괴력에 비해 사망자가 적었다고 할 수 있다. 이것은 당시 두 도시의 인구 차이에도 기인하지만, 나가사키의 원폭투하 지점이 원래 목표였던 시 중심부를 벗어난 곳에 투하되었다는 점과, 이곳이 두 개의 구릉 사이에 있는 지역이라는 특성에 의한 것으로 보인다. 그런데 이 지역은 많은 가톨릭 신자가 거주하는 곳으로, 가톨릭 교구의 신자 약 12,000명 중 8,500명이 사망했을 정도로 우라카미 가톨릭 신자들의 피해가 컸다. 이 때문에 종교적 탄압과 차별의 역사 속에 우라카미가 천벌을 받았다는 설이 확산된 것이다. 『나가사키의 중』에서 전쟁 귀환병인 이치타로는 “만나는 사람마다 이렇게 말하더군. 원자폭탄은 천벌이라고, 죽은 자는 나쁜 사람이라서 벌을 받은 거고 살아남은 자는 신<sup>15)</sup>의 특별한 은총을 받은 거라고, 그렇다면 내 아내와 아이는 나쁜 사람인 건가?”(제11장)라고 말한다. 이에 대해 나카이는 원폭이 우라카미에 떨어진 것은 신의 섭리라고 말하며 합동장례 조문을 내민다. 그 글을 읽은 이치타로는 자신의 아내와 아이들은 지옥에 가지 않았다고 확신하며 “밝은 얼굴”로 돌아가게 된다. 즉, 나카이의 ‘신의 섭리’론은 ‘우라카미 천벌’설에 대한 대응 논리로서 보아야 할 것이다. 특히 우라카미가 오랫동안 차별에 시달려 온 지역임을 생각할 때 당시의 우라카미 천벌설은 다시 한번 가톨릭 신자들을 차별하는 기제로 작동할 우려가 컸다고 볼 수 있다.<sup>16)</sup> 더구나 이 조문

『나가사키의 중』을 중심으로-』『일본사상』41 한국일본사상학회 pp.175-198

13) 四條知恵(2020) 「長崎の原爆被害における基礎知識」『平和文化』, 広島平和文化センター p.99

14) 長崎平和推進協会(2000) 『長崎原爆資料館 原爆資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引き』13. 인용은 四條知恵(2020) 같은 논문 p.100

15) 여기에서 말하는 ‘신’은 기독교의 신이 아닌, 일본 전통의 ‘신’이라고 보아야 할 것이다.

16) 금교기(禁教期)의 규슈에서는 매년 정월 ‘크리스천 사교관을 침투시키기 위한 세뇌작업’으로 후미에(踏絵)가 행해졌고, 나가사키시 주민은 후미에가 끝날 때마다 음악을 동반한 주연과 예능인에 의한 ‘만세무(万歳舞)’등의 액막이를 했다고 한다.(『踏絵—禁教の歴史—』NHKブックス pp.107-108. 인용은 岡本洋之(2011)「永井隆はなぜ原爆死が神の摂理だと強調したのか? : 「ケガレ」から考える試み」『教育科学セナリ—』42 関西大学

은 우라카미 성당에서 행해진 가톨릭 신도 사망자들을 위한 합동장례에서 낭독되었다는 사실을 인식할 필요가 있다. 요컨대, 원폭과 신의 섭리론은 우라카미 천별설을 차단하기 위한 서사로, 그의 종교관에 근거해 당시의 우라카미 천별설에 대한 대응 논리로서 볼 필요가 있다.

나가이는 근거 없는 천별설 등 일종의 ‘미신’적 행위에 대한 강한 거부감을 가진 것으로 보인다. 나가이는 어릴 적, 자신의 부모가 주변의 미신적 풍습으로 힘들어하던 모습을 지켜봐 왔고, 이런 경험으로 나가이는 미신적 풍습에 매우 부정적인 인식을 가지고 있었다<sup>17)</sup>고 한다. 에세이에서 나가이는 자신을 찾아온 전쟁 귀환병 아마모토와 하사모토 두 사람과 ‘신’을 둘러싸고 다음과 같은 공방을 이어간다.

“신 앞에 땀땀하지 않은 전쟁에 승리가 있을 리 없겠죠.”  
“하지만 저희는 전쟁 내내 신께 기도했습니다. 특히 전쟁의 신께.”  
“백일해의 신이 있다고 믿는 것처럼 전쟁의 신도 인간이 만들어낸 신이죠.”  
“아닙니다. 일본에 예전부터 존재하는 신입니다.”  
“그대들보다 신학도 철학도 몰랐던 선조들이 만들어낸 것입니다. 자기 편리할 대로 신을 만들어내고, 그 신에게 이기적인 기도를 올리는 것이니 종이 부적과 다를 바 없습니다.(중략) 허상을 상대로 혼자 배례를 올린 겁니다.”  
“우리의 치성이 부족했던 겁니다.”  
“아니죠. 아무리 치성을 다했다고 해도 상대가 허상이니 헛수고일 뿐입니다. 인간이 만든 신이 아니라 진짜 신에게 은혜를 받은 세력을 이길 수는 없습니다.” (11장)

---

教育学会 p.5) 또한 그는 유물론자이다. 이 또한 미신 풍습에 대한 거부감에 기인하는 바가 있다고 할 수 있다.

17) 岡本洋之(2011) 같은 논문 pp.4-5. 岡本에 따르면, 나가이는 시마네현(島根県) 이즈모 지방(出雲地方)의 의사집안에서 태어났다. 선조는 마쓰에번의 무사였지만, 조부 대에 분가하여, 조부는 한의원을 업으로 하였고, 아버지(寛·のぶる)는 독학으로 의사 국가시험에 합격하였다. 다카시가 태어난 1908년에는 마쓰에시에서 개업의의 대진(代診)을 담당했다. 같은 해 부친 노부루는 마쓰에의 이이시무라(현재의 雲南市三刀屋町)에 개업을 하고 다카시는 그곳에서 자랐다. 나가이가 사망하기 3개월 전 완성한 소설 『마을 의사(村医)』는 그의 부모님을 모델로 한 소설로, 그 작품에는 마을 의사 부부가 농촌에 뿌리 깊은 미신 숭배관습에 의한 마을의 ‘더러움(ケガレ)’관념에 괴로워하며 그것과 싸우는 모습을 그리고 있다.

나가이는 일본에서 숭상되고 있는 모든 신은 인간이 만들어낸 것이며, 따라서 그 신들은 모두 허상이라고 하며 강하게 배척하고 있다. 두 사람의, ‘일본인에게 일본의 신이 있어도 되지 않느냐’는 질문에 그것은 “원시 민족국가의 신앙”이라고 단언하는 모습에서 그의 종교관을 엿볼 수 있다.

그런데, 이처럼 그의 종교관은 확실히 드러나고 있는 반면, 정치적 견해와 일본의 전쟁책임에 대한 견해는 드러나 있지 않다. 나가이는 1933년 간부후보생으로 입대한 후 단기 군의관으로 만주사변에 종군하여<sup>18)</sup> 전쟁을 경험하지만 일본의 전쟁에 대한 언급은 보이지 않는다. 에세이에서는 나가이가 “전쟁은 잔혹한 것”이라고 말하는 장면이 등장한다. 하지만 “나는 전쟁 내내 국가의 최고 명령에 따라 목숨 걸고 임했”다고 언급하며, “일본의 전쟁 목적이 정의롭지 못했음이 증명된다고 해도, 그와 상관없이 아름다운 행동으로 인정받아야 한다”(11장)고 말하는 부분에서는 매우 모호함을 느낀다. 이것은 그가 자신의 종교관을 확실히 언급한 것과는 매우 다르며, 관점에 따라서는 일본의 전쟁을 긍정하는 태도로도 보인다. 또 일본의 패전소식을 들은 나가이는 “살아 있는 우리에게 남은 건 수치심뿐”(p.139)이라고 말하는 것으로 볼 때, 오히려 전쟁을 긍정하는 것으로도 보인다. 따라서 나가이가 피폭을 신의 섭리로 보는 견해는 그가 정치적으로 미국을 두둔하거나 일본의 가해자로서의 전쟁책임을 추궁하기 위한 것이 아님을 알 수 있다.<sup>19)</sup> 즉, 신의 섭리는 정치와는 무관한 그의 종교관을 반영한 언설로 보아야 할 것이다.

18) 片岡弥吉(1961) 앞의 책 p62. 히로시마 보병대에 입대 후, 단기 군의관으로 채용되어 만주사변에 종군한다.

19) 전쟁책임에 대한 서사는 생략된 채 ‘평화’를 말한다는 면에서는 오히려 일본의 다른 지식인과 크게 다르지 않음을 발견할 수 있다. 한편, 나가이가 말하는 우라카미에 원폭이 투하된 것을 신의 섭리로 보는 견해와 일본의 전쟁에 참가한 것을 긍정하는 서술에는 나가이의 사고가 다소 결과론적 정당성 내지 결과론적 당위성에 의한 부분이 있다고 생각된다.

### Ⅲ. 부록 「마닐라의 비극」의 서사

원작 『나가사키의 중』은 1946년 8월에 완성되었다. 하지만 GHQ의 검열로 인해 1949년 1월에 출판된다.<sup>20)</sup> 출판사는 1947년에 CIE(민간정보교육부, Civil Information and Education Section))에 이 책을 제출하였으나, 검열관은 이 책이 일본인의 반미감정을 부추길 우려가 있다고 판단해 허가하지 않았다. 하지만 출판사는 이 책은 미국의 전쟁범죄를 탄핵하는 것이 아니라는 의견을 펼치며 CIE와 절충을 이어갔다. 출판사는 ‘나가이 박사는 과학자로서 원폭병을 의학적인지에서 설명하고 있고, 또 일본에서 가장 기독교 신자가 많은 나가사키에 원폭이 투하된 것은 <제2차 세계대전에서 저지른 인류의 죄를 속죄하기 위해>, <희생자로서 선택되었다>는 것이 나가이 박사의 생각’이라고 주장했다.<sup>21)</sup>

그런데 출판사 측에서 CIE와 절충하는 과정에서 이미 ‘속죄’라는 표현을 사용하고 있는 것을 볼 수 있다. 가톨릭 신자로서의 나가이의 면모를 강조하며 ‘신의 섭리’와 ‘번제’설의 연장선에서 나가이의 에세이의 특징을 언급하고 있다. 이 에세이에서 신의 섭리를 언급한 부분은 11장뿐이지만, 속죄나 기독교 신자로서의 나가이를 부각시키고 있는 것이다. 이것은 어쩌면 검열을 통과하기 위한 방법으로 이 부분의 내용을 확대하여 강조한 것으로 보인다.

그 결과 CIE는 ‘일본군이 필리핀에서 행한 잔학행위를 기록한 「마닐라의 비극」을 부록으로 출판하는 것을 조건으로」 출판을 허가했다.<sup>22)</sup> 초판에는 「나가사키의 중」이 189쪽, 「마닐라의 비극」이 130쪽으로 부록으로서는 상당히 많은 분량을 차지하고 있다. 그런데 「마닐라의 비극」의 <일러두기(はしがき)>에서는 “1945년 2월, 마닐라시에 가해진 무차별적 파괴를 입증할 자료는 방대하다. 다음에 부기하는 승려, 민간인 및 군인 측의 정당한 증인이 제작한 선서진술서(宣誓口供

20) 나가이의 작품 중 『나가사키의 중』이 가장 먼저 쓰인 글이지만, 검열로 인해 『이 아이를 남겨두고(この子を残して)』, 『로자리오의 목주(ロザリオの鎖)』가 1948년에 먼저 발행되었다.(講談社『キング』연재)

21) 平野共余子(2021)『天皇と接吻』草思社 pp.136-137

22) 平野共余子 위의 책 pp.136-137. 총사령부의 몇 개 부서도 이 건에 관계하게 되고, 최종적으로는 점령기 이후, 자신들의 지배력이 미치지 못할 때 출판되기보다 자신들이 통제 가능한 지금 출판허가를 하는 편이 좋다는 판단에서 CIE는 출판을 허가했다고 말한다.

書)는 극히 일부분에 불과하다.”(p.197)고 적고 있어 이 기록이 주로 증언기록임을 나타내고 있다. 일본군의 무차별적 파괴를 입증할 자료가 방대하다고 하지만 “증인이 제작한 선서진술서” 외에 이 기록집에는 문서화된 자료제시는 거의 없고 대부분 증언이 기록되어 있다.<sup>23)</sup> 그 서문(序文)에는 다음과 같은 글이 실려있다.

본서에 서술된 수많은 사실은 일본인뿐 아니라 그 외 누구라도 부정할 수 없는 것이다. 이같은 유혈 기록은 근대사에 유례를 찾아볼 수 없다. 이들 행위는 군사적 내지 그 외의 어떠한 면에서도 필요가 있었다고는 생각할 수 없다. 비행기에서 군사적 목적물을 노리고 투하된 폭탄이 우연히 잘못되어 무고한 시민을 살상하는 일은 있을 수 있고 어떤 경우에는 불가피했다고도 할 수 있을 것이다. 그러나, 마닐라 시민에게 가해진 이 같은 잔학비도(殘虐非道)한 행위는 전쟁의 결과라고 할 수만은 없는 부분이 있다. 이 행위들은 아민인을 능가하는 만행이다.(중략) 어떤 한 남자가 돌연 난폭해져 길을 지나가는 이 사람 저 사람을 무차별하게 죽이고 돌아다닌다면, 경찰은 그를 붙잡아야 한다. 이것이, 일본이 미국과 전 세계에 부과한 숙제이며, 이 무차별 살상행위를 멈추고 전쟁을 종결시키기 위해 미국과 전 세계가 원자폭탄을 사용하지 않을 수 없었던 까닭이다. 이렇게 하여 그들은 일본 및 그 외의 나라들에서 무수한 인명을 구할 수 있었다. 일본이 1937년 노구교(盧溝橋)에서, 또 1941년 진주만의 모락적 기습에서 시작한 전쟁은 마침내 일본 자신에게 돌아와, 히로시마, 나가사키의 완전 파괴를 통해 끝난 것이다. (pp.194-196. 번역 필자)

이 「마닐라의 비극」은 앞서 언급한 대로 필리핀에서 일본군이 자행한 행위<sup>24)</sup>에 대한 증언기록집<sup>25)</sup>이지만, 서문에는 미국이 일본에 원폭을 투하한 이유와

23) 또한, 이 글에는 일본군의 만행을 징키스칸에 비유하고 있는, 다소 돌발적인 서사가 눈에 띄는데, 동양인에 대한 서양인의 차별적 시선이 느껴지는 부분이기도 하다. 다음은 그 부분이다. “西洋人にとっては、これらの恐るべき行為が現実存在したとは、到底考えられないであろう。これと同じものを見出すためには、歴史をさかのぼって探らなければならない。すなわち、ジンギス・カンであり、全き破壊の尾を曳いて進撃して行った蒙古人たちである。これは同じ種族なのだ——日本人はキモノをきたジンギス・カンである!” (p.201)

24) 여기에는 일본군의 살상이 ‘일본군 통수부에 의해 사전에 계획된 결과(日本軍統帥部の手であらかじめ冷静に立案された結果)’로 보고 있으나, 일본 측에서는 이를 부정하고 있다. (「はしがき」p.197)

25) 「마닐라의 비극」은 「序文」、「はしがき」외에 총 11장으로 구성되어 있다. 각 장을 소개하

당위성에 대해 설명하고 있다. 필리핀에서 저지른 일본군의 살상행위를 “아만을 능가”하는 행위라고 강하게 비난하며 일본군의 아만성을 원폭투하의 정당성을 뒷받침하는 서사로 사용하고 있다. 또한, “일본의 정책에서 설명하기 어려운 또 하나의 부분은, 일본인이 필리핀에서 기독교의 흔적을 마지막 한 방울까지 없애버리려 한 것이다. 목사와 선교사는 학살되고 간호사와 부모들은 살해되었다.(중략) 이러한 가공(可憐)할 만한 행위는 가톨릭 교도들에게만 향한 것은 아니었다. 기독교 관계자는 신교 구교를 막론하고 똑같은 고통을 당했다.(중략) 일본인이 필리핀의 기독교 세력을 송두리째 제거하기 위해 노력한 결과는(그로 인해 필리핀의 기독교인들이 당한 고통은—필자 주), 400년 전 나가사키와 히로시마에서 기독교도가 받은 고통을 분명 능가할 것이다.”(pp.195-196)고 서술하며 기독교 신자들에게 가해진 폭력과 살상행위를 강조하고 있다. 게다가 내용의 대부분이 증언으로 되어 있는 이 기록집은, 증언자가 주로 가톨릭 교회의 신부와 신자들로 이루어져 있어 『나가사키의 중』의 서사와 호응하며 『나가사키의 중』의 기독교적 서사성을 확장하는 역할을 하고 있다. 또, 400년 전 나가사키에 천주교가 유입된 것과 그 박해를 소환하는 서사는 『나가사키의 중』을 한층 더 기독교적인 이미지로 이끌고 있다. 다시 말해, 부록 「마닐라의 비극」에서 주로 종교인을 통해 기독교에 대한 살상을 강조하며 『나가사키의 중』에서의 가톨릭 신자 나가이의 ‘신의 섭리’ 서사를 환기시키고 원폭투하의 당위성을 확대해 간다. 즉, 『나가사키의 중』 또한 미국의 원폭투하 정당성을 주장하는 서사의 일부로 기능하고 있다고 볼 수 있다.

---

면 다음과 같다. “第一章 스페인人居住民の蒙りたる被害、第二章 라・サル学校的虐殺、第三章 日本軍によるキリスト協會の破壊、第四章 日本軍による赤十字病院の破壊、看護婦および患者の殺戮、第五章 地下牢における餓死、第六章 日本軍による幼児刺殺および街路上の非戦闘員射撃、第七章 日本軍の婦女子に対する縛手、殴打、殺害の事実、第八章 日本軍による器物への放火、婦女子の焼殺、第九章 日本軍による一般市民の大量虐殺、第十章 日本軍による少女の乳首および幼児の腕の切断、第十一章 これらの事實は否認することはできない”

## IV. 가요와 영화 「나가사키의 종」의 서사

에세이 『나가사키의 종』이 1949년 1월에 출판되자, 동명의 가요곡 〈나가사키의 종〉이 같은 해인 1949년 4월 임시 발표되고, 같은 해 7월 콜롬비아에서 정식 발매되었다. 에세이가 1949년 1월 발행이므로 4월 임시 발표는 매우 빠른 제작이었음을 알 수 있다. 이 곡은 나가이의 에세이를 원작으로 하여 만들어진 노래로, 사토 하치로(サトウ・ハチロー)의 시에 고세키 유지(古関裕而)<sup>26)</sup>가 곡을 붙이고 당시 인기가수였던 후지야마 이치로(藤山一郎)가 불러 대히트하였다. 게다가 가요곡의 인기는 에세이 『나가사키의 종』의 홍보와 판매에 큰 역할을 했을 것으로 짐작된다. 고세키 유지의 자서전에 의하면 이 곡은 에세이 『나가사키의 종』발행에 결정적 역할을 한 시키바 류사부로(式場隆三郎)씨의 강한 요청으로 레코드화가 기획되었다.<sup>27)</sup> 이런 사실로 짐작컨대, 가요곡 〈나가사키의 종〉은 에세이의 홍보뿐 아니라, 에세이 전체의 서사성과 정서의 방향을 결정짓는 역할을 했을 것으로 생각된다. 노래는 1절에서 4절까지이고 보통 3절까지 불리는데, 노랫말은 다음과 같다.

1. 더없이 맑은 푸른 하늘을/ 슬프게 바라보는 애달픈이여/ 물결치는 파도의 인생에/  
덧없이 사는 들꽃이여/ 위로하고 격려하는 나가사키의/ 아아 나가사키의 종이 울린다.
2. 부르심 입어 아내는 천국으로/ 나는 홀로 여행을 떠나네/ 유품으로 남긴 목주에/  
하얀 나의 눈물/ 위로하고 격려하는 나가사키의/ 아아 나가사키의 종이 울린다.

26) 2020년 3월 말, 일본의 작곡가 고세키 유지(古関裕而)를 모델로 한 NHK 「연속TV소설(連続テレビ小説)」 「인생의 응원가(エール)」의 방영이 시작된다. 이 드라마의 제19주 방영분 「종이 울려라(鐘よ響け)」에서는 1945년 8월 9일 원자폭탄이 투하된 나가사키에서 왼쪽으로 부상당한 몸으로 피폭자 구호활동을 펼친 의사 나가이 다카시가 등장하며 고세키 유지의 대표곡 중 하나인 〈나가사키의 종〉 탄생의 에피소드가 그려진다.(제94화-95화). 이 드라마에서는 나가이와 고세키 유지가 만나는 장면이 연출되나, 고세키 유지에 의하면 두 사람이 생전에 만나지는 못했다고 한다.(古関裕而 (2019) 『鐘よ鳴り響け 古関裕而自伝』 集英社 pp.185-189)

27) 古関裕而(2019) 上掲書 p.187. 고세키 유지의 자서전에 의하면, 방송으로 이 곡을 들은 나가이는 고세키 유지에게 ‘위로하고 격려하는 밝은 희망을 얻었다’는 내용의 편지를 보냈다고 한다.(pp.185-189)

3. 중얼거리는 비의 미사 소리/ 찬미하는 바람의 신의 노래/ 빛나는 가슴의 십자가에/  
미소 짓는 바다의 하얀 구름/ 위로하고 격려하는 나가사키의/ 아아 나가사키의  
종이 울린다.
4. 마음의 죄를 고백하고/ 깊어가는 밤의 달이 밝고/ 가난한 집 기둥에도/ 기쁨있는  
순결한 마리아님/ 위로하고 격려하는 나가사키의/ 아아 나가사키의 종이 울린  
다.<sup>28)</sup>

노랫말 1절의 내용은 배경지식이 없는 상태에서는 보통의 가요곡과 다를 바 없는 일반적인 가요곡이다. 하지만 “나가사키의 종”이란 당시 미디어를 통해 알려진 피폭 도시 나가사키의 우라카미 성당의 종이라는 것을 쉽게 알 수 있다. 4절까지 반복되는 이 후렴구는 노래 전체를 관통하며 곡 전체의 정서를 이루고 있다. 2절은, “부르심 입어 아내는 천국으로”와 “유품”이라는 가사에서 나카이의 인생 이야기가 스토리텔링된다. 이와 함께 “천국”, “목주”라는 용어가 가톨릭을 상징하며 1절에 비해 종교적 색채가 드러난다. 여기에서는 가톨릭과 나가사키를 연관 지으며 우라카미 성당의 종을 연상시키는 “나가사키의 종”으로 마무리된다. 3절에는 “미사” “신의 노래” “십자가”, 4절<sup>29)</sup>의 “죄를 고백”과 “마리아님” 등의 표현을 통해 기독교를 나타내는 어휘가 이어지고 있다. 여기에 등장하는 ‘신’은 미사, 십자가, 마리아님 등의 용어를 통해 기독교의 ‘신’을 의미한다는 것은 쉽게 알 수 있다. 이러한 가요곡 〈나가사키의 종〉에서의 기독교(가톨릭)적 분위기는 에세이 『나가사키의 종』을 연상시키며 에세이의 분위기를 한층 더

---

28) 노랫말 번역은 필자에 의한다. 노랫말은 시라는 특성상 원문을 소개한다.

1 こよなく晴れた 青空を/ 悲しと思う せつなさよ/ うねりの波の 人の世に/ はかなく生きる 野の花よ/ なぐさめ はげまし 長崎の/ あゝ 長崎の鐘が鳴る

2 召されて妻は 天国へ/ 別れて一人 旅立ちぬ/ かたみに残る ロザリオの/ 鎖に白き我が涙/ なぐさめ はげまし 長崎の/ あゝ 長崎の鐘が鳴る

3 つぶやく雨の ミサの音/ たたえる風の 神の歌/ 耀く胸の 十字架に/ ほゝえむ海の雲の色/ なぐさめ はげまし 長崎の/ あゝ 長崎の鐘が鳴る

4 こころの罪を うちあけて/ 更け行く夜の 月すみぬ/ 貧しき家の 柱にも/ 気高く白き マリア様/ なぐさめ はげまし 長崎の/ あゝ 長崎の鐘が鳴る (가사 출처: 世界の民謡・童謡 <https://www.worldfolksong.com/songbook/japan/minyo/nagasakinokane.html> 검색일 : 2023.01.20)

29) 4절은 본래 3절이었으며, 녹음 당시 3절과 4절을 바꾸었다고 한다.

기독교적인 색채로 방향짓고 있다. 그리고 이 노래 속 나가이로 대표되는 피폭된 한 인간의 스토리가 전개된다. 때문에 노랫말에 있는 종교적 어휘는 가요곡 자체를 종교적인 분위기의 노래로 이끌기보다 그 노래 속의 인물의 특징을 나타내는 표현으로 인식되며 대중에게 공유되었을 것으로 생각된다. 즉, 노래 속 인물은 피폭으로 아내와 집을 잃었지만 종교적 신념으로 이를 극복한 인물로 표상되어 노랫말처럼 패전과 폐허 속의 일본 대중에게 ‘위로와 격려’를 보내는 ‘나가사키의 중-나가이 다카시’로 대중에게 인식됨으로써 폭넓은 공감을 얻게 되었을 것으로 보인다.<sup>30)</sup> 이 곡은 에세이와 함께 큰 인기를 누린 것으로 보이는데, 그 인기는 1951년 1월 3일에 시작된 제1회 <홍백가합전(紅白歌合戦)><sup>31)</sup>에 후지야마 이치로가 가요곡 <나가사키의 중>으로 출전<sup>32)</sup>한 사실을 통해서도 잘 알 수 있다. <홍백가합전>이 한 해의 인기곡과 가수 등을 알 수 있는 바로미터인 것은 주지의 사실이다.

이 가요곡은 영화 「나가사키의 중」에도 주제곡으로 사용된다.<sup>33)</sup> 영화 「나가사키의 중」은 쇼치쿠(松竹)에서 오바 히데오 감독에 의해 제작<sup>34)</sup>되어 1950년 9월 22일 개봉했다(흑백영화). 영화 또한 CIE의 검열을 받는데, 히라노 교코(平野共余子)에 따르면, CIE는 영화 「나가사키의 중」의 스토리를 2회 수정한 후 허가했다. 1949년 4월 2일에 CIE에서 심사된 제1원고는 ‘나가사키의 기독교 신자로 원자력 과학자이며 피폭자인 나가이에게 구현된 인간애’를 강조하고 있다. 하지만 원폭으로 인한 파괴의 장면이 문제가 되었고, 1949년 4월 26일에

30) 작곡가 고세키 유지는 이 노래를 나가사키뿐 아니라 이 전쟁의 수난자 전체와 공감할 수 있는 노래로 절망한 사람들을 위해 재기를 바라는 마음으로 작곡했다. 古関裕而(2019) 앞의 책 p.186. 이 곡의 멜로디는 단조로 시작하여 ‘위로하고’의 부분부터 장조로 바뀌면서 보다 밝고 힘찬 분위기로 마무리된다.

31) <홍백가합전>의 전신은 1945년 12월 31일에 방송했던 <홍백음악시합(紅白音樂試合)>이다. <홍백가합전>으로 명칭을 바꾸어 1951년 1월 3일 제1회가 시작되었다. 연말 방송으로 정착한 것은 제4회부터이고, 이때부터 TV중계가 시작되었다.(塩沢実信(2011) 『昭和の流行歌物語』 展望社 pp.161-163)

32) 塩沢実信(2011) 위의 책 pp.161-162

33) 작곡가 고세키 유지는 오바 감독의 요청에 의해 이 영화의 음악에도 관여하게 되고, 가요곡은 영화의 주제곡으로도 사용된다.

34) 각본은 新藤兼人·光畑硯郎 공동각본에 의하며, 나가이 역은 배우 若原雅夫가, 아내 미도리역은 月丘夢路가 연기했다.

심사된 제2차 원고도 ‘폭격에 관한 부분은 바람직하지 않다’는 견해로 통과되지 못했다.<sup>35)</sup>

상영된 영화에는 에세이의 내용이 그다지 포함되어 있지 않고, 나카이의 생애와 인간적인 모습에 초점이 맞추어져 있다. 아마도 오바 히데오 감독이 멜로드라마 연출로 알려져 있다<sup>36)</sup>는 점에서도 사회성보다는 인간적인 모습에 중점을 둔 영화로 그려질 가능성을 예측할 수 있다. 영화는 나카이가 의대 졸업을 앞둔 시점에서 시작된다. 술자리를 마치고 집으로 돌아가는 귀갓길에 비를 맞고, 이것이 원인이 되어 급성중이염에 걸린다. 결국 귀가 들리지 않게 되어 청진을 할 수 없게 된 나카이는 희망했던 내과로는 갈 수 없게 되고, 당시 비인기과였던 물리적으로법과(物理的療法科) 즉 지금의 방사선과를 지원하게 된다. 이 장면에서 나카이가 분(扮)한 배우가 이것(중이염에 걸려 내과에 지원할 수 없게 된 것-필자 주)은 “신의 섭리”일지도 모른다고 말하는 것에서 영화 초반에서부터 이미 이 영화의 기조가 독실한 가톨릭 신자로서의 나카이를 전면에 내세우고 있음을 알 수 있다. 관객들은, 이 장면을 통해 나카이가 언급한 ‘원폭-신의 섭리’와 연결지어 수용하게 된다. 이후 방사선과 의사로 연구와 진료에 전념하는 주인공의 모습이 전개되며, 1933년 군의관으로 출정한 모습과, 귀환 후 가톨릭에 입문하여 세례를 받고 1934년 모리아마(森山) 집안의 딸 미도리(緑)<sup>37)</sup>와 결혼하는 장면, 1937년 중일전쟁에 다시 군의관으로 출정하여 3년 후 귀환하는 모습이 짧게 지나간다. 그 이후에는 나카사키의대 물리적으로법과 조교수가 되고, 1945년 6월, 방사능장해에 의한 백혈병이 발병하여, 향후 3년 정도 생존할 수 있다고 자기 진단하는 이야기가 전해지며 인간 나카이의 고뇌와 연구자로서의 열정이 그려진다.

검열 시 문제가 된 원폭 장면은 극히 일부로 한정되어 있다. 원폭장면은 나가

35) 平野共余子 앞의 책 pp.134-135

36) 平野共余子 위의 책 p.136

37) 나카이가 가톨릭 신자가 된 것은 하숙집 주인과 그 딸 미도리의 영향이 크다. 모리아마가(森山家)는 우라카미 크리스천의 후예로, 대대로 잠복 기독교인들의 조직에서 수장 역할인 ‘조카타(帳方)’를 담당해 온 집안이다.(三輪地塩(2019) 「永井隆の「殉教感」—永井隆における浦上キリシタン「殉教」の「語り」—」 『キリスト教学』 61 立教大学キリスト教学会 p.6)

이의 두 아이들이 피신해 있던 곳에서 놀던 도중, 산 너머로 버섯구름이 피어오르는 것을 바라보는 장면으로 짧게 등장하는 것에 그친다. 또 검열과 관련해서는 나가이가 군에 소집되기 직전, 화면에 “1933년 일본은 동아의 한 모퉁이에 전란의 소용돌이를 일으켰다(一九三三年日本は東亜の角に戦乱の渦を巻き起こした)”는 문구가 등장하는데, 이것은 검열 통과를 위한 방법적 서사였을 것으로 생각된다. 또 하나는, 화면이 원폭투하 장면 대신 달력의 8월 9일을 비춘 후, 다음 장면에서는 “원자폭탄의 출현은 전쟁에 미친 군벌에 대한(原子爆弾の出現は戦争に狂ふ軍閥への)” “마지막 경고가 되었다(最後の警告となった)”는 내용의 글을 삽입하여 원폭투하를 긍정하는 서사로 그리고 있다. 원폭투하 후 나가이는 폐허 속에서 아내의 목주를 발견하고 오열하지만, 곧 주변 사람들을 격려하며 함께 도시를 재건하기 위해 힘쓴다. 그리고 여기당(如己堂)<sup>38)</sup>에서 생활하는 나가이와 아이들의 모습과 “1949년 5월 성 프란체스코 자비에르의 오른팔(聖フランシスコ・ザベリオの右腕)은 성지 우라카미를 방문했다”<sup>39)</sup>라는 문구가 화면에 등장하면서 영화는 끝난다.

마치 나가이의 일대기를 그리고 있는 듯한 이 영화는 ‘신의 섭리’라는 기조로 스토리텔링되고 있음을 확인할 수 있다. 이 영화는 원폭영화 제1호가 되지만, 영화에서는 원작 『나가사키의 중』의 원자력이나 원폭의 원리 등에 대한 언급은 보이지 않는다. 주로 연구하는 나가이를 그리고 있고, 그와 함께 비신자에서 독실한 가톨릭 신자가 되어 가는 과정을 담고 있다. 전쟁에 종군하는 모습도 그려지는데, 이것은 전쟁터에서 수많은 죽음을 목격하며 종교에 귀의하게 되는

38) ‘남을 자신과 같이 사랑한다’는 의미로 붙여진 이름이다.

39) 성 프란체스코 자비에르는 1549년 일본에 처음 기독교를 전한 선교사이다. 1949년 5월 26일, 일본에서 성 프란체스코 자비에르 도일 400년제가 열려, 로마교황 특사와 함께 ‘자비에르의 기적의 오른팔’이 우라카미에 보내졌다. 영화의 마지막 장면은 이 내용을 담은 것이다.(岡田喜一郎(2009)『昭和歌謡映画館 ひばり、裕次郎とその時代』, 中央公論新社, pp.72-76) ‘자비에르의 기적의 오른팔’이란, 죽은 자비에르의 몸에서 절단한 오른팔을 의미한다. 이것은 1614년 로마 예수회 총장의 명으로 행해졌는데, 이때 사후 50년이 지났음에도 오른팔에서 선혈이 흘러나와 이것을 ‘기적’이라고 여겨, ‘자비에르의 기적의 오른팔’이라고 부르게 되었다.(フランシスコ・ザベリオ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%83%BB%E3%82%B6%E3%83%93%E3%82%A8%E3%83%AB> 검색일: 2023.01.20.)

동기로 그려진다. 즉 영화는 인간 나가이와 가톨릭 신자 나가이라는 두 가지 모습을 중심으로 펼쳐지고,<sup>40)</sup> 특히 나가이가 방사선과 의사가 되게 된 과정 즉, 급성중이염에 걸려 내과 지원을 못한 것이 ‘신의 섭리’에 따라 된 것으로 그리고 있다. 이 두가지 측면을 중심으로 인간 나가이의 일대기와도 같은 일종의 다큐멘터리 영화처럼 그리는데, 흑백 화면은 이러한 느낌을 더한다. 또 내용에 맞추어 화면 위로 종종 등장하는 “1933년 나가이 소집되다(同年永井招集受く)”, “1934년 다카시, 미도리와 결혼하다(一九三四年隆 緑と結婚す)”와 같은 설명 문구도 이러한 느낌을 더하고 있다. 영화 화면에 맞추어 제시되는 이 문장들은 나가이에 대한 부연설명의 기능을 하는 한편으로, 관객들이 스토리에 대해 인식해야 할 서사의 방향성을 제시하고 있다. “1934년 장남 마코토 이어 다음 다음 해 장녀 가야노 탄생(一九三四年 長男 誠 つづいて翌々年 長女 茅乃誕生)”이라는 문구에 이어 “이렇게 나가이 다카시 생애의(かくて永井隆の生涯の)” “가장 행복한 몇 년간은(最も幸福なる数年間は)” “꿈처럼 지나갔다(夢の様に過ぎていった)”와 같은 문구에서는 인간 나가이의 면모를 강조한다.

이 영화는 제작부터 화제를 모았다고 한다. 신문에는 『『나가사키의 종』의 영화화가 결정되었다』는 기사(『長崎日日』1950.6.23)가 전해지고, 영화 로케이션 상황(『長崎日日』1950.8.26)<sup>41)</sup>이 전해지는 등 연일 화제가 되었다. 또, ‘현지 제작을 위해 나가사키역에 내리는 배우들을 보려는 인파로 그 앞이 인산인해를 이루었다는 기사와 사진이 보도’<sup>42)</sup>되기도 했다. 이 영화가 개봉된 1950년대는 전국적인 강력한 배급망을 가진 대형 제작사는 작품을 만들기만 하면 큰 수익을 올리는 황금시대였다. 영화관과 관객 수가 증가해 갔기 때문인데, 1945년에는

40) 가톨릭 신자라는 측면을 강조한 데에는 당시 점령상황 하에서 가톨릭 교계의 존재감이 높아진 것(四條知恵(2015) 앞의 책 p.67)도 작용했을 것으로 보인다.

41) 1950.6.23. 기사와 8.26일 기사 모두 인용은 四條知恵 같은 책 pp.83-91. 1950년 8월 26일 기사에는 이 영화가 “평화는 나가사키로부터”라는 나가사키시의 국제 선전 취지에 딱 들어맞는 내용을 가지고 있다. 게다가 시종 나가사키를 배경으로 하고 있어 국내적으로나 국제적으로나(중략)선전까지 100%이다.”라는 기사가 보도되었다.(四條知恵 같은 책 p.91) 이것은 나가이와 그의 작품이 당시 나가사키시의 의도에도 활용되어 나가사키(우라카미) 원폭 투하를 신의 섭리라고 말하는 ‘가톨릭 신자로서의 나가이 다카시’라는 방향성을 더욱 강화해 갔다고도 볼 수 있다.

42) 『長崎新聞』1950. 7.29 인용은 박수경(2013) 앞의 논문 p.135

영화관이 845관이었으나, 다음 해에는 1376관, 관객 수는 7억 3천만 명이었고, 1958년에는 영화관이 7,067관에 관객 수가 11억 2천 7백만 명으로까지 증가한다.<sup>43)</sup> 1946년의 영화 관객수가 7억여 명에 달하는 것으로 볼 때 1950년에 공개된 이 영화의 관객수도 적지 않았을 것으로 보인다. 1950년에 제작된 영화 중 흥행순위 제16위<sup>44)</sup>에 이르고 있어 어느 정도의 인기와 흥행을 기록했다고 볼 수 있다. 가수 후지야마 이치로가 1951년 제1회 <홍백가합전>에 출전한 것은 가요뿐 아니라 영화 흥행의 이유도 있을 것으로 추측된다. 또, 1950년 10월에는 일본관광지백선(日本観光地百選)에 나가사키가 1위를 차지<sup>45)</sup>하게 되는데, 여기에는 나가이 다카시는 물론 나가이를 콘텐츠로 하는 이들 가요와 영화가 크게 기여했을 것으로 짐작된다.

에세이는 가요와 영화 외에 연극으로도 상연<sup>46)</sup>되었음을 덧붙여 둔다. 극단 바라좌(薔薇座)<sup>47)</sup>가 『나가사키의 중 원자과학자 나가이 다카시 전(長崎の鐘 原子科学者永井隆伝)』(5막 11장)<sup>48)</sup>이라는 제목으로 미쓰코시극장(三越劇場)의 ‘미쓰코시신극제(三越新劇祭)’에서 1949년 3월 17일-3월 27일까지 공연하였다.<sup>49)</sup> 연극 또한 인간적인 면모에 초점을 맞춘 것으로, 이 연극은 3월의 도쿄

43) 佐藤忠男(1995)『日本映画史』第2巻 岩波書店 p. 229

44) シネマ1987ONLINE: <https://cinema1987.org/kinejun/kinejun1950.htm> (검색일: 2023.01.20.)

45) 西村明(2002)「祈りの長崎—永井隆と原爆死者」『東京大学宗教年報』19 東京大学文学部宗教学研究室, pp.47-61

46) 이외에 라디오 드라마로도 제작된 것으로 보인다.

47) 薔薇座는 1946년 11월 지아키 미노루(千秋実)에 의해 창립된 극단으로, 1949년 9월 제10회 공연으로 해체되었다(浜田研吾 앞의 책 p.338). ‘薔薇’는 ‘장미’라는 뜻이다. 이 극단은 1963년 野沢那智가 설립한 바라좌와는 다르다.

48) 대본은 지아키의 장인인 사사키 다카마루(佐々木孝丸)가 썼다. 연극 대본은 나가이에게 코멘트를 받은 것으로 보인다. 지아키에게 대본을 받은 나가이는 200매에 이르는 원고를 전부 읽고 그 중 40매 정도나 주의사항, 수정할 곳, 의견 등을 써 두었다고 한다(千秋実·佐々木踏絵 같은 책 p.233).

49) 연극에서는, 실존인물들에게 폐가 가지 않도록 인물명을 모두 가명으로 했다고 한다. 나가이 다카시는 中井豊로 등장. 나가이와 아내 미도리 역은 지아키 미노루와 그의 아내 사사키 후미에가 맡았다.(浜田研吾(2020) 앞의 책 pp.326-327) 이 연극으로 1949년 5월 10일, 지아키 미노루는 신극제에서 ‘우수연기자상’을 수상하였다. (千秋実·佐々木踏絵, 앞의 책 『わが青春の薔薇座』リヨン社 pp.201-259)

공연이 끝난 후 5월에는 규슈(九州)에서 공연하였고, 이때 우라카미 성당에서 나카이의 관람 속에 연극이 상연되어 많은 화제를 불러 모았다.<sup>50)</sup> 한편, 사사키의 희곡이 1949년 5월호 『문예독물(文芸読物)』(日比谷出版)에 실리고(12쪽의 개요의 형태), 『비극희극(悲劇喜劇)』(早川書房) 1949년 11월호에 게재되는 등, 에세이는 연극 각본의 형태로도 재생산되었다.<sup>51)</sup> 원작 에세이를 제외하고, 가요, 영화, 연극의 형태로 재생산된 작품은 모두 가톨릭 신자 나카이에 초점을 맞추고 있고, 이로 인해 대중들에게 무엇보다 가톨릭 신자로서의 나카이로 인식되고 수용되었을 것으로 생각된다.

## V. 맺음말

본 논문은 ‘기도하는 나카사키’라는 이미지를 만들어낸 것은 원폭을 신의 섭리라고 한 나카사키 의대 교수 나카이 다카시에 의하는 바가 크다는 것에 대한 문제제기로 시작하였다. 1949년 1월 발행된 그의 에세이 『나카사키의 중』의 서사를 살펴본 바, 피폭 후의 구호작업, 원자력의 발전적 이용에 관한 두 가지 큰 방향성을 발견할 수 있었다. 여기에 한 가지를 더한다면, 원폭투하에 대한 그의 종교적 관점으로 원폭이 우라카미에 투하된 것을 ‘신의 섭리’라고 말한 부분이 여기에 해당한다. 이 언급은 1945년 11월 우라카미 가톨릭 사망자

---

50) 규슈의 이마리(伊万里)에서 1949년 5월 4일-5일 공연하였고, 5월 7일 우라카미 성당에서 야외극으로 상연하였다. 우라카미 성당공연은 『毎日グラフ』에 대대적으로 보도되었고, 그 외에도 석간 『フクニチ』에 이미 연극 「나카사키의 중」이 야외극으로 5월 7일 우라카미 나카이 다카시 박사 앞에서 상연된다는 등의 내용으로 크게 보도되었다. (千秋実·佐々木踏絵 같은 책 pp.263-267)

한편, 지아키 미노루와 사사키 후미에(佐々木踏絵)는, “그렇게 어두운 원폭 이야기 같은 건 흥행하지 않는다고 받아들이지 않았던 도호(東宝)와 쇼치쿠(松竹)도 『나카사키의 중』의 평판을 듣고 이빨싸라고 생각했던 것 같다. 쇼치쿠가 손바닥을 뒤집듯 서둘러 영화화했다. (중략) 바라좌의 연극을 흥내낸 것 같은 영화였지만, 바라좌에게는 한마디 인사도 없었다.”고 말한다. 이 언급은 어느 정도 가능성은 있다고 생각되나, 제 1원고가 CIE에 제출된 것이 1949년 4월 2일인 것을 감안하면, 사실관계는 좀 더 살펴볼 필요가 있다.

51) 浜田研吾(2020) 앞의 책 p.322

합동장례에서 낭독된 조문의 내용으로 에세이 후반에 게재되어 있으나, 에세이 전체에서는 매우 적은 비중이라고 할 수 있다. 이 논리는 비신자의 입장에서 보면 과히 황당한 주장으로, 이에 대한 비판도 가해지고 있다. 하지만 나가이의 이 논리는 당시 우라키미 천벌설에 대한 대응 서사로 보아야 하며, 무엇보다 에세이에서의 방사선과 전문가로서 서술한 원자력 입문서와 같은 내용보다 신의 섭리라는 담론이 확산된 데에는 당시의 연극을 포함해 가요, 영화라는 대중미디어의 서사가 크게 작용했다고 할 수 있다. 원작 에세이 『나가사키의 종』은 베스트셀러가 될 정도로 인기를 끌었고, 이에 연극, 가요, 영화 등의 다양한 대중미디어로 재생산되었다. 하지만 이들 미디어에서는 원작 에세이의 내용보다 주로 나가이의 가톨릭 신자로서의 모습에 초점을 맞추고 있고, 이를 통해 나가이의 ‘신의 섭리’론이 더욱 확산된 것으로 볼 수 있다. 이것은 GHQ의 검열을 통과하기 위한 대중미디어의 서사전략에 의한 것으로 볼 수 있을 것이다.

한편, GHQ는 에세이 발행 허가에 「마닐라의 비극」을 부록으로 실을 것을 전제한다. 이 부록 「마닐라의 비극」에서는 일본이 필리핀 마닐라에서 자행한 대학살, 특히 구교와 신교를 막론한 종교와 종교인에 대한 대살상을 비난하며 미국의 원폭투하의 정당성을 주장하고 있다. 이 부록에서의 종교 대학살 서사는 에세이의 작가이자 주인공인 나가이의 종교성을 더욱 환기하며, 함께 출판된 에세이 『나가사키의 종』의 기독교적인 이미지를 더욱 농후하게 확산시키는 데에 일조했다고 할 수 있다.

즉, 나가이 다카시와 원작 『나가사키의 종』은, 미국의 원폭 투하의 정당화 의도와 일본의 대중미디어의 전략에 의해 기독교적 색채가 부각되고, 그 결과 ‘기도하는 나가사키’의 이미지가 형성되었다고 할 수 있다. 따라서 ‘기도하는 나가사키’의 이미지는 미국과 일본 미디어의 각각의 목적이 맞물려 만들어진 합작물이라고 할 수 있을 것이다.

#### 〈참고문헌〉

나가이 다카시 저·박정임 역(2021) 『나가사키의 종』 페이퍼로드, pp.1-198

나카이 다카시 원작 「나가사키의 종과 동명의 가요·영화, 부록 「마닐라의 비극과 그 서사성」 심수경·황규삼…129

- 박수경(2013) 「대중문화의, 진혼의 원폭도시 나가사키 생산-나카이 다카시를 중심으로-」 『일본문화연구』45 동아시아일본학회 pp.127-152
- 오성숙(2021) 「사회적 차별과 서벌턴(나가사키 피폭자)-가톨릭 신자 나카이 다카시의 『나가사키의 종』을 중심으로-」 『일본사상』41 한국일본사상학회 pp.175-198
- 大庭秀雄(1950) 映画 「長崎の鐘」 松竹、DVD
- 岡田喜一郎(2009) 『昭和歌謡映画館 ひばり、裕次郎とその時代』, 中央公論新社, pp.72-76
- 岡本洋之(2011) 「永井隆はなぜ原爆死か神の摂理だと強調したのか? : 「ケガレ」から考える試み」 『教育科学セミナー』42 関西大学教育学会 pp.1-13
- 片岡千鶴子(2011) 「特別講演 原子野に立つ永井隆-科学者として信仰の人として-」 『内観研究』17(1) 日本内観学会 pp.9-17
- 片岡弥吉(1961) 『永井隆の生涯』 サンパウロ pp.1-366
- 古関裕而(2019) 『鐘よ鳴り響け 古関裕而自伝』 集英社 pp.185-189
- 佐藤忠男(1995) 『日本映画史』第2巻 岩波書店 p.229
- 塩沢実信(2011) 『昭和の流行歌物語』 展望社 pp.160-163
- 四条知恵(2015) 『浦上の原爆の語り—永井隆からローマ教皇へ』 未来社 pp.43-100
- \_\_\_\_\_ (2020) 「長崎の原爆被害における基礎知識」 『平和文化』 広島平和文化センター pp.97-106
- 千秋実・佐々木踏絵(1989) 『わか青春の薔薇座』 リヨン社 pp.201-259
- 辻村明(1981) 「資料1. 戦後ベストセラー・リスト」 『戦後日本の大衆心理』 東京大学出版会 p.ii
- 永井隆(1949) 『長崎の鐘』 日比谷出版社 pp.1-189
- 西村明(2002) 「祈りの長崎—永井隆と原爆死者」 『東京大学宗教年報』19 東京大学文学部宗教学研究室 pp.47-61
- 浜田研吾(2020) 『俳優と戦争と活字と』 筑摩書房 pp.317-340
- 平野共余子(2021) 『天皇と接吻』 草思社 pp.134-141
- 三輪地塩(2019) 「永井隆の『殉教観』」 『キリスト教学』61 立教大学キリスト教学会 pp.1-21
- 山本昭宏(2015) 『核と日本人』 中央公論新社 pp.3-8
- 連合軍総司令部諜報課(1949) 「マニラの悲劇」 『長崎の鐘』 日比谷出版社 pp.191-319
- シネマ1987ONLINE: <https://cinema1987.org/kinejun/kinejun1950.htm> (검색일: 2023.01.20.)
- 世界の民謡・童謡 <https://www.worldfolksong.com/songbook/japan/minyo/nagasakinokane.html> (검색일: 2023.01.20)
- 長崎新聞 [https://www.nagasaki-np.co.jp/peace\\_article/2770/](https://www.nagasaki-np.co.jp/peace_article/2770/) (검색일: 2023.01.20.)
- 長崎大学原爆後障害医療研究所資料収集保存・解析部: <https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/abcenter/nagai/index.html> (검색일: 2023.01.20.)
- フシスコ・ザビエル <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%A9%E3%>

83%B3%E3%82%B7%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%83%BB%E3%82%B6%E3%83%93%E3%82%A8%E3%83%AB (검색일: 2023.01.20.)

- 접수일 : 2023년 02월 22일
- 심사완료 : 2023년 03월 08일
- 게재확정 : 2023년 03월 13일

<要旨>

永井隆原作『長崎の鐘』と  
同名の歌謡曲・映画、付録『マニラの悲劇』と、そのナラティブ

沈秀卿・黄圭三

本稿では「祈る長崎」のイメージ形成に決定的要因と認識されている永井隆のエッセイ『長崎の鐘』のナラティブと、永井と彼の作品のイメージに大きく影響したと考えられる歌謡曲と映画を中心にそのナラティブの特徴を分析した。エッセイ『長崎の鐘』は、第二次世界大戦当時、日本軍がフィリピンで行った大殺傷についての記録集である「マニラの悲劇」と合本することを前提に出版が許可された。本稿では「マニラの悲劇」のナラティブをも視野にいれて考察した。エッセイ『長崎の鐘』は救護状況や原爆症の症状、治療法についての内容と、原子力の可能性についての叙事が中心となっており、原爆が浦上に投下されたのを神の摂理と述べる部分は少ない。だが、歌謡曲、映画などの大衆メディアでは、原作とは異なり、カトリック信者の永井と彼の言及した神の摂理論が大きく浮上していたことが分かった。これは当時、GHQの検閲によって原爆描写には制約があったため、検閲を通すための戦略的叙述だった可能性もある。付録の「マニラの悲劇」においては、アメリカが日本に原爆を投下せざるをえなかった理由を述べ、原爆を正当化する叙述が見えてくる。また、大体証言の記録であるこの証言集の証言者の大半がキリスト教の聖職者や信者であり、これは『長崎の鐘』におけるキリスト教のイメージと神の摂理論を換気する機能を持っていると考えられる。つまり、永井隆は当時のアメリカの意図と日本の大衆メディアの戦略によって神の摂理を語るカトリック信者としてのイメージが拡大したといえる。

〈Abstract〉

Takashi Nagai's Original Work "The Bell of Nagasaki" and the Popular Song  
and Film of the Same Name, and the Appendix  
"Tragedy of Manila" and Its Narrative

Shim, Soo-Kyung · Hwang, Kyu-Sam

In this paper, Takashi Nagai's essay "The Bell of Nagasaki", which is recognized as a decisive factor in the image formation of 'Praying Nagasaki', and the narrative is analyzed focusing on the image of Nagai and his work. In addition, the essay "The Bell of Nagasaki" was allowed to be published on the premise that it was combined with the "Tragedy of Manila", a collection of testimonies about the mass destruction committed by the Japanese military in the Philippines during World War II. In this paper, the narrative of the "Tragedy of Manila" was also considered. The essay "The Bell of Nagasaki" centers on the relief situation, symptoms of atomic bomb, treatment, and the narrative of the possibility of nuclear power, and there are only a few parts that mention that the dropping of the atomic bomb on Urakami is God's providence. However, in popular media such as music and movies, a Catholic Nagai and God's providence theory were found to be greatly highlighted. This may have been a strategic description to pass the censorship because the description of the atomic bomb was limited due to GHQ censorship at the time. In "Tragedy of Manila," there is a description that justifies the U.S. atomic bombing while accusing Japan of atrocities. In addition, most of the testifiers are Christian priests or believers, which have the function of evoking the Christian image and divine providence theory in "The Bell of Nagasaki". In other words, it can be said that Takashi Nagai's image of a Catholic who spoke of God's providence expanded with the intention of the United States and the strategy of Japanese popular media at the time.

## 모리사키 가즈에 『가라유키상』의 서사 분석

— 비가시화되는 식민주의 —

오미정\*

### <目次>

I. 머리말	V. 아시아의 여성을 서사하는 일본인
II. 1970년대 ‘가라유키상’의 담론공간	여성의 백인성
III. 1인칭 여성 서사의 특징	VI. 맺음말
IV. 식민주의와 증오, 그리고 광기의 재현	

Key Words : 『からゆきさん』(Karayukisan), 敘事(Narrative), 植民主義(Colonialism),  
アジア(Asia), 白人性(Whiteness)

### I. 머리말

모리사키 가즈에(森崎和江, 1927-2022)의 『가라유키상(からゆきさん)』(朝日新聞社, 1976)<sup>1)</sup>은 근대 일본에서 ‘해외로 돈벌이를 하러 나간 여성들’에 대한 기록적 서사이다. 모리사키는 계급과 성 문제를 주로 이야기하다가 1968년 한국 방문 이후 본인의 식민지 경험에 기반해서 민족문제를 지속적으로 언급한다. 오키나와(沖縄), 요론지마(与論島) 재일(在日), 아시아에 대한 발화가 두드러지는데, 그 대표적 텍스트가 『가라유키상』이라 할 수 있다.

\* 한신대학교 일본학과 교수, 일본근현대문학

1) 『세상이 버린 여자』(김소영 역, 일월서각, 1979), 『쇠사슬의 바다』(채경희 역, 박이정, 2002)가 한국어 번역으로 나와 있으나, 누락과 오역의 문제가 있어, 본문에서는 필자가 원문에서 인용하여 번역한다.

이 텍스트에 대한 선구적 연구로 젠더적 관점에서 접근한 가노 미키요(加納実紀代)나 가와다 후미코(川田文子)의 연구가 있다.<sup>2)</sup> 미즈다마리 마유미(水溜真由美)는 글로벌한 사회질서 속에서 가라유키상이 놓인 복잡한 위치를 인식하면서, 그들의 월경의 시도가 근대적 네이션의 경계로 인해 저지당한 점에 모리사키가 주목하였다고 했다.<sup>3)</sup> 현무암(玄武岩)은 『가라유키상』이 민중끼리의 경계를 극복하는 월경의 사상=접촉 사상의 핵심에 다가섰다고 평가하고, 박유하의 『제국의 위안부』(2013)가 ‘가라유키상’을 일본군 ‘위안부’의 전사(前史)로 삼아, 모리사키의 사상을 왜곡시켰다고 비판하였다.<sup>4)</sup> 박유하는 ‘위안부’를 구 식민지의 피해자가 아니라 빈곤과 가부장제로 제국 일본에 동원된 존재인 ‘제국의 위안부’, 즉 민족보다는 계급과 젠더에 중점을 두고 위안부의 생성에 대해 고찰했기 때문이다.<sup>5)</sup> 오바타케 린(大畑凜)은 아시아의 유민(流民)이라는 관점에서 ‘고향’이라는 환상에 대해 주목하였다.<sup>6)</sup> 소리마치 마스미(反町真寿美)는 시와의 관련성에 착목하여, 시적인 환상적 논픽션이라 하였다.<sup>7)</sup> 사토 이즈미(佐藤泉)는 가노 미키요와 미즈다마리의 입장을 계승하면서 침략과 연대가 서로 침투하는 역사 경험을 토대로 모리사키가 민중의 생생한 사실과 사상의 복잡함을 이해하려고 했고, 그들을 단순히 역사의 희생자로 보는 것이 아니라 역사의 행위자로 보았다고 분석했다.<sup>8)</sup>

- 
- 2) 加納実紀代(2003) 『交差する性・階級・民族-森崎和江の〈私〉さがし』 『文学史を読みかえる7 リブという〈革命〉』 インパクト出版会 pp.248-271, 川田文子(2003) 『国境を越える性-からゆきさんと「慰安婦」-』 『リブという〈革命〉』 インパクト出版会 pp.182-193
- 3) 水溜真由美(2013) 『『サークル村』と森崎和江-交流と連帯のヴィジョン-』 ナカニシヤ出版 p.316
- 4) 현무암 (2017.07.19) 「〈제국의 위안부〉가 왜곡한 모리사키 가즈에의 사상」 『프레시안』 <https://www.pressian.com/pages/articles/163607#0DKU>(검색일:2022.01.20)
- 5) 박유하(2013) 『제국의 위안부』 뿌리와 이파리 pp.27-38
- 6) 大畑凜(2018) 「流民のアジア体験と「ふるさと」という「幻想」 :森崎和江『からゆきさん』からみえるもの」 『女性学研究』25 大阪府立大学女性学研究センター p.122-144 <http://doi.org/10.24729/00004816>(검색일:2020.01.20)
- 7) 反町真寿美(2021) 「森崎和江の詩「ほねのおかあさん」の背景考察-分裂するわたしとからゆきさんへの結実」 『일본학』제54집 동국대학교 일본학연구소 p.183-204
- 8) 佐藤泉(2022) 「越境する日本語-植民二世・森崎和江の思想-」 『일본학보』133권 pp.137-154

이시하라 마이(石原真衣)는 현대 일본 안의 식민주의를 비판하며, 모리사키가 ‘착취되는 아시아 여성으로서 가라유키상을 일본인의 성 문제로 초점화함으로써, 일본에 있어 인종적 타자를 찬탈하는 식민주의의 본질을 흐리게 한다’고 사상적 한계를 지적하였다.<sup>9)</sup> 『가라유키상』은 일본군위안부 문제와 연결되어 언급되는 것처럼, 근대일본의 국가, 계급, 성, 식민주의를 기술하는 것의 곤란함을 보여주는 텍스트로서, 최근 연구는 작가의 식민지 경험과 그 기술에 대한 비판적 고찰이 조금씩 나오고 있다.

본고에서는 최근의 모리사키의 텍스트에 대한 비판적 고찰을 계승하면서, 『가라유키상』의 내러티브가 식민주의 문제를 비가시화하는 측면이 있음을 분석하고자 한다. 가노 미키요가 지적하였듯이, 가라유키상은 젠더, 민족, 국가, 계급 문제가 상호교차적(intersectional)으로 작용한 결과이다. 그럼에도 모리사키의 텍스트에서 가라유키상을 ‘아시아의 여성’으로서 단일화하여 표상함으로써, 식민주의의 본질을 불명확하게 하는 측면이 있기 때문이다. 먼저 텍스트의 발표 시기에 즈음한 가라유키상의 담론화 과정을 고찰하여, 일본의 해외매춘부라는 존재를 ‘가라유키상’이라는 용어로 지칭하면서 보이지 않게 된 측면을 고찰한다. 다음으로 지금까지 상세하게 분석되지 않은 내러티브의 특징을 분석한다. 1인칭 여성 서사가 가라유키상의 증오, 광기를 가시화하면서, 역으로 식민주의의 구조를 비가시화하는 측면을 명확하게 한다.

## II. 1970년대 ‘가라유키상’의 담론공간

1969년에 모리사키는 ‘가라유키상’이라는 역사적 존재에 대해서 『다큐먼트 일본인(ドキュメント日本人)』(谷川健一, 村上一郎, 鶴見俊輔 編, 学芸書林)에 「어느 가라유키상의 생애(あるからゆきさんの生涯)」을 발표했다. 이후 이 글은 단행본 『가라유키상』에 「오요시와 히노마루(およしと日の丸)」 「아마쿠사나다(天草灘)」로 수록되었다. 이전에도 가라유키상에 대해서는 많은 저작이 있었지

9) 石原真衣(2022) 「地球上から消え果た植民地主義?—森崎和江が遺したものと〈沈黙〉」 『現代思想』50-13 青土社 p.203

만, 여성의 저술은 모리사키가 최초이다.<sup>10)</sup> 『다큐먼트 일본인』에는 ‘일본으로부터 버려진 자들=기민’이라는 카테고리로 가라유키뿐 아니라, 여성 광부, 재한 일본인에 대한 다큐멘터리가 수록되었다. 다큐는 근대 국가 일본으로부터 버려져 현대 일본에서 주변화되고 소외된 존재들을 가시화한다는 의도가 있었다. 이후 모리사키는 가라유키상에 대한 취재를 늘리고 자료조사를 보강하여 『가라유키상』이라는 제목의 단행본을 발간하였다. 1976년도판 단행본 책표지 소개문은 다음과 같다.

여자의 성이란, 고향이란, 나라는 무엇인가.

국경에 팔린 오키미는 발광하여 죽었다. 남방에서 재물을 모은 오시는 처절한 자살을 했다. 두 사람의 기구한 운명을 축으로 방대한 자료를 구사하면서 로망으로 몰들은 환상적 논픽션.

단숨에 써내린 20년의 축적

출판사는 『가라유키상』을 오키미와 오요시라는 가라유키의 생애와 죽음을 통해 여성의 성과 고향, 국가를 묻고 있는 논픽션이라고 홍보한다. 동시에 방대한 자료를 활용한 로망과 환상이라고도 한다. 해외매춘부라는 흔하지 않은 소재, 등장인물의 기구한 죽음이 주는 호기심과 자극은 책의 인기에 영향을 주었다고 할 수 있다. 그럼에도 논픽션이 1976년 5월 15일 제1쇄가 발간되고 6월 30일에 이미 7쇄가 발간되는 기염을 토했다는 것은 ‘가라유키상’을 둘러싼 담론의 장이 형성되고 있는 상황에서 『가라유키상』이라는 텍스트가 출현하여 화제가 된 것이라 할 수 있다. 아마자키 도모코(山崎朋子)는 『산다칸 8면 창관-저변여성사서장(サンダカン八番娼館-底辺女性史序章)』(1972)의 후기에서 1969년 가라유키상에 대한 첫 구술조사 이후 가라유키상을 둘러싼 조건들이 크게 변화했다고 언급했다. 매스컴에서 일종의 저변(底邊)지향이 유행하여 저널리즘의 조명을 받게 되었다는 것이다.

좀 더 구체적으로 보자면, 군대와 조선인위안부를 소재로 한 다무라 다이지로(田村泰次郎) 원작 소설을 스즈키 세이준(鈴木清順)이 영화화한 『춘부전(春婦

10) 山崎朋子(2008) 『サンダカン八番娼館』 大春文庫 p.21

伝』(1965), 야마자키 도모코 『산다칸 8번 창관』, 센다 가코(千田夏光) 『중군위안부(從軍慰安婦)』(1973)와 영화화(1974), 야마자키 도모코 『산다칸의 묘(サンダカンの墓)』(1974)간행과 영화화(1974)가 반향을 일으켰다. 1975년에는 배봉기가 오키나와에서 최초로 조선인 일본군 위안부였다는 사실을 공개했다. 이처럼 일련의 ‘가라유키’, ‘위안부’ 관련 담론들이 1970년대 초부터 연속적으로 미디어에 등장하는 상황에서 모리사키의 텍스트가 발표된 것이다.

역사의 장에서 위안부 문제는 1990년대 이후 담론화되었지만, 이미 1970년대에 전후일본 대중문화의 장에서 ‘위안부’ 표상은 소비되고 있었다. 영화 『춘부전』에서 위안부 ‘하루미(はるみ)가 조선인 출신임에도 피식민지 출신 여성이라는 점이 부각되지 않았는데, 센다 가코의 논픽션은 하루미의 실체가 피식민지 출신 여성으로 제국주의 군대에 의해 동원되어 중군해야 했던 성폭력과 성착취의 피해자임을 인식시켜, 그 이후 ‘위안부’라는 역사적 존재에 ‘식민지 지배’라는 새로운 문맥을 대두시켰다고 최은수는 지적하였다.<sup>11)</sup>

그런데 흥미로운 점은 센다의 논픽션이 ‘식민지 지배’라는 문맥을 대두시켰음에도, 영화에서는 일본인 위안부가 중심이 된다는 점이다. 최은수에 따르면, 영화 『중군위안부』나 『산다칸 8번 창관』의 여성들은 기타규슈(北九州)의 빈농층에서 돈에 팔려온 여성들이라는 공통점을 보여주며, 전장을 배경으로 하는 ‘위안부’들의 삶에 일본인 ‘가라유키상’을 중첩시켰다. 1970년대 일본 사회에 ‘위안부’ 문제가 사회적 화두로 던져졌을 때 대중미디어인 영화의 영역에서 ‘위안부’의 역사를 식민지 지배와 차별의 문맥 안에서 받아들이고자 하는 문제의식이 부상하자마자, ‘위안부’는 피식민지 출신 여성에서 일본 여성으로 변용되었다는 것이다. ‘위안부’=하루미가 ‘가라유키상’을 강하게 연상시키는 일본 여성으로 대체될 때, ‘위안부’는 식민지 지배의 문맥이 아닌 일본의 전통적인 성차별/매춘의 문제로 얽히는 여성사의 문맥 위에 놓이게 되었다는 것이다.<sup>12)</sup>

이러한 관점에서 보자면, 모리사키와 야마자키의 텍스트는 가라유키상을 일본 국내의 성과 계급 문제에 중점을 두고 전후 일본의 서발턴적 존재로 가시화했

11) 최은수(2019) 「1970년대 한일 양국의 ‘위안부’ 표상-영화 『중군위안부(從軍慰安婦)』와 『여자정신대』를 중심으로-」 『日本研究』51집 중앙대학교 일본연구소 pp.237

12) 최은수 앞의 논문 p.239-240

음에도 불구하고, 동시에 식민지배 문제를 비가시화하는 담론공간에 놓았다고 할 수 있다.

야마자키 도모코는 엘리트여성사의 대극에 있는 일본저변여성사를 쓰겠다는 의도를 가지고, ‘계급과 성의 이중적 질곡 아래 학대받아온 일본 여성 존재의 원점’에 ‘가라유키’를 놓았다.<sup>13)</sup> 해외로 팔려나간 매춘부로서 규정하고, 일본 사회의 최하층계급 여성으로서 선택한 것이다. 야마자키는 ‘산다칸’이라는 보르네오에 존재했던 일본인 유곽으로 아마쿠사, 나가사키에서 팔려간 가라유키들의 구술 청취와 기술을 했다. 나아가 야마자키는 ‘위안부, 팡팡걸, 오키나와의 특수여성들이 오늘날의 가라유키상에 다름아니라’<sup>14)</sup>고 규정하여, 전후에도 빈곤으로 매매춘을 한 여성들을 ‘현대판 가라유키’라고 지칭하여, 일본내에 한정된 문제로 기술하였다.

한편, 모리사키의 경우에는 국가로부터 버려진 ‘기민’의 관점에서 가라유키를 보고, 일본에서 ‘해외’로 나간 여성’이라는 점을 중시한다. 『가라유키상』 1장 2절 〈밀항부들〉에서 모리사키는 ‘가라유키상’이라는 용어가 내포하는 의미의 변천을 메이지시대부터 전후에 이르기까지 고찰하고 다음과 같이 말한다.

제2차세계대전 후에 ‘가라유키상’이라는 말은 ‘가란쿠니유키’나 ‘가라유키돈’ 등, 마을 사람들이 불렀던 돈벌이의 의미에서 벗어나, 바다 저편으로 팔려 가는 여자들을 지칭하게 되었다. 또한 대부분 팔려 간 여자들이 유곽에서 일을 했기 때문에, 이와 마찬가지로 성을 판 전쟁터의 위안부도 그 이름으로 불리기도 했다. 하지만 나는 되도록 마을 사람들의 생각에 다가가 가라유키상에 접근하고자 한다. 그리고 ‘가라유키’가 마을 사람들에게 과연 어떤 존재였는지, 또 내게 어떤 존재인지를 탐색하고 싶다. (『からゆきさん』, pp.18-19)

내레이터인 ‘나’는 가라유키라는 용어의 역사적 변천을 조사하면서, 야마자키 도모코가 한정된 ‘해외매춘부’라는 정의가 아닌, 아마쿠사나 나가사키 지역민에게 남아있는 ‘가라유키’에 대한 이미지를 강조한다. ‘아이를 돌보는 일이나 식모, 창기도 같은 봉공이라 하여 그들 사이에 특별한 차별을 두지 않았던 가라유키의

13) 山崎朋子 前掲書 p.10

14) 山崎朋子 前掲書 p.264

고향을 생각했다'고 '나'는 기술한다. 육아, 가사, 성노동을 동일하게 '여자의 일'(p.20)중 하나로 받아들인 풍토에서는 가라유키를 단순히 성을 파는 '추업부(醜業婦)'가 아니라, 마을의 가족, 생계를 위해서 '해외로 돈벌이하러 간 존재'로 인식되었다는 것이다. 그렇기에 '가라유키'는 '해외매춘부'로 한정되지 않고, 업종이나 남녀와 상관없이 '해외로 돈벌이를 하러 나간 사람들'로 확대된다. 전후 일본 대중문화에서 위안부 표상이 조선인 위안부가 아닌 일본인 위안부로 바뀌면서 식민지 지배라는 문맥이 소거된 것처럼, 성을 팔러가는 해외매춘부가 아니라, 다양한 업종의 돈벌이를 위해 해외로 나간 여성으로서 '가라유키상'이라는 특정 지역의 고유 명사로 지칭되어 담론의 장에서 확산될 때, '식민지 지배'라는 문맥은 비가시화된다고 할 수 있다.

### Ⅲ. 1인칭 여성 서사의 특징

『가라유키상』은 모리사키가 가라유키의 기억을 듣고 자료를 조사하여 기록한 논픽션의 성격을 가짐과 동시에 문학적 수사와 서사가 구사된 특징이 있다. 사실과 허구를 넘나드는 '나'라는 1인칭 여성 언어로 기록된다는 점에서, 미나마타병 환자들의 투쟁기록을 그린 이시무레 미치코(石牟礼道子)의 『고해정토—나의 미나마타(苦海浄土—わが水俣)』(1969)를 상기하게 된다. 모리사키의 텍스트도 내레이터 '나(私)'는 누구이고, 누구의 이야기를 서사하고 있는가에서 사실과 허구의 경계가 애매한 측면이 있다.

『가라유키상』은 이중적 서사구조로 되어 있다. 텍스트의 주된 서사는 가라유키였던 오키미(おキミ)와 오요시(おヨシ)의 역사적 경험에 대한 기술이다. 발광하거나 자살로 생을 마감한 그들은 자기 자신에 대해 스스로 말할 수 없는 존재로, '가라유키'의 역사적 경위, 구체 사례, 계급적 배경, 패전 후의 문제를 내레이터는 친구 아야(綾)의 이야기와 자료조사로 보강하여 기술했다. 그 점에서 논픽션적 서사이지만, 경험과 기억을 말하는 화자의 명확성, 시공간과 사건의 정확성, 듣고 기술하는 위치가 애매한 점이 있다.

예를 들어 내레이터는 오키미를 현해탄을 오가는 철새 '황여새(連雀)'로 상징

적으로 형상화한다. 가라유키를 일본 국내뿐 아니라 아시아 지역을 월경한 존재로 보기 때문이다.<sup>15)</sup> 그러나 텍스트에서 실제 생애는 불분명하다. 오키미는 아마쿠사에서 1895년에 태어나 1901년경 곡예단에 팔려 갔다가 1910년경 조선에 가라유키로 팔려간다. 1914년경에 빗을 갖고 직접 함경도와 중국의 접경지대에서 유곽을 열었다고 언급된다. 그 이후 언제쯤 아야를 양녀로 맞이하고, 일본으로 귀환했는지, 또 사망했는지는 불분명하다. 또한 패전 후 오키미는 발광하여 정신병원에 입원하였기에, 그녀가 내게 직접 구술한 것이 아니라, 아야가 전하여 재구성된다. 그리고 가라유키에 대한 역사적, 사회적 서술은 당대의 신문 기사, 관련 서적 자료로 퍼즐을 맞추듯이 보충한 것이다. 따라서 오키미에 대한 서사는 아야가 내게 말할 때마다 달라지는 불명확한 기억과 '나'의 주관적 판단과 상상이 개입한다. 아야는 오키미의 경험을 대신 전해주는 인물로서 중요하지만, 가라유키 당사자는 아니기에, 그녀의 구술은 불확실성이 내포될 수밖에 없다.

또 하나의 서사는 아야에 대한 서사이다. 도입부에서 등장한 아야는 내게 자신의 임신중절수술에 참관하라고 요청한다. 아라키 야스토시(新木安利)에 따르면, 아야는 실재인물로 모리사키는 시 동인지에서 만났다. 아야는 자신의 임신중절에 입회한 모리사키에게 오키미와 자신의 이야기를 털어놓고, 얼마 안 되어 병사했다고 한다.<sup>16)</sup> 미즈다마리도 아야가 중류 가정의 주부로 원래는 아야가 가라유키상에 대해서 써주기를 바랬으나, 그녀가 암으로 사망하여 모리사키가 직접 이 테마에 착수하게 되었다고 인터뷰와 모리사키 저작을 참조하여 언급하였다.<sup>17)</sup>

아야의 임신중절로부터 시작하는 서사는 가라유키에 대한 논픽션을 상상하는 독자를 당황스럽게 한다. 아야라는 존재는 왜 텍스트에 출현하는가? 첫번째 이유는 전전 가라유키의 상흔을 전후로 연속시키는 존재이기 때문이다. 출산이 억압된 가라유키 '오키미'의 '낳지 못하는 성(産めない性)'과 가라유키의 딸이라

15) 실제 가라유키상을 하나의 국가가 만들어낸 산물이 아니라, 보다 광역적 차원의 다자간의 관계 속에서 생겨나고 이동한 존재로 인식하는 연구들이 나오고 있다. (박경은·류교열(2013) 「근대 일본의 '카라유키상': 그 실태와 이동 네트워크를 중심으로」 『해양도시문화교섭학』8 한국해양대학교 국제해양문제연구소 p.4 참조)

16) 新木安利(2012) 『サークル村の磁場-上野英信・谷川雁・森崎和江』海鳥社 pp.226-227

17) 水溜真由美(2013) 前掲書 p.314

는 죄의식을 가진 아야의 ‘임신중절’이 오버랩된다. 또한 ‘아야’와 ‘나’ 사이에는, 결혼, 가사와 육아라는 ‘낳는 성’과 이어지는 보편적인 ‘여자의 성(性)’ 문제가 연관되어 있다.

내가 어렸을 때부터 반발하기도 하고 저항해 보기도 했던 그런 것이, 여자를 둘러싸고 있는 많은 압박이, 전부 아야와 그의 어머니 오키미상에게 밀려온 듯한 느낌이었다. (p.6)

둘째는 아야는 ‘나’에게 ‘식민지조선’을 상기시키는 존재로, 식민2세의 경험과 정체성을 통해 ‘민족’ 문제를 가시화하는 존재이다. 근대 일본의 식민지배는 일본인의 월경과 이산을 초래했고, 아야와 ‘나’는 식민지배로 출현한 존재로서 동질성을 가진다. 그럼에도 아야와 ‘나’ 사이의 단절은 크다. 아야는 중국과 조선의 국경지대 일본인 창루에서 가라유키의 딸로 태어나 조선인 마을에서 조선인의 손에 자랐지만, ‘나’는 일본인만 살고있는 마을에서 자란 귀환자(引揚者)이다.(142) 아야가 식민지에서 일상적으로 민족적 갈등을 경험하는 동안, ‘나’는 식민지의 섬같은 일본인 가정의 안온함 속에서 성장했다.

“나는 너를 다리 위의 사람이라고 생각했어. 내가 어렸을 때, 조선인 아이와 놀고 있으면 다리 위를 일본 애들이 자주 지나갔어. 엄마 손에 끌려서. 난 고아나 다름없었고, 조선 사람들한테 귀여움을 받아 간신히 하루 세 끼를 먹었어. 어머니의 맛이란 어떤 것일까 상상했었지, 다리 위를 보면서.”  
그러면서도 웬지 아야는 나를 계속 친구라고 했다. (pp.142-143)

아야와 나 사이에는 민족적, 젠더적 동질성은 있지만, 계급적으로는 이질적이다. 나는 조선인과 괴리된 ‘다리 위’ 일본인, 아야는 ‘다리 아래’ 식민지의 최하층 일본인으로서 조선인과 일상에서 접촉하였다. 아야는 조선을 모르는 ‘나’에게 ‘나, 너처럼 이런 고통을 모르는 사람이 되고 싶어, 너는 말이야, 나 대신에 산 거야, 그러니까 너는 또 다른 나’(p.7)라고 한다. 아야는 나의 부채의식을 상기시키며 오키미의 이야기를 언어화할 것을 주문한다.(p.239)

이 텍스트에서 ‘아야’의 인상적 출현과 마찬가지로 ‘나’라는 내레이터의 개성도 강하게 드러난다. 다카하시 겐이치로는 모리사키나 이시무레의 논픽션에서

‘청자(聞き手)가 사라지지 않고, 그 현장에 반드시 ‘있다’고 하며,<sup>18)</sup> 텍스트 안에서 그 존재감을 언급했다. 청자로서 ‘나’는 논픽션에서 단순히 이야기를 듣고 기술하지 않고, 구술자와 적극적으로 상호작용하며 변화하는 주체이다.

처음에 ‘나’는 아야가 불편하고 오키미의 이야기를 듣고도 쓰는 것을 주저한다. ‘나는 오키미상을 만날 수 있는 여자가 아니야..... 나는 안 돼, 참아 줘.’(p.239)라며, 두려워했다. 내가 가라유키에 대해서 쓰게 된 계기는 후기에 해당하는 「여운(余韻)」에서 제시된다. ‘나’는 매춘부들이 봉납한 지장보살 앞에서 남자 사진에 바늘을 꽂은 공물을 보며 오키미의 주문과도 같은 말소리를 환청으로 듣는다. ‘남을 저주하면 구멍이 두 개(人を呪わば穴二つ)’(p.240)라는 속담으로, 남을 탓하면 자신에게도 그 재앙이 돌아온다는 것이다. 오키미가 남을 탓하지 않고 자신의 삶을 받아들이는 것으로 이해함으로써, ‘나’는 오키미를 두려워하던 마음에서 오키미의 이야기를 감당하고 기술하게 된다. ‘나’는 가라유키를 계급, 젠더, 국가, 민족적 질곡에 휘둘린 존재로만 보는 것이 아니라, 경계를 넘어서는 혼란스런 역사의 행위자로 바라보게 된 것이다.

‘만일, 언젠가 사람들이 느긋하게 살아갈 날이 온다면, 그때는 나는, 창부의 천성도 유유히 키워보려고, 부질없는 꿈을 꾸면서, 후기로 대신한다.’(p.240)며, ‘창부의 천성’이라는 도발적인 표현을 사용한다. ‘에로스’에서 가장 먼 ‘낳지 못하는 성’만이 주어졌던 가라유키로 인해, ‘나’는 ‘몇 번이나 앞이 막히고’, ‘도저히 남의 일이라 여길 수 없는 분노와 수치심’, ‘그리움’, ‘일본을 버리고 싶다는 생각이 들었고, ‘아시아와 여성이 하나가 된 가라유키상은 진실로 자신에게 무거운 짐’(p.241)이었기 때문이다. 내레이터는 가라유키의 삶을 객관적인 저변 여성사 기술의 대상으로서가 아니라, 타자로 분리되지 않는 감정 이입과 동일화의 대상으로 인식하는데, 이 점에 텍스트가 가진 서사구조의 특징이 나타난다.

18) 高橋源一郎・斎藤真理子(2021) 「対談 高橋源一郎・斎藤真理子-聞き手には、闘いのすべてがある 森崎和江・石牟礼道子・藤本和子」 『文芸』Vol.60N.4 pp.172-187

#### IV. 식민주의와 증오, 그리고 광기의 재현

내레이터 ‘나’는 ‘아시아와 여성이 하나가 된 가라유키상이 진실로 자신에게 무거운 짐이었다’(p.241)고 밝히고, 가라유키에 대해서 쓰는 것이 일종의 속죄 의식의 발로임을 보여준다. 식민지 조선으로 건너간 가라유키 오키미를 서사하는 ‘나’의 시선은 식민주의가 낳은 증오, 광기에 주목한다.

오키미는 발광하여 병원에 수용되었다가 사망하는데, 그녀의 광기는 어디에서 유래된 것일까? 수양딸 아야는 아야가 ‘아내같은 얼굴(おくさんづら)’을 할 때, 발광한다고 말한다. 오키미에게 가라유키는 창부(いんばい) 이고, 창부에게 허용 되지 않는 주부라는 정상성을 아야가 연기한다고 생각할 때, 광기가 적나라해진다.

오키미의 광기가 표출되는 또 다른 경우는 조선인 남성의 일본인에 대한 증오가 상기될 때이다. 텍스트에서 가장 강렬한 에피소드 중의 하나가 오키미가 착란에 빠지는 장면이다.

오키미가 늙어서 몸을 움직이지 못하게 되어서도 더욱 몸을 떨면서 무의식중에 조선어로 욕설을 퍼붓는 것은 소변이 마려울 때였다. 오키미는 소변이 마려울 때는 다른 사람의 손을 빌려야 했다. 그럴 때는 미친 사람인 듯했다. 조선어로 외치기 시작한다. 아야는 견디지 못해 흐느꼈다. (p.130)

그들 네다섯 명이 오키미를 아침까지 샐고, 술을 먹였다. 에워싸고 자리에 앉히지 않았다. 팔린 이상에는 그 뜻을 따랐다.(중략) 그들은 집고 토지를 팔아 산을 넘어 일본 여자들을 사러 오는 것이다. 성욕을 채우기 위해서가 아니었다. 더 뿌리 깊은 욕구를 가지고 일본 여자들을 괴롭혔다. 거기에는 일본인에 대한 증오가 드러났다. (p.130)

오키미에게 유곽의 경영을 맡긴 남자가 동해 쪽을 달리는 철도공사에도 관여하게 되어서 일본 처녀들을 늘려야 했다. 인부로 고용되는 사람은 대부분이 조선 남자로 조선과 청나라 여자로는 장사가 되지 않았다. 인부들은 일본인 감독에게 흑사라기보다 학대를 당하고 게다가 공사는 난항을 거듭했다. 모두가 성질이 날카로와져서 조선인 인부는 일본 처녀들을 사서 양값음을 하였다. (p.151)

인용문에서 언급된 철도공사는 1914년-1928년까지 부설된 원산에서 회령을 잇는 함경선으로 추정된다. 유곽에 대부분 조선인 남성이 손님이어서, 일본인 여성 없이는 장사가 되지 않는다고 했는데, 이는 사실과 다른 부분이 있다. 1910년 한일병합 이후 조선에 일본식 유곽이 늘고, 일본인 예·창기, 작부의 수가 폭발적으로 증가했다. 애초 일본인 유곽은 일본 남성들을 해외에 머무르게 하기 위한 목적이었으나, 조선인 남성들의 왕래도 점점 늘어났다. 그럼에도 전시기(중일전쟁)에 들어가기 전에는 일본인 예·창기나 작부수가 조선인 여성보다 늘 상회하였고, 유곽 경영자도 60%가 일본인이었다.<sup>19)</sup>

위 인용문에서 일본인 유곽과 운영행태는 전시기의 일본군 위안부 제도를 예견시킨다는 점에서 의미있는 기술이다. 그럼에도 ‘나’가 조선인 남성들이 일본인 남성에게 당한 억압과 폭력을 오키미와 같은 일본인 가라유키 여성에 대한 폭력으로 해소하였고, 일본인에 대한 민족적 증오 때문에 폭력에 노출되었다고 기술하는 부분은 주의를 요한다. 식민지 종주국 여성의 신체에 대한 피식민지 남성의 폭력과 지배 욕망이 식민지의 지배-피지배구조를 전복시키려는 욕망에서 비롯된 것으로 읽힐 수 있는 대목이다. 오히려 이 기술은 일본인 여성이라는 인종적으로 우월한 위치에 있는 아이나 ‘나’가 매매춘에 놓인 가라유키의 문제를 조선인 남성의 ‘민족적 증오’로 일면적으로 보는 시선으로 해석될 수 있다. 피지배자 조선 남성의 지배자 일본 여성에 대한 성적 욕망을 민족적 지배 욕망으로 도치시킬 때, 피식민자의 왜곡된 폭력성이 초점화되고, ‘가라유키’를 둘러싼 상호교차하는 계급적, 성적, 국가적 문제는 후경화되어, 일본의 제국주의와 식민주의라는 문제는 독자에게 불명확해진다. 오키미를 인신매매한 조선인 포주 이경춘에 대한 시선도 마찬가지이다.

오키미는 결국 정신병원에 입원하게 된다. 정신착란을 일으킨 오키미가 개나리를 짓밟으며 아야에게 ‘왜놈, 자식!(ウエヌム、チャシキッ!)’(p.152)이라고 외치는 장면은 상징적이다. 조선의 봄 풍경을 대표하는 개나리를 오키미는 좋아했지만, 광기에 빠져서는 발로 짓밟고, 조선인이 일본인에게 민족적 증오를 담아 발었던 경멸의 언어를 ‘아야’에게 되돌린다. 광기에 빠진 오키미에게는 조선에 대한 그리움과 증오, 일본인에 대한 경멸이 혼재되어 있다. 피식민자와 식민자의 불행

19) 金富子·金榮(2018) 『植民地遊郭—日本の軍隊と朝鮮半島』 吉川弘文館 pp.24-26

한 접촉이 오키미에게 증오와 광기를 초래한 것으로 ‘나’는 인식한다. ‘나’가 들은 이야기는 직접 오키미에게 들은 것이 아니라, 식민2세 이야기가 구술한 에피소드이다. 조선에서 조선인과 직접 접촉한 이야기는 조선인에 대한 호감과 동시에 조선인의 적대적인 시선을 일상에서 늘 접했다. 그러한 일본인 여성의 시선에서 기술된 오키미의 이야기는, 독자는 자연스럽게 조선인 포주나 가라유키를 사는 조선인 남성이 일본인 여성을 약자의 위치에 놓는 이야기를 따라가게 되고, 피식민자 남성의 민족적 증오가 식민자 여성의 신체에 폭력을 야기한다고 받아들여지게 된다.

이시하라 마이는 아이누와 일본인 사이에서 태어난 자신의 혼종적 출생에 기반한 문제의식에서 출발하여 모리사키의 식민지 조선에 대한 담론에 대하여 비판적으로 접근한다. 이시하라는 모리사키가 가라유키상을 ‘착취되는 아시아 여성’으로서 일본인의 성 문제를 초점화함으로써, 일본에 있어 인종적 타자를 찬탈하는 식민주의의 본질을 흐리게 한다’고 하고, 현재 일본 내 모리사키 연구에서 간과된 점을 지적하였다.<sup>20)</sup> 즉 모리사키가 아시아와 여성을 하나의 범주로 해버림으로써, 그 ‘아시아’에 식민주의로 인한 불평등한 민족적 위계질서가 존재하고, 민족적, 인종적 차이에 따라 ‘여성’의 문제도 상이하다는 점을 간과한 측면을 가리킨다. 일본인 가라유키나 조선인 군위안부 문제를 착취되는 ‘아시아의 여성’ 문제로 동일화하는 문제가 있는 것이다.

## V. 아시아의 여성을 서사하는 일본인 여성의 백인성

이로 인해 민족적 증오에 기반한 조선인 남성들의 일본인 여성에 대한 폭력이라는 맥락에서, 가라유키와 이민족과의 불행한 만남을 초래한 ‘식민주의의 폭력성’이 아니라, ‘조선인 남성의 폭력성’이 초점화된다. 패전 후 만주나 식민지 조선에서 일본으로 귀환한 여성 서사가 전쟁과 패전을 초래한 식민주의의 역사적 경험과 구조에 대한 고찰없이, 귀환도상에서 직면한 피지배자들과의 불행한 접촉과 성폭력을 초점화하여, 식민주의의 본질을 흐린 것과 유사하다. 요코 가와시마 왓킨스(Yoko Kawashima Watkins)의 『요코이야기(So Far from the

20) 石原真衣(2022) 앞의 논문 p.203

*Bamboo Grove*』(1986)에 나타난 귀환 서사가 대표적이다.

가야트리 스피박(Gayatri Chakravorty Spivak)은 서발턴(Subaltern)을 말하는 주체로 호명하는 것만으로 그 종속성을 극복할 수 없고, 들리지 않는 이방성에 주목하는 듣기의 윤리성이 필요하다고 했다. 말하지 못하는 존재로서 가라유키를 말하는 주체로 불러내는 것에 그치지 않고, 그 이질성에 보다 조심스러운 접근이 고려되어야 한다. 아야를 통해 전달된 ‘가라유키’의 이야기에 귀를 기울이는 ‘나’는 들리지 않는 이방성, 그들이 말하지 못한 것에서 놓친 것은 없을까?

먼저, 내레이터는 가라유키를 ‘아시아의 여성’으로 단일하게 보고 식민자와 피식민자 여성 사이의 차이를 무화시키고 있다. ‘아시아와 여성이 하나가 된 가라유키상’(241)에서 여성에 대한 억압이라는 시선에서 식민지배에 의한 아시아 내부의 민족적 차이는 가시화되지 않는다. 아야, 오키미, 나는 일본인으로서 식민지 조선에서 생활한 경험을 공유하고, 피식민지 남성들이 중주국 여성에 대해 모두 동일한 시각을 가지고 있는 것처럼 독자가 읽게 한다.

다음으로, 『가라유키상』에서는 아시아 내부의 지역적 차이, 식민주의의 차이, 조건들이 명확하게 기술되지 않았다. 싱가포르, 인도네시아와 같은 동남아시아 지역은 대동아공영권 이전에는 일본이 무력으로 침략한 것이 아니라 서구가 창출한 식민지체제를 승인한 위에서 평화적인 경제적 진출을 기도했다. 이에 비해 동북아시아, 조선, 만주와 같은 지역은 일본의 국익권으로 중시해서 식민지 혹은 사실상의 일본 지배하에 두며, 정책적 이주를 시행한 지역이었다.<sup>21)</sup> 아시아로 진출한 가라유키상의 양상은 오오시와 오키미처럼 이동 지역에 따라 크게 달랐다. 텍스트에서 동남아시아로 간 오오시에게 민족적 증오나 현지 남성들에 대한 공포는 드러나지 않는다. 식민지 조선으로 간 오키미는 식민지 남성들의 집단적 폭력과 민족적 증오에 직면해야 했던 것으로 그려진다. 그 기억은 패전후 일본에서 귀환자들의 트라우마로 남아 ‘광기’로 표출된다. 단일한 ‘아시아’를 상정하면, 이러한 차이가 보이지 않는다. 귀환한 식민지 여성이라는 내레이터의 위치가 성과 계급의 문제를 민족의 문제와 연결시켰지만, 단일한 ‘아시아’라는 관념이 오히려 그 안의 식민주의를 보이지 않게 한다.

「가라유키상이 품은 세계」(1995)라는 에세이에서 모리사키는 다음과 같이

21) 後藤乾一(2022)『日本の南進と大東亜共栄圏』めこん pp.20-35

슬회했다.

그녀들이 자유 없는 나날 속에서 무엇을 그 마음속에 키워왔는지는 나는 알 수 없다. 단지, 나는 몇몇 가라유키상을 만났고, 그녀들이 마지막에는 ‘내지는 싫어. 내지인은 속이 좁아. 되도록 안 사귀려 하고 있어’ 라는 말을 들었다. 그 말에 나는 많은 이웃 민족들과 계속 접해온 일상이 키워낸 어떤 세계가 어른거리는 기색을 느낀다.(p.186)

가라유키상이 「돈벌이」 「여자의 일」로 길러 온 것은, 다양한 민족의 길항에 의해서 개척된 인터내셔널한 심상 세계였던 것이다. (p.188)

가라유키들이 근린 민족과 일상에서 접한 경험의 결론이 ‘내지인(일본인)을 좋아하지 않고, 일본인은 마음이 좁고, 되도록 일본인과 교제하지 않는다’고 하는 것이 과연 ‘다양한 민족과 길항에 의해 개척된 인터내셔널한 심상 세계’인지는 애매하다. 인용된 부분의 ‘일본을 싫어하는’ 감성은 패전 당시 일본으로부터 버려진 ‘기민’으로 스스로를 인식한 식민지에서 돌아온 귀환자들에게 일반적이었다. 따라서, 가라유키를 ‘아시아와 여성이 하나가 된’(p.242) 존재로 바라보는 일본인 여성 내레이터의 시선에는 아시아의 식민주의와 다층적 모순을 보지 못하는 인종주의적 시선이 드러난다고 할 것이다.

다음으로 말할 수 없는 자들을 대신하는 내레이터의 위상이다. ‘나’는 아이의 이야기를 듣고 가라유키에 대해서 쓴다. 아이는 ‘나’를 ‘글쓰는 존재’로서, ‘위대한 여선생’으로 보고 있다.

선생님. 여자란 뭐죠? 이 사람, 위대한 여선생(女の大先生)이에요. 이 친구에게 매춘부를 보여주세요. 매춘은요, 삼대에 걸쳐 저주받는 거죠. 낳지 않겠어요. 나요. 매춘부의 자식이예요. 네, 선생님 부탁해요. 자궁을, 나를 드러내 버려요. 네, 부탁해요. 꼭 부탁해요.....(p.5)

아이와 나 사이에는 다리 위, 아래로 선이 그어진 채, 계급적 단절이 존재한다. 아이가 ‘나’를 쓰는 주체로 선택한 것은 ‘위대한 선생’이기 때문이다. 이 ‘선생’은 ‘나’라는 단수 주체를 복수 주체 ‘우리’로 바꾸는 계몽주의자이기도 하다.

보이지 않는 마음속의 배려. 그 속에 들어가 가라유키를 느끼지 못한다면 팔려나간 가라유키를 두 번씩이나 죽이는 것이다. 한 번은 관리 매춘업자나 공장제를 강요한 나라가, 두 번째는 시골 처녀들의 풍성한 인간애를 잃어버린 우리들이. (p.204)

내레이터 ‘나’는 가라유키를 기존의 성도덕으로만 이해한다면, 두 번 죽이는 것이라 한다. 이 ‘우리’는 누구인가? 휴머니즘을 상실한 ‘우리’는 일본인 혹은 여성 전체가 된다. ‘우리’는 ‘아시아’와 마찬가지로 내부의 위계성을 은폐하고 일본인, 혹은 일본인 여성 전체라는 일반화를 보여주게 된다.

## VI. 맺음말

본고에서는 모리사키 가즈에의 『가라유키상』을 분석하였다. 먼저 역사적 존재인 ‘가라유키’를 둘러싼 담론공간에서 발표 당시 해외매춘부라는 용어 대신 ‘가라유키’라는 고유명사가 일반화되면서 ‘식민주의’ 문제가 흐려지는 측면을 고찰하였다.

다음으로 기존 연구에서 면밀하게 고찰되지 않은 텍스트의 서사적 특징을 분석하였다. 『가라유키상』의 서사는 기록과 허구를 혼재하는 1인칭 여성서사이고, 그 내러티브가 식민주의와 증오, 광기를 재현하는 특징이 있다. 『가라유키상』이 그려낸 세계가 전시기의 일본군 위안부 제도를 예견시킨다는 점에서도 주목할 텍스트이다.

그럼에도 불구하고, 내레이터 ‘나’는 오키미의 에피소드에서 조선인 남성이 일본인 남성에게 당한 억압과 폭력을 일본인 가라유키 여성의 신체에 대한 폭력으로 보복하였다고 서사한다. 이 문제를 내레이터가 피지배자 남성의 ‘민족적 증오’로만 봄으로써, 피식민자의 왜곡된 폭력성만이 초점화되고, 역설적으로 가라유키를 출현시킨 ‘식민주의’의 모순이 보이지 않게 된다.

이는 내레이터가 일본인 여성이라는 인종적으로 우월한 위치에 있는 자의 시선에서 ‘가라유키’를 둘러싼 아시아 내부의 차이를 간과하고 ‘아시아의 여성’으로 단일화시켜 바라보는 시선에서 비롯되었다고 할 수 있다. 이로 인해 근대 일본의 제국주의와 식민주의로 인해 출현한 ‘가라유키’에서 ‘식민주의’가 비가

시화하는 모순이 드러난 측면이 있다고 할 수 있다.

### 〈참고문헌〉

- 박경은·류교열(2013) 「근대 일본의 ‘카라유키상’: 그 실태와 이동 네트워크를 중심으로」 『해양도시문화교섭학』 8 한국해양대학교 국제해양문제연구소 p.4
- 吳聖淑(2018) 「帝國主義と性－日本人慰安婦の表象－」 『일본언어문화』 제42집 pp.225-244
- 최은수(2019) 「1970년대 한일 양국의 ‘위안부’ 표상-영화 『중군위안부(?軍慰安婦)]와 『여자정신대』를 중심으로-」 『일본연구』 51집 중앙대학교 일본연구소 pp.231-248
- 현무암(2017.7.19) 「〈제국의 위안부〉가 왜곡한 모리사키 가즈에의 사상」 『프레스리안』 <https://www.pressian.com/pages/articles/163607#0DKU> (검색일: 2022.02.10)
- 新木安利(2011) 『サークル村の磁場-上野英信・谷川雁・森崎和江』 海鳥社 pp.226-227
- 石原真衣(2022) 「地球上から消え果た植民地主義? -森崎和江が遺したものと〈沈黙〉」 『現代思想』 50-13 青土社 p.203
- 大畑 凜(2018.3) 「流民のアジア体験と「ふるさと」という「幻想」: 森崎和江『からゆきさん』からみえるもの」 『女性学研究 Women's Studies Review』 25 大阪府立大学 女性学研究センター pp.122-144  
URL <http://doi.org/10.24729/0000481> (검색일: 2023.02.01)
- 加納美紀代(2003) 「交差する性・階級・民族-森崎和江の〈私〉さがし」 『『文学史を読みかえる7 リブという〈革命〉』 インパクト出版会 pp.248-271
- 川田文字(2003) 「国境を越える性-からゆきさんと『慰安婦』-『リブという〈革命〉』 インパクト出版会 pp.182-193
- 金富子·金栄(2018) 『植民地遊廓: 日本の軍隊と朝鮮半島』 吉川弘文館 pp.24-26
- 後藤乾一(2022) 『日本の南進と大東亜共栄圏』 めこん pp.20-35
- 佐藤泉(2022) 「越境する日本語-植民二世・森崎和江の思想-」 『일본학보』 133권 한국 일본학회 pp.137-154
- 高橋源一郎·斎藤真理子(2021) 「対談高橋源一郎·斎藤真理子-問書には、闘いのすべてがある 森崎和江·石牟礼道子·藤本和子」 『文芸』 Vol.60 No.4 pp.172-187
- 谷川健一, 村上一郎, 鶴見俊輔 編(1969) 『ドキュメント日本人 第5 棄民』 学芸書林 pp.7-29
- 森崎和江(1976) 『からゆきさん』 朝日新聞社 pp.3-241

森崎和江(2009)『からゆきさんが抱いた世界』『森崎和江コレクション精神史の旅3海  
峡』藤原書店 pp.186-190

嶽本新奈(2015)『からゆきさん—海外<出稼ぎ>女性の近代』共栄書房 p.99

山崎朋子(2008)『サンダカン八番娼館』大春文庫 p.21

■ 접수일 : 2023년 02월 22일

심사완료 : 2023년 03월 08일

게재확정 : 2023년 03월 13일

〈要旨〉

森崎和江의 『からゆきさん』의 나라티브 분석  
- 非可視化する植民主義 -

吳美姬

本稿では、森崎和江의 『からゆきさん』(1976)의 나라티브에 現れた植民主義의 問題を 分析した。まず、텍스트의 發表時期에 際して、「からゆきさん」을 めぐって의 談論化過程을 考察し、日本の 海外売春婦 といふ 存在が「からゆきさん」と いう 用語で 呼ばれ、植民主義의 問題가 見えにくくなった ことを 明らかにした。次に、これまで 詳細に 分析されて こなかった 텍스트의 語りの 特徴을 分析し、一人称 女性語りが 植民主義と 憎惡、狂氣을 再現して いる ことを 明らかにした。その 結果、おきみ의 事例から、日本人 女性에 對する 植民地 男性의 暴力을 「民族的 憎惡」 だけとして 眺める まなざしには、日本人 女性의 人種主義的 視線가 現れて いると 分析した。つまり、日本 近代史 の中で「からゆきさん」と いう 問題は、ジェンダー、民族、国家、階級의 問題가 相互 交差的に 作用した 結果である。にもかかわらず、森崎和江가 「からゆきさん」을 아시아 内部의 差을 見逃し、「アジア의 女性」と して 一枚岩的に 表象することによって、植民主義의 問題をもっと 見えにくくした 側面がある といえる。

<Abstract>

Analysis of the Narratives in Kazue Morisaki's *Karayukisan*  
- Invisible Colonialism -

Oh, Mi-Jung

This article analyzed the problems of colonialism that appeared in the narratives of Kazue Morisaki's *Karayukisan* (1976). First of all, when the text was published, the discussion process of "Karayukisan" was revealed that the way of calling of Japanese prostitutes as "Karayukisan" made it difficult to see the problem of colonialism. Next, I analyzed the characteristics of textual narratives that had not been analyzed in detail until now, and revealed that first-person female narratives represent colonialism, hatred and madness. As a result, from Okimi(おきみ) case, it was analyzed that the view that the violence committed by the controlled Korean man against Japanese women is based only on "ethnic hatred" shows the perspective of Japanese women from racial superior position. In other words, the issue of Karayukisan in modern Japanese history is the result of the intersection of gender, ethnicity, nationality, and class issues. Nevertheless, Kazue Morisaki overlooked the differences in Asia and represented Karayukisan in a monolithic way.

## 일본 근대아동교양총서 『소학생전집』의 간행양상에 대한 연구\*

조은애\*\*

### <目次>

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| I. 머리말                                  | IV. 『소학생전집』의 애독자와의 소통 |
| II. 『소학생전집내용건본』과 간행본의 변<br>동사항          | V. 맺음말                |
| III. 『소학생전집』각 권의 서지사항과 간행<br>과정에서의 변동사항 |                       |

Key Words : 小学生全集(shogakuseizenshu), 菊池寛(Kikuchikan), 芥川龍之介(Akutagawa Ryuunosuke), 興文社(kobunsha), 文芸春秋(bungeishunju)

### I. 머리말

『소학생전집(小学生全集)』이란, 일본의 고분사(興文社)와 문예춘추(文芸春秋)가 1927년에 공동으로 발행한 초등학생을 위한 아동교양전집이다. 일본의 가장 권위 있는 문학상으로 알려진 아쿠타가와상(芥川賞)을 제정한 기쿠치 칸(菊池寛)이 편집과 책임을 맡고 기획과 선전 등의 모든 과정을 담당하였다. 처음에는 초급용 30권과 상급용 50권으로 80권을 기획하였으나 최종적으로 88권에 이르게 되었다. 『소학생전집』은 아동을 위한 읽을거리인 ‘동화’를 중심으로 학교의 교과과정과 연계하여 역사와 과학 그리고 아동의 흥미를 유발하는 스포츠나 만화 등 취미와 관련된 내용도 수록하고 있다. 『소학생전집』에 대해서는 일본

\* 이 논문은 2022년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임 (NRF-2022S1A5B5A16049075)

\*\* 숭실대학교 일어일문학과 강사, 설화문학전공

‘아동문학사개론서’에서 반드시 언급되는 출판물임에도 불구하고 당시 도서출판업계의 동향에 초점을 맞춘 단편적인 설명에 그치고 있으며 지금까지 그 전모를 종합적으로 분석 고찰한 연구는 찾기 어렵다. 『소학생전집』에 대한 대표적인 선행연구는 1920년대 일본 도서출판업계에서 전집을 중심으로 하는 엔본 붐의 배경하에 아동을 위해 기획된 『소학생전집』과 이와 같은 시기에 비슷한 기획으로 간행된 아르스사(アルス社)의 『일본아동문고(日本児童文庫)』(전76권)의 출판배경을 소개하는 내용이 주를 이룬다. 그중에서도 나카니시 노부타다(中西靖忠)는 기쿠치 칸의 저작물 중에서 아동과 관련된 작품들을 망라하여 기쿠치의 동화에 대한 인식과 저작 활동의 일환으로 『소학생전집』의 출판배경과 간행과정을 소개하고 있다.<sup>1)</sup> 『소학생전집』의 내용 면에 주목한 논문은 2008년 ‘소학생전집』의 세계관이라는 주제로 『일본근대문학』잡지에 실린 일련의 논문이 확인된다.<sup>2)</sup> 각각 『소학생전집』에 수록된 역사 전기소설의 인물상과 서술에 대한 특징(久米依子), 근대의 교통기기와 전쟁기기에 대한 묘사와 표상(宮川健郎), 문예춘추사에 소속된 근대지식인 여성 직원들의 활동과 『소학생전집』의 간행(藤本恵)이라는 보다 구체적인 접근방법은 『소학생전집』의 연구의 필요성을 재조명했다는 점에서 큰 발전이라고 할 수 있다. 이상의 논문은 와세다 대학의 와다 아쓰히코(和田敦彦)를 중심으로 하는 ‘소학생전집연구회’의 성과물로 소개되었다. 이 연구회는 와다의 근대의 아동도서관운동과 『소학생전집』의 의의에 대한 논문<sup>3)</sup>이 발표된 이후 활동한 흔적이 보이지 않으며 일본 문부성의 연구프로젝트(KAKEN) 주제에서도 확인되지 않아 연구가 지속되지는 않았던 것 같다.

이상과 같이 기존의 『소학생전집』에 대한 연구는 간행배경을 중심으로 한 자료소개와 출판의의에 집중되어 있거나 수록작품의 단편적인 주제만을 다루고 있다. 본 연구는 『소학생전집』을 근대 아동교양도서의 집대성이라는 점에

1) 中西靖忠(1982) 「菊池寛と児童文学」『高松短期大学研究紀要』12 高松短期大学 pp. 1-37

2) 久米依子 「〈大衆〉の時代と感情の共同体-子どもに語る自国史」, 宮川健郎 『小学生全集』と二十世紀の思想-博覧会と戦争」, 藤本恵 『小学生全集』と女性の知的労働」 이상의 논문은 日本近代文学会(2008) 『日本近代文学』78에 수록

3) 和田敦彦(2012) 「家庭に図書館を:『小学生全集』がやってきた」『リテラシー史研究』5 リテラシー史研究会 pp.19-27

주목하여 아동문예사에 있어서 『소학생전집』의 의의를 재조명하고자 하는 연구의 일환으로 각 권의 서지사항과 실제 간행양상을 확인하고 각 권에 실린 ‘애독자 통신란’과 ‘편집후기’ 등의 내용을 조사 분석하여 간행과정과 결과물 그리고 독자의 반응에 이르는 내용을 파악함으로써 기존의 연구가 신문광고자료를 중심으로 간행 초기 단계에 집중되어 있다는 점을 보완하고자 한다.

## II. 「소학생전집내용견본」과 간행본의 변동사항

1920년대 후반 일본에서는 ‘엔본(門本:1권 1엔)’이라고 하는 저가의 전집류 출판이 성행하여 대량생산과 대량판매 대량선전을 통해 서적 시장이 대대적으로 확장되고 독서층의 저변이 확대되었다. 선예약·주문판매라는 방식으로 간행된 엔본의 유행은 『현대일본문학전집(現代日本文学全集)』(전63권, 개조사, 1926), 『세계문학전집(世界文学全集)』(전38권, 신조사, 1927)이라는 흥행사례를 보여주고 1930년대 초까지 약 3백 여종의 전집이 간행되었다.<sup>4)</sup> 『소학생전집』은 이와 같은 전집 총서의 대량생산이라는 시대적 분위기에 맞추어 아동을 위한 전집류로 기획되었다. 그러나 『소학생전집』과 아르스사의 『일본아동문고』는 유사한 기획으로 인해 양자 간의 광고 대결 신문을 통한 비방선전 소송이라는 출판업계의 일대 사건으로 기록된다. <sup>5)</sup>본론에서는 지금까지 자세히 다루어지지 않았던 「소학생전집내용견본(小学生全集内容見本)」의 내용과 비교하여 실제 간행양상과 변동사항을 보고자 한다.

### 1. 「소학생전집내용견본」과 변동사항

1920년대 전집류의 간행은 예약주문이라는 특징으로 미리 전집의 내용과

4) 함동주(2015) 「신조사판 엔본 『세계문학전집』의 출판과 서양문학의 대중화」 『일본학보』 104 한국일본학회 pp.325-340

5) 中西靖忠(1982) 앞의 책. 中西靖忠의 논문 말미에 도쿄아사히신문의 1927년 5월 이후 6월까지의 관련 기사를 목록화하여 제시하고 있다.

집필진들을 소개하는 ‘건본책자’가 간행된다. ‘내용건본’은 예약출판이 왕성하던 메이지시대 후기에 시작되어 다이쇼 시대에는 간행 인사말, 저명인의 추천문, 수록내용, 장정 사진 등이 수록되는 형식이 만들어진다. 6) 「소학생전집내용건본」은 1927년 고분사에서 간행된 앞뒤의 표지를 제외한 18페이지 분량의 책자로 현재 2종의 건본이 확인된다. 『소학생전집』과 동일한 국판(菊版:939mm×636mm)크기로 처음에는 건본으로 수록된 삽화를 원색판(칼라)으로 만들었으나 다량인쇄를 위해 색을 줄인 상태(가제본판)로 유통되었으며 1페이지 상단에 “공전의 대부분 인쇄를 위해 원색판인쇄는 시간이 모자라 어쩔 수 없이 단색인쇄의 가제본 내용건본을 만들었습니다. 멋지고 아름다운 내용건본은 각 서점에 있으니 열람해 주십시오”<sup>7)</sup>라고 쓰여 있다. 그리고 가제본에는 각 페이지 상단에 원색판에는 없는 짧은 선전문구가 추가된다. 우에다 노부미치(上田信道)는 인터넷판 『児童文学資料研究』에 「소학생전집내용건본」의 앞표지와 추천문 뒷부분의 주문방법 그리고 본문내용건본 등을 간략하게 정리해 소개하였다. 8) 다만 2종의 건본 중 상단의 선전문구에 대해 언급한 것으로 보아 원색판이 아닌 가제본을 대상으로 한 것 같다.

각 페이지 상단의 선전문구는 “사랑하는 소아를 위해 소학생전집을”, “편자는 일본 제일의 기쿠치 아쿠타가와 두 선생님”과 같은 짧은 내용이나 “연기처럼 사라질 시키지마(담배 이름) 2개피를 소학생전집으로”, “한에리(半襟) 한 개로 고분사의 소학생전집이 몇 권이나”<sup>9)</sup>와 같이 아버지와 어머니의 소비를 줄여서

6) 紀田 順一郎(1992) 『内容見本にみる出版昭和史』本の雑誌社 p.295

7) おことわり-空前の大部数印刷のため原色版印刷間に合はず止むなく一度刷の仮製の内容見本を作りました。すばらしく美しい内容見本は各書店に備付けあります御覧下さい、「小学生全集内容見本」興文社 1927 p.1

8) 우에다는 원색판에 대해 언급하고 있지 않는데 내용건본은 간행 이전의 팜플렛 같은 성격의 것으로 남아있는 경우가 적고 「소학생전집내용건본」의 원색판은 서점에서만 볼 수 있었던 것으로 현재 가제본에 비해 더욱 구하기 어려운 자료라고 할 수 있다. 上田信道(1997) 「『小学生全集内容見本』について」(1)『児童文学資料研究』68(5월)/「『小学生全集内容見本』について」(2)『児童文学資料研究』69(8월)  
[https://nob.internet.ne.jp/shiryo/shir\\_68.html#ueda](https://nob.internet.ne.jp/shiryo/shir_68.html#ueda)(검색일:2023.01.30)

9) 愛する小児の為に小学生全集を(P.3)；編者は日本一の菊池・芥川両先生(p.6)；煙と消える敷島二個を小学生全集に(p.10)；半襟一本で興文社の小学生全集が幾冊(p.12)；「小学生全集内容見本」 앞의 책

아이들에게 『소학생전집』을 선물한다는 부모의 심리를 자극하는 문구가 눈에 띈다.

【표 1】 「소학생전집내용건본」<sup>10)</sup>

겉표지	p.1 집필화백명단(원색판)	p.4 내용목차 <sup>11)</sup>
		

겉표지의 뒷면은 학부형(父兄諸君)에게 드리는 인사말이 수록되어 있으며 이어서 집필 화백, 전집의 특징, 내용목차, 내용건본, 추천문, 주문방법 등이 수록되어 있다. 이하 각 페이지의 내용을 간략하게 정리하였다.

- p.1 소학생전집 도입표지그림 집필화백- 38명의 성명열거
- p.2 소학생전집의 특징/ 내용, 삽화, 인쇄, 용지, 교정. 장정. 정가
- p.3 전집이 있는 책장 그림/ 초급용(30권)1-3학년/ 상급용(50권)4-6학년
- pp.4~7 소학생전집 내용목차 초급용 상급용
- p.8 소학생전집에 들어갈 삽화의 축소 건본. 「새이야기」의 새그림. 「서양역사」에 들어갈 나폴레옹 초상, 「세계일주」에 들어갈 남유럽의 풍경
- p.9 본문내용건본-「미케(삼색고양이)의 보은」(전 문장 가타가나 표기)
- pp.10~11 소학생전집 내용목차 상급용
- pp.12~13 본문내용건본 『로빈슨표류기』/『일본문예동화집』 하권수록-아쿠타가와

10) 『소학생전집내용건본』 개인소장. 2종

11) 상단의 선전 문구 “은 일본의 아동잡지와 서적을 다 모은 것 보다 재미있다(日本中の児童の雑誌と書籍とを残らず集めたよりも面白い)「小学生全集内容見本」 앞의 책 p.4

류노스케 의 『두자춘』

p.14 상단-소학생전집 내용목차 상급용(상단)

하단-「소학생어러분에게」기쿠치 칸 아쿠타가와 류노스케

p.15 소학생전집 집필자-간단한 소개와 성명 34명

p.16 소학생전집신청방법

뒷표지 뒷면 추천문 (講談社社長 野間清治/海軍中將子爵 小笠原長生), 엽서

뒷표지 엽서 뒷면/ 발행소 고분사 연락처

내용건본의 가장 중요한 역할은 간행예정인 각 권에 대한 설명과 본문의 예시라고 할 수 있다. ‘내용목차’(pp. 4~7와 pp.10~11, p.14)에는 각각 초급용과 상급용으로 나누어 책제목, 저편자, 4~5행 정도의 간단한 설명이 포함된다. 그리고 삽화가 다수 수록됨을 강조하여 삽화건본과 책의 본문내용의 건본을 각각 수록한다.

내용건본은 간행 이전의 기획과 3여 년에 걸쳐 간행되는 실제 간행양상에 있어서 변동사항을 파악하는데 중요한 자료라고 할 수 있다. 실제 기획에서 소개된 저편자가 사망 혹은 개인사정을 이유로 바뀌거나 권52 『소공녀·파랑새(小公女・青い鳥)』라고 되어있던 것이 편집 사정 때문에 권52 『소공녀(小公女)』, 권72 『파랑새(小公女)』로 분리되어 간행되기도 한다. 또한 본문내용건본의 문장과 실제 간행본의 문장이 일부 수정되기도 하였다.

- 마침 그쪽의 모퉁이에 있는 커다란 나무를 가리켜 프라이데이에게 나무에 올라 상대방의 동태를 살피고 오라고 했습니다. (丁度その部分の角にある大きな木をゆびさしてフライデーに、木のぼりをして相手の様子を見て来いといひつけました) [본문내용건본, p.12]
- 저는 살며시 프라이데이를 불러 숲의 끝에 있는 커다란 나무를 가리켜 그리로 올라가 적의 정황을 시찰하고 오도록 명령했습니다. (僕は、そっとフライデーを呼び、森の角の大きな木を指して、それに登り、敵情を視察してくるやうに命令しました) [간행본-『로빈슨표류기(ロビソソン漂流記)』 p.103]

이상은 「소학생전집내용건본」의 ‘본문건본’으로 제목은 쓰여있지 않으나 『로빈슨표류기(ロビソソン漂流記)』임을 알 수 있는데 실제 간행된 본문을 보면

내용은 동일하나 일부 표현이 다른 점을 볼 수 있다. 또한 삽화의 경우도 견본에 수록된 그림이 실제 간행본에는 수록되지 않는 경우도 있다.

【표 2】 ‘본문내용견본’의 「두자춘(杜子春)」삽화

p.13 ‘본문내용견본’	『소학동화독본』-제6학년 상권 p.28 「두자춘」의 삽화
	

‘본문내용견본’에 수록된 삽화와 본문은 아쿠타가와 류노스케의 『두자춘(杜子春)』으로 『소학생전집』의 권16 『일본문예동화집(日本文芸童話集)』 하권에 수록되어 있다. 그런데 본문은 동일하지만 실제 간행본에는 삽화가 들어가지 않았음이 확인된다. 이 삽화는 기쿠치 칸이 『소학생전집』의 기획에 앞서 소학교 학생들의 교과과정에 대응하여 ‘국어부독본(國語副讀本)’으로 편찬한 『소학동화독본(小学童話讀本)』(전8권, 1925년)에 수록된 삽화임을 확인하였다. 실제 간행본인 『일본문예동화집』에서 삽화가 삭제된 이유는 알 수 없으나 기획과 간행단계의 짧은 기간에 인쇄를 마쳐야 하는 상황에서 「소학생전집내용견본」에서만 급하게 재활용한 것으로 보인다.<sup>12)</sup>

한편 ‘소학생전집신청방법’(p.16)에 의하면 초급용 1권 상급용 2권을 매달 배분할 예정이며 목록의 권 수는 순서대로 간행되지 않는다는 내용을 전하고 있는데 실제 간행에서는 한 달에 초급용 2권과 상급용 2권이 간행되거나 한 달에 2회 분의 배분도 있었으며 별권 8권으로 기획된 내용이 전혀 다른 책으로

12) 『杜子春』은 아쿠타가와가 아동잡지 『아카이도리(赤い鳥)』(1920년7 월호)에 처음 발표 한 것으로 잡지에도 삽화가 있으나 『소학동화독본』과는 또 다른 삽화가 수록되어 있다.

간행되는 변동이 있는데 간행사항과 변동에 대해서는 제3장에서 자세히 다루고자 한다.

## 2. 기쿠치 칸과 아쿠타가와 류노스케의 작업과 변동

『소학생전집』은 당시의 인기작가였던 기쿠치 칸과 아쿠타가와 류노스케의 공동기획이라는 점을 대대적으로 선전한다. 아르스사와의 분쟁에서 기쿠치 칸이 혼자 이 많은 책을 담당하는 것이 진정 가능한가라는 의심을 살 정도로 기쿠치 칸은 문학과 관련된 항목은 대부분을 담당하고 있다. 지금도 기쿠치 칸이 단순히 이름만 올렸을 것이라는 논쟁<sup>13)</sup>이 있기도 하나 기쿠치는 편집부와 함께 작업을 하고 ‘책임편집’이라는 의미에서 도덕적으로 문제가 없다고 주장한다. 문제는 『소학생전집』이 간행되기 직전에 아쿠타가와와 자살로 인해 큰 차질이 생겼다는 점이다. 일부에서는 아쿠타가와가 아르스사와 기쿠치 칸 사이의 갈등으로 인해 자살했다는 소문마저 돌게 된다. ‘내용건본’과 실제 간행사항을 비교했을 때 가장 큰 변동은 아쿠타가와가 담당한 내용을 어떻게 처리했는가라는 점이있다. 이하 ‘내용건본목록’에서 기쿠치가 담당할 예정의 작품(아쿠타가와 공저 포함)과 아쿠타가와가 단독으로 담당할 예정이었던 작품 목록과 변동사항을 간단하게 정리하였다.

【표 3】 기쿠치 칸 담당 작품 목록 (\*는 아쿠타가와 공저)

권	내용건본제목	권	내용건본제목
1	유년동화집 상	26	블랙뷰티·플란다스의 개
2	유년동화집 하	27	로빈슨 표류기
3	이솝동화집	31	소가이야기·추신구라이야기
4	그림동화집	36	일본 검객전 (기쿠치 칸, 本山菰舟 共著)
5	안데르센동화집	37	일본 위인전 상
6	일본전국동화집	38	일본 위인전 하
7	일본동화집 상	40	대각기 이야기

13) 夏目康子(2020) 「菊池寛・芥川竜之介は『不思議の国のアリス』をどう訳したか:丸山英観訳, 柳瀬尚紀訳との比較」『Otsuma Review』53 大妻女子大学英文学会 pp.29-39

8	일본동화집 하	42	태평기 이야기
9	세계동화집 상	43	겐페이성쇠기 이야기
10	세계동화집 하	46	소년입지전 · 소년소녀미담
11	종교동화집(성서)	47	일본무용담 상
12	그리스신화	48	일본무용담 하
13	아라비아이야화	52	*소공녀 (기쿠치 칸訳)
14	일본문예동화집 상	53	*쿠오레 (기쿠치 칸訳)
16	일본문예동화집 하	54	*집 없는 아이 (기쿠치 칸訳)
17	외국문예동화집 상	55	*집 없는 소녀 (기쿠치 칸訳)
18	외국문예동화집 하	56	*소공자 (기쿠치 칸訳)
19	일본역사동화집 상	72	*일본세계위인화전 (기쿠치 칸 選?)
20	일본역사동화집 하 (일본역사동화집 중으로 한 권 늘어남)	74	*재미있는 문고 상 (소학생전집편집부 編/부록: 高橋学而/藤五代策著)
21	동식물그림책 (일본역사동화집 하로 변경, 동식물그림책은 25권으로 변경되고 七沢甚喜와 共著)	75	*재미있는 문고 하(과량새로 변경-기쿠치 칸訳)
22	*고금동서의 탈 것 독본 (기쿠치.아쿠타가와共編 1927.6.11간행)	76	아동극집

【표 4】 아쿠타가와 단독 작업예정 목록

권	내용건본제목	변경
15	일본문예동화집 중	기쿠치 칸 著
28	앨리스이야기	기쿠치.아쿠타가와 共訳
30	호메로스	기쿠치 칸 訳編
34	피터팬	기쿠치.아쿠타가와 共訳
44	서양위인전	편저자 표기 없음
45	소년 탐정담	기쿠치 칸 訳
49	정글북	기쿠치 칸 訳編

『소학생전집』은 1927년 5월 배본이 시작되는데 아쿠타가와가 실제 간행에 참여한 것은 기쿠치와 공저로 1927년 6월에 간행된 초급용 권 22 『고금동서의 탈 것 독본(古今東西乗物読本)』이 유일하다. 1927년 7월 24일 아쿠타가와와의 사망으로 인해 1927년 10월 제5회차에 배본할 예정이었던 『앨리스이야기(アリ

ス物語)』는 연기되어 1927년 11월에 제6회차 배본으로 간행된다. 『소학생전집』은 각 권의 말미에 다음 회차의 배본에 대한 설명을 싣고 있는데 초급용 권14 『일본문예동화집(日本文芸童話集)』상권(1927. 10. 25)의 소식지에 “앨리스이야기가 사정상 다음 달에 배본됨을 깊이 사죄드립니다”라고 쓰여있다. 간행된 『앨리스이야기』에는 본권의 소식지와는 별도로 별지에서 기쿠치는 다음과 같이 설명한다.

『앨리스이야기』는 ‘신기한 나라 탐험’과 ‘거울나라 탐험’을 두 가지가 있는데 후자는 지면 사정상 넣지 못했습니다. 그러나 전자가 훨씬 재미있습니다. 이 『앨리스이야기』와 『피터팬』은 아쿠타가와 류노스케씨가 담당한 것으로 생전에 어느 정도 진행해 놓은 것을 제가 나중에 이어받아 완성한 것입니다. 고인을 기념하고자 이 책과 『피터팬』은 공역으로 해 두었습니다. 기쿠치 칸<sup>14)</sup>

기쿠치와의 공저를 포함한 아쿠타가와가 담당한 작품의 대부분을 결국 기쿠치가 담당하게 되었으며 『앨리스이야기』와 1929년 4월에 제23회차로 배본된 『피터팬(ピーター・パン)』이 공저로 남게 된다. 『앨리스이야기』는 일본에 번역된 서양의 동화 번역연구사에서 자주 다루어지는데 아쿠타가와가 생전에 작업했을 것으로 추정되는 부분과 기쿠치가 후에 관여했을 부분의 특징을 분석하는 연구의 대상이 되기도 한다.<sup>15)</sup> 또한 기획 단계부터 기쿠치가 담당한 작품이 너무 많다는 지적에 아쿠타가와와 작품까지 담당하여 더욱 늘어난 상황은 기쿠치가 대작일 것이라는 의심을 가중시키는 결과를 낳게 된다.

14) アリス物語には、「不思議国めぐり」と「鏡の国めぐり」と二つありますが、後者は紙数の都合で入れることが出来ませんでした。だが、前者のほうがはるかに面白いのです。この「アリス物語」と「ピーターパン」とは芥川竜之介氏の担任のもので、生前多少手をつけてくれたものを、僕が後を引き受けて、完成したものです。故人の記念のため、これと「ピーターパン」とは共訳と云ふことにして置きました。菊池寛 『アリス物語』興文社 1927・11 別紙

15) 夏目康子(2020) 앞의 책

### Ⅲ. 『소학생전집』 각 권의 서지사항과 간행과정에서의 변동사항

『소학생전집』은 1927년 5월 25일 상급용 권56 『소공자(小公子)』를 시작으로 하여 1929년 10월 4일 초급용 권 88 『수양그림책(修養繪本)』을 간행함으로써 전권의 배분이 완료된다. 한 달에 초급 1권, 상급 2권으로 매달 3권씩 간행하는 형식이었으나 초기에는 일부 간행일이 일정하지 않았음이 확인된다. 이하 제1회차에서 제6회차의 간행본과 간행일을 정리하였다.

【표 5】 소학생전집배본 간행사항(1회차-6회차)

1회차 배본 1927년	4회차 배본 1927년
[초급] 22권 고급동서탈것그림책 6월15일	[초급] 4권 그림동화집 9월13일
[초급] 24권 일본동요집 6월21일	[상급] 43권 겐페이성쇄기이야기9월18일
[상급] 56권 소공자 5월25일	[상급] 70권 아동스포츠 9월21일
2회차 배본 1927년	5회차 배본 1927년
[초급] 1권 유년동화집 상권 7월20일	[초급] 14권 일본문예동화집 상권 10월25일
[상급] 32권 극지탐험기7월28일	[상급] 39권 메이지대제 10월25일
[상급] 79권 노기장군과 도고원수 7월28일	[상급] 67권 음악이야기와 창가집10월25일
3회차 배본 1927년	6회차 배본 1927년
[초급] 23권 아동만화집 8월18일	[초급] 28권 엘리스이야기 11월18일
[상급] 53권 쿠오레 8월18일	[상급] 58권 인류와 생물의 역사 11월18일
[상급] 48권 일본동요집 8월20일	[상급] 72권 로빈슨표류기11월18일

배본일람표를 보면 본래 초급 1권, 상급 2권으로 계획되어있었으나 제1회차는 초급 2권 상급 1권으로 간행되었으며 권 호수도 1권에서 순차적으로 간행되지 않았다. 처음 기획 당시의 목차는 문학 과학 취미 등의 분야별로 나뉘어 있는데 실제 간행에서는 순차적으로 하는 것보다 분야별 서적을 교차해서 간행함으로써 아동의 흥미를 끌고자 했을 것으로 파악된다. 그리고 한 달에 초급 1책, 상급 2책이었던 것이 제23회차 배본은 1929년 4월 1일, 제24회차 배본은 동년 4월 20일로 4월에는 2회에 걸쳐 배본되기도 했으며 1927년 제7회차와

제8회차, 1928년의 제19회차 제20회차는 12월에 2회분이 배본된다. 이는 다음 해 1월의 정월 연휴기간을 학생들이 책을 읽으며 즐기라는 의미라고 안내하고 있다. 이에 다음 해 1월은 배본분이 없어 편집부도 12월을 준비하며 바빴던 시간을 1월에는 여유롭게 2월의 배본을 준비하였을 것이라 생각된다.

【표 6】 2 회차 연속 배본 사항 목록

<b>제7회차</b> 배본 1927년 12월	<b>제8회차</b> 배본 1927년 12월
[초급] 6권 일본건국동화집 12월8일	[초급] 3권 이솝동화집 12월20일
[상급] 37권 일본위인전 상권12월8일	[상급] 74권 재미있는 문고 12월23일
[상급] 52권 소공녀 12월10일	[상급] 36권 일본검객전 12월23일
<b>제19회차</b> 배본 1928년12월	<b>제20회차</b> 배본 1928년12월
[초급] 20권 일본역사동화집 중권 12월1일	[초급] 17권 외국문예동화집 상권 12월25일
[상급] 38권 일본위인전 하권 12월1일	[상급] 45권 소년탐정단 12월25일
[상급] 61권 아동 물리 화학 이야기 12월1일	[상급] 49권 정글북 12월25일

또한 『로빈슨표류기』는 본래 초급용 권27에 수록될 예정이었으나 책의 내용상 상급용 권72 『일본세계위인화전(日本世界偉人画伝)』와 바꾸어서 간행하거나 상, 하 2책으로 예정되었던 『일본역사동화집(日本歴史童話集)』을 상중하 3책으로 바꾸는 등 초기계획에 대응시켜 보았을 때 변동사항과 간행 정황 등은 세심하게 파악할 필요성이 있다. 그 중 가장 큰 변동사항은 중학교입학제도가 바뀜으로 인한 별권의 변동사항이라고 할 수 있다.

『소학생전집』은 처음 전 80권 이외에 별권으로 8책을 기획하고 있었으며 별권은 별도의 회비로 신청하고 구입해야 했다. 처음 기획한 별권 8책은 『소학백과사전(小学百科辞典)』상중하, 『소학전과자습사전(小学全科自習辞典)』상중하, 『입학시험준비집(入学試験準備集)』, 『전집읽기색인(此全集読方字索引)』이다. ‘내용건본’에 의하면 “이 8책은 완전한 별책으로 『소학백과사전』은 1학년부터 6학년까지의 전 과목에 대한 매우 자세한 보습서(補習書)”<sup>16)</sup>라 할 수 있으며

16) この八冊は全然別冊で、小学百科辞典は一年から六年迄の全科の極く丁寧な補習書とも申すべきもの「小学生全集内容見本」 앞의 책 p.14

『소학자습사전』은 “학교에서 귀가하여 잘 모르는 글자나 산술이 있을 경우 스스로 훌륭히 복습할 수 있도록 친절히 지도와 설명을 겸비한 것입니다”<sup>17)</sup>라고 설명하고 있다. 그런데 제22회차 배본(1929년 3월) 초급용 권10 『세계동화집(世界童話集)』하권의 배본일람표에는 “별권 변경에 대하여”라고 하여 “소학생전집 80책 외의 별권 8권을 간행하기로 했으나 시험제도 폐지 등의 이유로 특별히 발행할 성질의 것이 아니게 되어 발행을 중지하고 전책을 신청하신 분들께 『소학취미독본(小学趣味読本)』 한 권을 증정하기로 했습니다”<sup>18)</sup>라고 쓰여있다. 이후 목록의 별권 부분은 목차 대신 『소학생취미독본』<sup>19)</sup>만 쓰여있으며 별도로 35전에 구입하게 하였다. 실제 간행된 별권 8권에 대한 정보는 제25회차 배본(1929년 5월)의 초급용 권12 『그리스신화(ギリシヤ神話)』에 별지를 끼워 넣은 형식으로 ‘별권8책서명변경발표(別卷八冊書名変更発表)’가 확인된다.

【표 7】 변경된 별권 사항

	제목	간행예정
초 급 용	권86 재미있는이야기 面白物語	4년(1929년) 7월중순배본
	권87 만화그림이야기 漫画絵物語	4년(1929년) 8월하순배본
	권88 수양그림책 修養絵本	4년(1929년) 9월하순배본
상 급 용	권81 바다로산으로 海へ山へ	4년(1929년) 7월중순배본
	권82 어린이기술자 子供技師	4년(1929년) 8월하순배본
	권83 멘탈테스트집 メンタルテスト集	4년(1929년) 8월하순배본
	권84 세상으로의길 世の中への道	4년(1929년) 9월하순배본
	권85 소학취미독본 小学趣味読本	4년(1929년) 9월하순배본

17) 学校から帰宅して分からない文字なり算術なりがあった時、自分独りで立派に復習する事の出来る懇切な指導と説明とを兼ねたものであります 「小学生全集内容見本」 p.14

18) 別巻変更について一小学生全集は八十冊の外別巻八冊を出すことになっていましたが、試験制度廃止其他により、殊更発行する性質のものではなくなりましたので、発行を中止し、全冊お申込みの方々には、「小学趣味読本」を一冊進呈することにいたしました 『世界童話集』下1929・3 페이지표기 없음(마지막 장)

19) 『소학취미독본』은 마지막 배본인 29회차(1929년9 월)에 상급용 85권으로 간행된다.

1920년대 들어 초등 6년의 의무교육에 이어서 중학교에 진학하는 학생들이 증가하고 신문에는 입시경쟁으로 인한 ‘발광(정신병)’과 자살 등의 입시문제가 보도되기도 하면서 1927년 6월 문부대신(文部大臣)으로 취임한 미즈노 렌타로(水野鍊太郎)는 입학시험 폐지를 발표한다. (11월 22일 전국에 통지) 대신 최종 2년간의 학업성적, 성격, 진학 지원의 적부에 대한 소학교 교장의 내신서와 구두 시험으로 입학 결정을 하게 된다. ‘내신서체제’라는 이 제도는 결국 공정성이나 적절한 능력평가가 어렵고 혼란을 증가시킨다고 하여 1930년에 학교들이 개별적으로 필기시험을 부활하는 등 실패한 정책이었다고 평가된다.<sup>20)</sup> 1927년부터 시작된 『소학생전집』간행의 후반기에 해당하는 1929년은 당시 잠시 시행되었던 ‘내신서체제’의 시행으로 인해 간행서적의 내용을 변경할 수 밖에 없는 상황이 되었던 것이다.

『소학생전집』에 수록된 작품들의 성격은 학교교과과정에 대응하여 편찬한 내용도 있으나 직접적인 입시를 반영하기보다는 전반적인 아동의 교양 양성을 지향했다는 인상으로 별권 8권의 경우 ‘내용건본’이나 광고에서 독자 혹은 책을 구입하는 학부모를 대상으로 학교 교육과 입시에 도움이 된다는 점을 강조하고자 기획과정에서 ‘별권’이라는 형식으로 추가했던 것으로 생각된다. 변경된 내용에서도 형식적으로는 권83 『멘탈테스트집(メンタルテスト集)』에 「지능이란」, 「통합심정고사이야기」, 「구두시험방법」 등의 항목을 보면 구두시험 즉 면접에 도움이 될 법한 내용을 담고 있으나 여기서의 ‘지능’은 시험을 위한 지식정보가 아닌 ‘지혜’를 말하며 고등교육으로 진학하는 의의를 파악하고자 하고 있다. 권84 『세상으로의 길(世の中への道)』은 학교진학 이외의 여러 직종을 소개하고 이를 위해서 받아야 할 교육 혹은 기술습득방법 등을 제시하고 있다. 즉 엘리트가 되기 위해 고등교육으로 진학하는 입시 위주의 내용에 중점을 두기보다는 의무교육을 마친 학생들이 고민했을 장래에 학교 이외에 사회에 나아가 어떠한 일을 할 수 있는지를 실질적으로 보여주고자 했다고 생각한다.

20) 山本保(1980) 「昭和初期中学校入試制度改革について:岐阜県の状況」 『東京大学教育学部教育行政学研究室紀要』1 pp.120-130

#### IV. 『소학생전집』의 애독자와의 소통

전집 각권의 마지막부분에 실린 ‘소식지(おたより)’는 1927년 8월 제3차 배본분에 처음 실리기 시작한다. 일반적으로 다음 회차에 실릴 작품을 예고하고 그 특징에 대해 안내를 하며 제 6회차(1927년 11월)의 권72 『로빈슨표류기』부터 독자들이 보내온 의견이 실리기 시작한다. 출판사에 보내는 것이기에 대부분이 감상과 감사 인사와 같은 2-3문장의 짧은 글로 구성된다. 본 장에서는 『소학생전집』의 각 권에 실린 소식지를 통해 회원들의 양상과 기획 당시에 선전으로 논란이 있었던 ‘장학금수여’에 대한 경과 그리고 『소학생전집』에 대한 독자의 글을 살펴보고자 한다.

##### 1. 애독자 명부

제5회차 배본인 1927년 10월 [초급 권14 『일본문예동화집(日本文芸童話集)』 상권의 소식지에는 회원명부를 만들고자 하니 이름과 주소를 요청한다는 글이 실린다. 이에 일본 국내외에서 연락이 도착하고 있다는 소식지의 내용이 이어지다가 1928년 8월 제15회차 배본에서 ‘소학생전집애독자명부(小学生全集愛読者名簿)’가 확인된다. 다만 1927년 12월의 제8회차 배본 상급용 권36 『일본검객전(日本劍客伝)』의 소식지에 의하면 “여러분의 ‘소식’을 별지로 인쇄하여 넣었으니 보시기 바랍니다.”라고 되어있고 “회원명부 제1회도 발표, 빠진 분은 연락을 주시면 제 2회에 추가 발표하겠습니다”라고 되어있는데 이 별지는 확인되지 않고 제6회부터 제14회차 배본에서는 회원명부는 실리지 않았다. 현재는 제15회차부터 별지가 아닌 책에 직접 수록 게재된 회원명부만이 확인 가능한 상황이다. 내용은 일본 전국 각지를 행정구역(都道府県)별로 회원의 성명을 열거하고 있으며 일본 국내 이외에 조선, 대만, 화태(華太, 가라후토, 사할린), 중국, 만주, 뉴욕 등 해외의 독자도 확인된다. 다만 본 회원명부는 전집을 신청한 회원과는 별도의 명부로 ‘애독자’라고 하여 출판사에 직접 연락을 준 회원만을 대상으로 다시 작성한 듯 보인다. 21) 일본 국내를 제외한 해외의 ‘애독자명부’의 일부를 보면 다음과 같다.

21) 이는 이미 구독하고 있어 즉 회원등록이 되어있는데 다시 이름과 주소를 받아 명부를

【표 8】 소학생전집 애독자 명부의 외국 주재 회원 목록(일부)

제17회차 배본 1928년 10월 상급용 권60『바다의 과학 육지의 과학』 수록 애독자명부22)	
樺太	足立義比呂, 荒川洋子, 惠須取第一小学校, 逢坂保護者会, 神代敏, 小島寅雄, 紺井勝男, 佐藤哲, 佐藤健吉, 笹島道弘, 笹島和典, 沢田健蔵, 酒井敏子, 島田病院, 下川浩, 杉山作太郎, 菅美代治, 鈴木和夫, 高田謙二, 高田友治, 高橋初枝, 田中嘉幸, 多田和夫, 津田善三, 登帆小学校, 土井匡巳, 中野五郎, 中野弘樹, 奈良清, 西弘一, 西世古恒也, 根岸忠作, 馬群潭第一小学校, 平野勇助, 平井翁, 松原慎一郎, 三原良一, 武藤光寿, 村松政, 森和子, 山口未和, 山中西三, 山岸清蔵, 保知孫治, 吉田登, 渡邊断亘
朝鮮	阿部辰男, 阿部雄二, 安部聡, 荒井朝子, 秋吉讓, 秋教仁, 稲葉晋, 稲垣新, 石井敏行, 井岡一男, 永興公立尋高小学校, 奥田倉穂, 大口茂, 大串龜八, 大津節男, 岡田国造, 尾崎龜太郎, 岡村菊重, 乙丑□会, 岡野広吉, 小川一金, 大野真一, 落合寛, 大崎公立小学校, 小野良彦, 織壁敬夫, 大坪達子, 川口文江, 上柳田登志子, 上廻美知子, 川村華子, 金谷礼子, 亀谷敦, 海南公立普通学校, 開慶公立普通学校, 宜谷公立普通学校, 咸興公立尋高学校, 嘉東公立普通学校, 河口健穂, 金子政之助, 河合健吉, 狩野虎雄, 加藤孫一, 川越由太郎, 川原正, 川名淑郎, 乾中公立学校, 韓用洙, 韓希杓, 韓□八, 金庚龍, 金容南, 金熙春, 金洪濟, 金東植, 金山子鎮, 金龍奎, 金能順, 金二坤, 金柄昊, 木村薰, 木村省三, 菊池武雄, 菊岡博, 姜淳玉, 姜喜錫, 鬼頭劍次郎, 北尻豊彦, 郭重達, 義新公立普通学校, 陝川公立普通学校, 喜多尚子, 桑原篤信, 桑原尚子, 桑原鹿吾, 熊本弾正, 久米重朗, 倉元百次郎, 九竜浦公立小学校, 吳喜淳, 吳興道, 嚴泰煥, 玄永翊, 慶山公立普通学校, 慶州公立普通学校, 鴻山尋常小学校, 越智茂太郎, 郡栄一, 小西葛寿男, 古賀猛夫, 近藤寅雄, 小山栄一, 小林喜助, 小簿仙之助, 五石司郎, 小泉則太郎, 小島敏郎, 清水方子, 重岡靖子, 杉原正男, 鈴木正祐, 壯佐公立小学校, 宋奎正, 丹城公立普通学校, 瀆本行久, 地境公立普通学校, 干綿教夫, 陳炳甲, 椎寧式, 土谷雅清, 鄭鶴東, 飛田悦郎, 徳丸泉, 灘井辰夫, 長定惟登, 西村長策, 野田義行, 早川隆一, 馬場春子, 平田繁, 藤井武, 星州公立普通学校, 堀田重孝, 虯名修一, 本田春江, 松田公立普通学校, 宮地司, 宮地安子, 矢野好蔵, 雪山公立普通学校, 吉本喜一郎, 渡辺博
支那	天川悦造, 川村幸一, 黄楚山, 小西竜, 里村敏, 酒見絢子, 田中昌夫, 富村隆二, 中村義男, 中原道雄, 中島雄三, 中野高一, 西村立一, 日本尋常一小学校, 沼川猪之助, 野木喜美, 荻原勇, 伴野大造, 橋本誠三, 東沢閑夫, 前田懸, 益田謙吉, 松尾勝三, 松本健, 宮川秀彦, 三宅淑子, 村井与作, 村井与吉, 村井哲夫, 村上光重, 八幡長助, 山路猶竜, 山崎松太郎, 山本兼雄, 旅順高等女学校

작성하고 있으며 소식지에 학생들이 ‘명부에 이름을 올려주세요’ 라는 문구가 자주 보인다. 이는 점에서 유추할 수 있다.

22) 명부에서 □는 글자가 작고 인쇄상태가 좋지 않아 판독 불가인 글자.

‘애독자명부’의 해외 명부를 보면 대부분이 현지에 있는 일본인이며 중국인이거나 조선인 등의 자국민도 일부 보이며 학교와 같은 공공기관에서도 구독하고 있었음을 확인할 수 있다. 개인이 아닌 공공기관에서 구독하는 경향은 일본 국내의 회원명부에 있어서도 도쿄나 오사카와 같은 대도시와 수도권 지역보다 지방의 경우에 일부 학교의 이름이 보여 경제적인 면에서 구독이 가능한 독자들이 대도시와 수도권에 집중해 있으며 우편으로 연락을 보내야 하는 조건의 ‘애독자명부’이기 때문에 해외의 경우 회원의 일부만 수록되거나 공공기관의 이름이 수록되었을 것이라 추측된다. 조선항목에 수록된 개인회원이나 학교에 대한 특이점은 향후 분석이 좀 더 필요하다고 생각한다. 다만 제17회차 배본 1928년 10월 상급용 권60 『바다의 과학 육지의 과학(海の科学・陸の科学)』의 명부에 수록된 ‘영흥공립심고소학교(永興公立尋高小学校)’의 경우 동아일보 1940년 6월 22일 “書冊 五十余卷을 永興校에 寄贈”이라는 기사에서 『소학생전집』과 관련된 내용을 볼 수 있다.

【포항】 포항읍본정무역상 대정유조(浦項邑本町貿易商大正留造)씨는 지난 六月二十日 소학생전집(小学生全集)五十여권을 영일지방에 유일무이한 사학기관인 영흥학교(私學機關永興學校)에 자진기증(自進寄贈)하였다는데 당교 직원급四百여아동은 그특지에 감격하였으며 이 소식을 들은 일반유지는 씨의 내선일체(內鮮一體)의 대한 교육열에 칭송이 자자하더라.<sup>23)</sup>

영흥학교<sup>24)</sup>는 1928년 당시에 직접 출판사에 소식을 보내 명부에 실렸는데 신문기사와 같이 1940년에도 기증을 받는 등 개인 독자만이 아닌 조선의 학생들도 학교에서 『소학생전집』을 접하고 있었음을 보여주는 예라고 할 수 있다.

23) 네이버 신문 아카이브 동아일보 1940년 2월 22일 기사

24) 영흥학교는 1911년 11월 1일 대한예수교 장로회 포항교회 신도 자녀의 교육을 위해 포항교회 직원 및 유지, 신도들이 회합하여 2개 반의 사설학급을 열었다. 1913년 3월 28일 남문오가 대표로 4년제 사립영흥학교로 설립 인가를 받아 정식 학교가 되었다. 1936년 3월 31일 김용주가 인수하여 설립자 변경 인가를 받았다. 포항영흥초등학교『한국민족문화대백과사전』 <http://encykorea.aks.ac.kr/Article/E0068549>(검색일:2023.01.30)

## 2. 『소학생전집』이 수여한 장학금의 행방

도쿄 아사히신문 1927년 5월15일자 『소학생전집』의 광고에는 전집회원에게 “이 전집을 예약하면 매월 1만8천엔의 장학금을 얻는 특전이 있습니다”라는 전면광고가 실린다. 장학자금의 내용은 1928년부터 3년간 예약한 소학생 중에서 매년 최저 150명을 선발하여 월 10엔씩 일년에 120엔을 장학금으로 우체국을 통해 지불하며 상세한 규정은 목하 문부당국과 상담 중에 있다고 전한다. 장학금 특전이 큰 반향을 일으켜 경쟁사인 아르스사는 이에 대응하고자 당시 문부대신인 미즈치 주조(三土忠造)에게 추천서를 부탁하나 거절당한다. 그러면서 고분사에서 선전하던 추천서나 장학금제도에 대해 미즈치가 전혀 아는 바가 없다는 사실을 듣게 된다. 이에 신문광고를 통해 아르스사는 고분사와 문예춘추사의 기획도용, 추천서위조 등에 대한 의심으로 답변을 요구하고 신용 훼손 방해로 고소하게 된다. 기쿠치는 신문지면을 통해 해명하고자 하지만 결국 “아동 읽을거리 구독 권유에 관한 주의건(兒童讀物講讀方勸誘ニ関シ注意ノ件)”이라는 공문이 문부성으로부터 전국에 통달 되어 큰 타격을 입게 된다.<sup>25)</sup> 아르스사와의 경쟁과 소송전에 초점이 맞추어졌기에 이후 장학금 수여에 대한 내용이 어떻게 진행되었는지에 대해서는 지금까지 조사된 바가 없었다. 이는 『소학생전집』에 대한 연구가 간행 직전의 내용을 중시했던 이유이며 독자들에게 약속했던 ‘장학금수여’가 어떻게 진행되었는지는 『소학생전집』의 소식지를 통해 확인할 수 있었다.

1928년 4월에 간행된 권44 『서양위인전(西洋偉人伝)』에 수록된 소식지에는 다음과 같은 내용으로 ‘장학금수여’에 대한 내용을 전하고 있다.

장학금에 대해서

작년 소학생전집의 회원모집 당시 장학금 제공을 신문에 발표했으나 그 당시의 규정대로는 회원 제군의 사행심을 도발할 우려가 있다는 당국으로부터 주의가 있었습니다. 여러모로 숙고 결과 다음과 같은 규정으로 장학금 제공의 작은 성의를 보이고자 하니 회원 제군도 찬성해 주시기 바랍니다.

장학금은 본 회원 중 비교적 가정이 유복하지 않으나 장래 중학교나 여학교에 입학

25) 中西靖忠(1982) 앞의 책 재인용 참조. 나카니시는 아르스사와 기쿠치 칸의 이상의 사건을 자세히 다루고 있으나 이후 장학금 수여가 어떻게 진행되었는지는 다루지 않고 있다.

할 경우 입학비용의 일조로 증정하고자 합니다. 그러므로 성적이 우수하고 품행이 방정하며 가정이 비교적 유복하지 않은 분께 드리하고자 합니다. 이 자격이 있는 분은 재학 중인 학교의 담당 선생님의 추천서를 첨부하여 신청해 주십시오. 당분간은 앞에서 언급한 추천서를 통해 선고한 후 증정자를 결정하고자 하니 추천서에는 당사자의 가정사정과 성격 등을 될 수 있는 한 자세히 써 주십시오. 금액은 매달 10엔씩 1년간 증정합니다. 인원은 30명 이상 150명까지 하고자 합니다. 소화 3년(1928년)도의 신청기한은 다음 달 5월 31일까지입니다.<sup>26)</sup>

그리고 실제 장학금 수혜자가 선정되었음은 1928년 12월에 간행된 권17 『외국문예동화집(外国文芸童話集)』상권의 소식지에서 확인된다. 기쿠치가 작성한 「장학자금에 대해서」에는 장학금신청이 많지 않았다고 하며 이는 유복한 가정의 학생들이 많기 때문이니 다행이라고 말한다. 그러나 학교 추천을 통한 신청방법은 이미 장학금 증정에 대해 많은 논쟁과 소송전 등이 알려져 있었기 때문에 호응을 얻지 못했던 것으로 추측된다. 기쿠치 칸이 선정한 기준은 아버지가 없는 학생, 우선 형제가 많고 가난한 학생, 외동은 선택하지 않음, 월수입 100엔 이상의 가정은 선택하지 않으며 좀 더 많은 사람들에게 혜택을 주고자 甲-10엔 乙-5엔으로 정했다고 설명한다. 이에 갑 13명, 을 24명의 학생이 선정되는데 이 중에는 "조선 황해도 안악군 명진보통학교 심상과 제4학년 박연관(朝鮮黃海道安岳郡明進普通學校 尋常科第四学年 朴硯觀)"이 유일하게 일본 국내 이외의 학생으로 포함되어 있음이 확인된다.

### 3. 『소학생전집』의 애독자통신란으로 본 독자의 반향

1927년 9월 18일에 간행된 권43 『겐페이성쇠기이야기(源平盛衰記物語)』에는 "소식란은 여러분과 친구가 되기 위해 만든 것으로 이란은 끊임없이 여러분에게 말을 거는 '목소리'입니다. 만일 여러분이 희망하는 것이 있다면 기탄없이 연락을 주세요. 기꺼이 여러분의 의견을 듣고 여러분이 희망하는 것에 대응하고자 합니다. 아무래도 100만에 가까운 회원들이 있어 이 중에는 배본등에 있어서

26) 菊池寛, 「奨学資金について」 권17 『외국문예동화집(外国文芸童話集)』 상권 1928·12. 소식지 장문인 관계로 원문 생략.

혹은 잘못된 부분이 없다고는 할 수 없으니 그때에는 주저없이 통지해주세요. 반드시 만족하실 수 있도록 하겠습니다”<sup>27)</sup> 하고 안내하고 있다. 실제로 “아동만화집 191페이지와 192페이지 삽화는 바뀌는 것이 맞습니다. 205페이지의 친스케 그림이야기 중 첫 번째 그림은 3으로 3그림이 2로 2그림이 1로 바뀌어야 합니다”<sup>28)</sup>와 같은 인쇄상의 오류나 본문 정정에 대한 내용이 실리기도 한다.

오류에 대한 지적보다는 책에 대한 감상을 전하는 내용이 다수인데 아직 글을 읽지 못하는 아이를 대신해 책을 읽어주거나 의견을 전하는 부모의 소식도 보인다.

저는 소학생전집을 벌써 21권 손에 넣었습니다. 이를 하나하나 풀어보면 어느하나 재미없는 것이 없습니다. 고분사가 정말 적은 금액으로 이러한 책을 발매해 주시는 것은 국가를 위해 좋은 일입니다. 저는 일본 전국의 한집도 빠짐없이 어린이를 위해 이 책을 구입해 주기를 바랍니다. 저는 올해 50살입니다. 아이는 소학교를 마쳤으나 주문했습니다. 이것은 손자 증손자를 위해서 놓아둘 것입니다. 반복하지만 아이들을 사랑하는 부모님들을 자신이 좋아하는 술담배를 줄여서라도 이 책을 아이들에게 읽게 해주었으면 합니다.(아이치현 타구치순지로 愛知県 田口春次郎)<sup>29)</sup>

이상의 내용은 자녀가 소학교를 졸업했어도 부모가 구독자가 되어 함께 읽었음을 보여준다. 부모가 술 담배를 줄여 구입해야 한다는 내용은 「소학생전집내용견본」의 선전문구에도 대응한다. 한편 일본 국내만이 아닌 해외에서도 보내오는 경우도 확인된다.

- 『노기장군과 도고원수』 정말 감사합니다. 아버지도 읽고 눈물을 흘리셨습니다. (대만자이 가미무라 무쓰미 台湾嘉義 上村睦) 권72 『로빈슨표류기』 (1927.11)
- 『인류와 생물의 역사』 이 얼마나 아름다운 컬러 인쇄로 가득한 책인지. 그리고

27) おたよりの欄は皆様とお友達になるために設けたもので、此の欄はたえず皆様にお話しかける「声」なのであります。若し皆の御希望がありましたら、どしどしお便り下さい。喜んで皆さまの、御意見をうかがひ、つとめて皆さまの御希望にそうように致します。何分百万近い会員の事ですから、中には配本などの事で、或は間違ひがないとも限りませんから、その節は御遠慮なく御通知下さい。必ず御満足のいく様に致します 権43 『겐페이성쇄기이야기』 1927・9 소식지

28) 권14 『일본문예동화집』 상권 1927・10 소식지

29) 권2 『유년동화집(幼年童話集)』 1928・3 소식지

얼마나 도움이 되는 책인지. 소학생전집 만세 만세. (조선부산 마쓰다 하지메 朝鮮釜山 松田一) 권37 『일본위인전(日本偉人伝)』상권(1927.12)

- 저는 소전(小)술을 우리나라에서 멀고 먼 천진에서 읽고 있습니다. 그리고 앞으로 훌륭해져서 일본을 위해 일하고자 매일 공부하고 있습니다. (중국 천진 다나카 아키오 支那天津 田中昌夫) 권46 『소년입지전·소년소녀미담(少年立志伝・少年少女美談)』(1928.10)
- 저는 벚꽃 명소인 진해에 살고 있습니다. **저희 반에서 두 명만 소학생전집을 구독하고 있습니다.** (조선 아베 사토루 朝鮮 安部聡)  
→ **조선명소의 그림엽서가 예쁘게 있으면 보내주세요 『일본풍경화첩』에 신겼습니다.(기자)** 권60 『바다의 과학·육지의 과학』(1928.10)
- 저는 제 1회 배분부터 애독자입니다. 형제 둘이서 매월 소전이 오는 것을 기대하며 기다립니다. 두 사람의 이름을 회원명부에 올려주세요 (타이페이시 미야노 다메노리 동 다메아키 台北市 宮野為範 同為章) 권71 『발명발견이야기(發明発見物語)』(1929.3)
- 저는 유치원부터 읽고 있습니다. 벌써 20권이나 갖추었습니다. 저는 올해 8살인데 이번 4월부터 2학년이 됩니다. 제 이름을 명부에 실어주세요( 타이완 스스무 아키코 台灣 進鬼子) 권25 『동식물그림책(動植物絵本)』(1929.4)

전집에 실린 내용 애독자통신은 선별해서 올렸던 것이어서 이외에도 중국과 조선 대만에 이르기까지 각지에서 다수의 소식이 출판사로 보내졌을 것이라 추측된다. 1928년 10월에 게재된 조선의 진해에서 보내온 내용을 보면 벚꽃의 명소라하고 있어 이에 대해 편집부는 엽서를 보내주면 『일본풍경화첩(日本風景画帖)』에 넣겠다고 말한다. 30) 그러나 이후 간행된 배분에 『일본풍경화첩』은 없으며 「내용건본」에는 권29 『일본외국풍경화첩(日本外国風景画帖)』이 확인된다. 다만 간행단계에서 초급용 권29 『일본일주여행(日本一周旅行)』(1929.7)와 상급용 권59 『세계일주여행(世界一周旅行)』으로 변경된다. 이 두 책은 지리에 대한 지식을 전하고자 기획된 것이나 초급용으로 외국까지 포함하기에는 대상이 되는 연령층에게 어려울 것이라는 판단으로 초급과 상급에 각각 일본과 외국으로 분리하여 간행되었다. 내용은 일본과 세계의 명소를 중심으로 설명과 삽화가 수록되는데 이 중에는 사할린과 중국 그리고 남양(위임통치구)이 포함되

30) 소식지에서 보내달라던 엽서는 없었는지 간행된 『일본일주여행』에서 확인되지 않는다.

어 있으며 조선의 경우 경성, 금강산, 일지국경(日支国境)압록강이 수록된다.

## V. 맺음말

본 논문은 『소학생전집』의 간행에 있어서 기획 단계에서 발행한 「소학생전집 내용건본」의 내용과 실제 간행에서의 변동사항을 분석하고 간행된 전집의 각 권에 실린 소식지를 통해 『소학생전집』의 수용양상 그리고 독자들의 반향에 대해 알아보았다. 『소학생전집』에 대한 연구가 기획과 간행단계에 집중되었던 만큼 실제 간행양상과 어느 정도의 회원을 대상으로 유통되었는지는 명확히 알려진 바가 없다. 막대한 광고비로 인해 화제가 되었던 기획임에도 오히려 적자인 결과를 낳아 실패한 사업으로 전해질 뿐이다. 『문예춘추70년사(文芸春秋七十年史)』에는 “소학생전집도 실패에 가까웠다. ‘도쿄와 같은 도회지로 충분한 이해가 있는 곳에서는 전집류로 미증유의 성적이었으나 지방에서는 문부성의 훈령이 영향을 주어 매우 나빴다. 그리고 35전의 책인데 6전 8전이라는 송료가 든다. . . . 너무 짠 책을 만드는 것은 생각해 볼 일이다.」(『麹町雑記』1928.8)라고 기쿠치는 솔직히 쓰고 있다.”<sup>31)</sup>라는 내용만 수록되어 있다. 문예춘추사의 70년의 역사에서 『소학생전집』은 언급하고 싶지 않은 역사로 기억되고 이로 인해 간행 이후의 양상에 대한 자료나 연구는 어려웠던 것이다. 다만 ‘애독자 명부’나 소식지에서 말하는 ‘10만 회원’을 통해 일본 국내는 물론 해외 각지에서 구독하고 감상을 전하는 내용을 보면 ‘실패’라는 이미지와는 거리가 있다. 물론 출판사 편집부에서 선정한 애독자 통신이라는 전제가 있으나 회원 중에서도 따로 연락한 사람들만 수록된 ‘애독자 명부’만 보더라도 국내외의 많은 수의 회원들이 『소학생전집』을 애독하고 있었으며 그 내용 면에서도 많은 지지를 받았다는 점은 명백해 보인다. 본 연구는 『소학생전집』의 서지사향과

31) 小学生全集も失敗に近かった。「東京などのような都会地で、充分理解のあるところは、全集物として未曾有の成績だったが、地方などでは、文部省の訓令が、影響をして、非常に悪かった。それから、三十五銭の本で、六銭八銭と云う高い送料がかかる. . . .あまり安い本をこさえるのも、全く考えものである」(『麹町雑記』昭2・8) と菊池は正直に書いている 文芸春秋編(1991)『文芸春秋七十年史』文芸春秋 p.52

간행양상을 파악한다는 기초적인 연구이다. 다만 간행의 초기 단계에 집중되어 있던 『소학생전집』의 연구사에 있어서 반드시 필요한 작업이라 생각하며 이를 바탕으로 『소학생전집』에 수록된 작품들의 성격과 특징 내용분석 등의 구체적인 연구로 이어나가고자 한다.

### 〈참고문헌〉

- 함동주(2015) 「신조사판 엔본 『세계문학전집』의 출판과 서양문학의 대중화」 『일본학보』 104 한국일본학회 pp.325-340
- 紀田順一郎(1992) 『内容見本にみる出版昭和史』本の雑誌社 p.295
- 久米依子(2008) 「〈大衆〉の時代と感情の共同体-子どもに語る自国史」 『日本近代文学』 78 日本近代文学会 pp.259-264
- 中西靖忠(1982) 「菊池寛と児童文学」 『高松短期大学研究紀要』12 高松短期大学 pp. 1-37
- 夏目康子(2020) 「菊池寛・芥川竜之介は『不思議の国のアリス』をどう訳したか:丸山英観訳・柳瀬尚紀訳との比較」 『Otsuma Review』53 大妻女子大学英文学会 pp.29-39
- 藤本恵(2008) 「『小学生全集』と女性の知的労働」 『日本近代文学』78 日本近代文学会 pp. 269-273
- 滑川道夫(1993) 「『日本児童文庫』と『小学生全集』の役割」 『体験的児童文化史』国士社 pp.39-43
- 文芸春秋編(1991) 『文芸春秋七十年史』文芸春秋 p.52
- 宮川健郎(2008) 「『小学生全集』と二十世紀の思想-博覧会と戦争」 『日本近代文学』78 日本近代文学会 pp.264-269
- 山本保(1980) 「昭和初期中学校入試制度改革について:岐阜県の状況」, 『東京大学教育学部教育行政学研究室紀要』1 pp.120-130
- 和田敦彦(2012) 「家庭に図書館を:『小学生全集』がやってきた」 『リテラシー史研究』5 リテラシー史研究会 pp.19-27
- 上田信道(1997) 「『小学生全集内容見本』について」(1) 『児童文学資料研究』68(5월) 「『小学生全集内容見本』について」(2) 『児童文学資料研究』69(8월)  
.https://nob.internet.ne.jp/shiry/shir\_68.html#ueda(검색일:2023.01.30)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

## 〈要旨〉

## 近代日本の児童教養叢書『小学生全集』の刊行様相

趙 恩 鶴

『小学生全集』(全88巻)は、菊池寛の企画・編集によって文芸春秋と興文社が共同で刊行した児童教養叢書である。1920年代、円本ブームの中、子供の読み物として、文学をはじめ科学や音楽、美術、スポーツ、趣味など多方面の内容を収録し、1927年から1929年にかけて刊行された。これまでの研究は、『小学生全集』と同様の企画で同時期に刊行されたアルス社の『日本児童文庫』(全76巻)との宣伝戦や告訴沙汰など出版界の一大事として注目したものが多く、全体の構成や内容についての総体的な研究は十分になされていない。本稿は、『小学生全集』の刊行において企画と宣伝などの初期段階に集中していた先行研究を補うべく、企画から刊行にかけての変更事項や書誌情報から実際の刊行状況の様相を明らかにしようとした。刊行前に配布された『小学生全集内容見本』と実際に刊行された『小学生全集』を比較し、菊池寛と共同編者であった芥川竜之介の死による編著者の変更や中学入試制度の廃止によって別巻の内容が大幅に変更されたことなどを確認した。また、本来、月に初級用1冊・上級用2冊の配本予定だったが、冊数の変更があったり、年末には2度の配本がなされ正月休みを配慮するなどの刊行状況における変更もあきらかにした。なお、各巻の最後に収録された「おたより」と「愛読者通信」などから、読者の様相を把握し、「愛読者名簿」と読者の「おたより」、「奨学金授与者名簿」を分析し、日本国内以外に中国・朝鮮・台湾・アメリカなどの海外での受容と反響を確認した。

<Abstract>

Aspects of the Publication of the liberal Arts series  
“Shogakuseizenshu” in Modern Japan

Cho, Eun-Ae

“Shogakuseizenshu(小学生全集)”(88volumes) is a children's liberal Arts series jointly published by Bungeishunju and Kobunsha, planned and edited by Kan Kikuchi. In the 1920s, during the “one-yen book boom”, it was published from 1927 to 1929 as a children's reading material containing various contents such as literature, science, music, art, sports, and hobbies. Many of the studies on “shogakuseizenshu” focused on the publishing world as a major issue, such as the propaganda battle with Arusu Publishing's “Nihon Jidobunko(日本児童文庫)”, which was published at the same time under the same project, and the lawsuits. There is not enough holistic research on the overall structure and content. This paper clarifies the actual status of publication from the changes from planning to publication and bibliographic information. This compensates for the fact that previous research has focused on the early stages of publication. Comparing “Content sample” distributed before publication with “shogakuseizenshu” actually published, there was a change in the editor and author due to the death of co-editor Ryunosuke Akutagawa. And It was confirmed that the junior high school entrance examination system was abolished and the content of the separate volume was changed significantly. Originally, one book for beginners and two books for advanced students were scheduled to be distributed each month, but there were changes in the number of books, and due to the New Year's holiday, the book was distributed twice at the end of the year. In addition, from the “reader's communication” recorded at the end of each volume, grasped the reader's situation, analyzed the “reader's list”, the reader's “notes”, and the “scholarship recipient list”, outside Japan, confirmed the acceptance and reaction overseas such as China, Korea, Taiwan, and the United States.

【日本學】



## 에도(江戸)의 정원수 가게와 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)의 원예생활\*

김 미 진\*\*

### <目次>

- |                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| I. 머리말 : 원예 도시 에도(江戸)                 | IV. 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)과 원예 |
| II. 에도시대 정원수 가게(植木屋)                  | V. 맺음말                |
| III. 소메이(染井) 정원수 가게 이토 이베에<br>(伊藤伊兵衛) |                       |

Key Words : 園芸(Gardening), 園芸都市(Botanical city), 江戸(Edo), 植木屋  
(Gardener), 曲亭馬琴(Kyokutei Bakin)

### I. 머리말 : 원예 도시 에도(江戸)

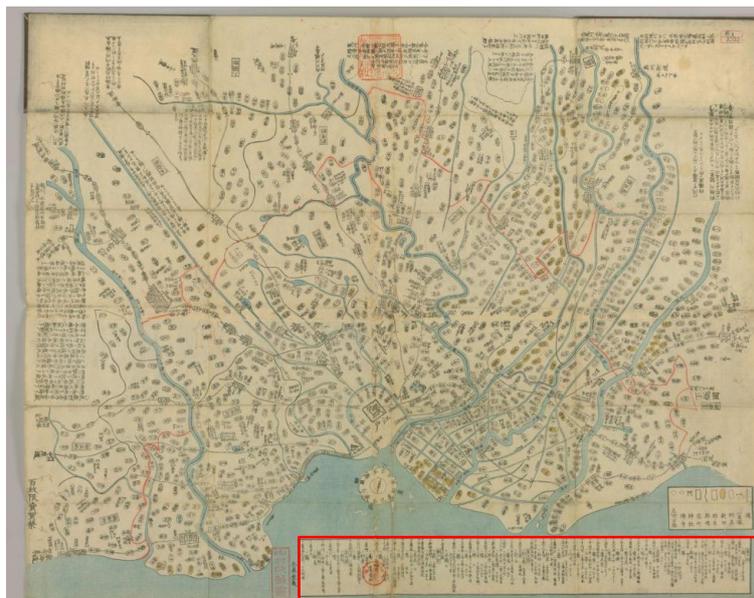
에도(江戸)는 원예 도시라고 해도 과언이 아니다. 쇼군(將軍)으로부터 하사 받은 에도의 다이묘(大名) 저택에는 넓은 정원이 있었으며, 무사는 이 정원에 식물을 심어서 화려하게 가꾸어 뽑내는 것이 권위를 의미하였다. 에도의 약 70%가 다이묘와 무사들의 저택이었으니 에도를 정원의 도시라고도 부를 수 있을 것이다. 이와 같은 원예에 대한 관심은 무사 계급에 한정된 것이 아닌, 서민층으로 확대되면서 에도는 원예 도시로 확고히 자리매김하게 된다.

에도가 원예 도시가 된 것은 초대 쇼군(將軍)인 도쿠가와 이에야스(德川家康), 2대 히데타다(秀忠), 3대 이에미쓰(家光), 8대 쇼군인 요시무네(吉宗)의 식물

\* 이 논문은 2021년 울산대학교 신입교원정착연구비(2021-0454)에 의하여 연구되었음.

\*\* 울산대학교 일본어일본학과 조교수, 일본문화전공

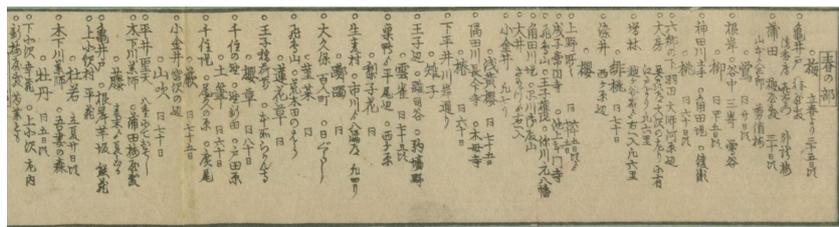
에 대한 관심도 큰 역할을 했다. 특히 초대 쇼군인 이에야스는 도쿠가와 기문의 선조 위패를 모시는 절로 우에노(上野)의 간에이지 절(寛永寺)을 건립하고 나라(奈良)의 요시노야마(吉野山)에서 벚꽃 묘목을 가져와 우에노에 심었다. 8대 쇼군인 요시무네(吉宗)도 ‘교호 개혁(享保の改革)’을 통해서 검약 생활을 강조했으나, 서민들의 불만이 쌓이지 않도록 오지(王子)의 아스카야마(飛鳥山)과 시나가와(品川)의 고텐야마(御殿山) 고가네이(小金井) 등에 벚나무를 심어 벚꽃놀이를 장려했다.<sup>1)</sup> 그 결과 ‘에도의 ○○(장소)는 □□(식물)의 명소’로 알려지게 되면서 시기에 맞춰서 식물을 구경할 수 있는 정보를 담은 지도와 서적이 간행된다.



[그림 1] 『도도하나고요미 메이쇼 안나이(東都花曆名所案内)』

1) 이나가키 히데히로 지음, 조흥민 옮김(2017) 『식물도시 에도의 탄생』 글항아리 pp.12-13, 159-161 참조.

예를 들어, [그림 1]2)은 『도토하나고요미 메이쇼 안나이(東都花曆名所案内)』(성립 년도 미상)로 이는 이전에 성립된 지도인 『도토킨코즈(東都近郊圖)』(1825[文政8]년 성립)를 그대로 옮기면서 오른쪽 하단(사각형 부분)에 꽃구경하기 좋은 명소에 대한 정보를 추가한 것이다. 봄(春の部), 여름(夏の部), 가을(秋の部), 겨울(冬の部), 기타(雑の部)를 기준으로 각 계절을 대표하는 식물의 이름과 명소를 소개하고 있다. [그림2]는 앞서 제시한 『도토하나고요미 메이쇼 안나이』의 식물의 명소 소개에서 ‘봄’을 대표하는 동식물의 명소를 제시한 부분만을 발췌한 것이다. 항목을 기준으로 정리하면 다음과 같다.



[그림 2] 『도토하나고요미 메이쇼 안나이(東都花曆名所案内)』 하단의 ‘봄(春の部)’

매화(梅)-메까치(鶯)-버드나무(柳)-복숭아(桃)-붉은 꽃 복숭아(緋桃)-벗나무(桜)-노랑벗나무(淺黄桜)-동백(椿)-평(雉子)-중다리(雲雀)-매꽃(梨花)-철쭉(躑躅)-제비꽃(菫菜)-무학(蓮花草)-앵초(桜草)-뱀뱀(土筆)-개오동나무(萩)-황매화나무(山吹)-등나무(藤)-제비꽃(杜若)-모란(牡丹)

식물과 새를 입춘을 기준으로 빨리 볼 수 있는 순서로 나열하고 있으며, 각각의 항목의 명소를 소개하고 있다. 매화, 버드나무, 벗나무 항목의 일부를 발췌하면 다음과 같다.

- 매화 입춘으로부터 35일 경  
가메이도(亀井戸), 가바타(蒲田)
- 버드나무 동(同: ‘입춘으로부터’의 의미. 이하 생략) 45일 경

2) 그림1 인용은 일본국회도서관 소장본(청구기호 : 特1-3200)에 의함.

가나가와 제방(神奈川土手), 스미다 제방(角田堤)  
 ○벚나무  
 우에노(上野) 곳곳 동(同) 65일 경부터 75일  
 스미다가와 강(角田川), 오오이(大井), 고가네이(小金井)

이와 같은 식물의 명소를 그리고 있는 작품으로는 니시무라 시게나가(西村重長) 그림 『에혼 에도 미야게(繪本江戸みやげ)』(1753[宝歴3]년 간행), 오카 산초(岡山鳥) 글·하세가와 세탄(長谷川雪旦) 그림 『에도메이쇼 하나고요미(江戸名所花曆)』(1827[文政10]년 간행), 우타가와 히로시게(歌川広重) 그림 『에혼 에도 미야게(繪本江戸土産)』(1846[弘化3]년 간행) 등이 있다.

에도가 원예 도시로 성장할 수 있었던 것은 막부가 조성한 이와 같은 명소만이 아니라, 정원수 가게(植木屋)의 존재를 빼놓을 수 없다. 무사들은 정원수 가게에 식물을 주문해서 자신의 정원에서 식물을 가꾸었으며, 정원이 없는 서민들은 화분을 사서 식물을 감상하며 지냈다. 즉 정원수 가게는 식물을 더욱 가까이서 감상하고 즐기고 싶어 하는 수요층의 요구를 충족시키는 존재였던 것이다.

원예 도시로서의 에도에 대한 종래의 연구는 ‘하나미(花見)’에 초점이 맞춰져 있다. 대표적인 선행연구로는 노성환의 「일본 민속문화의 원형으로서의 하나미(花見)」<sup>3)</sup>와 「조선후기 지식인들이 본 일본의 하나미」<sup>4)</sup>가 있다. 에도시대 정원수 가게에 대한 대표적인 선행 연구로는 히라노 게이(平野恵)<sup>5)</sup> 『19세기 일본 원예 문화-에도와 도쿄, 정원수 가게의 주변-(十九世紀日本の園芸文化-江戸と東京、植木屋の周辺-)』이 있다. 히라노의 저서는 19세기 에도·도쿄의 원예 문화 연구의 선구자적 연구 성과라 할 수 있다. 그 밖에도 우키요에에 그려진 정원수 시장에 대한 히노하라 겐지(日野原健司)의 「우키요에에 그려진 소메이와 정원수 가게(浮世絵に描かれた染井と植木市)」<sup>6)</sup>, 에도시대 원예 시장에 대

3) 노성환(2008) 「일본 민속문화의 원형으로서의 하나미(花見)」 『일본사상』15 한국일본사상학회 pp.89-107

4) 노성환(2018) 「조선후기 지식인들이 본 일본의 하나미」 『일어일문학연구』107-2 한국일어일학회 pp.111-134

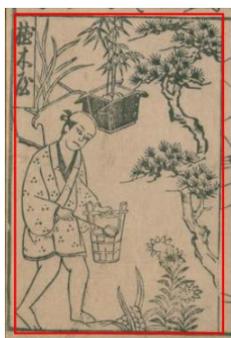
5) 平野恵(2006) 『十九世紀日本の園芸文化-江戸と東京、植木屋の周辺-』 思文閣出版pp.1-499

6) 日野原健司(2015) 「浮世絵に描かれた染井と植木市」 『東京都江戸東京博物館調査報告書』

한 이치카와 히로아키(市川寛明)의 「에도의 원예 보급과 원예 시장의 형성(江戸における園芸の普及と園芸市場の形成)」<sup>7)</sup>이 있다. 본고는 이와 같은 선행연구를 바탕으로 II장에서는 에도시대 정원수 가게가 어떠한 역할을 했는지, III장에서는 18-19세기 에도를 대표하는 소메이(染井) 마을의 이베에(伊兵衛) 정원수 가게에 대해서 고찰을 하고자 한다. 마지막으로 IV장에서는 근세 후기를 대표하는 희작자인 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)의 일기를 통해서 그의 원예 생활을 살펴보고자 한다. 이상의 고찰을 통해서 에도가 동시대 세계 최대의 원예 도시로 성장할 수 있는 배경에는 정원수 가게의 존재가 있었음을 밝히고자 한다.

## II. 에도시대 정원수 가게(植木屋)

근세 초기의 백과사전인 『진린킨모즈이(人倫訓蒙図彙)』권4 「상인부(商人部)」(1690[元禄3]년 간행)에는 정원수 가게(植木屋)에 대해서 다음과 같이 기술하고 있다.



[그림 3] 『진린킨모즈이 (人倫訓蒙図彙)』 정원수 가게(植木屋)



[그림 4] 『진린킨모즈이 (人倫訓蒙図彙)』 잡목 가게(下草や)

정원수 가게, 여러 지방에서 구해온 (가지가: 논자 주) 멋들어지게 굽이진 식물을 화분 등에 심고, 여러 가지 풀과 꽃(草花)을 판매한다. (가게는 교토(京都)의:논자 주) 기타노(北野)에 있다. 오사카(大坂)는 도톤보리(道頓堀), 덴마노텐진(天満天神) 앞, 에도(江戸)는 시타야(下谷), 혼고(本江), 아자부(麻布)에 있다.<sup>8)</sup>

29 『江戸の園芸文化』 公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.33-48

7) 市川寛容(2015) 「江戸における園芸の普及と園芸市場の形成」 『東京都江戸東京博物館調査報告書』29 『江戸の園芸文化』 公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.17-32

8) 본문 인용과 [그림3,4]는 일본국회도서관 소장본(청구기호:寄別13-58)에 의함. 원문은 다

위 인용문에 의하면 정원수 가게에서는 초목을 심은 화분을 판매했음을 알 수 있다. [그림 3]은 『진린킨모즈이』의 ‘정원수 가게’ 항목에 해당하는 삽화로 대나무, 난초, 소나무, 화초 등의 식물에 물을 주고 있는 주인의 모습이 그려져 있다. 이와 같이 근세 초기의 정원수 가게는 주로 화분에 옮겨 심은 식물 혹은 가게 안의 부지에 정원수를 심어서 이를 판매하던 곳이었음을 알 수 있다. 이와는 다르게 [그림 4]와 같이 이케바나(生け花)를 위한 절화(折花)는 ‘잡목 가게(下草や)’에서 별도로 판매되었음을 알 수 있다.<sup>9)</sup>

근세 후기에 간행된 미즈노 다다이키(水野忠暁)의 『소모쿠 긴요슈(草木錦葉集)』권1(1828[文政11]년 성립)에는 정원수 가게를 무엇을 전문으로 취급하는지에 따라서 다음과 같이 분류하고 있다.

- 여러 종류의 정원수 가게
- ①특이한 식물을 판매하는 사람
- ②특산품을 기억하고 판매하는 사람
- ③소나무 수형 중 소송(小松)의 뿌리 올림만 전문으로 키우는 사람
- ④대석대(大石台: 화분, 논자 주)에 심은 정원수를 키우는 사람
- ⑤가지와 줄기를 곡선으로 키우는 사람
- ⑥참죽나무·산다화(山茶花) 등을 키우는 사람
- ⑦매화·벚나무 종류를 키우는 사람
- ⑧땅에 심는 사람
- ⑨정원을 조성 중, 다도의 정원 등을 주로 건축하는 사람
- ⑩돌로 만든 정원의 돌 배치 및 그 밖에 돌을 잘 다루는 사람<sup>10)</sup>

음과 같음. 「植木(うへき)や 諸国(しうこく)にもとめて屈曲(くつきょく)の風流(ふうりう)をなし、石台木等(せきだいぼくとう)に植(うへ)、諸(もろ/\)の草花(くさはな)ともに商(あきなふ)。北野(きたの)にあり。大坂は道頓堀(とうとんぼり)、天満天神(てんまのてんしん)の前(まへ)、江戸は下谷(したや)、本江(ほんかう)、麻布(あざふ)にあり」(『人倫訓蒙図彙』卷四「商人部」)

9) 근세시대 초기 교토에 있었던 정원수 가게에 대한 선행연구로는 飛田範夫(2014) 「江戸時代の京都の花屋」 『いけ花文化研究』2 国際いけ花学会 pp.74-82이 있다. 히다 노리오(飛田範夫)도 17세기 교토(京都)에는 기타노 덴진(北野天神) 근처에 정원수 가게가 많이 모여 있었으며, 꽃나무, 화분을 모두 취급했다는 지적을 하고 있다.

10) 『소모쿠 긴요슈(草木錦葉集)』권1의 인용은 일본국회도서관 소장본(청구기호:特1-974)

근세 후기가 되면 식물에 대한 관심이 더욱 커지게 되고, 흔히 볼 수 있는 식물이 아닌 특이한 식물을 전문으로 판매하는 정원수 가게가 등장하게 된다. 독특한 수형, 변형된 식물에 대한 관심은 기존의 식물을 교배하는 품종개량으로 이어지게 된다. 예를 들어서 1804~30[文化·文政]년에는 나팔꽃에 대한 관심이 매우 높았던 시기였다. 그로부터 40~50년 뒤인 1848~60[嘉永·安政]년에는 정원수 가게들이 종래의 나팔꽃을 교배시켜 새롭게 탄생한 변종 나팔꽃을 선보이고 서민들 사이에서는 변종 나팔꽃 붐이 일게 된다. 그 밖에도 정원수 가게는 식물의 가지와 줄기를 원하는 모양으로 재배하여 판매하는 가게, 대화와 벗나무만을 판매하는 가게, 정원을 조성하는 일을 하는 가게 등으로 전문화, 세분화된다.

이러한 정원수 가게는 에도의 어디에 있었는지를 확인해 보겠다. 앞서 인용한 『진린킨모즈이』의 본문을 다시 살펴보면, 근세 초기 정원수 가게는 오사카의 도톤보리(道頓堀)와 덴마노텐진(天満天神) 앞, 에도의 시타야(下谷), 혼고(本江 : 지금의 本郷, 논자 주), 아자부(麻布)에 있었음을 알 수 있다. 『증보 에도소가노코 메이쇼타이젠(增補江戸惣鹿子名所大全)』 권5의 「諸職諸商人有所」(1690 [元禄3]년 간행)에는 에도의 정원수 가게의 위치에 대해서 다음과 같이 기술하고 있다.

정원수 가게, 시타야(下谷) 이케노바타(池のぼた), 교바시(京橋) 나가사키초(長崎町) 히로코지(広小路), 신메이마에(神明前) 미시마초(三島町), 고마고메(駒込) 소메이(そめ井), 요쓰야(四谷) 덴마초(伝馬町), 그 밖에 여러 곳에 있다고 하는데 모두 파악하지 못했다.<sup>11)</sup>

---

에 의함. 원문은 다음과 같음. 「○植木やに區別(まちノ)ある事 ①奇品(かわりもの)を売買する者 ②産物を覚て売買する者、③松作りといへど小松根上り斗を作る者、④大石台植庭木斗を作るもの、⑤幹を曲あら作り斗をする者、⑥椿・山茶花(さざんくは)等を作る者、⑦梅・桜の類を作る者、⑧地植斗をする者、⑨庭造にも茶の庭を造る者、⑩岩石庭とて岩ぐみ其外石をたくみつかふ者」.

11) 인용은 江戸叢書刊行会(1946)『江戸叢書』권4, 名著刊行회에 의함. 원문은 다음과 같음. 「植木や 下谷池のぼた 京橋長崎町広小路 神明前三島町 駒込そめ井 四谷伝馬町 其外方々に有といへとも不計なり」.

‘시타야 이케노바타(下谷池のぼた)’는 시타야히로코지(下谷広小路) 서쪽의 시노바즈이케(不忍池)의 가장자리로 현재 다이토구(台東区) 우에노공원(上野公園) 우에노 4번지이다. ‘교바시 나가사키초 히로코지(京橋長崎町広小路)’는 주오 구(中央区) 아에스(八重洲) 2번지·교바시 2번지 부근의 화재 대피 장소로서 만들어진 넓은 거리였다. ‘신메이마에 미시마초(神明前三島町)’는 시바 신메이마에 미시마초(芝神明前三島町). 현재 미나토 구(港区) 시바다이몬(芝大門) 1번지의 시바다이신궁(芝大神宮), 조쥬지 절(増上寺) 동측의 신메이 신사(神明神社) 부근이다. 위 세 곳에는 정해진 날짜에 장사를 하는 가설 정원수 가게가 있었던 것으로 추정된다. 고마고메 소메이(駒込そめ井)는 현재 도시마 구(豊島区) 고마고메의 소메이(染井)며, 요쓰야 텐마초(四谷伝馬町)는 현재 신주쿠(新宿) 요쓰야 1-3번지이다. 이 두 곳에서는 상설 정원수 가게가 영업을 했던 것으로 추정되고 있다.<sup>12)</sup>

그 밖에도 가야바초(茅場町) 지센인(智仙院) 야쿠시도(薬師堂) 앞에서 매월 8일과 12일에 가설 정원수 가게 시장이 열렸음을 다음의 『에도메이쇼즈에(江戸名所図会)』권2 (1834-1836[天保5-7]년 간행)를 통해서 알 수 있다.



[그림 5] 『에도메이쇼즈에(江戸名所図会)』권2  
가야바초(茅場町) 야쿠시도(薬師堂) 앞 정원수 시장



[그림 5-①] 그림5의  
사각형 부분 확대

12) 飛田範夫(2009) 『江戸の庭園—将軍から庶民まで』 京都大学学術出版会 pp.1-270 참조.

[그림 5]<sup>13)</sup>는 『에도메이쇼즈에』의 가야바초 야쿠시도 앞 정원수 시장의 모습을 그린 삽화이다. 해당 삽화의 왼쪽 상단에는 「매월 8일, 12일 야쿠시도 길일에 정원수를 판매하는 사람이 많아 참배하러 온 사람들도 몰려들어 시끌시끌하다(毎月八日十二日薬師の縁日には植木を商ふ事夥しく参詣集して賑えり)」라는 설명이 적혀 있다. [그림 5-①]은 야쿠시도 입구 근처에서 모란, 선인장 화분과 붓꽃 모종을 판매하는 사람과 이를 구매하려는 듯 무언가를 묻고 있는 노인의 모습을 확인할 수 있다. 이와 같이 정원수 가게는 에도의 유명한 절이나 신사 앞에서, 특히 많은 사람들이 참배하러 오는 길일에 가설 시장 형태로 운영되었다.

### Ⅲ. 소메이(染井) 정원수 가게 이토 이베에(伊藤伊兵衛)

이토 이베에(伊藤伊兵衛) 집안은 에도 후기 원예의 선구자적인 역할을 한 존재로 높이 평가받고 있다.<sup>14)</sup> 이토 이베에 집안은 ‘이베에(伊兵衛)’라는 이름을 대대로 이어가며 지금의 도시마 구(豊島区) 고마고메(駒込) 소메이(染井)에서 정원수 가게를 운영했다. 에도 원예에 가장 혁신적인 공적을 남긴 것은 겐로쿠·교호(元禄·享保, 1688-1735) 시대에 활약한 4대 이토 이베에(伊藤伊兵衛)인 산노조(三之丞)와 5대인 마사타케(政武) 부자(父子)이다. 아버지인 산노조는 철쭉(躑躅) 재배에 탁월한 능력이 있어 소메이의 정원수 가게를 철쭉의 명소로 널리 알린 인물이다. 저서로는 철쭉과 영산홍(皇月)의 해설서인 『긴슈마쿠리(錦繡枕)』(1692[元禄5]년 간행)와 원예 전반에 대해서 소개한 『가단지킨쇼(花壇地錦抄)』(1695[元禄8]년 간행)등이 있다. 아들인 마사타케는 국화꽃을 개량하는

13) 『에도메이쇼즈에(江戸名所図会)』의 본문과 삽화 인용은 일본국회도서관 소장본(청구기호:124-114)에 의함.

14) 소메이 이베에(染井伊兵衛)에 대해서는 2003년에 도시마 구립 향토자료관(豊島区立郷土資料館)에서 「이토 이베에와 에도 원예(伊藤伊兵衛と江戸園芸)」 전시를 개최했다. 전시 내용은 도록 豊島区立郷土資料館(2003)『伊藤伊兵衛と江戸園芸』豊島区教育委員会 pp.1-20에서 확인 가능함. 그 외 小笠原左衛門尉亮軒(2008)『江戸の花競べ-園芸文化の渡来』青幻舎 pp.40-41 참조.

데 몰두했으며, 풀과 꽃 종류를 총망라한 해설서 『구사바나에젠슈(草花繪前集)』(1699[元祿12]년 간행)와 아버지의 저서 『가단지킨쇼』의 증보판인 『조호지킨쇼(增補地錦抄)』(1710[宝永7]년 간행) 등을 집필했다.



[그림 6] 『에도기리에즈(江戸切絵図)』



[그림 6-①] 그림6의 사각형 부분 확대

고마고메 소메이는 II 장에서도 언급했듯이 상설 정원수 가게가 많이 운영되었던 지역이었다. [그림 6]15)는 『에도 기리에즈(江戸切絵図)』 『스가모 에즈(巢鴨絵図)』(1855[嘉永7]년 성립)로 ‘이 지역 소메이 마을. 정원수 가게 많음(此辺、染井村、植木屋多シ)’이라는 설명을 확인할 수 있다([그림 6-①] 확대 부분 참조).

소메이의 정원수 가게는 에도의 명소를 소개하는 서적에도 자주 등장한다. 대표적인 예로, 기타오 마사시게(北尾政重) 『소메이의 정원수 가게(染井之植木屋)』(1772~81[安永年間] 성립), 우타가와 히로시게(歌川広重) 『에도메이쇼즈에(江戸名勝図会)』 『소메이(染井)』(1789~1801[寛政年間] 성립), 우타가와 히로시게(歌川広重) 『에혼 에도 미야게(絵本江戸土産)』5편(1846[弘化3]년 간행)이 있다. 세 작품을 성립 시기 순서로 살펴보면 다음과 같다.

15) 인용은 일본국회도서관소장자료(청구기호 : 本別9-30)에 의함.

(1) 소메이 정원수 가게(染井之植木屋) \* [그림 7] 참조(논자 주, 이하 동)

꽃 가게 이베에(伊兵衛)라는 자. 철쭉을 많이 심어 꽃이 만개했을 때 귀천을 가리지 않고 사람들이 이곳에 모인다. 그 밖에도 수천수만 종의 풀과 나무가 심겨 있다. 에도 제일의 정원수 가게이다. 신분이 높은 분들의 정원수와 화분 등 대부분 이곳에서 공급하는 일이 많았다. (『소메이의 정원수 가게(染井之植木屋)』)<sup>16)</sup>

(2) 소메이(染井) \* [그림 8] 참조

소메이 마을은 정원수 가게가 많고, 각종 정원수를 만들어 이를 화분에 심어서 판다. 이 땅은 철쭉의 명소로서 그 홍염(紅艷)을 사랑하는 사람들이 모여서 논다. 꽃이 필 때에는 정원 가득 붉은 빛 저녁노을이 비추어 비단 수풀을 이루는 것과 같다. (『에도메이쇼즈에(江戸名勝図会)』)<sup>17)</sup>

(3) 소메이(染井) 정원수 가게(植木屋) \* [그림 9] 참조

이 근처 모두 정원수 가게가 많아서 주변에 기이한 돌과 흔치 않은 나무를 심고 초목의 꽃이 사계절 내내 끊이지 않는다. 특히 요즈음 국화를 만들어 그 솜씨를 겨루는 데에 도시 안의 문인이 구름처럼 모여들어 이를 구경한다. (『에혼 에도 미야게(絵本江戸土産)』)<sup>18)</sup>

16) 인용은 도쿄도립도서관소장자료(청구기호:東京誌料 820-C1)에 의함. 원문은 다음과 같음. 「染井之植木屋 花屋の伊兵衛といふ。つゝじを植しおびたゝし、花のころハ貴賤群集す。其外千草万木かずをつくすとなし。江都第一の植木屋なり。上々方の御庭木・鉢植など、大かた此とこよりさゝぐるこゝ毎日毎日なり」

17) 인용은 <https://collectie.wereldculturen.nl/>, [https://jpssearch.go.jp/item/arc\\_nishikie-RV\\_2552\\_9](https://jpssearch.go.jp/item/arc_nishikie-RV_2552_9)에 의함. (검색일 : 2023.01.15)

18) 인용은 ARC古典籍ポータルデータベース(請求記号 : Ebi0526.05)에 의함.



[그림 7] 「染井之植木屋」



[그림 8] 『江戸名所図会』



[그림 9] 『繪本江戸土産』

[그림 7]은 소메이 이베에 정원수 가게의 외부 모습을 그린 이른 시기의 우키요에이다. 인용문(1)의 밑줄에서도 기술하고 있듯이, 당시 소메이 이베에 정원수 가게는 철쭉의 명소로 유명했음을 알 수 있다. [그림 7]을 통해서 소메이 이베에 가게의 입구의 모습, 가게 내부의 화분과 모종 재배, 이를 구경하러 온 무사들의

모습을 엿볼 수 있다. [그림 7]은 기타오 마사시게의 제자인 기타오 마사미(北尾政美)의 『에혼 에도자쿠라(絵本江戸桜)』(1803[享和3]년 간행)에 채수록된다.

인용문(2)에서도 소메이 마을을 정원수 가게가 많은 곳으로 소개하면서 밑줄 부분과 같이 철쭉의 명소로도 소개되었음을 확인할 수 있다. [그림 8]에서는 [그림 7]보다 철쭉을 강조해서 그리고 있으며, 이를 구경하러 온 사람들의 모습을 세밀하게 묘사하고 있다.

인용문(3)에서도 앞서 살펴본 소메이 이베이에 대한 설명과 거의 유사한 내용을 기술하고 있으나, 국화의 명소로 소개하고 있음이 다르다. 앞서 설명했듯이 4대 이토 이베에는 철쭉 재배에 심혈을 기울였으나, 5대는 국화 개량에 몰두했기 때문에 이것이 반영된 것이라고 볼 수 있다. [그림 9]는 조감적 투시 기법으로 그리고 있어 소메이에 있는 정원수 가게의 전체적인 모습을 확인할 수 있다.

소메이의 이베에 정원수 가게는 대대로 앞서 살펴본 것과 같은 외관을 유지하며 철쭉 혹은 국화, 그 외의 다양한 식물을 재배하여 판매하였다. 5대 소메이 이베에는 우키요에 화가인 곤도 스케고로(近藤助五郎)에게 가게의 내부 모습을 그려달라고 제작을 의뢰한다. [그림 10]<sup>19)</sup> 「부코 소메이 혼코켄 기리시마노즈(武江染井 翻紅軒霧島之図)」(18세기 전반 성립)는 5대 소메이 이베에 운영 초기의 가게의 모습이다. 해당 그림에 대해서는 도시마 구 고마고메 도서관(豊島区駒込図書館) 사쿠라 디지털 컬렉션(さくらデジタルコレクション)<sup>20)</sup>과 아키야마 노부이치(秋山伸一) 「植木屋の庭空間をあるく」<sup>21)</sup>에서 자세히 소개하고 있다. 선행 연구를 참조하여 18세기 소메이 이베에 정원수 가게 내부의 모습을 살펴보겠다.

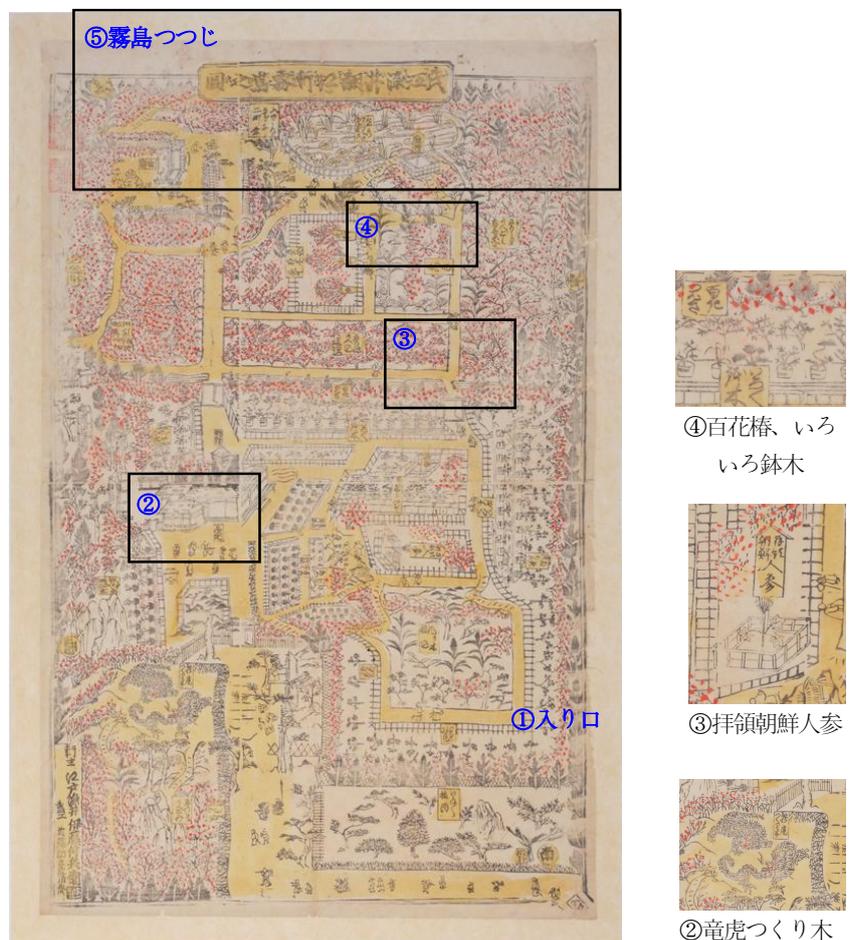
다음 페이지의 [그림 10]의 ①은 소메이 이베에 정원수 가게의 입구이다. 입구를 통과하여 길을 따라서 걸어가면 여러 가지 식물을 재배하는 곳이 나오는데, 가지를 원하는 모양으로 잡아서 ②용과 호랑이 모양으로 키운 나무(竜虎つくり木)도 있었음을 확인할 수 있다. ③은 조선 인삼을 재배하던 곳이고, ④는 동백나무와 여러 식물의 화분이 있으며, ⑤기리시마 철쭉(霧島躑躅)을 재배하

19) 도시마 구 고마고메 도서관(豊島区駒込図書館) 사쿠라 디지털 컬렉션(さくらデジタルコレクション) 소장자료(청구기호: mp200200)

20) <https://adeac.jp/toshima-komagome-lib/viewer/mp200200/takee/>(검색일 : 2023.01.18)

21) 秋山伸一(2015) 「植木屋の庭空間をあるく」 『東京都江戸東京博物館調査報告書』29 「江戸の園芸文化」 公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.5-15

던 곳이 넓은 면적을 차지하고 있었다. 이와 같이 소메이 이베에 정원수 가게는 화분뿐만 아니라, 진귀한 식물을 볼 수 있는 곳이었음을 알 수 있다. 당시 소메이 이베에 정원수 가게는 식물을 구매하기 위해서만이 아니라, 식물에 관심이 있는 많은 사람들이 찾는 핫 스팟(hot spot)이었음을 유추할 수 있다.



[그림 10] 「부코 소메이 혼코켄 기리시마노즈  
(武江染井翻蘇軒霧島之図)」

#### IV. 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)과 원예

근세 후기 활약한 인기 희작자인 교쿠테이 바킨은 식물 애호가이기도 했다. 그는 나팔꽃에 많은 관심을 가지고 있었으며, 자신의 고증 수필인 『도엔 소설(兎園小説)』에서 품종 개량된 나팔꽃에 대해 기술하고 있으며, 1815년에 에도 아사쿠사(淺草)의 다이엔지 절(大門寺)에서 개최한 나팔꽃 전시회 안내문을 집필하기도 했다.<sup>22)</sup> 그의 일기『바킨일기(馬琴日記)』에는 바킨이 평소에 정원을 가꾸는 것에 심혈을 기울였음을 알 수 있는 기사가 다수 확인된다. 먼저 바킨이 그의 아들인 소하쿠(宗伯)를 데리고 자주 정원수 가게를 방문했음을 알 수 있는 기사를 일부 소개하겠다.

(1) 『馬琴日記』1827<文政10>년 2월 20일

소하쿠(宗伯)를 데리고 우시고메 고몬(牛込御門) 밖으로 식목을 보러 감. 복숭아 대 아홉 그루 사들이고 가구라자카(神樂坂)에서 식사를 하고 저녁 6시경 귀가.<sup>23)</sup>

(2) 『馬琴日記』1827<文政10>년 5월 29일

저녁에 오하쿠(お百)가 소하쿠를 데리고 우에노 히로코지(上野広小路)로 식목을 보러 감. 수세미 모종(へちま苗) 및 염주를 사고 어둑어둑할 무렵에 귀가함.<sup>24)</sup>

(3) 『馬琴日記』1828<文政11>년 정월 말일

7시 넘어 가군(家君), 가모군(家母君)을 모시고 소하쿠도 함께 집을 나섬. 우에노 히로코지에 식목을 보러 감. 주문한 식목은 없음. 어둑어둑할 무렵에 귀가함.<sup>25)</sup>

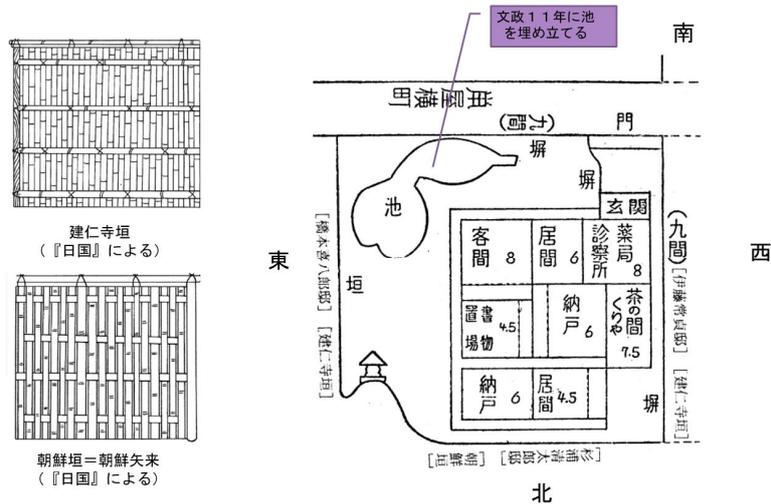
22) 바킨의 나팔꽃에 대한 관심은 佐藤梧(2022)「曲亭馬琴「朝顔花合」報条」『実践国文学』101 実践女子大学文学部 pp.31-41에서 자세히 소개하고 있다.

23) 輝峻康隆の他校訂(1973)『馬琴日記』第一卷 中央公論社 p.52. 원문은 다음과 같음.「夕七に過より、宗伯同道にて、牛込御門外へうへ木見物に罷越。桃台九本かひ取、神樂坂にて食事いたし、暮六時比歸宅」

24) 上掲書 pp.113-114. 원문은 다음과 같음.「夕方、お百、宗伯同道にて、上野広小路へ植木見物に罷越。へちま苗并に珠数かひ取、薄暮歸也」

25) 上掲書 p.261. 원문은 다음과 같음.「七時過、家君、家母君御同道、宗伯御供にて出宅、上野広小路へ植木見物に罷越。注文之植木無之。薄暮御歸宅」

상기 인용문(1)에서는 1827년 2월 20일에 아들을 데리고 우시고메 고몬 밖에 있는 정원수 가게를 방문하여 복숭아 나무 아홉 그루를 구매했음을 알 수 있다. 그리고 인용문(2)를 통해서 동년 5월 29일에는 우에노 히로코지를 방문해 수세미 모종을, 인용문(3)을 통해서 이듬해 정월 말일에는 어머니도 함께 우에노 히로코지의 정원수 가게를 방문했으나 주문한 식물이 없어서 그냥 돌아왔음을 알 수 있다. 이처럼 바킨은 수시로 에도의 정원수 가게를 방문하여 다양한 식물을 구매했는데 이는 모두 그의 저택 내 정원을 꾸미기 위한 것이었다.



[그림 11] 간다묘진(神田明神) 아래 바킨 저택 배치도

[그림 11]은 간다묘진(神田明神)의 바킨 저택 배치도이다.<sup>26)</sup> 바킨의 저택에는 상당한 규모의 정원이 있었으며 그곳에는 연못도 있었다. 그러나 바킨은 더 많은 식물을 심기 위해 1828[文政11]년에 연못을 없애는 공사를 한다. 바킨 저택의 동·서쪽에는 겐니지 절 울타리(建仁寺垣)가, 북쪽에는 조선 울타리(朝鮮垣)는

26) 바킨 저택 배치도는 丸山宏(1997)『滝沢馬琴の庭造りと家相』『ランドスケープ研究』60-5 日本造園学会 p.400에서 인용함, 겐닌지 절 울타리(建仁寺垣)와 조선 울타리(朝鮮垣)는 논자가 이해를 돕기 위해 추가한 것임.

鮮垣)가 둘러쳐져 있었다. 바로 이 정원에 있는 식물과 자택 주변을 둘러싼 울타리는 고마고메도(駒込堂)의 정원수 가게의 지자에몬(植木屋治左衛門)에 의해 관리되었음을 『바킨일기』를 통해 확인할 수 있다. 관련된 기사 일부를 인용하면 다음과 같다.

(1) 『馬琴日記』1826[文政9]년 11월 24일, 정원수 가게 긴지(植木屋金次)가 방문  
오늘 아침 4시 넘어 정원수 가게 긴지가 옴. 얘기해 둔 식물을 지참함. [할주: 나무 끝, 우듬지(楨)잎] 이를 심고, 그밖에 큰 나무 끝·산다화(山茶花)·중간 크기의 배(中梨子)·중간 크기의 분고 지방의 매화(中豊後梅)·작은 크기의 배(小梨子)를 옮겨 심고, 무코우야마(向山) 청소 등을 하고 하루를 마침.<sup>27)</sup>

(2) 『馬琴日記』1827[文政10]년 5월 14일, 정원수 가게 지자에몬(植木屋治左衛門), 긴지로(金次郎) 형제 방문  
점심 전 즈음에 지자에몬 형제, 옆집 하시모토(하시모토 기하치로: 논자 주)에게 나무 손질하러 가 있다가 우리 집에 잠시 들러 지난 겨울 소식이 없었던 것을 얘기하겠다고 오하쿠에게 말해주었다. 귀갓길에 들르겠다고 하여 내가 직접 긴지에게 말을 하려 했는데 비가 내려 점심시간에 돌아가서 오지 않았다.<sup>28)</sup>

(3) 『馬琴日記』1827[文政10]년 9월 17일~21일,  
①17일 오전 10시 전에 정원수 가게 지자에몬과 긴지로가 옴. 지자에몬 직접 스지카이(筋違) 밖의 곤푸쿠야(今福屋)에 대나무를 주문하러 가고, 머지않아 사람이 두 번에 걸쳐 다섯 묶음을 운반하여 대금을 지불하였다. 현관 앞 서쪽 경계의 겐닌지 절(建仁寺)에 대나무 울타리를 마련하고자 긴지는 하루종일 거기에 매달렸는데 아직 대나무가 마련되지 못한다. 지자에몬은 문 오른쪽의 두 그루 소나무의 잎을 청소하였고, 황혼녘이

27) 輝峻康隆の他校訂 前掲書 p.20. 원문은 다음과 같음. 「今朝四時過、植木屋金次来る。申付置候うゑ木持参〔割注：楨也〕。右うゑつけ、その外、大楨・山茶花(さざんか=ツバキ科：筆者注)・中梨子・中豊後梅・小梨子等うゑかへ、向山さうち等にて、終日也」  
28) 上掲書 p.106. 원문은 다음과 같음. 「昼前ごろにや、治右(ママ)衛門兄弟、隣家橋本(橋本喜八郎：筆者注)へかり込仕事ニ罷越候間、此方へ立寄、旧冬不沙汰の口上申、お百へ申おき候よし。帰りニ立より候様、予、直ニ金次へ申付候処、雨天ニ付、昼休ニてかへり候故、不来。橋本、かしの木枝ヲおろしふかせ、丸物ニいたし候よしにて、過半枝ヲおろし畢。其段、治左衛門此方へ申候よし也」

지나고 두 사람은 돌아갔다.<sup>29)</sup>

②18일 정원수 가게 지자에몬과 긴지로가 오전 10시 전에 왔다. 오늘 겐닌지 절의 울타리를 두 사람이 만들었다. 중문 안쪽의 울타리는 개가 망가뜨려서 수리했다. <sup>30)</sup>

③19일 아침 8시반에 정원수 가게 지자에몬이 읍. 긴지를 외근 보냈다. 오늘은 혼자서 앞 정원의 흑송 한 그루·동쪽 문 옆에 있는 흑송 한 그루·연못가의 작은 소나무 세 그루를 심고 저녁에 돌아갔다.<sup>31)</sup>

『바킨 일기』의 1826[文政9]년부터 1834[天保5]년까지 기록에 고마고메도(駒込堂)의 정원수 가게(植木屋) 지자에몬(治左衛門), 그의 남동생인 긴지로(金次郎, 또는 ‘긴지’), 사위인 데쓰(鉄)가 바킨 정원을 관리하기 위해 그의 저택에 방문했다는 기록이 자주 등장한다. 인용문(1)은 1826년 11월 24일에 바킨이 주문해 놓은 식목을 가지고 정원수 가게 긴지가 방문했다는 기록이다. 이 때 바킨 정원에 산다화(山茶花)·중간 크기의 배(中梨子)·중간 크기의 분고 지방의 매화(中豊後梅)·작은 크기의 배(小梨子) 등 큰 나무를 옮겨 심었음을 알 수 있다. 인용문(2)는 이듬해 5월 14일에 지자에몬과 긴지로 형제가 바킨 저택의 옆집인 하시모토 기하치로(橋本喜八郎)의 집을 방문했다가 오랜만에 바킨 저택에도 들렀음을 알 수 있다. 인용문(3)의 ①②는 바킨 저택의 동서쪽을 둘러싼 겐닌지 절 대나무 울타리를 수리하러 온 지자에몬 형제의 모습을 그리고 있다. 인용문 ③을 통해서도 바킨 저택의 연못을 흙으로 메우기 전에 소나무 세 그루를 심었음을, 그리고 정원과 동쪽 문 근처에는 흑송을 심었음을 알 수 있다.

29) 上掲書 pp.190-191. 원문은 다음과 같음. 「十七日 朝四時前、植木屋治左衛門・金治郎来ル。治左衛門直ニ筋違外今福屋へ竹を注文ニ赴、無程、人足兩度ニ五束運び、代金払遣ス。右玄関前西境建仁寺垣竹拵、金次終日取掛り、未竹拵終。治左衛門ハ門之右式本之松葉掃除、薄暮終、兩人歸去」

30) 上掲書 p.191. 원문은 다음과 같음. 「十八日 植木屋治左衛門・金治郎、四時前来ル。今日、西境建仁寺垣、兩人ニ而、取付之。中門之内垣は犬之破候所、繕之。中貫式丁、相撲屋ニて求之」

31) 上掲書 p.192. 원문은 다음과 같음. 「十九日 朝五半時、植木屋治左衛門来ル。無扨義有之、金治を外へ遣し候由。今日は壺人ニ而、表庭中之黒松一本・東之門脇ニ有之黒松壺本・池之淵小松三本、拵之、薄暮歸去」

## V. 맺음말

이상 18-19세기 원예 도시로서의 에도에 대해서 고찰하였다. 지금도 일본에는 우에노(上野)는 벚꽃(桜), 가메이도(亀戸)는 등나무(藤) 등과 같이 지명과 식물을 연상작용으로 떠올리는 경우가 많다. 이와 같은 식물의 명소는 막부 주도 아래 에도시대부터 조성되었다. 하지만 에도라는 도시를 그린 우키요에(浮世絵)나 작품의 삽화(挿絵)를 보면 곳곳에 다양한 식물이 그려져 있는 경우가 많다. 즉 특정 식물을 감상하기 위해서 막부가 조성한 정해진 명소에 가는 것이 아닌, 에도라는 도시에 거주하는 사람들은 신분과 상관없이 자신이 좋아하는 식물을 다양한 방식으로 곁에 두고 감상했다. 이것을 가능케 한 것은 정원수 가게(植木屋)가 있었기 때문이다.

본고의 II장에서는 근세 초기와 후기의 정원수 가게의 역할에 대해서 고찰하였다. 근세 초기에는 정원수 재배, 화분 재배 등 다양한 일을 담당했지만, 후기로 가면 정원수 가게마다 철쭉, 국화, 동백, 벚꽃, 매화 등 특정 식물을 재배하거나, 정원 조성, 분재 등 세분화, 전문화되었음을 지적하였다. III장에서는 18-19세기 에도 최대의 정원수 가게인 소메이 이베에에 초점을 맞춰 가게의 외부와 내부를 자세히 살펴보았다. 소메이 이베에는 철쭉과 국화의 품종 개량을 전문적으로 한 가게로 가게의 내부를 그린 우키요에를 통해서 이와 같은 식물뿐만 아니라, 조선 인삼까지 재배되었음을 확인할 수 있었다. IV장에서는 이와 같은 정원수 가게와 시장을 애용하며 정원 가꾸기에 몰두한 근세 후기 인기 희작자 교쿠테이 바킨에 대해서 고찰했다. 바킨이 남긴 일기를 통해서 그의 원예에 대한 열의와 저택의 정원에 어떠한 식물이 심겨 있었는지를 확인할 수 있었다.

18-19세기 정원수 가게는 다양한 품종을 향유하고 싶은 많은 사람들의 요구를 충족시키기 위해 품종 개량에 온 힘을 쏟게 된다. 근세 후기 지식인들은 관심 대상이 비슷한 사람들과 100년 전의 잊혀진 과거의 문화나 풍습, 독특한 문물 등을 서적을 통해서 연구하고 그 결과를 서로 공유하는 서화회(書畫會)가 활발히 열렸다. 그들에게 식물도 이와 같은 호기심의 대상이었다. 18-19세기의 식물 개량과 지식인의 식물 고증은 향후 연구의 과제로 삼고자 한다.

### 〈참고문헌〉

#### 〈논문 및 단행본〉

- 노성환(2008) 「일본 민속문화의 원형으로서의 하나미(花見)」『일본사상』15 한국일본사상학회 pp.89-107
- 노성환(2018) 「조선 후기 지식인들이 본 일본의 하나미」『일어일문학연구』107-2 한국일어일문학회 pp.111-134
- 輝峻康隆の他校訂(1973) 『馬琴日記』第一卷 中央公論社 p.20, p.52, p.106, pp.113-114, pp.190-192, p.261
- 豊島区立郷土資料館(2003) 『伊藤伊兵衛と江戸園芸』豊島区教育委員会 pp.1-20
- 丸山宏(1997) 「滝沢馬琴の庭造りと家相」『ランドスケープ研究』60-5 日本造園学会 p.400
- 佐藤悟(2022) 「曲亭馬琴「朝顔花合」報条」『実践国文学』101 実践女子大学文学部 pp.31-41
- 秋山伸一(2015) 「植木屋の庭空間をあるく」『東京都江戸東京博物館調査報告書』29「江戸の園芸文化」公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.5-15
- 市川寛容(2015) 「江戸における園芸の普及と園芸市場の形成」『東京都江戸東京博物館調査報告書』29「江戸の園芸文化」公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.17-32
- 이나가키 히데히로 지음, 조흥민 옮김(2017) 『식물도시 에도의 탄생』글항아리 pp.12-13, 159-161
- 小笠原左衛門尉亮軒(2008) 『江戸の花競べ-園芸文化の渡来』青幻舎 pp.40-41
- 飛田範夫(2014) 「江戸時代の京都の花屋」『いけ花文化研究』2 国際いけ花学会 pp.74-82
- 飛田範夫(2009) 『江戸の庭園-将軍から庶民まで』京都大学学術出版会 pp.1-270
- 平野恵(2006) 『十九世紀日本の園芸文化-江戸と東京、植木屋の周辺-』思文閣出版 pp.1-499
- 日野原健司(2015) 「浮世絵に描かれた染井と植木市」『東京都江戸東京博物館調査報告書』29「江戸の園芸文化」公益財団法人東京都歴史文化財団 pp.33-48

#### 〈원본자료〉

- [그림1,2] 『도토하나고요미 메이쇼 안나이(東都花曆名所案内)』일본국회도서관 소장본 (청구기호: 特1-3200)
- [그림3,4] 『진린킨모즈이(人倫訓蒙図彙)』권4 「상인부(商人部)」일본국회도서관 소장본 (청구기호: 寄別13-58)

에도(江戸)의 정원수 가게와 교쿠테이 바킨(曲亭馬琴)의 원예생활 ..... 김미진...199

- [그림5] 『에도메이쇼즈에(江戸名所図会)』일본국회도서관 소장본(청구기호:124-114)  
[그림6] 『에도 기리에즈(江戸切絵図)』『스가모 에즈(巣鴨絵図)』일본국회도서관 소장본  
(청구기 : 本別9-30)  
[그림7] 기타오 마사시게(北尾政重)『소메이의 정원수 가게(染井之植木屋)』도쿄도립도  
서관소장자료(청구기호:東京誌料 820-C1)  
[그림8] 우타가와 히로시게(歌川広重)『에도메이쇼즈에(江戸名勝図会)』『소메이(染井)』  
(1789~1801[寛政年間] 성립) <https://collectie.wereldculture.nl/>, [https://jpsearch.g.o.jp/item/arc\\_nishikie-RV\\_2552\\_9](https://jpsearch.g.o.jp/item/arc_nishikie-RV_2552_9) (검색일 : 2023.01.15)  
[그림9] 우타가와 히로시게(歌川広重)『에혼 에도 미야게(絵本江戸土産)』5편 ARC古典  
籍ポータルデータベース(청구기호 : Ebi0526.05)  
[그림10] 『부코 소메이 혼코켄 기리시마노즈(武江染井翻藤軒霧島之図)』도시마 구 고마  
고메 도서관(豊島区駒込図書館) 사쿠라 디지털 컬렉션(さくらデジタルコレ  
クション) 소장자료(청구기호: mp200200)  
『소모쿠 긴요슈(草木錦葉集)』권1, 일본국회도서관 소장본(청구기호:特1-974)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

<要旨>

江戸の植木屋と曲亭馬琴の園芸生活

金美真

江戸は園芸都市といっても過言ではない。将軍から賜った江戸の大名宅には広い庭園があり、武士はこの庭園に植物を植えて華やかに飾ることが権威を示すものであった。また、こうした園芸への関心は武士の階級に限られたのではなく庶民層にまで広まって、江戸は園芸都市として確固たる座を占めた。

江戸が園芸都市として成長できたのは、幕府が造成した名所のほかに、植木屋の存在をはずせない。武士たちは植木屋に植物を注文した後、自らの庭園で植物を育てたのであり、庭園を持っていない庶民たちは植木鉢を買って植物を鑑賞した。即ち、植木屋は植物をより近くで鑑賞して楽しむことを望む需要層の要求を充足する存在であったのである。

本稿では、近世初期と近世後期の植木屋の役割について考察した。近世初期には、植木の栽培、植木鉢の栽培など、様々な事を担当していたが、後期になるにつれ植木屋ごとにつつじ、菊、椿、桜、梅花などの特定した植物を栽培したり、庭園の造成や盆栽など、細分化・専門化したことを指摘した。そして18～19世紀の江戸最大の植木屋である染井伊兵衛に注目し、お店の外部と内部を詳細に比べてみた。染井伊兵衛はつつじと菊の品種改良を専門的に行った店であって、その内部を描いた浮世絵を通じて、このような植物のみならず朝鮮の人参まで栽培していたことが分かった。さらにこうした植木屋と市場を愛用しながら庭園に尽くした、近世後期の人気戯作者である曲亭馬琴について考察した。馬琴が残した日記を通して、彼の園芸に関する熱意、それから自宅の庭園にどのような植物が植えられているのかを確認することができた。

〈Abstract〉

The Gardening Life of The Gardener in Edo and Kyokutei Bakin

Kim, Mi-Jin

It is no exaggeration to say that Edo is a botanical city. The daimyo's house in Edo, which was given to him by the shogun, had a large garden, and the samurai's authority was to plant plants and decorate them with splendor. In addition, this interest in gardening was not limited to the samurai class, but spread to the common people, and Edo took a firm position as a botanical city.

Edo was able to grow into a botanical city, except for the famous places created by the shogunate, and the existence of plant shops cannot be excluded. The samurai ordered plants from the gardener and grew them in their own garden, and ordinary people who did not have the garden bought flower pots to appreciate the plants. In other words, the gardener satisfies the demand group's requirement to appreciate and enjoy plants closer.

In this article, we examined the role of the gardener in the early and late modern times. In the early modern era, he was in charge of cultivating plants and potting plants, but in the latter period, he pointed out that each gardener cultivated certain plants such as azaleas, chrysanthemums, camellia, cherry blossoms, and plum blossoms. Then, we looked at Somei Ibe, the largest gardener in Edo in the 18th and 19th centuries, and compared the outside and inside of the shop in detail. Somei Ibe specialized in improving the variety of azaleas and chrysanthemums, and through Ukiyoe depicting the interior of the shop, it was found that not only such plants but also ginseng were grown. Furthermore, we looked at Kyokutei Bakin, a popular writer of the late modern era who devoted himself to the garden while loving these plant shops and markets. Through Bakin's diary, I could see his enthusiasm for gardening and what kind of plants were planted in his garden.

## 자위대의 연화(軟化) 지향과 제국 일본과의 연속성\*

— 자위대 내부의 성폭행 문제를 축(軸)으로 —

노병호\*\*

### <目次>

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| I. 머리말                  | IV. 자위대 내 성폭행에 대한 두 시선 |
| II. 여성자위관 채용에 적극적인 자위대  | V. 맺음말                 |
| III. 끊임 줄 모르는 자위대 내 성폭행 |                        |

Key Words : 自衛隊(JSDF), セックハラ(sexual harassment), 自衛隊のソフト化(softening JSDF), 小西誠(Konishi Makoto), 佐藤文香(Sato Fumika)

## I. 머리말

그토록 느렸던 국방부 시계를 또는 입영 전·후 시간과 세월을 사람들은 공평하게 그리고 소리없이 타고간다. 따라서 한국의 병영 내부의 사정은 이제는 전언을 통해서 들을 수 있을 뿐이다. 물론 병역의무를 이행한 사람, 혹은 직업군인으로서 병영의 경험이 있는 병사들(남녀불문, 병·하사관·장교 불문)이라면 아련한 체험으로,

하지만 대일본제국의 괴뢰정권 괴뢰군인 만주국의 군부 출신 한국인이 해방 이후 한국군의 초석을 다졌으며,<sup>1)</sup> 그 한국인들은 일본의 군사문화를 탈피하지

\* 이 논문은 2018년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구입니다. (NRF-2018S1A5A2A03038605)

\*\* 한국외대 일본연구소 초빙연구원, 일본 근현대 정치사상사 전공.

1) 飯倉江里衣(2021) 『満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史：日本植民地下の軍事経験と韓

못해 해방 이후 한국군의 병영문화는, 개그의 소재로서는 재밌었는지 몰라도, 경험자들에게는 썩 좋은 기억은 아닐 것이다. 전역 후 오랜 동안 술자리 석상에서 군대에 관한 경험이 상투적인 안주라는 점이 오히려 반증하는 것처럼.

한국군이 일본발 병영문화를 수입했는지 아닌지, 이를 토론의 주제로 삼아 논하더라도 끝이 없을 것 같다. 하지만 전전 일본의 군대 경험자, 병영생활 체험자들은 거의 좋은 추억으로 그 시기를 말하지 않는다.<sup>2)</sup> 인기 없는 흑백영화처럼 그 어떤 의미도 없이 분주한 행동만이 반복되는 우울하며, 회색빛 폭력이 난무하는 풍경<sup>3)</sup>은 전전 일본의 내무반, 병영생활을 그 어떤 말보다 잘 표현하는 것 같다.

그런데 패전 후 80년을 맞이하는 2023년 2월 현재 그 장면이 다른 모습으로 재현되고 있다면, 혹은 재현을 넘는 超재연적 상황이라면 이를 주목해야 하고 알아야 한다. 그 소문의 진상을 찾아서, 그 현장을 스케치하고 이를 여러 각도로 검토하려는 시도는 앓을 통한 극복에 성공하지 못할지라도, 해결해야 할 속제로서 지속적으로 우리를 자극할 것이기 때문이다.

요컨대 자위대 내부의 성폭력은 제국주의 시대 일본군 문화의 연속인가? 혹은 군대라면 응당 발생하는 일인가? 또는 왜 발생하게 되는 것일까? 페미니즘은 어디에 와 있는가? 이러한 자문(自問)에 대한 간접적인 이해가 필요한 시기라고 생각된다.

## II. 여성 자위관 채용에 적극적인 자위대

전범국가라서 군대를 보유하지 못한다는 헌법상의 제약으로 인해 ‘자위대’라는 기형적인 이름을 내걸고 군대라는 실질을 숨겨온 일본정부가 최근 여성 자위관 채용에 무척 힘을 쏟고 있다.

2022년 일본의 방위백서는 여성의 활약 증진을 자위대 개혁의 중요한 사안 중 하나로 열거하고 있다.<sup>4)</sup> 이를 실행하는 주관조직인 방위성 및 자위대는 여성

『国軍への連続性』有志舎 pp.1-358

2) 石田雄(2005) 『丸山真男との対話』有志舎 pp.1-218

3) 野間宏(2017) 『真空地帯』岩波書店 pp.1-624

4) 『令和4年版防衛白書』제4부 제2장 제2절의 2

직원의 채용·등용의 확대를 위한 구체적인 목표를 내걸고 있다. 2017년 4월 「여성자위관 활약 추진 이니셔티브—시대와 환경에 적응한 매력적인 자위대를 지향하며(女性自衛官活躍推進イニシアティブ—時代と環境に適応した魅力ある自衛隊を目指して)—」(「イニシアティブ」)를 내걸고 여성자위관의 채용의 이념적 방침을 분명히 했다. 그 내용을 정리해 본다.

하나, 여성 자위관의 활약 추진과 인사관리 방침

자위대의 임무가 다양화·복잡화하는 가운데, 자위관에게는 지금까지보다 더 높은 지식·판단력·기술을 갖춘 다면적인 능력이 요구된다. 그런데 소자화(少子化)·고학력화의 진전에 따른 냉혹한 모집 환경 상황에서 자위대의 당면 과제에 적합한 자위대에 응모가 기대되는 잠재적 여성대원에게 육아와 개호(介護) 등 여러 면에서 시간과 장소의 제약이 많을 것이다. 이런 상황에서 자위대는, 균질성을 중시한 이전의 인적 구성에서, 다양한 인재를 유난하게 포섭할 수 있는 조직으로 변화할 필요가 있다.

자위대가 현시점에서 충분히 활용하지 않고 있는 최대의 인재풀은 채용대상 인구의 반을 점하는 여성이다. 여성 자위관의 활약을 추진하려는 것은 ①유용한 인재의 확보, ②다양한 관점의 활용, [③일본적 가치관의 반영]<sup>5)</sup>이라는 중요한 의의가 있다. 이를 위해 방위성·자위대는, 의욕과 능력·적성이 맞는 여성들이 많은 분야에 도전할 수 있도록 하는 길을 열어서, 여성 자위관 비율 배증시킨다.

둘, 여성 자위관 배치 제한 해제

방위성과 자위대는 여성자위관 배치 제한이라는 장벽을 순차적으로 허문다. 2018년 12월 잠수함예의 배치 제한을 해제함으로써, ‘모성 보호’라는 관점에서 여성을 배치할 수 없는 부대(육상자위대의 특수무기(화학)방호대의 일부 및 항도중대(坑道中隊)를 제외, 배치 제한을 전면적으로 해제했다.

이로 인해 2018년 여성 자위관 최초의 전투조종사(한국은 2003년 처음 3명 실전배치, 편보라·장세진·박지연)가 2020년 3월에는 여성 자위관 최초의 공수부대(한국

---

<https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2022/html/n420202000.html>(검색일:2023.02.15)

5) ①②에 대해서는 대체로 납득이 가능하다. ③에 대해서는 많은 의문이 든다. 여성=일본적 가치관의 보유자일까? 일본의 전통은 여성에 의해서 계승되는가? 한국도 그러한가? 어쨌든 자위대가 여성 인력을 동원하기 위한 레토릭이라는 점은 명확하다.

에서는 1969년 9월 정효단 상사 등 8명이 시초)가 탄생했다. 동년 10월에는 여성 자위관이 처음으로 잠수함에 승선(한국은 2024년 예정).

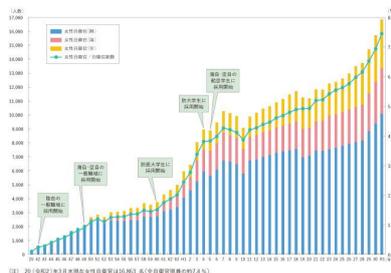
셋, 여성직원의 채용·등용의 확대

새로운 조직계획에서는 여성직원의 채용·등용의 수치 목표를 더욱 확대하고, 계획적인 채용과 등용을 시도한다.

2022년 3월 현재 약 1.9만(전 자위관의 8.3%)<sup>6)</sup>. 10년 전(2013년 3월 전 자위관의 약 5.4%)와 비교하면, 2.9포인트 상승. 2030년까지는 전 자위관에서 접하는 여성의 비율을 12% 이상으로 한다. 여성 자위관의 채용에 맞추어 교육·생활·근무환경의 기반을 정비한다.

또한 2025년 말까지 소령급(佐官) 이상이 접하는 비율을 5% 이상으로 한다. 자위대의 여성 자위관 모집 열망은 다음 표에서도 확인할 수 있다.

〈2020년 통계〉<sup>7)</sup>



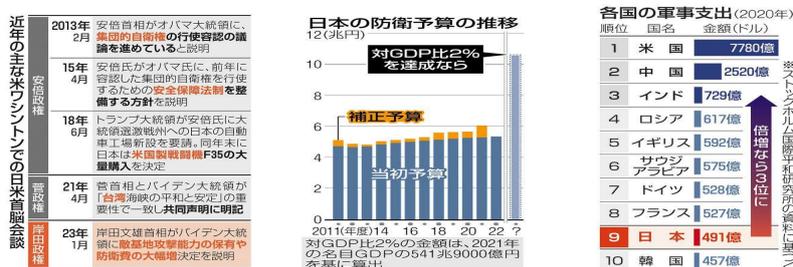
이와 관련하여 방위성의 기본전략을 검토할 필요가 있다. 방위성은 북한과 중국을 구실로 전전의 군사국가체제로의 전환을 모색하고 있다. 이는 ‘전후 레짐으로부터의 탈각’을 외쳤던 고 아베 신조의 입장이나, 2023년 2월 현 기시다 후미오(岸田文雄) 내각 하에서도 마찬가지다. 요컨대 2023년 일본시각 1월 14일 기시다는 바이든 미국 대통령으로부터 일본의 군사적 족쇄를 일거에 풀어

6) 한국은 2019년 여군 비율은 6.8%로 1만 2,602명을 확보했고, 2020년 7.4%, 2021년 8.1%, 2022년 8.8% 예정이다. 2022년 통계는 미확인.

<https://www.donga.com/news/Politics/article/all/20200129/99443116/1>(검색 일:2023.02.15)

7) <https://www.mod.go.jp/gsd/jjeikanbosyu/about/woman-success.html>(검색 일:2023.02.15)

주겠다는 약속을 받았다. 바이든은 일본의 적기지 공격능력보유와 방위비의 대폭증액(예산의 2%)을 허락하여, 일본이 세계 제3위의 군사강국으로 나갈 수 있는 길을 열어준 것이다.(이하 표 참조)<sup>8)</sup> 일본이 2023년부터 방위비를 점차 증액하여 2027년 GNP의 2%대가 된다면 일본은 명실상부한 세계 제3위의 군사강국이 될 것이다. 일본 우파의 오랜 염원이 드디어 실현되는 것이다.



2023년부터 2027년까지 5년간 방위비 증액시 일본은 세계제3위 군가국가로<sup>9)</sup>

### Ⅲ. 끊이지 않는 자위대 내 성폭행

#### 1. 지금: 고노이 리나 사건

2023년 2월 현재에도 일본 사회는 자위대의 성폭행(セックハラ, 다양한 내용이 있지만 성폭행으로 통일한다) 문제로 시끄럽다.

2020년 4월 후쿠시마현 고오리아마 주둔지(福島県郡山駐屯地)에 입대한 전 여성 자위관 고노이 리나(1999년~, 五ノ井里奈 혹은 五野井里奈)<sup>10)</sup>가 2021년 6월 24일 산악훈련 중 텐트에서 여러 명의 남성 대원들에게 둘러싸여 가슴과

8) <https://www.tokyo-np.co.jp/article/225328>(검색일:2023.02.15)

9) <https://www.tokyo-np.co.jp/article/170617>(검색일:2023.02.15)

10) [https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-29/2022082903\\_01\\_0.html](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-29/2022082903_01_0.html)(2023년 2월 15일 검색)

음부를 만지는 성폭행을 당한 것이다. 고노이는 다른 텐트의 여성 대원들에게 도움을 요청했지만, 이 여성대원들도 “중단시키려 들어갔다가 자신들도 당할지 몰라 두려워서 도와주러 갈 수 없었다”고 증언. 고노이뿐만이 아니라 이 여성대원들도 일상적으로 강제적으로 껴안기는 성폭행을 당하기도 했다.

고노이는 동년 8월 3일 산중 훈련이 있었던 날 밤 격투기의 형식으로 다리를 벌리는 등 여러 명의 남성 대원으로부터 폭행을 당한다.

더이상 참을 수 없었던 고노이는 이틀 후인 8월 5일 여성간부에게 도움을 요청했다. 그러나 그 여성간부는 처음에는 도와주려했으나, “훈련은 훈련”이라는 남성 중대장의 말에 태도를 바꿔, “그래. 훈련은 훈련이야”라며 등을 돌렸다. 이에 고노이는 모친이 쓰러졌다는 구실로 집에 돌아갔다. 이후 적응장애 진단을 받고 휴직할 후 인사과에 이 피해를 보고했으나 “증언을 얻을 수 없었다”는 회답을 얻었고, 방위성 직속 조직인 경무대(警務隊)에 피해신고를 냈다. 경무대는 9월은 훈련중이라는 이유로 소극적 태도.

사실 고노이는 입대한 2020년 가을경에도 피해를 당한 적이 있다.

결국 검찰청으로 사건은 넘어갔으나 불기소처분. 검찰심사회에 불기소에 대한 불복을 신청했고, 2022년 6월 27일 자위대를 퇴직한 후 서명운동을 시작한다.

3명에 대한 불기소는 검찰심사회는 재심사의 대상이 되었으나, 고노이는 한 발 더 나아가 민사소송을 제기했다. 즉 2023년 1월 30일 국가에 대해서는 안전배려의무의반으로 200만엔, 징계면직된 전 대원 5인에 대해서는 성폭행으로 인한 정신적 고통을 주었다고 하여 함께 550만엔을 지불하라는 소송을 제기했다.<sup>11)</sup>

이 사건을 계기로 방위성은 ‘특별방위감찰(特別防衛監察)’을<sup>12)</sup> 시작하여 1,400여건의 피해 신고를 받았다. 상술하면, 방위성은 전 대원 30만 명을 대상으로 각종 괴롭힘을 조사했다. 그 직접적인 계기가 고노이다. 고노이가 2022년 8월 31일 “저 이외에도 피해를 당하신 분이 있습니다. 대원이 안심하고 근무할 수 있는 환경을 만들어주셨으면 합니다”라고 방위성에 호소한 것이다.

자위대에서 퇴직한 고노이는 같은 피해를 당한 사람들을 찾기 위하여 인터넷

11) <https://www.tokyo-np.co.jp/article/228331>(검색일:2023.02.15)

12) 이하 <https://www.yomiuri.co.jp/national/20220922-OYT1T50041/2/>(검색일:2023.02.15)에 의함.

으로 앙케이트를 실시하여 146건의 피해 호소인을 찾아냈다. ‘여성대원의 렌트겐 사진을 돌려본다’거나, ‘야큐켄(野球拳=藤八拳)<sup>13)</sup>에 참가해라’ 등의 사례도 있었다.

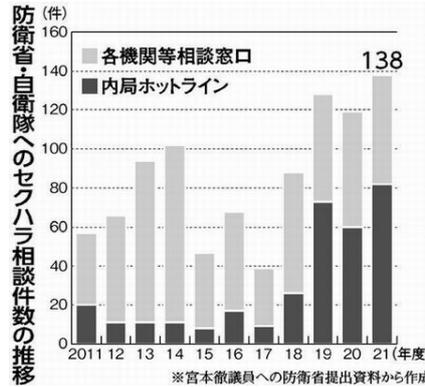
자위대 내 모든 괴롭힘의 피해 건수는 2017년 326건, 2021년에는 무려 7배인 2,311건에 달했다. 대부분(90%)는 남성 대원들 간의 물리적·정신적 위계에 의한 폭행(파워하라, パワハラ)지만 나머지 10%가 성폭행이다. 이처럼 같은 남성 자위대원 상호 간의 폭행도 빈발하고 있다. 전 해상자위대의 30대 남성 대원은 불면증을 앓고 있어서 외출을 허가받으려 했지만, 상관으로부터 “너는 탈주병, 사형이야”라는 질책을 받을 정도였다고 한다. 자위대 내에서는 ‘다소간의’ 파워하라는 스스로 견뎌야 한다는 문화가 암묵적으로 존재하여 목소리를 낼 수 없는 환경임을 반증하고 있는 것이다.

이와 관련하여 2021년 피해 자체가 증가했을 뿐만아니라, 피해자 의식에도 변화가 생겼다.<sup>14)</sup> 고노이가 훈련 중의 성폭력을 고발하여 사회에 파문을 일으켰지만, 사실 위 통계는 미국 방위성 2020년 연차보고서에 비추어 보면, 실제 성폭행 피해의 30% 정도에 불과하다.

주로 자위대원의 성폭력 및 남성 대원들 간의 폭력 피해를 변호하는 사토 히로부미(佐藤博文) 변호사(「自衛官の人権弁護団」団長)는 1999년 방위성(防衛省) 직원 2000명을 조사했는데 신체접촉이 60%, 성관계 강요가 20%라고 지적했다. 사토는 “자위대에서의 성폭행 피해는 기업이나 관청과 레벨이 다르다”고 지적한다. “실태를 보면 상담 건수가 눈에 띄게 적다. 피해를 신고하면 부대에 정보가 확산되어 오히려 2차 피해를 초래한다.”고 한다. 고노이의 사례도 가해자를 강제외설죄로 고발했음에도 현장에서 보고 있던 다른 대원들은 아무도 증언해 주지 않아 불기소로 끝났다. 자위대 내부만의 대응으로는 조직적 은폐나 침묵에 대한 대응방안이 없는 것이다.

13) 술자리에서 게임을 하다가 지는 경우 옷을 하나씩 벗는 술자리 문화.

14) [https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202\\_03\\_0.html](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202_03_0.html)(검색일:2023.02.15)



〈2011-21년 방위성·자위대의 성폭력 상담 건수 추이〉<sup>15)</sup>

## 2. 자위대 창설 이래

앞에서 미리 매우 구체적으로 언급하지는 않았지만 본고의 ‘주된’ 피사체는 ‘자위대’ 내부의 ‘성폭행’이다. 이와관련 추가적인 단서를 달아줄 필요가 있다. (1)1945년 8월 구 일본군과 여성의 문제에 대한 ‘직접적인’ 검토는 하지 않는다는 점, (2)자위대 내부의 또다른 마이너리티의 가능성 및 실상, 즉 동성애적 성폭행 문제에 대한 언급을 하지 않는 점, (3)성폭행과 상관에 의한 정신적·물리적 폭력(각각 세크하라와 파워하라)의 연관성을 간접적으로 언급한다는 점(여성 상관에 의한 부하 여성 자위관예의 파워하라 포함). 이 모든 사항 하나하나가 각각 별도의 연구테마라는 점을 밝혀둔다.

후술하는 반전 자위관 고니시 마코토(小西誠)는 2019년 9월 21일 한국외국어대 일본연구소 주최 강연에서 「자위대의 세크하라·파워하라·폭력의 실태」<sup>16)</sup> 일부를 소개하고 있다.

15) [https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202\\_03\\_0.htm](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202_03_0.htm)(검색일:2023.02.15)

16) 小西誠, 2019.9.21., 「自衛隊のセクハラ・パワハラ・暴力の実態—旧日本軍と連続する軍事組織・自衛隊の矛盾と現在的危機」. 한국외대 일본연구소 주최 강연회 발표문.

①항공자위대 현직 여성자위관 성폭행 사건: 소제기(2007)와 승리(2010)

항공자위대 삿쵸로(札幌)시 인근의 도베쓰(当別) 레이더 기지의 성폭력사건. 여성 자위관(만 20세)이 피해자다. 동 부대의 자위대원이 영내에서 ‘강제외설사건’을 일으켰지만 당국은 가해자를 옹호하여 가해자를 처분하지 않고 오히려 피해자인 여성 자위관에게 ‘직무태만’ 등의 구실로 퇴직을 강요한다. 여성 자위관은 현직 자위관으로서는 처음으로 위자료청구소송을 제기하여 승소.

②육상자위대 시모시즈(下志津) 주둔지 외설행위 사건(2017)

육상자위대 시모시즈 주둔지(千葉市若葉区)의 남성 자위관(당시 51세)가 18인의 여성대원에 대하여 외설행위를 하여 징계처분을 받은 사건. 남성대원은 2006년 7월부터 2013년 3월까지 주둔지 내 사무처리의 지도 중에 여성대원 17명의 가슴, 엉덩이, 얼굴 등을 만지거나, 휴게시간이나 귀택시에는 “가슴이 크다”는 등의 발언. 2016년에는 여성대원에게 경례법을 지도한다는 명목으로 엉덩이를 차기도 했다.

③방위대학교(防衛大学校) 강간사건(2010)

방위대 학생 3인을 경무대가 체포, 간부자위관을 양성하는 방위대학교에서 일어난 전대미문의 사건. 경무대에서 준강간미수 혐의로 체포, 사건 발생은 2010년 2월, 2년생 3명이 자위관으로 생각되는 여성을 유간. 이 여성은 방위대학 여학생일 가능성(프라이버시 문제로 공개하지 않음).

위에서 2022년의 조사에 대해 언급했지만 이와 유사한 조사가 1998년과 2007년 방위청(성) 인사교육국에 의해 남녀 1만 명을 대상으로 두차례에 걸쳐 이루어졌다.

「방위성 직원 세크하라 조사결과」. 1998년 여성자위관 975명 중 182명(18.7%)이 ‘성적 강요’를, 72명(7.4%)이 ‘강간’(미수 포함)의 피해를 당했다고 회답했다. 통틀어 254명의 피해자 중 73명(28.8%)이 가해자를 직속 상관이라고 특정했다. 피해를 신고한 것은 23명(0.98%).

2008년의 성적 강요(2007년 조사, 2008년 결과발표라고 생각된다. 필자)로는 3.4%, 강간(미수)은 1.5%이다. 당시 여성 자위관의 정원은 약 1.5천 명. 18%라면, 전체로 보면 약 3천 명 이상이 ‘성적 강요’를 받은 셈이 된다. 6명 중 1명. 신체접촉은 1998년 59.8%, 2008년 20.3%다.

이에 자위대에서는 2000년 전후 「성폭행의방지등에관한훈령」 「성폭행방지등 세부사항에대하여(통달)」를 제정하여 각 부대에서 성폭행예방교육을 실시했다.

## IV. 자위대 내 성폭행에 대한 두 시선

### 1. 고니시 마코토(小西誠): 제국 일본군 병영문화의 유전자

위에서 언급한 전직 자위관 고니시 마코토는 자위대 내의 성폭행(폭행)의 원인을 일본적 특수성이라는 관점, 요컨대 ‘제국 일본 일본군의 병영문화의 연속’이라는 점에 두고 비판한다.<sup>17)</sup>

우선 고니시는 마이니치신문(毎日新聞) 2013년 3월 19일자를 인용하여 병영 내 성폭행 문화가 일반적임을 지적한다. 이에 따르면 아프가니스탄에 파견된 미국 여성병사 28만 명 중 30% 이상이 상관으로부터 성적인 폭행을 받고 있다. 미국 내부에서는 ‘보이지않는 전쟁’이라고 한다. 연방상원 군사위원회는 2013년 3월 13일 ‘군내 성적 트라우마(MST)’라 불리는 심각한 스트레스에 관한 공청회를 열었다. 새로운 피해를 두려워하여, 침묵을 강요당해온 피해자는 ‘숨통이 트였다’고 환영하고 있다.

캘리포니아주 도서관 조사국이 2012년 발표한 실태조사에 따르면 이라크와 아프가니스탄에 파견된 여성병사의 33.5%가 강간을 당했고, 63.8%가 성적인

17) 小西誠, 2019.9.21., 「自衛隊のセクハラ・パワハラ・暴力の実態—旧日本軍と連続する軍事組織・自衛隊の矛盾と現代的危機」, 한국외대 일본연구소 주최 강연회 발표문.

# 고니시 마코토 선생님(이하 고니시)에 대해서는 약간의 설명이 필요할 것 같다. 고니시는 1949년에 미야기현(宮城県)에서 태어났다. 성년이 되자 항공자위대에 입대하여 사도분둔기지(佐渡佐渡分屯基地)에 근무했다. 1970년 안보투쟁을 진압하기 위한 목적의 자위대 치안훈련이 시작되자 이에 반대하여 동 기지에서 대량의 반전 배너를 산포했다. 1969년 전 대원 앞에서 치안출동훈련 반대를 표명함과 동시에 훈련을 거부하여 체포된다. 이후 1970년 7월 니이가타(新潟) 지방재판소에서 재판이 시작되었으나, 1975년 무죄판결. 항소심에서도 1981년 최종적으로 무죄판결. 그러나 자위대 복귀에 대한 고니시의 소 제기는 최종적으로 1997년 동경지방법판소에서 각하되었다. 이른바 反戦自衛官事件. 고니시는 『社会評論社』를 1990년에 설립한 이후, 군사연구 및 반전활동을 계속하고 있고, 2023년 현재에도 자위대가 중국을 견제하기 위해 오키나와 열도로 전진배치하는 이른바 ‘南西諸島シフト’의 위험성을 강하게 비판하는 등 반전활동을 계속하고 있다. 필자의 초대로 2019년 한국외국어대를 방문해 강연해주셨다. 개인적으로 깊이 감사드립니다. 동시에, 4-5년이 지난 지금에서야, 고니시 마코토 선생님의 활동과 연구의 극히 일단을 소개할 수 있게 되어 다시한번 감사함과 동시에 죄스러운 마음 금할길 없다.

괴롭힘을 받았다고 회답했다.

고니시는 『赤旗』 2013년 5월 11일 자를 들어 미군 네 성폭행 피해자는 2.6만 인으로 피해가 전에 비해 7000명 증가했다고 덧붙인다.

그런데 이런 일반적인 군대 내부의 성폭행과 다른 일본의 특징이 무엇인가? 고니시는 말한다.

구 일본군이 세계의 군대에 그 예가 없는 성폭행이 따르는 침략전쟁을 자행하고, 군에 성폭력을 발생시킨 것은 열악한 병영 때문이다. 이 체제하의 전쟁에 의한 노예상태(군이 마루야마 마사오(丸山真男)가 설파한 ‘무책임의 체계’·‘억압의 위양을 열거하지 않겠다, 필자)<sup>18)</sup> 이는 엄격한 군기에 의한 내부통제이며 병사에 대한 직접적인 폭력 지배(사적 제재)다. 내무반 생활 중에 병사들은 비인간화되고, 인명과 인권의 존중이라는 인간성을 완전히 상실한다. 여기서 군기(軍紀)란 상관의 명령이며, 이 상관의 명령은 천황의 명령이므로 절대적으로 복종해야 한다.

(중략)

비인간적인 상태에 놓인 병사들의 배설구로 성폭력이 허용되어, 군 당국에 대한 반항을 줄이고, 사기고양을 위한다는 명목으로 ‘군대위안소’를 각 주둔지와 그 주변에 설치했다. 장기적인 출병을 하는 일본군은 ‘휴가가 없는 군대’로 알려져 있다.

한편 내무반을 들여다보자. 고니시는 지적한다 내무생활에서 중대는 가정과 같다. “중대장은 아버지, 선임(하사관)은 어머니, 반장(班長)은 형님”이다.(陸自第1教育団『訓育指導の参考』, 필자 미견) 천황제적 가족주의관이 그대로 남아 있는 조직이다. (『軍令陸第十七号 軍隊内務書』, 필자 확인, 이하)

第六章 中隊長ノ職務

第二

中隊ハ編成並教育ノ單位ニシテ下士以下ノ教育訓練ヲ成就シ德育ヲ併進セシムル所トス中隊長ハ實ニ中隊ノ指揮官ニシテ又其師父タリ中隊附下士ハ其慈愛母タリ助教タルヘキモノトス而テ中隊長ハ中隊附士官ノ輔翼ニ依テ部下ヲシテ一致團結恰モ一家ノ如クナラシメ徳性ヲ陶冶シ學術機能ヲ練磨シ諸法則ヲ嚴守シ<sup>19)</sup>(강조는 필자)

18) 丸山真男 저, 김석근 역(1997) 『현대정치의 사상과 행동』 한길사 pp.21-64

19) 陸軍(1918) 『軍令陸第十七号 軍隊内務書』 厚生堂 p.27

병사는 ‘유아’로 취급되어 예의범절과 훈육의 대상이다. 예의범절이란 손씻기, 손수건과 휴지의 휴대, 손톱깎기, 양치 등. 훈육이란 정신교육으로 보다 넓은 지식을 얻고, 훈육에 의해 스스로 실천도야하고, 이를 제2의 천성이 되도록 한다. 훈육은 예를들면 군가연습, 일본군의 유년학교에서 ‘군인칙유(軍人勅諭)에 의한 복종정신, 강건정신(剛健精神) 등을 함양하는 것.

1990~2003년간 병영민주화(외출자유·직주분리(職住分離)·개실화(個室化)를 병사에까지 확대 등)를 시도했지만 파탄. 원래의 영내 내무반 생활로 돌아갔다. 항공자위대의 경우 70년대 외박자유화를 시행했으나 현재는 폐지. 방위성 개혁위원회(防衛省改革委員会)는 “개실화 때문에 불상사가 많아졌다. 군대는 집단생활이 필요”하다고 밝혔다.

헌법(인권 등)이 적용되지 않은 부대 내(영내·내무반)에서 지도(指導)와 위계에 의한 폭력을 구분한다는 것은 쉽지않다.<sup>20)</sup> 위계폭력은 (마루야마 마사오의 ‘억압의 위양 처럼, 필자) 하급간부, 사병으로 하향한다. 이를 성인 유치원(大人の幼稚園)이라 부른다. 살이쪼다 해서 체중을 줄인다는 명목으로, 양동이를 들고 세운다.

요컨대 고니시 마코토는 전전 일본의 병영문화의 DNA가 2023년 현재의 자위대 내부에도 여전히 꿈틀대고 있으며, 자위대 내 성폭행 또한 전전 일본군의 여성관의 연장선일 뿐이라고 말하고 있는 것이다.

20) 경향신문, 2014.8.20. 「목과 심기에 맞줄 묶고...일본 자위대 가혹행위 논란」



<https://m.khan.co.kr/world/world-general/article/201408201534591#c2b>(검색일:2023.02.15)

## 2. 페미니즘의 사각지대 해소파 사토 후미카(佐藤文香)

제II장의 사태에도 불구하고 제I장에서도 언급한 것처럼 일본정부·방위성·자위대의 여성자위관 채용 의욕은 매우 적극적이다. 그러나 제II장의 사태에 대한 관심·염려·분석은 고니시 마코토와 같은 패전 이전의 일본군 비판과, 패전 일본이 전시 자행한 범죄에 대한 비판과, 이를 계승하는 자위대 비판과, 자위대의 재무장과 군사력 증강 비판과와 다른 각도에서, 여성 페미니스트인 사토 후미카에 의해서 시도되고 있다. 이 절의 목적은 자위대 내부의 여성에 대한 관심을 촉구하는 페미니스트인 사토의 렌즈를 통해 자위대를 내외부에서 들여다 보려는 것이다.

여성 자위관 채용을 확대하려는 2023년 현재의 일본정부, 자민당·방위성·자위대의 정책은 남녀평등의 상징일까? 세계 각국에서 여성 병사의 채용과 역할의 확대는 남녀평등의 세계사적인 진전일까? 이러한 의문은 ‘여군의 채용 혹은 남녀 모두에게 병역을’이라는 주장과 관련하여 고민해 봐야할 주제다. 특정한 정치적 입장에 페미니즘을 매몰시켜 사장시키고 있는 현 대한민국의 상황을 고려해보아도 그러하다. 또한 페미니즘이 ‘전쟁이 문제다. 전쟁 자체가 남성 우월주의의 상징이다. 남성은 폭력적이다’라며 평화론으로 도피하려 하지 않는다면, 이 문제는 페미니스트들에게도 고민을 안겨줘야할 소재임에 분명하다. 일본적 콘텍스트에서 이러한 입장을 살펴보기 위해 사토 후미카(佐藤文香)<sup>21)</sup>의 연구를 비판적으로 빌린다.

사토는 말한다. 세계 제1, 2차 대전이라는 ‘총력전’ 하에서, 미국·영국에서 여성이 군대에 동원된 적이 있다. 대부분 간호사, 청소, 세탁, 조리, 사무를 담당. 소련과 중국에서는 여성병사가 전투에 참가한 적이 있다.<sup>22)</sup> 전쟁이 끝난 후 여성의 전쟁에 대한 공헌은 망각되고 여성은 다시 가정으로 돌아갔다.

그런데 1973년 미국을 시작으로, 냉전 종결 후인 1990년대에는 유럽을 중심

21) 佐藤文香(2004) 『軍事組織とジェンダー—自衛隊の女性たち』慶応義塾大学出版会, 共編著(2021) 『シリーズ戦争と社会』(全5巻) 岩波書店, 佐藤文香(2022) 『女性兵士という難問—ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』慶応義塾大学出版会.

22) 이 또한 중요한 새로운 연구과제라 생각된다.

으로, 징병제가 지원병제로 바뀌게 된다. 여성을 군대에 받아들이기 시작했다. 미국에서의 여성의 전쟁참가의 계기는 1990년대 중동전쟁이었다. 이 전쟁에 4만 명에 이르는 여성 병사가 파견되었다. 티브 등 미디어를 통해 여성 병사를 쉽게 목격할 수 있게 되었다. 이렇게 된 계기는 미국적인 페미니즘 그룹의 일부의 주장과 연동(군대에서 여성도 남성과 동등하게 활동해야 한다)된 것이었다. 그러나 동시에 군에 여성이 가담하면 미국사회의 군사화를 자극할 뿐이며, 젠더 평등에 어떤 기여도 할 수 없다는 반론도 만만치 않았다.

이런 애매한 상황에 중지부를 찍은 것은 역설적으로 UN이었다. 2000년 UN 결의 「여성, 평화와 안보를 위한 유엔 안보리 결의 1325호」<sup>23)</sup>는, 평화와 안전보장에 관한 여성의 요구를 받아들여 여성의 참가를 촉구했고, 각국에 여성 병사의 비율을 늘리거나 PKO 활동에 반드시 여성을 포함하도록 촉구하였다.

이에 발맞추어 각국에서 여성 병사의 비율은 증가했다. 특히 노르웨이와 스웨덴(각각 2015년, 2018년). 남녀평등과 다양성이 군대에도 필요하다는 논리로 여성을 징병제에 편입시킨 것이다.

한편 일본의 경우 제2차 세계대전 후 경찰예비대, 보안대, 자위대로 개편되었지만, 헌법 제9조로 인해 군대를 보유할 수 없었고 징병제도 없었다. 따라서 표면적으로는 부대 내 평등을 요구하는 페미니즘 운동이 부재했다.

23) 한국 외교부는 2014년 5월 23일 「「여성, 평화와 안보를 위한 유엔 안보리 결의 1325호」 우리나라 국가행동계획 수립」이라는 보도자료에서 2000년 채택된 유엔 안보리 결의 1325호는 △분쟁지역 성폭력 근절, △분쟁해결 과정에서의 여성 참여 확대 등이 주요내용(현재까지 약 40여개국이 국가행동계획 제출)이라고 이 결의를 정의하고 있다. 동시에 제출된 한국의 국가행동 계획에 △국제협력을 통한 성폭력 예방 시스템 구축, △국방, 외교, 통일 정책에 성인지 관점 도입, △향후 분쟁 해결 및 평화구축과정에서의 여성 참여 확대, △양성평등 및 여성의 역량 강화를 언급하고 있다.

[https://www.mofa.go.kr/www/brd/m\\_4080/view.do?seq=350441](https://www.mofa.go.kr/www/brd/m_4080/view.do?seq=350441)(검색일:2023.02.15)

한편 일본정부는 「1 家・地域・国際レベルにおける平和・安全保障にかかる意思決定及び主体者として女性の平等な参画, 2의 1 参画平和・安全保障のあらゆる段階に女性の参画を確保> 紛争予防・防止にかかる意思決定への女性の参画の確保.> 災害復興・防災支援事業における女性の意思決定への参画の確保, 2의 2 予防紛争予防にかかるプロセスへの女性の参加 と指導的役割의促進> 高度な紛争解決スキルを持つ女性や女性 리더의育成.> 女性の地位向上やジェンダー의 視點を取り入れた国際協力等の支援.> 法の支配의 定着のための支援, 이라고 설명한다. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000023403.pdf>(검색일:2023.02.15)

경찰예비대와 보안대 시기 여성은 간호사로서만 부대 활동을 수행할 수 있었고, 1967년에 육상자위대가 겨우 간호사 이외의 분야 일반직에도 여성을 채용하게 되었다. 구체적으로 인사, 총무, 보급, 회계, 통신 등 ‘여성에게 맞는’ 업무다. 그 후 버블기인 1986년부터 1991년 채용 여성의 수가 급증했다. 구인이 많았고 남성 대원의 자위대 채용이 어려웠던 시기였기 때문이다. 요컨대 남성만큼 경기의 혜택을 받지 못하는 여성이 남성 대신 부상한 것이다.

1992년은 2000년 이전 또다른 중요한 전환점이다. 방위대학에 여성 입학이 인정되어 자위대 엘리트 간부 후보생을 양성할 수 있게 되었다. 방위대 학생수는 1학년 480명, 그 중 여학생 정원은 100명(2023년도). 정원을 정한 이유는 여성이 성적이 우수하여 여초현상을 제한하려 했기 때문이다.<sup>24)</sup>

물론 상기 여성 자위관 채용에 관한 방위성·자위대의 동향, 그리고 사토가 언급한 이유 이외에도, 자위대의 이미지를 일본인의 마음속에 자연스러운 것으로, 당연한 것으로, 긍정적인 것으로 심으려는 움직임은 오랜 세월을 걸쳐 진행되었다.<sup>25)</sup>

자위대 내 성폭력 문제에 직면한 사토 후미카의 입장은 극히 단순화하자면, 「페미니즘은 페미니즘의 사각지대 혹은 회피지역이었던 자위대 내부로 들어가야 한다」는 것이다.

요컨대 페미니즘은 이제까지 “(수많은 마이너리티 여성들) 그녀들이 나였을 지도 모른다”라는 공감(共感) 능력에 의해서 운동을 전개해왔다. 그런데 ‘군대의 여성’만을 그 공감이 미치지 못하는 곳에 방치해서는 안 된다는 것이다. ‘군대의 여성’을 어떻게 생각해야 할지 고민스러운 면이 있다. 이유는 기존의 페미니스트

24) 佐藤文香(2022.9.7.)女性兵士活躍の時代と自衛隊の女性登用  
<https://chuokoron.jp/politics/121107.html>(검색일:2023.02.15)

25) 「自衛隊そのものが登場するか否かは別として、防衛省(行)や陸・海・空の各自衛隊が製作に協力している映画の事です。自衛隊が登場しなくても協力する映画がある、というのは不思議に思えたのですが、自衛隊の広報にとって有効な効果がある、というのがそもそもの協力の基準だと知り、納得。自衛隊のイメージアップや、隊員の募集に役立つってことです」(須藤遥子(2013) 『自衛隊協力映画:「今日もわれ大空にあり」から「名探偵コナン」まで』大月書店 pp.1-331. 스토 노리코(須藤遥子)는 이 저작에서 1960년 이래 2013년까지를 4단계로 구분하여 영화 한편 한편을 시대상황과 연관 지어 분석하고 있다.

들이 ‘이해하기 힘든 타자’이기 때문이다. 그럼에도 불구하고 ‘그 이해하기 힘들’과 직면해야만 ‘군대는 여성의 적’이라는 주장에 매몰되지 않고 이상을 제공해 준다는 것이다.<sup>26)</sup>

사토는 말한다. 본서 집필중(佐藤文香(2004) 『軍事組織とジェンダー—自衛隊の女性たち』, 慶応義塾大学出版会) 이라크 아브그레이브 형무소에서 미군병사에 의한 이라크인 학대사건이 있었다. 학대하며 웃고있는 미군 여성의 얼굴. 그 충격은 아프카니스탄 공습임무를 맡은 여성전투기 조종사를 목격한 것보다 한층 강했다. 통상 학대는 포로로부터 자존심을 빼앗고 무력화하면 정보를 제공할 수 있다는 발상에서 이루어진다. 이슬람원리주의가 ‘서양 여성’을 이슬람 공동체의 가치관을 근거에서 파괴하는 심볼로 취급한다는 점에서, 원리주의자만이 아니라 ‘보통의’ 이라크 남성들에게 더욱 ‘효과적’으로 정신적인 손상을 입힐 수 있다는 계산 하에서 학대가 이루어지고 있었다. 하지만 군대는 명령의 연쇄에 의해 이루어지는 조직이다. ‘신사적인 사관과 야수와 같은 병사’라는 2항대립을 당연시하여 병사에 의한 돌발적인 사건으로 구성하지 말아야한다.<sup>27)</sup>

그런데, 이 점과 관련하여 전제해 두어야 할 점이 있다. 즉 여성이 설사 자위대 내부에 수렴되어 간다고 할지라도, 자위대는 [남자=체력=1류의 전사/여자=모성=2류의 전력]이라는 2원적 틀을 절대로 버린 적이 없었다는 점. 일부 여성에게는 ‘1류의 전력’으로서의 장을 제공한다. 하지만 그 수가 지나치게 증가하지 않도록 콘트롤하고 있다. 다수가 여전히 사무작업에 집중하고 있으며, 예의 바르고, 학력이 높고, 타 자위대원에게 ‘여성스러운’ 배려가 가능하고, 결혼과 출산에 임하여 도중 적당히 사라져 주는 ‘2류의 전력’ 이어도 괜찮았던 것이다.(강조는 후미카) 또한 젠더 표상의 변천을 보면 왜 자위대가 여성들을 ‘필요로 했는지’ 알 수 있다. 여성표상이란, 자위대가 자위대의 이미지를 비군사적이며, 일본국민들에게 밝고 친근한 존재이며, 항시 주위에서 누군가를 보호해준다는 이미지를 만들어 가기 위해 불가결한 것이었다. 군사조직이라는 부정적 이미지를 감추기 위해, 시민 영역과 유사하게, 남녀가 함께 사이좋게 일하는 직장이어야 했던 것이다. 여성 표상은 자위대를 ‘평화창조자’로 표상시키기 위한 즉 이미지 변화

26) 佐藤文香(2004) 前掲書 p.336

27) 佐藤文香(2004) 上掲書 pp.439-440 각주 25

를 피하기 위한 불가결한 구성요소였다.<sup>28)</sup>(강조는 필자)

사토가 말하는 이 지점은 고니시와 연동하는 것처럼 보인다. 하지만 후술하는 것처럼 사토의 출발점과 목적지는 어디까지나 자위대 자체다.

사토는 말한다. 조직 내의 젠더 표상은 ‘보호하는 남성/보호받는 여성’, ‘응원하는 여성/응원받는 남성’이라는 비대칭적 관계. 이러한 ‘여성스러운’ 역할을 벗어나 남성과 같은 역할을 여성에게도 일부 인정한다. 즉 마이너리티가 아닌 메이저리티 여성상이 구축된다. 이를 후미카는 자위대의 공정(公定) 이데올로기가 ‘밀리터리스트 전통주의자’로부터 ‘밀리터리스트 차이 있는 평등파’로 변용했다고 표현한다. 이를 통해 자위대는 여성을 조직 내로 흡수시키면서, ‘남자=1류의 전력/여자=2류의 전력’으로 주변화하여, 조직의 이미지 지도를 변화시키면서도, 기본적으로 젠더 관계를 2항 대립적인 것을 재구축한다. 요컨대 여성을 조직 내로 흡수하면서도 동시에 ‘남자=1류의 전력/여자=2류의 전력’이라는 2항대립을 유지함으로써, 포함하면서 주변화한다.(강조 필자) ‘1류의 전력’이 될 수 있는 엘리트 여성에게는 일정한 공간을 만들어준다. 그녀들은 기업의 선전에도 도움이 되며, 회사의 이미지향상에도 연결되기 때문이다. 다만 그 수가 많아서는 결코 안된다. 여성들은 어떤 자리 위로 올라가서는 안된다. 눈에 보이지 않는 유리천장(glass ceiling)이 존재하는 것이다.<sup>29)</sup>

후미카는 보이지 않는 유리천장이 있음에도 이를 보지 못하는 엘리트 여성을 ‘밀리터리스트 평등파’라 정의한다.<sup>30)</sup> 즉 후미카에게는 ‘밀리터리스트 전통주의자’, ‘밀리터리스트 차이에 따른 평등파’, 그리고 ‘밀리터리스트 평등파’라는 세 유형의 여성 자위대원이 있는 것이다.<sup>31)</sup>

그런데 자위대의 여성대원에 대한 이러한 분류에 ‘페미니스트’가 관여한 적이 결코 없었다고 사토는 생각한다. 즉 일본에서는 군사조직 내부는 페미니즘의 사정거리에서 벗어나 있었다. 인식 자체가 부재했다. 하지만 여성채용 정책이

28) 佐藤文香(2004) 前掲書 pp.319-320

29) 佐藤文香(2004) 上掲書 pp.320-321

30) 지극히 사적인 경험이지만 필자의 지인 여교수들 중 단 한번도 성차별을 겪지 못했다는 고백을 들은 적이 있다. 물론 대학교원 임용과정에서도, 그러나 빙산의 아랫부분의 많은 지인 여성학자들은 이에 결코 동의하지 않는 것 같다.

31) 佐藤文香(2004) 上掲書 p.323

계속 가동했다는 점은, 이를 추진해온 군사조직 측의 고유한 사정을 암시하고 있다.<sup>32)</sup>

앞에서 언급한 것처럼 2000년 UN의 결의 1325호 이후 각국에서 ‘남녀공동참가’가 각국 군대에도 촉구되었고, 일본의 경우도 엘리트에의 길이 일부의 여성에게 열리고, 남성에게 여성의 전유물이었던 간호병으로 문호가 열림으로써 군사조직의 편성원리로서의 젠더의 경계선이 완화된 것처럼 보인다. 하지만 ‘여성을 자위대로’ 추진과 국회의원들은 “각국을 보면 일본만이 (부족하다, 필자)”라는 국제사회에서의 일본의 체면을 논할 뿐이다. 즉 일본에서 자위대의 정책변용에는 ‘비·페미니스트적 원리’ 즉 ‘일본만이’가 작도하고 있는 것이다. 국제적 요인이 정책 변용을 자극했지만 군사조직이 젠더 평등의 가치관에 ‘패배’한 결과라기 보다는, 군사조직이 그러한 가치관조차 전략적으로 흡수함으로써 존속의 승리를 획득했다고 보는 편이 타당하다는 것이다.(강조, 필자) ‘미리터리스트 평등과’ 페미니즘이 군사조직에 참여한 것은 페미니즘이 군사조직에 ‘승리’한 것이 아니라, 실은 ‘병사라는 점’에 가치를 부여하는 것을 필요로 해 온 군사조직 측이 그 ‘과실’을 따먹게 된 것이다.<sup>33)</sup>

그러나 설사 그렇다고 하더라도 기존 페미니즘에 지적해야할 점이 있다고 사토는 말한다. 요컨대 군사조직 외부에서 급진적인 반군 운동을 전개해 온 ‘평화운동’ 대부분이 군사조직의 젠더 이데올로기와 그 차이 지향을 공유해왔다. 이 차이 지향이란 ‘여성마저도’ 군사조직에 흡수되는 상황에 반대를 표명하는 것이다. 여성은 군사조직과는 어울리지 않는 비군사적 존재로 자리매김한다. 결과는 평화운동은 역설적으로 독특한 ‘군사조직의’ 젠더이데올로기를 수동적으로 인정하게 되는 결과를 초래한다. ‘군사화’는 군사조직 내부에 의해서만 수행되는 것은 아니다. 일본의 페미니즘이 ‘군사화’의 외부에서 있는 얼룩지지 않은 순수한 존재라 할 수는 없는 것이다. 군사조직의 여성 포섭·포용·흡수는 ‘비군사적 여성’을 이용한 자위대 이미지의 여성화(soft화)에 기대를 걸고 있다. 이러한 이미지 전략은, 그 이미지를 이해할 수 있는 능력을 가진 수용자가 있기 때문에 비로소 성립한다. 여성표상을 이용한 자위대의 이미지 전략이 일본 국민들의 자위대에 대한 뿌리깊은 불신을 불식할 수 있었던 점도, 그러한 젠더 이데

32) 佐藤文香(2004) 前掲書 p.324

33) 佐藤文香(2004) 上掲書 p.326, p.329

올로기가 광범위하게 퍼져있었기 때문이다.<sup>34)</sup>

이처럼 사토는 기성의 여성운동에 비판적이다. 일본의 여성운동은 타국에 존재하는 혹은 타민족에 속하는 여성과 마이너리티의 아픔에는 공감하면서도, 이를 일본 국내로 전파하지 않고 거기에 머무르는 미묘한 균형 위에서 있다는 것이다. 후미카는 일본에서 WIB운동<sup>35)</sup>을 전개하는 여성들에 의한 발언을 소개한다.

우리들이 역사적으로는 침묵을 강요받은 ‘여성’이 현재에는 목소리를 높이는 것도 가능하다는 점. ‘여성’이라는 존재를 아무런 전제 없이 받아들여도 좋을까 하는 점. 성을 단순히 ‘남성/여성’만으로 나누어도 좋은 것일까하는 점. ‘여성’은 약한 입장에 놓여왔지만 가해자가 될 수 있는 장면도 있다. ‘여성’이 아니어도 침묵을 강요받아온 마이너리티가 다수 존재하며, ‘남성’이라고 해도 항상 강자라는 보장은 없다. 이 행동으로 인해 ‘여성은 평화주의’, 그리고 종래의 스테레오타입적인 관점을 고정시켜버릴 가능성이 있다.(2002.6.6. 京都での実験デモ 実行委員会)

이러한 입장이라면 바꿔말하면 기존의 관점을 바꿔야 한다는 의식이 있다면, 페미니즘이 ‘피해자로서의 여성’의 연대를 위해서 ‘가해자=군대의 여성’ 또한 응시해야 한다. ‘군대의 여성’을 응시한다는 것은, ‘가해자=군대의 여성’ 등이 어떠한 상황에 처할지라도 자업자득이라고 무시해버리는 것을 피하기 위해서도 필요하다. 그녀들을 군대의 여성·강자라고 치부하고 침묵시키고, ‘그녀들 혼자 내버려 두지 않기 위해서도 필요하다. 그럼에도 이러한 갭이 생기는 원인은, 군사화에는, 여성의 분단(分断)을 추진하는 ‘책략’이 불가결하기 개입되어 있기 때문이다. 사토는 여기서 신시아 인로(Cynthia Enloe, 1938-, 페미니스트 작가)<sup>36)</sup>를 인용한다.<sup>37)</sup>

34) 佐藤文香(2004) 前掲書 pp.329-330

35) Women In Black. 1988년 이스라엘의 팔레스타인 침략에 이스라엘에서 그 침략에 반대·화평을 표명하기 위하여 운동의 형태로 발전. 전쟁과 폭력에 반대하는 활동 및 평화를 추구. 느슨한 국제연대 네트워크. 검은 옷을 입고 추도하는 형식에서 발전. 홈페이지는 <https://womeninblack.org/>(검색일:2023.02.15)

36) 2023년 1월 현재 한국에 그녀의 저서 두 권이 번역되어 있음을 확인할 수 있다. (1)신시아 인로 저, 김엘리 번역(2015) 『군사주의는 어떻게 패선이 되었을까 지구화, 군사주의 쟁점』, 바다출판사. (2)신시아 인로 저, 권인숙 번역(2011) 『바나나해변 그리고 군사기지 여성주의로 국제정치 들여다보기』 청년사

이런 과정은 여성활동가들의 실패, 즉 영역화단적인 동맹을 만들고 여성들을 연대하지 못하게 방해하는 장벽을 낮추지 못한 결과다.(Enloe, Cynthia(2002)<sup>38)</sup> 군사화는 여성 자신들이 자신들을 분리하는 경계를 만든다. 그 경계를 유지하는 것이 (저들에게는, 필자) 필요하며, 서로 알지 못하고, 관계를 갖지 않고, 심지어 적대적이다. 여성들이 서로 다른 사회적, 경제적, 이데올로기적, 문화적 입장에 놓여있다는 점 때문에 가능한 것이다.(Ibid.: 295). 군사화란 모든 상황에, 모든 여성에게 억압적인 것은 아니다. 시대에 따라 이익이 있기 때문에, 책략을 간파하기 어렵고, 군사화에 있어서 근원적인 문제인 가부장제적인 결말을 분쇄하기 어려운 것이다.(Ibid.: 297-298)

군사화에 의해 억압받고 있는 여성들을 위해서 일하는 여성과, 군사화를 통해 보다 큰 기회를 구하고 있는 여성들을 위해서 일하는 여성이, 서로 어떤 공통점도 없다고 사고하는 것, 혹은 더욱 나쁜 경우는 서로를 정치적인 적대자라고 상정하는 것은 매력적일지 모른다. 다만 이러한 신념은 젠더화된 군사화의 전 범위가 검증되지 않도록 내팽개치는 것과 같을 것이다.(Ibid.: 299)

요컨대 사토 후미카는 자위대에 대한 경계감이 만연한 가운데, 여성자위관 채용은 자위대의 이미지를 개선시키는데 크게 공헌했다. 더구나 2015년 당시 수상이었던 아베 신조(安倍晋三)는 「女性活躍推進法」을 통해서 여성을 자신의 정치적 지향에 포섭하기 위한 전략을 채용했다. 아베는 2015년 항공자위대가 전투기, 2017년 육상자위대가 보병과 전차부대, 2018년 해상자위대가 잠수함에 여성을 배치할 것이라고 발표했다.<sup>39)</sup>

사토에 따르면 “아베는 국제사회 동향에 민감하며, 여성활추진정책의 일환으로 여성의 평화유지활동 참가에 열심이었다. 위안부 문제에 대한 대응과 젠더 평등에 뒤처졌다는 인식이 배경이었다고 생각한다. 젠더 갭 지수가 발표될 때마다 선진국에서 최하위라는 오명에서 벗어나기 위해, 강경 우파라는 이미지 만회를 위해서도 필요했을 것이다.”라고 말한다.(강조는 필자)

37) 佐藤(2004) 前掲書 pp.335-336에서 재인용

38) Enloe, Cynthia, 2000, *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*, Berkeley, L. A., London: University of California Press, p.295. 일본어역은 佐藤文香訳(2005) 『策略-女性の軍事化とジェンダーの政治学』 岩波書店

39) 이하 <https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00838/>(검색일:2023.02.15)에 의한다.

사토는 2004년 1월 이라크 파견 여성자위대원의 “피곤에 찢은 남성대원의 오아시스가 되고싶다”는 말을 소개하면서, 이러한 말은 자위대에 적응한 여성의 전형적인 발언이라고 말한다. 문제는 여성 자위대원이 “피해를 당한 경우 나라를 수호하는 존재여야할 병사가, 자신이 취약한 피해자라는 사실을 호소하는 것 자체가 너무 힘들다는 점이다.” “목소리를 내기 어렵고, 은폐가 쉽고, 성폭행의 왜소화는 다른 나라의 군대에도 발생한다는 점.”

결국 사토는 좌파나 페미니스트들 다수에게 나타나는 자위대의 타자화와 자위대에 대한 비판은 자위대와 시민사회의 거리를 넓히는 데에 기여해 왔기 때문에, 비판적 시점을 유지하면서도, 외부와의 연결고리를 유지하여, 자위대의 조직과 대원의 인식을 바꿔가야하는 점에 무관심했다고 지적하고 있는 것이다.

그녀는 결론은 간명하다. 헌법에 자위대의 존재를 명문화시키려는 동향이 있으나 자위대원의 의식 변화가 있을지는 부정적이다. 따라서 젠더의 시점에서 이를 비판적으로 고찰해야 한다는 것이다. “자위대원들의 실상을 가시화(可視化)하는 연구가 이후에도 더욱 지속되(어야 한다)”라고

## V. 맺음말

고노이 리나 사건 외에도, 신년 2023년이 2개월도 채우지 않은 2월 중순현재, 자위대 내부의 성폭력 문제는 여전하다. 이번에는 해상자위대. 2022년 8월부터 10월. 일본 나이 41세의 하코다테函館 기지 소속의 남성대원이 기지내의 여성주거 지역에 수차례 침입하여 여성대원이 버린 쓰레기에서 속옷을 훔쳤다 또한 훈련용 폴장에 탈의실에 숨어들어가 여성대원들이 실내에 놓고간 속옷의 사진을 찍는 등 여성대원들에게 정신적 고통을 안겨준 세크하라 행위가 발각된 것이다. 해상자위대는 1월 23일자로 이 남성대원을 징계면직 처분했다.<sup>40)</sup>

이런 사안들에 대한 접근법에서 고니시 마코토와 사토 후미카에게서 공통점을 발견할 수 있다. 그 공통점이란 고니시의 경우 자위대 내의 성폭행(및 폭력)이라는 현상 → 그 원인으로서 패전 이전의 일본군과의 연속성 → 자위대 내·외부

40) <https://www.fnn.jp/articles/-/475129>(검색일:2023.02.15)

에 대한 비판 및 관심 촉구, 사토의 경우 자위대 내의 성폭력( 및 폭력)이라는 현상 → 그 주된 원인인 자위대 내부의 페미니즘의 결여 → 자위대 내·외부에 대한 비판 및 페미니즘의 재편. 즉 양자 공히 3단논법을 취한다.

하지만 공통점은 어디까지나 논리전개의 구조일 뿐. 고니시의 경우 자위대 내·외부에 대한 비판적 시선을 이어가면서, 자위대의 동향에 주목하는 거시적인 그림과 이에 대비되는 미크로한 관심의 상대적인 결여. 하지만 사토의 경우 패전 전 일본군의 폭행에 침묵하지는 않았겠지만, 주된 초점은 페미니즘의 자위대 내부로의 확산 혹은 침투라는 미크로하고 정치(精緻)한 프로젝트를

바로 이 지점에서 고니시와 사토를 의식하면서 필자의 소감을 두가지 사례를 통해 간접적으로 언급하고 싶다.

그 하나. 상기 고노이 리나 사건이 있었던 2021년 당시 방위청장관은 기시 노부오(岸信夫, 2020.9.16. - 2022.8.10. 재임). 그는 일본정치의 ‘요괴(妖怪)인 기시 노부스케(岸信介)의 외손자로서, 기시(岸)가의 양자로 갔으며, 친부는 아베 신타로(安倍晋太郎). 친형은 고 아베 신조. 기시 노부오 재임 당시 그가 주도하여 2022년 발행한 「방위백서」는 일본의 위협으로 러시아, 중국, 북한을 들면서 이렇게 기술하고 있다.

보편적 가치에 기반한 국제질서를 불변의 상황으로 지켜가기 위해서는 일본이 갖고 있는 예지와 기술을 결집하여, 총력을 다해서, 일본 자신의 방위력 강화를 서둘러야 합니다. (중략) 현재 기시다 내각총리대신의 하에서, 새로운 국가안전보장전략 책정을 진행하고 있습니다. 힘에 의한 현상변경을 미연에 억지함과 동시에 (러시아의) 우크라이나 침략에서도 알 수 있었던 것처럼, 정보전과 사이버전이라는 현대적인 전투를 위한 준비태세에 만전을 기하기 위해 기존의 사고 틀에 얽매이지 않는 유연한 발상으로, 대담하고 창조적인 발상을 가져야 합니다.<sup>41)</sup>

동 백서 인터넷판 「FOCUS」제4부에서는 억지력·대응력 강화를 위한 훈련과 파트너십 강화와 훈련을 들면서, 인적기반·지적기반의 강화를 들고 있다. 자위대원과 관련해서는,

41) 이하에서도 언급이 없는 한 <https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2022/pdf/index.html>(검색일:2023.02.15)에 의한다.

방위력의 증핵은 자위대원이며, 자위대원의 인재확보와 능력·사기의 향상은 방위력 강화에 불가결하다. 인재확보는 인구감소·소자고령화의 급속한 진전에 의해서 긴급한 현안 과제가 되고 있으며, 방위력의 지속성·강인성 관점에서, 자위관 등의 모집·채용·교육·인적 자원의 효과적인 활용을 위한 시설 등의 확충에 노력한다. 동시에 작업환경 균형과 여성 활약 추진에도 적극적으로 노력하고 있다.

그 둘. 아래의 사진에서도 알 수 있는 것처럼, 일본 방위대학교 학생들 내부의 의견이든 상부에서의 지시이든 1945년 이전과의 단절을 피하고 있지 않다. 방위대학생들은 매년 11월 말경 지속적으로 야스쿠니신사를 참배한다. 요코스카에 있는 방위대학교 캠퍼스에서 야스쿠니신사까지. 거의 70키로 가까이를 편도로 걸어서. 이 방위대학 학생들 중에는 사진에서도 확인할 수 있는 것처럼 여성생도도 포함되어 있다. 천황제·야스쿠니, 그리고 여성 방위대학생. 이러한 구조가 바뀌거나 끊어지지 않는한 사토의 문제제기에서는 페미니즘의 대상을 ‘외부에서’ 일본 ‘내부로’ 옮기려는 ‘페미니스트적 내셔널리즘’을 불식할 수는 없을 것 같다.



[20211128]東京行進2021x 「TokyoMarch - NDAJ CODE//Ysk-Shrine 【LAST IGNITION】 ...



[20111126]防衛大x東京行進2011x防大生 4大隊~靖国神社参拜~

야스쿠니 신사를 참배하는 방위대학교 학생들<sup>42)</sup>

42) 사진은 (1)<https://youtu.be/AyVK3bmGL60>, (2)<https://youtu.be/3q3f3LAchz0>, (3)<https://youtu.be/K2ecwTMtv40>에 의한다.(검색일:2023.02.15)

방위대학생들은 가나가와현 요코스카시(神奈川県横須賀)시에 소재하는 학교에서 지토리가후치(千鳥ヶ淵) 전몰자 묘원까지 약 68km를 낮부터 다음 날 아침까지 밤새 걸어서 지토리가부치, 야스쿠니진자(靖国神社)를 참배한다. 이 행사는 이른바 방위대생유지(防大生有志)에 의해 매년 11월 말 학생행진(「東京行進」)을이라는 명목으로 시행되고 있다 [https://www.boueineews.com/news/2011/20110201\\_3.html](https://www.boueineews.com/news/2011/20110201_3.html)(검색일:2023.02.15)

사토와 같은 문제의식을 공유하고 있다고 생각되는 일본의 또다른 페미니스트가 있다. 기노시타 나오코(木下直子). 기노시타는 사토의 문제의식과 연동된 발언을 하고 있다.

한민족에게 ‘위안부’ 제도는 민족 수난의 과거로서 실감되고, 일본인에게는 가해의 과거를 짊어진 스스로 내셔널한 위치가 자각되었다. 가해자의 국민이었던 일본인 ‘위안부’의 피해자성은, 한국의 운동단체로부터 일본이 가해 주체라고 규탄되고, 가해자성과 직면하는 성실한 태도가 요구되는 상황에서 후퇴하게 된다. 일본인 ‘위안부’의 출신계층과 상황, 전쟁에 돌진하는 체제를 어떻게 인식하고 있었던가 등 개별적인 배경을 모르면서, 그녀들을 균질적인 국민 주체로서 이미지화하고, 제국주의에 의한 침략에 가담하는 존재였다고 이해하는 지점에서 멈춤으로써, 그녀들의 깊은 아픔을 이해하려고 하지 않았다. 일본인 ‘위안부’가 일본 사회에서 성이 착취되는 존재라는 배경은 불문에 붙여진 채 가해자성을 띤 일본인 내셔널리티가 재생산된다. 이러한 사태는 국가와 국민을 연결하는 내부의 모순은 고려하지 않고, <일본인>을 균질적으로 이해하는 언설 실천의 효과였다.<sup>43)</sup>

요컨대 사토 후미카도 기노시타 나오코도 ‘불가시화된 일본의 새로운 페미니즘 영역’을 개척하기 위해, 그 안티테제로서 ‘일본제국주의’가 아닌 일본 ‘외부’를 거론하고 있으며, 1945년 일본제국주의가 자행한 범죄에 대해서는 소극적이거나 일부 면죄부를 주고 있다고 생각된다. 물론 그녀들은 절대 아니라고 부인하겠지만, 각 사안들이 제대로 정리되지 않으면, 한국의 일부 ‘자칭’ 페미니스트들처럼, ‘정치’라는 용광로에서 벗어나기는 힘들 것 같다.

그럼에도 불구하고 자위대 내부의 음울(陰鬱)은 남성 자위대원들에게도, 물론 여성자위대원들에게는 더욱더 심각해져 가는 것 같다.

### 〈참고문헌〉

小西誠(2019.09.21) 「自衛隊のセクハラ・パワハラ・暴力の実態—旧日本軍と連続する軍事組織・自衛隊の矛盾と現代的危機」 한국외대 일본연구소 주최 강연회 발표문

43) 木下直子(2017) 『「慰安婦」問題の言説空間 日本人「慰安婦」の不可視化と現前』 勉誠出版 pp.241-244

- 飯倉江里衣(2021) 『満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史: 日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性』 有志舎 pp.1-358
- 石田雄(2005) 『丸山真男との対話』 有志舎 pp.1-218
- 野間宏(2005) 『真空地帯』 岩波書店 pp.1-624
- 三宅勝久(2009) 『自衛隊という密室—いじめと暴力』 高文研 pp.30-47
- 丸山真男 著, 김석근 역(1997) 『현대정치의 사상과 행동』 한길사 pp.21-64
- 陸軍省(1918) 『軍令陸第十七号 軍隊内務書』 厚生堂 p.27
- 佐藤文香(2004) 『軍事組織とジェンダー—自衛隊の女性たち』 慶応義塾大学出版会 pp.1-480
- 佐藤文香編著(2021) 『シリーズ戦争と社会』(全5卷) 岩波書店
- 佐藤文香(2022) 『女性兵士という難問—ジェンダーから問う戦争・軍隊の社会学』 慶応義塾大学出版会 pp.1-330
- 須藤遥子(2013) 『自衛隊協力映画: 「今日もわれ大空にあり」から「名探偵コナン」まで』 大月書店 pp.1-331
- Enloe, Cynthia(2000) *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*, Berkeley, L. A., London: University of California Press, p.295
- Enloe, Cynthia 佐藤文香訳(2005) 『策略—女性の軍事化とジェンダーの政治学』 岩波書店 pp.1-311
- 木下直子(2017) 『「慰安婦」問題の言説空間 日本人「慰安婦」の不可視化と現前』 勉誠出版 pp.241-244
- <https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2022/html/n420202000.html> (검색일: 2023.02.15)
- <https://www.donga.com/news/Politics/article/all/20200129/99443116/1> (검색일:2023.02.15)
- <https://www.tokyo-np.co.jp/article/225328> (검색일:2023.02.15)
- <https://www.tokyo-np.co.jp/article/170617> (검색일:2023.02.15)
- [https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-29/2022082903\\_01\\_0.html](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-29/2022082903_01_0.html) (검색일:2023.02.15)
- <https://www.tokyo-np.co.jp/article/228331> (검색일:2023.02.15)
- <https://www.yomiuri.co.jp/national/20220922-OYT1T50041/2/> (검색일:2023.02.15)
- [https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202\\_03\\_0.html](https://www.jcp.or.jp/akahata/aik22/2022-08-02/2022080202_03_0.html) (검색일:2023.02.15)
- <https://m.khan.co.kr/world/world-general/article/201408201534591#c2b> (검색일:2023.02.15)
- 경향신문(2014.08.20.) 「목과 성기에 맞출 묶고 ... 일본 자위대 가혹행위 논란」  
[https://www.mofa.go.kr/www/brd/m\\_4080/view.do?seq=350441](https://www.mofa.go.kr/www/brd/m_4080/view.do?seq=350441) (검색일:2023.02.15)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000023403.pdf> (검색일:2023.02.15)  
<https://womeninblack.org/> (검색일:2023.02.15)  
<https://chuokoron.jp/politics/121107.html> (검색일:2023.02.15)  
<https://www.nippon.com/ja/in-depth/d00838/> (검색일:2023.02.15)  
<https://www.fnn.jp/articles/-/475129> (검색일:2023.02.15)  
<https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2022/pdf/index.html> (검색일:2023.02.15)  
<https://news.hoseo.ac.kr/news/articleView.html?idxno=436> (검색일:2023.02.15)  
<https://www.sisain.co.kr/news/articleView.html?idxno=44526> (검색일:2023.02.15)  
<https://www.peoplepower21.org/research/1814507> (검색일:2023.02.15)  
<https://youtu.be/AyVK3bmGL60> (검색일:2023.02.15)  
<https://youtu.be/3q3f3LAchz0> (검색일:2023.02.15)  
<https://youtu.be/K2ecwTMtv40> (검색일:2023.02.15)  
[https://www.boueineews.com/news/2011/20110201\\_3.html](https://www.boueineews.com/news/2011/20110201_3.html) (검색일:2023.02.15)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

<要旨>

自衛隊の軟化志向と帝国日本との連続性

- 自衛隊内部の性暴行問題を軸として -

魯炳浩

韓国軍が日本発の兵営文化を輸入したのかどうか、これを討論のテーマにして論じてもきりがなさそうだ。しかし、戦前日本の軍隊経験者、兵営生活体験者は良い思い出としてその時期を語らない。人気のない白黒映画のように、何の意味もなく慌ただしい行動だけが繰り返される憂鬱な灰色の暴力が横行する風景は、戦前の日本の内務班、兵営生活をどんな言葉よりもよく表現しているようだ。

ところが敗戦後80年を迎える2023年2月現在、その場面が他の姿で再現されているならば、あるいは再現を越える超再現的状况であるならばこれを直視しなければならず、知らなければならない。その噂の真相を探し、その現場をスケッチし、これを多角的に検討しようとする試みは、知ることで克服に至らなくても、解決しなければならない宿題として持続的に私たちを刺激するであろう。

要するに自衛隊内部の性暴力問題は戦前からの連続でなのか。軍隊であるなら当然発生することであろうか。あるいはなぜ発生したのか？日本のフェミニズムはどこにきているのか？このような自問に対する間接的な答えが必要だと考える。

〈Abstract〉

**Self-Defense Force's Softening Orientation and Continuity of The Pre-war**

- Focusing Sexual Assaults within Self-Defense Force -

Row, Byoung-Ho

There seems to be no end to discussing whether the Korean military imported military camp culture from that of Japanese Imperialism or not. However, those (Japanese) who experienced military service and barracks in Japan before the war do not say the period with good memories. Like an unpopular black-and-white movie, the scene of gloomy gray violence, in which only busy actions are repeated without any meaning, seems to express the life of the former.

As of February 2023, which marks the 80th anniversary of the defeat, if the scene is reproduced in a different way, or if it is a super-renewable situation beyond reproduction, we should look at it and know it. Attempts to find the truth of the rumor, sketch the scene, and examine it from various angles will continue to stimulate us as a task to be solved, even if it may not be overcome through knowledge.

In short, is it a series of sexual violence within the Self-Defense Forces? Does this happen in the military over the world? Or why does it happen? Where is Japanese feminism NOW, 2023? The purpose of this paper is an indirect understanding of these questions.

## 일본의 디지털 경쟁력 추이와 현황\*

박용구\*\*

### <目次>

I. 머리말	IV. 2022년 일본 디지털 경쟁력 현황
II. 일본 정부의 디지털 정책	V. 맺음말
III. 일본의 디지털 경쟁력 추이	

Key Words : 電子政府(e-government), デジタル政府(digital government), デジタル競争力(digital competitiveness), DX(digital transformation), ソサイエティ5.0(Society 5.0)

### I. 머리말

『개발도상국화하는 일본』(戸堂康之, 2010), 『일본은 이미 후진국』(加谷 珪一, 2019), 『일본이 선진국에서 탈락하는 날』(野口悠紀雄, 2022) 등 일본인들 스스로 일본의 현재와 미래를 질타하는 책들이 등장하고 있다. 한국에서는 『일본이 선진국이라는 착각:어제에 갇힌 일본에서 무엇을 배울 것인가』(유영수, 2021), 『일본 다루기:달라진 한국』(김현구, 2020) 등 일본이 한국보다 나올 것이 없다거나, 제3자의 입을 빌려 이런 주장의 객관성을 제고하고자 하는 『일본인들이 증언하는 한일역전』(이명찬, 2021), 『피크 재팬:마지막 정점을 찍은 일본』(김성훈 역, 2020) 등의 저·역서들이 잇따라 출간되고 있다.

\* 이 논문은 2022년도 한국외국어대학교의 교내 학술연구비 지원을 받아 작성되었다.

\*\* 한국외국어대학교 일본학대학 융합일본지역학부 교수, 일본학

그러나 일본의 현실을 진단해보면 이와는 다른 증거들을 다수 찾아볼 수 있다. 현재, 일본은 세계 3위의 경제대국이고, 파리에 본사를 둔 입소스의 ‘브랜드 지수’에서 독일에 이어 2위<sup>1)</sup>, 영국의 컨설팅회사 브랜드 파이낸스의 ‘글로벌 소프트파워 지수’에서 미국, 영국, 독일, 중국에 이어 5위<sup>2)</sup>, 매년 1월 스위스에서 열리는 세계경제포럼(일명, 다보스포럼)의 ‘세계경쟁력지수’에서 싱가포르, 미국, 홍콩, 네덜란드, 스위스에 이어 6위<sup>3)</sup>, 미국의 랭킹 조사 전문 매체인 US뉴스앤드월드리포트의 ‘최고 국가’ 랭킹에서 스위스, 독일, 캐나다, 미국, 스웨덴에 이어 6위<sup>4)</sup>를 기록하여 세계 정상급의 위상을 보여주고 있다.

그럼에도 불구하고 ‘일본 붕괴’론<sup>5)</sup>까지 거론되는 이유는 화려했던 과거에 대한 반작용이 아닐까. 일본은 진무(神武)경기(1954-57), 이와토(岩戸)경기(1958-61), 이자나기(いざなぎ)경기(1965-70) 등 유례없는 경제성장을 이루어 1968년 독일을 제치고 세계 2위의 경제대국이 되었고, 2010년 중국에 역전당하기까지 40여 년 동안 그 지위를 유지하였다. 세계은행의 통계에 의하면 일본경제가 정점에 이르렀던 1987년 일본의 1인당 GDP는 미국을 앞질렀고, 1995년에는 무려 미국의 1.54배(일본 44,197, 미국 28,690\$)에 달했다<sup>6)</sup>. 이런 연유로 한국, 대만, 홍콩, 싱가포르라는 아시아 4룡이 등장하기 전까지 일본은 비구미국가 중 ‘유일하게 근대화에 성공한 최초이자 최고의 국가’로 회자되었다. 일본의 기적을 미국이 배워야 한다는 보겔(Ezra F. Vogel)의 ‘넘버 원 재팬’론, 영국이 일본을 배워야 한다는 도어(Ronald P. Dore, 1973)의 ‘역수렴론’, 서양은 일본을 배워야한다는 하마구치(浜口恵俊)와 구몬(公文俊平)의 ‘일본적 집단주의’ 등 일본 예찬론이 한 시대를 풍미하

1) Nation Brands Index 2022: Germany finishes first again with Japan and Canada rounding out the top three nations | Ipsos(검색일:2023.02.01)

2) Nation Results | Soft Power | Brandirectory Global Soft Power Index2022(검색일:2023.02.01)

3) 코로나 19 발생 이후는 조사가 이루어지지 않아 2019년도의 랭킹을 인용함. WEF\_TheGlobalCompetitivenessReport2019.pdf (weforum.org)(검색일:2023.02.01)

4) U.S. News Best Countries 2022(검색일:2023.02.01)

5) 御厨 貴、本村凌二(2018) 『日本の崩壊』 祥伝社

6) GDP per capita (current US\$) - United States, Japan | Data (worldbank.org)(검색일:2023.02.03)

는 것이 이상하지 않았다.

그러나 버블의 절정기였던 1989년 소니(SONY)가 콜롬비아 영화사를, 미쓰비시(三菱)가 뉴욕의 록펠러 그룹사를 사들이는 질주가 이어지자 일본이 미국의 흔까지 사버린다는 반발이 일어났다<sup>7)</sup>. 막대한 대미무역 흑자로 일본이 미국경제를 위협할 정도로 존재감을 과시하자 ‘일본 두들기기(Japan bashing)’가 시작되었다. 일본은 수출에 대해서는 극히 공격적이지만 국내시장은 개방하지 않는 폐쇄국이라고 주장하는 수정주의자(revisionists) 4인방인 존슨(Chalmers Ashby Johnson), 팔로즈(James Fallows), 프레스토비츠(Clyde V.Prestowitz), 윌프렌(Karel van Wolferen)의 ‘일본 이질론’이 급격히 확산되어 나갔다.

그 후 일본 예찬론은 서서히 자취를 감추고 현재 잃어버린 30년이 진행중이다. 그동안 1960년대 평균 10%를 넘겼던 경제성장률은 1% 밑으로 떨어지고<sup>8)</sup>, 세계 2위까지 올랐던 1인당 국민총생산(명목 GDP)이 33위권으로 하락하고<sup>9)</sup>, 30년 전과 별반 다를 바 없는 임금수준이 이어지고, ‘포춘 500대 기업’의 수가 150여개에서 50여개로 줄어들고, 무디스(Moody’s)의 국가신용등급은 Aaa에서 A1로 떨어지고, 총체적으로 IMF의 세계경쟁력 1위국에서 34위국으로 추락했다. 심지어 구매력 평가 1인당 GDP(PPP), 군사력, 박사학위 취득자 수나 세계 톱10 과학논문 인용 논문수<sup>10)</sup> 등 여러 분야에서 한국에 추월당했다는 뉴스들도 흘러나오고 있다.

끊임없이 추락하는 국제경쟁력을 반전시키기 위해 일본 정부는 행정개혁, 재정확대, 금융완화, 마이너스금리, 구조조정, 쿨재팬 등 전방위적 대응책을 강구했지만 백약이 무효한 듯하다. 경쟁력 저하의 근저에는 저출산·고령화, 인구감소, 지방 과소화, 제조업 중심의 산업구조 등이 고착화되어 있어 어떤 정책을 펴도 효과를 보기 쉽지 않아 보인다. 게다가 일본의 영고성쇠는 ‘산업

7) 【9月27日は何の日】33年前、ソニーがコロムビア・ピクチャーズ買収を発表 | ツギノジダイ (asahi.com)(검색일:2023.02.03)

8) 社会実情データ図録 図録▽経済成長率の推移 (日本) (sakura.ne.jp)(검색일:2023.02.03)

9) 世界の1人当たり名目GDP国別ランキング・推移 (国連) - GLOBAL NOTE(검색일:2023.02.03)

10) 日本の科学技術研究開発費、研究者数は世界3位博士号取得者数は減少傾向—文科省が「科学技術指標2022」を公表 | nippon.com(검색일:2023.02.03)

화시대의 고도경제성장, ‘정보화시대의 잃어버린 30년’이라 압축할 수 있을 만큼 세계 문명사의 대전환과도 관련되어 있다. 즉, 산업화시대에 최적화된 일본시스템이 정보화시대나 4차 산업혁명시대로의 패러다임 전환에 적절한 대응을 하지 못하고 있는 것이다.

일본이 뒤처지는 배경의 근저에는 디지털 경쟁력 저하가 자리잡고 있기 때문이라고 진단한 일본 정부는 ‘인더스트리 4.0(Industry 4.0)’의 일본판인 ‘소사이어티 5.0(Society 5.0)’이라는 처방전을 내놓은 바 있다. 2016년 첫 선을 보인 소사이어티 5.0<sup>11)</sup>이란 ‘수렵사회, 농경사회, 공업사회, 정보사회의 다음 단계’로서 ‘사이버공간과 현실공간을 고도로 융합시킨 시스템에 의해 경제발전과 사회적 과제의 해결을 양립하는 인간중심의 사회(Society)’를 가리킨다. 즉, ‘센서와 IoT를 통해 현실공간으로부터 모든 정보(빅데이터)를 집적하여 AI가 그 빅데이터를 해석하고, 고부가가치를 현실공간으로 피드백하는 사회’를 구현함으로써 일본사회가 당면한 시대적 과제인 경제발전과 사회적 과제를 동시에 해결해 나가자는 것이다.<sup>12)</sup>

여기서 주목해야 할 점은 소사이어티 5.0은 ‘IoT, 로봇, AI, 빅데이터’ 등 첨단 디지털기술 없이는 실현될 수 없다는 것이다. 따라서 일본 정부는 소사이어티 5.0을 실현할 수 있는 디지털 경쟁력을 확보하기 위해 전자정부(e-government)’에서 ‘디지털정부(digital government)로의 전환에 매진하고 있다. 종래의 전자정부의 주요 목표가 ‘ICT 네트워크기반 정비를 통한 ICT 이·활용의 촉진이었다면 디지털정부의 지향점은 DX(digital transformation)를 통한 전면적인 디지털사회의 구현이라 할 수 있다. 일본의 경제산업성에서 DX에 대한 정의를 아주 구체적으로 내놓은 바 있지만<sup>13)</sup> 지나치게 경제적 측면이 강조되었다. DX를 정의하기 위한 다양한 시도들이 있지만 ‘AI, 빅데이터(big data), 클라우드(cloud), IoT, 5·6G 등의 디지털 기술을 사용하여 새로운 가치를 생성하고 이를 사회 전반에 확산시킴으로써

11) 内閣府(2016) 『科学技術基本計画』 閣議決定 pp.10-15 ; Society 5.0 - 科学技術政策 - 内閣府 (cao.go.jp)(검색일:2023.02.03)

12) Society 5.0資料 (cao.go.jp)(검색일:2023.02.13)

13) デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン(DX推進ガイドライン)を取りまとめました | みずほ銀行 (mizuhobank.co.jp)(검색일:2023.02.18)

경쟁상의 우위를 점하거나 인간의 삶의 질을 향상시키는 것'으로 폭넓게 정의할 수 있겠다.

코로나19 사태는 DX를 통한 소사이어티 5.0의 구현을 더욱 절실하게 만들었다. 2020년 1월 첫 환자가 신고된 후 코로나19 대처 과정에서 일본사회의 민낯을 드러내는 사건들이 연이어 불거졌다. 긴급경제대책의 일환으로 실시된 특별정액급부금(1인당 10만엔) 급부 시 온라인 신청에 의한 신속한 지급이 절실했지만 디지털 인프라 미비로 인한 수작업으로 인해 막대한 지장을 초래했다. 대면접촉을 피하고자 했지만 온라인 절차 불량으로 창구가 혼잡해지고, 텔레워크, 온라인 교육, 온라인 진료를 위한 환경 불비로 날인하러 직접 왕립할 수밖에 없는 사태가 발생했다. 또한 관·민시스템이 통일되어 있지 않거나 기본 데이터 활용 기반이 부실하여 코로나19 대응 서비스가 원활히 제공되지 않는 사례도 빈발했다<sup>14)</sup>.

이상 지적인 바와 같이 일본은 DX라는 세계사적인 시대의 흐름과 세계 3위 경제대국의 위상에 걸맞는 디지털강국이 되기 위해 거국적인 대응을 해왔음에도 불구하고 소기의 성과를 거두지 못하고 있다. 그럼에도 불구하고 아직 왜 그러한지에 대한 실증적, 심층적 분석이 제대로 이루어지지 않고 있다. 따라서 이 논문에서는 일본의 디지털 경쟁력의 현황, 강점과 약점을 실증자료에 근거하여 객관적이고 심도 있게 분석해 보고자 한다. 먼저, 다음 장에서 일본 디지털정책의 변천 과정 및 특징을 살펴보기로 하자.

## II. 일본의 디지털 정책

일본 정부는 DX를 매개로 한 소사이어티 5.0을 구현하기 위해 디지털 총력전을 펼치고 있다. 2000년 '고도 정보통신 네트워크사회 형성 기본법'(통칭 IT기본법) 제정에서 시작된 20여 년간의 일본 디지털 정책의 변천

---

14) 後藤一平、大塚華、西久保史明(2021)「デジタル改革関連5法について」『RESEARCH BUREAU 論究』第18号 衆議院調査局 pp.201-202

과정과 특징을 전자정부와 디지털정부 정책으로 나누어 살펴보기로 한다.

## 1. 전자정부와 디지털정부

디지털 선진국의 사례에서 볼 수 있듯이 각국의 디지털정책의 흐름은 대체로 ICT 통신기반 정비, 행정 수속 온라인화, 어플리케이션 보급, 디지털 이·활용 촉진, 사이버 보안 강화로 진행되어 왔고, 현재는 DX를 통한 지속 가능한 발전(SDGs)을 향해 나아가고 있다고 할 수 있겠다. OECD가 2010년대 초반부터 전자정부 대신에 디지털정부라는 말을 사용하며 그 범위와 기능을 확장시킨 것은 이러한 세태를 잘 보여준 조치라 할 수 있다. 또한, 여기서 힌트를 얻어 와세다(早稲田)대학 전자정부자치체연구소에서 매년 발표하고 있는 ‘세계디지털정부랭킹’의 영문명도 2012년부터 ‘International E-Government Rankings’에서 ‘International Digital Government Rankings’으로 바뀌었다고 한다<sup>15)</sup>. 다야(田谷洋一)는 행정에서 ICT 이·활용 발전단계를 <표 1>과 같이 세 단계로 나누었다.<sup>16)</sup>

아날로그정부에서 행정업무 처리는 주로 수작업으로 이루어졌으며 민원인들은 창구까지 가서 각종 절차를 밟아야 했다. 전자정부로 이행된 배경에는 인터넷 보급이나 네트워크 고속화 등 이용자 측의 환경 변화와 더불어 클라우드 서비스로 인한 행정 측 운영 비용의 대폭 저하 등이 있었다. 디지털 변혁이 진전됨에 따라 ‘사용자 기점에서 서비스 재설계’ 혹은 ‘서비스의 민주화’가 새로운 가치로 등장함은 물론 이를 뒷받침할 기술적 진보도 괄목할 만한 진전을 보이고 있다.

15) 2017\_Digital-Government\_Ranking\_Press\_Release\_Japanese.pdf (idg-waseda.jp)(검색일:2023.02.13)

16) 田谷洋一(2019) 「デジタル・ガバメント実現に向けたわが国の課題—欧州のデジタル先進国の『Digital Government』から学ぶ」 『Research Focus』 日本総研 pp.6-7

〈표 1〉 행정에서 ICT 이·활용 발전단계

	2000년 이전	2000년대 전반- 2010년대 전반	2010년대 후반
명칭	Analogue Government	E-Government	Digital Government
내용	- 부분적 ICT 활용 - ICT 이용에 의한 업무 프로세스 자동화	- ICT를 활용한 전자신 청 서비스 제공 - 행정 입장에서 행정기 능 설계	- ICT를 활용한 시민과 행정 쌍방향 커뮤니케 이션 환경 실현 - 시민 입장에서 행정기 능 설계
기술	인터넷	클라우드·스마트폰·3G ·4G	AI·빅데이터·5G

## 2. 전자정부

2000년 11월 초고속 네트워크 인프라 정비를 위한 IT기본법이 제정된 후 2001년 1월 전자정부의 첫 정책으로서 'e-Japan 전략'이 공표되었다. 동년 3월에는 이를 구체화한 'e-Japan 중점 계획', 6월에는 'e-Japan 2002 프로그램'이 공표되었다. 이들 조치 속에는 5년 이내에 세계 최첨단 IT국가 건설을 목표로 '초고속 네트워크 인프라 정비 및 경쟁 정책', '전자 상거래와 새로운 환경 정비', '전자정부 실현' 및 '인재 육성 강화'라는 4대 중점정책 분야가 들어 있다<sup>17)</sup>.

'e-Japan 전략' 공표 2년 만에 '고속 인터넷 3,000만 세대, 초고속 인터넷 1,000만 세대'라는 환경정비 목표가 달성되자 정비된 ICT 이·활용 문제가 대두되었다. 따라서 2003년 7월 단행된 'e-Japan 전략Ⅱ'<sup>18)</sup>에서는 IT 이·활용의 전면적 추진을 내걸고 우선 '의료, 음식, 생활, 중소기업 금융, 지식, 취업·노동, 행정 서비스'의 7개 분야에서 그 성과를 확산시켜 나가고자 했다.

2008년 리먼쇼크에 따른 세계적인 금융위기를 겪은 후에 IT전략본부는

17) 「e-Japan計画」(ndl.go.jp)(검색일:2023.02.03)

18) 東芝レビュー-2004年7月(global.toshiba)(검색일:2023.02.03)

2009년 7월 중장기 전략으로서 ‘i-Japan 전략 2015’<sup>19)</sup>를 책정했다. 여기에서는 ‘사회 구석구석에 퍼져 있는 디지털기술이 “공기”나 “물”과 같이 저항 없이 보편적으로 수용되어 경제사회 전체를 포섭하는 존재가 될 것(Digital Inclusion)을 목표로 한다고 선언했다. 즉, 기술적 측면에 방점을 찍었던 기존의 전략이 서비스 공급자 측의 논리에 빠져 있었음을 반성한 후, 인간 중심의 디지털기술이 보편적으로 국민에 의해 수용될 수 있는 전략이 필요함을 제시한 것이었다. ‘전자정부·전자자치단체 분야, 의료·건강 분야, 교육·인재’가 3대 중점 분야로 설정되었다.

2010년대 중반부터는 네트워크 인프라 기술 진보와 민간 사업자의 조직 내 데이터 연계의 진전, 나아가 IoT의 폭발적인 보급으로 전 국민이 디지털사회의 편익을 누릴 수 있는 ‘관·민 데이터 이·활용 사회 구축’에 나섰다. 그 일환으로서 2017년 5월 ‘세계 최첨단 IT국가 창조 선언·관민 데이터 활용 추진 기본계획(2017년)’<sup>20)</sup>이 책정되었다. 이 계획은 2013년 각의에서 결정된 ‘세계 최첨단 IT국가 창조 선언과 2016년 12월 공포된 ‘관·민 데이터 활용 추진 기본법’에 규정된 정부의 기본계획을 포괄하는 것이었다. 여기서는 세계 최초로 데이터가 인간을 풍요롭게 하는 사회를 구축하자는 목표하에 관·민 데이터 이·활용을 도모함으로써 발전이 기대되는 8개 분야로서 ‘전자행정, 건강·의료·간병, 관광, 금융, 농림수산, 모노즈쿠리, 인프라·방재·감재 등, 이동’을 꼽았다. 한편, 2016년 1월에는 마이넘버카드 배포가 개시되고, 2017년 11월에는 개인정보 표시기능 등을 제공하는 마이포털도 운용되기 시작했다.

### 3. 디지털정부

일본의 디지털정부 개시를 시사하는 자료로서 2018년 6월 8일의 ‘디지털·거버먼트 각료회의’를 주목하고 싶다. 당일 배포된 회의자료<sup>21)</sup>의 모두에 ‘전자정부 각료회의에서 디지털정부 각료회의로’라는 의제가 등장했다.

19) Microsoft Word - ●05 資料3①i-Japan戦略2105(案) v 3.doc (soumu.go.jp)(검색일:2023.02.13)

20) honbun.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

21) 会議の名称等について(資料1-1) siryou1\_1.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

그 내용을 요약하면 ‘지금까지 전자행정의 대치는 행정 내부의 사무 효율화나 각종 수속의 쌍방향 온라인화 등이었다(전자정부=e-government). 정부·지방·민간 모두를 통한 데이터 연계, 서비스융합을 실현하고 세계 최초로 일본형 “디지털정부(digital government)”를 실현하기 위해 “전자정부 실행계획”을 결정한다’는 것이었다.

이를 계기로 디지털정책의 목표가 세계 최첨단 ‘IT국가 창조’에서 ‘디지털 국가 창조’로 전환되었고, 이를 대내외에 천명한 것이 ‘세계 최첨단 디지털 국가 창조 선언·관민 데이터 활용 추진 기본계획(2018년 6월 15일)’<sup>22)</sup>이라 할 수 있다. 이 계획에서는 ①디지털기술을 철저하게 활용한 행정 서비스 개혁 단행, ②지방의 디지털 개혁, ③민간 부문의 디지털 개혁, ④세계를 선도하는 분야 횡단형 ‘디지털개혁 프로젝트’를 중점 목표로 내걸었다.

한편, 경제산업성은 산업적 측면에서 디지털국가 창조를 뒷받침하기 위해 2018년 9월 『DX리포트』<sup>23)</sup> 속에서 ‘2025년의 절벽(2025年の崖)’을 예고했다. 즉, 일본기업이 노후화·복잡화·블랙박스화 한 구시대의 시스템(レガシーシステム)으로부터 탈각하지 못한다면 2025년 이후 5년 동안 연간 최대 12조엔의 경제손실이 발생하는 벼랑 끝에 내몰릴 것이라 경고한 것이다. 이후 『DX리포트 2』(2020년 12월), 『DX리포트 2.1』(2021년 8월)을 거쳐 2022년 7월에는 『DX리포트 2.2』<sup>24)</sup>를 공포하여 디지털산업으로의 변혁을 위한 ‘수익성 중시, 행동 우선, 오픈 이노베이션’등을 강조했다.

2019년 5월에는 디지털정부 구축을 향한 법적 기반을 정비하기 위해 ‘디지털 절차법(デジタル手続法)’<sup>25)</sup>이 공포되었다. 이 법에서는 ‘디지털 최우선(digital first, 모든 절차·서비스 디지털로 완결)’, ‘한번만 (once only, 한번 제출한 정보 두 번 제출할 필요 없음)’, ‘한곳에서(connected one stop, 민간 서비스까지 복수의 절차·서비스 윈스톱 실현)’를 3원칙으로 제시했다.

22) siryou5.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

23) 経済産業省(2020) 『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～DXレポート2』

24) デジタル産業への変革に向けた研究会(2022) 『DXレポート2.2(概要)』 経済産業省 p.1

25) 山本真佑(2019) 「労働法令のポイント」『労働時報』第3976号 p.13.

또한, 행정절차의 온라인 실시나 마이넘버카드 활용 촉진 이상으로 민간 서비스를 포함한 윈스톱 서비스 제공, 행정 서비스와 민간 서비스의 융합에 의한 이노베이션 창출까지 내걸어 디지털정부 실현을 향한 의지를 담았다.

이처럼 전자정부에서 디지털정부로의 변신이 한창이던 2020년 1월 일본에서 최초의 코로나 확진자가 나왔다. 코로나19 확산 방지를 위해 새로운 생활 방식으로의 전환이 절실했다. 그러나 일본 정부의 민낯을 드러내는 사건이 연이어 터졌다. 코로나19 긴급경제대책의 일환으로 실시된 특별정책급부금(국민 1인당 10만엔) 교부가 시작되었지만 신청부터 교부까지의 과정을 온라인만으로 완결할 수 없어 신속한 교부가 불가능했다. 대면접촉 없는 대응을 하려 해도 온라인 신청이 제대로 되지 않아 창구가 혼잡해지고, 텔레워크, 온라인교육, 온라인진료 등의 환경이 갖추어져 있지 않았고, 낯인을 위해 출근해야 하는 사태가 발생하기도 했다. 뿐만 아니라 관·민의 시스템이 통일되어 있지 않아 개인정보 보호제도에서도 문제가 생겼고 데이터 이·활용이 원활히 진행되지 않아 서비스가 제대로 이루어지지 않는 사례도 빈발했다.<sup>26)</sup>

상황이 이렇다 보니 동년 7월 각의에서 결정된 ‘세계 최첨단 디지털 국가 창조선언·관·민 데이터 활용 추진 기본계획’에서는 밀집·밀집·밀폐를 피하는 등 코로나19 대책을 일상생활에 도입한 ‘디지털 강인(強靱)화 사회’ 실현이 강조되었다. 이를 위해 제정 20년을 맞이한 IT기본법의 전면적인 재검토가 이루어졌다. 그 결과 2021년 5월 17일 ‘디지털 개혁 6법’이 공포되었는데<sup>27)</sup>, 그 가운데 대표적인 법안은 ‘디지털사회 형성 기본법’이라 할 수 있다. IT기본법에 더해 데이터 정비·유통·활용 및 사이버 보안 확보가 대폭 강화되었고, 정부와 자치체뿐만 아니라 민간 사업자의 역할도 규정되었고, 디지털청 신설 근거도 마련했다.<sup>28)</sup> 또한 ①행정 서비스의 디지털화, ②일상생활의 디지털화, ③산업의 디지털화, ④디지털 격차에 대한 대응을 구체

26) 後藤 一平、大塚華、西久保史明(2021)「デジタル改革関連5法について」『RESEARCH BUREAU 論究』第18号 内閣調査室 pp.201-202

27) デジタル改革関連法案をわかりやすく解説 | ジチタイムズ (publicweek.jp)(검색일: 2023.02.01)

28) デジタル社会形成基本法(2ページ目): 日経BPガバメントテクノロジー (nikkeibp.co.jp)(검색일: 2023.02.01)

적인 과제로 내세우며 일본사회의 DX 촉진을 꾀했다.

2021년 9월 1일 ‘디지털사회 형성 기본법’이 시행됨과 동시에 디지털청이 출범했다. 벌써부터 비판적 목소리도 들리기도 하지만, 디지털청은 일본사회의 디지털화를 실현할 사령탑으로서 주목받고 있다. 디지털청<sup>29)</sup>은 ‘단 한 사람도 빠짐없는, 인간 친화적 디지털화를(誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を)’이라는 모토하에 디지털 절차법의 3원칙 실현을 지향하고 있다. 나아가 ‘디지털·규제·행정개혁을 관통하는 구조개혁, 디지털 전원도시 국가구상, 국제협력, 사이버보안 확보, 디지털산업 육성 등’을 기본 전략으로 삼고 있다.

### Ⅲ. 일본의 디지털 경쟁력 추이

일본 디지털 경쟁력의 실상을 그 추이, 2022년의 랭킹, 강점과 약점 순으로 분석해 보고자 한다. 자료로서는 이 분야에서 가장 정평 있는 평가로 알려져 있는 스위스 국제경영개발연구원의 ‘세계디지털경쟁력랭킹’ (WDCR로 약함)과 국제연합의 ‘전자정부발전지수’(EGDI로 약함)를 사용하기로 한다.<sup>30)</sup>

#### 1. 디지털 경쟁력 추이 종합

각국의 디지털화 진전도를 평가하기 위해 스위스 국제경영개발연구원은 ‘세계디지털경쟁력랭킹’, 국제연합은 ‘전자정부발전지수’란 말을 쓰고 있다. 명칭이 다른 만큼 이들 조사의 지향점에도 차별성이 있다. 첫째, EGDI는 전자정부 즉, 공공서비스에 있어서 정부의 효율성에 초점을 맞추고 있고,

29) デジタル社会の実現に向けた重点計画 | デジタル庁 (digital.go.jp)(검색일:2023.02. 13)

30) 스위스 국제경영개발원(International Institute for Management Development)의 World Digital Competitiveness Ranking, 국제연합(United Nations)의 E-Government Development Index에서 각 보고서 영문명의 첫 글자를 따서 약칭으로 하였음. IMD World Competitiveness Online(검색일:2023.02.01) ; EGOVKB | United Nations > Home(검색일:2023.02.03)

WDCR은 정부, 기업, 국민들의 역량을 포괄한 총체적인 DX 경쟁력에 대한 평가를 시야에 넣고 있다. 둘째, EGDI가 랭킹이란 말 대신 지수란 말을 쓰는 이유는 전자정부도 국제연합 밀레니엄 선언이 제공하는 인간발전의 비전을 실현하기 위한 수단에 지나지 않음을 강조하기 위함이다. 따라서 국제연합은 ‘더 높은’ 지표가 반드시 ‘더 나은’ 결과라거나 심지어 바람직한 결과임을 의미하지 않는다고 강조하고 있다<sup>31)</sup>. 셋째, WDCR은 동 발행기관의 또 다른 정평 있는 조사인 ‘세계경쟁력랭킹(World Competitiveness Ranking)’과도 밀접한 관련이 있어 조사 항목 54개 중 34개의 항목을 공유하고 있다. 세계경쟁력랭킹은 경제상황, 기업이 경쟁력을 발휘할 수 있는 토양 정비도를 측정하는 데 초점이 맞춰져 있는데<sup>32)</sup>, 이런 기조는 WDCR에도 반영되어 있다. 어쨌든 각 국가는 자국의 고유한 사정에 맞춰 디지털 경쟁력의 수준과 범위를 정해야 한다는 점을 유의할 필요가 있다.

WDCR과 EGDI 평가의 개요를 정리하면 <표 2>와 같다.

<표 2> WDCR과 EGDI 평가 개요

	WDCR	EGDI
국가·지역	63	193
기간	2017-2022	2003-2022
목적	-디지털기술 구현을 통한 효율성 향상 -서비스 범위 및 품질 향상을 통한 경쟁력 제고	-공공서비스에서 전자정부의 효율성 -디지털 격차에 대처하는 각국 정부에 통찰력 제공
분류·항목	대분류(3)·중분류(9)·항목(54)	대분류(3)·항목(9)

\* 이 표는 2022년 조사를 기준으로 정리하였음. 조사대상 분류·항목 및 국가·지역은 조사년도에 따라 달라질 수 있음.

\*\* 중분류는 몇 개의 항목, 대분류는 몇 개의 중분류 또는 항목을 묶어 만든 범주다.

\*\*\* EGDI 평가는 2003-2005는 매년, 2008-2022는 격년으로 행해짐.

\*\*\* 대분류와 중분류의 구성 요소 및 항목 내용에 대해서는 해당 장·절에서 자세히 소개함.

31) EGOVKB | United Nations > Home(검색일:2023.02.03)

32) 小針泰介(2013) 『国際競争力ランキングから見た我が国と主要国の強みと弱み』『レファレンス』 国立国会図書館調査及び立法考査局 pp.110-112

두 조사의 종합 랭킹(높을수록 경쟁력이 낮음) 추이를 비교하면 다음 <그림 1>과 같다. EGDI가 2008년부터 격년으로 발표되었기 때문에 WDCR도 짝수년도만 다루었다. 그림에서 알 수 있듯이 첫째, EGDI에서 일본은 193국·지역 중 14위로 양호한 성과를 올렸고, WDCR에서는 63국·지역 중 27위를 차지하여 중위권에 머물렀다. 둘째, 두 조사 모두에서 일본의 디지털 경쟁력 랭킹은 하락하고 있다. 셋째, EGDI에 비해 WDCR의 랭킹이 현저하게 취약했다. 그 이유에 대해서는 IV장에서 자세히 분석하겠지만, 대체적으로 2000년대 초부터 조사가 시작된 EGDI의 평가 기준이 주로 디지털 경쟁력 초기 단계인 전자정부 정책 즉, ICT 인프라 정비나 이·활용 쪽에 초점이 맞춰져 있고, 이 부분의 평가에서 일본이 상대적으로 높은 점수를 받았기 때문으로 생각된다. 반면, 비교적 최근인 2017년 시작된 WDCR에는 그동안 진전된 디지털사회를 평가할 수 있는 항목이 다수 포함되어 있는데 이 영역에서 일본의 평가가 낮다. 넷째, 2022년의 결과는 코로나19에 대응하는 디지털 경쟁력까지 반영된 것인데, 두 조사 모두 코로나19 전후의 결과에 큰 변화가 없다.

<그림 1> 종합 디지털 경쟁력 추이 비교



## 2. WDCR과 EGDI 경쟁력 추이

IV장 1절에서 자세히 소개하겠지만 WDCR 평가는 하위 항목과, 이를 중 분류, 대분류한 후 각각에 대한 랭킹을 모두 제공하고 있다. 이에 반해 EGDI

는 대분류는 랭킹을 제공하기 때문에 경쟁력의 추이를 살피는 것이 의미가 있지만, 대분류를 구성하는 항목에 대해서는 랭킹이 아니라 점수를 공개하고 있어 경쟁력의 추이를 살펴보다도 의미가 없다. 왜냐하면 대부분의 국가와 마찬가지로 일본도 매해 항목마다 점수가 상승하는 경향을 보이기 때문에 그 추이는 당연히 상향 곡선을 그릴 수밖에 없기 때문이다. 따라서 여기서는 EGD는 대분류 영역에 한해서만 추이를 분석하기로 한다.

1)WDCR 경쟁력 추이

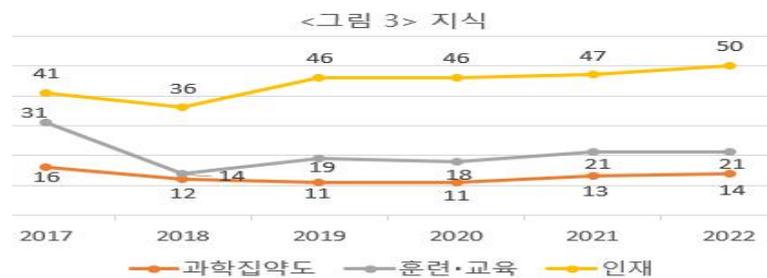
(1)대분류



WDCR에서는 경쟁력의 요소를 ①지식, ②기술, ③미래 준비로 대분류하고 하고 있다. 보듯이 경쟁력 랭킹은 전반적으로 기술, 지식, 미래 준비의 순으로 나타났다. 그중 기술은 17위에서 13위까지 향상되었고, 지식은 29위에서 한 단계 상승하여 28위가 되었지만 전체적으로는 큰 차이 없이 등락을 거듭했다. 미래 준비는 25위에서 28위로 세 단계 떨어졌을 뿐만 아니라 대체로 하향 곡선을 그렸다.

(2) 중분류

① 지식



지식은 무형의 기반시설로서 새로운 기술의 발견, 이해 및 학습을 가능하게 하여 DX 프로세스의 기반이 되는 필수 인프라로 정의되고 있다. 인적 자본의 질을 측정하는 인재, 교육 및 훈련에 대한 투자 수준과 결과, R&D, 이공계 인력 및 수준을 종합하는 과학적 집약도로 구성되어 있다. 과학집약도의 랭킹이 단연 앞설 뿐만 아니라 16위에서 14위까지 상승하기도 했다. 훈련 및 교육은 31위에서 21위까지 10단계나 상승하였다. 일본의 디지털 경쟁력을 저해하는 고질적인 약점으로 지적되어 온 인재는 처음부터 좋지 못한 41위에서 출발하여 2018년 36위를 제외하고는 매년 하락하여 50위까지 추락하였다.

② 기술

기술은 디지털기술의 발전을 가능하게 하는 맥락으로 정의된다. 여기에는 기술 발전에 영향을 미치는 규제 틀, 기술 인프라의 품질인 기술 틀, 투자 자본의 가용성을 보는 자본 등이 포함된다. 랭킹은 기술 틀, 자본, 규제 틀 순으로 나타났다. 기술 틀은 6위에서 8위로 두 단계 떨어졌지만 양호한 성적을 보이고 있고, 자본은 33위에서 32위로 한 단계 상승하였고, 규제 틀은 37위에서 47위로 큰 폭으로 떨어졌다.



③ 미래 준비

미래 준비는 정부, 기업 및 사회 전반이 DX를 이뤘나갈 수 있는 준비 수준을 평가한 것이다. 경쟁력을 갖추려면 인터넷 구매에 참여하는 것처럼 디지털 관련 프로세스에 참여하려는 적응적 태도가 필요하고, 비즈니스 민첩성을 발휘하기 위해서는 변화하는 환경에 맞춰 기업이 비즈니스 모델을 변형할 수 있어야 한다. 뿐만 아니라 민간 부문에서 비롯된 혁신의 수준, IT 관련 관행과 프로세스가 모든 행위자에 의해 얼마나 잘 적용되는지도 평가 대상이다.

적응적 태도와 IT 통합은 비슷한 랭킹 수준을 보여주었고 미래 준비 상황은 대단히 열악하다. 적응적 태도는 지속적으로 하락하여 14위에서 20위까지 떨어졌다. IT통합은 소폭 등락을 거쳤지만 시작과 끝이 같은 18위를 기록했다. 그러나 비즈니스 민첩성은 2019년 57위에서 62위까지 떨어져 겨우 꼴찌를 면했다. 미래 준비 영역의 부진은 일본의 디지털 경쟁력을 저해하는 심각한 문제로 작용하고 있다.

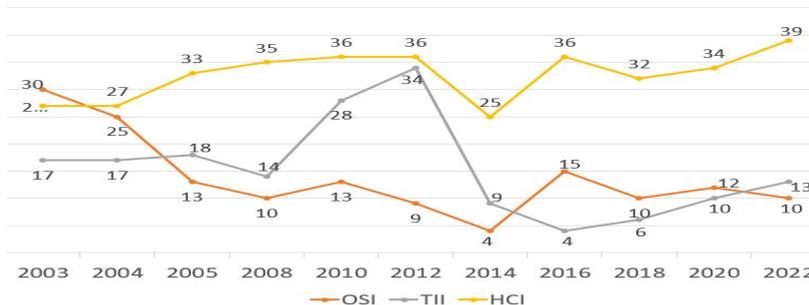


2) EGDI 경쟁력 추이

EGDI의 대분류는 인적 자본(Human Capital Index, HCI), 온라인 서비스(Online Service Index, OSI), 통신인프라(Telecommunication Infrastructure Index, TII) 셋으로 나뉜다. 인적 자본은 일반 국민의 교육 수준과 관련된 평가가 주를 이루고, 온라인 서비스에서는 각종 신청 절차의 온라인 서비스화나 웹을 통한 국가 정보 공개, 접근의 용이성 등을 평가하며, 통신인프라는 WDCR의 기술 틀과 겹치는 부분으로서 ICT 인프라 지표를 기반으로 평가한다.

〈그림 6〉에서 알 수 있듯이 랭킹은 온라인 서비스, 통신인프라, 인적 자본의 순으로 나타났다. 30위에서 10위까지 대폭 상승한 온라인 서비스에서는 일본의 전자정부 정책이 큰 성과를 올린 것으로 보인다.

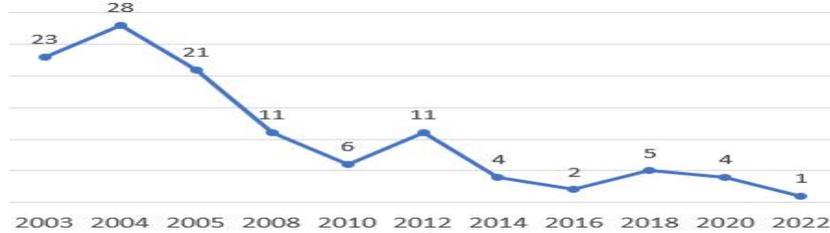
<그림 6> 대분류 전자정부 지수 추이 비교



한편, EGDI에서는 온라인 서비스 제공의 하위 항목 중 하나인 전자참여의 순위만을 따로 평가하여 랭킹을 제공하고 있는데, 〈그림 7〉에서 보듯이 일본은 괄목할만한 상승세를 보여 2003년 23위에서 시작하여 2022년 1점 만점으로 1위에 등극했다. 만점의 의미는 EGDI가 조사에서 사용한 모든 전자참여 기능이 일본 정부의 포털에 들어 있다는 것이다. 비록 수요자(시민)보다는 공급자(행정) 쪽에 치우쳐 있기는 하지만 전자참여에서는 시민들에게 공공정보의 제공은 물론 쉽게 접근할 수 있도록 하는 전자정보, 시민이 공공정책 및 서비스 심의에 참여할 수 있는 e-상담, 정책 설계 및 서비스 제공

양식 제작 등에 시민을 참여시키는 전자의사결정 등, 시민과 정부의 상호작용을 촉진하는 요인이 높게 평가되고 있다.

<그림 7> 전자참여



특이하게도 전자참여의 랭킹이 높은 나라는 EGDI도 높게 나타나는데 일본의 경우는 전자참여 랭킹은 1위지만 EGDI는 14위에 머물러 있다. 다른 나라에 비해 인적 자본 랭킹이 너무 저조하기 때문인 것으로 생각된다.

통신인프라는 2012년에는 34위, 2016년에는 4위를 기록하는 등 등락 폭이 매우 컸지만 17위에서 4단계 상승하여 13위를 기록했다. 이에 반해 인적 자본은 27위에서 39위까지 하락해 무려 12단계나 떨어졌다.

#### IV. 2022년 일본 디지털 경쟁력 현황

이 장에서는 2022년도의 WDCR과 EGDI를 통해 일본 디지털 경쟁력의 현재 위치를 살펴보고, 그 강점과 약점에 대해 분석하기로 한다. 강점과 약점을 분석하기 위해서는 대분류·중분류 랭킹은 물론 항목 랭킹까지 살펴봐야 하는데 WDCR은 이들 자료를 모두 제공하고 있는 반면에 EGDI는 대분류만 랭킹을 제공하고 항목에 대해서는 랭킹이 아니라 점수만 제공하고 있다. 따라서 EGDI의 항목에 대해서는 일본과 나머지 192개국의 EGDI 2022 점수를 하나하나 비교해 랭킹을 구했다.

### 1. 평가 기준 및 랭킹

먼저, WDCR-2022의 평가 기준 및 랭킹을 정리하면 <표 3>과 같다. 3개 대분류, 9개 중분류, 54개 항목으로 구성되어 있는데, ( ) 속에는 랭킹을 표시하였다.

WDCR에서는 <표 3>의 54개 항목을 하드 데이터(hard data) 30개와 소프트 데이터(soft data) 20개로 분류하고 있다. 기는 글자로 표기한 하드 데이터란 출판 논문수, 인터넷 속도, 국가 신용도, 전자행정 참여 등 스위스국제경영개발연구원이 국제기구, 각 국가, 지역으로부터 받은 정량적인 통계자료를 말한다. 하드 데이터들은 해당 국가의 경제적 역량이 뒷받침될수록 잘 갖춰질 가능성이 높고 소프트 데이터에 비해 안정적이고 객관적이라 할 수 있다. 국제경험, 이민법, 기업의 민첩성 등을 포괄하는 소프트 데이터들은 재계, 정계, 학계 및 관계 전문가를 대상으로 한 설문조사나 인터뷰 등을 통해 얻은 인지적, 정성적 자료들로서 경제성장, 비즈니스 환경, 정치적 안정성 등을 가늠해볼 수 있는 자료들이다.

<표 3> WDCR의 평가 기준 및 랭킹

대분류	중분류	항목
지식 (28)	인재 (50)	PISA 수학 평가(5)/순유입 유학생(25)/도시관리(16)/디지털 및 기술 기능(62)/국제경험(63)/외국인 고급인재(63)
	훈련 교육 (21)	초·중·고 학생·교사 비율(1)/학위 취득 여성(8)/고등교육 성과(8)/이과 졸업생(42)/교육에 대한 공적 지출(54)/직원 교육(34)
	과학 집약도 (14)	교육 및 R&D 분야 로봇 활용(4)/하이테크 특허(6)/R&D 총지출(7)/R&D 생산성(출판 논문수,16)/인구 대비 R&D 인력수(18)/과학기술 인력수(39)/여성 연구원(55)/
기술 (13)	규제 틀 (47)	계약 이행 강제(35)/창업(43)/지식재산권(34)/기술 개발 및 응용(41)/과학연구 규정(49)/이민법(61)
	자본 (32)	IT&미디어 주식 시가 총액(19)/국가 신용도(28)/정보통신 투자(32)/벤처자본(34)/은행 및 금융 서비스(35)/기술개발 자금 조달(41)
	기술 틀 (8)	무선 브로드밴드 가입자수(2)/인터넷 사용자(19)/인터넷 속도(19)/모바일 브로드밴드 가입자수(22)/하이테크 수출(24)/통신기술(42)

미래 준비 (28)	적응형 태도 (20)	전자행정 참여(4)/스마트폰 소지(10)/인터넷 소매(16)/테블릿 소지(24)/ <b>글로벌화에 대한 태도(63)</b>
	비즈니스 민첩성 (62)	세계 로봇 점유율(2)/창업가의 실패 두려움(35)/ <b>지식 이전(49)/기회와 위협(63)/기업의 기민성(63)/빅데이터 분석과 활용(63)/</b>
	IT통합 (18)	소프트웨어 불법 복제(2)/법적 내용에 의한 개인정보 보호(11)/정부 사이버 보안 역량(23)/ <b>민관 파트너십(41)/사이버 보안(45)</b>

다음으로, EGDI-2022의 평가 기준과 랭킹을 정리하면 <표 4>와 같다. 이미 설명한 바 있는 3개의 대분류와 지금부터 분석에 사용될 13개 항목으로 구성되어 있고, ( ) 속에 랭킹을 표시하였다.

성인 문해율은 15살 이상 사람들이 간단히 읽고 쓸 수 있는 능력, 예정취학년수는 일정 연령에 도달한 아동이 장래에 받을 수 있는 취학년수, 총취학률은 연령에 관계없이 초·중·고등 교육기관에 등록된 학생수, 평균 취학년수는 25세 이상 성인이 이수한 평균교육년수를 의미한다.

<표 4> EGDI의 평가 기준 및 랭킹

대분류	항목
온라인 서비스 (10)	제도적 틀(1)
	서비스 제공(40)
	콘텐츠 제공(1)
	전자참가(1)
	기술(1)
인적 자본 (39)	성인 문해율(61)
	취학 예정년수(40)
	총취학률(41)
	평균 취학년수(25)
통신 인프라 (13)	인터넷 사용자수(22)
	고정 브로드밴드 계약수(23)
	액티브 모바일 브로드밴드(1)
	휴대전화 계약수(1)

## 2. 하드 데이터의 강점과 소프트 데이터의 약점

앞에서 살펴본 바와 같이 일본의 WDCR의 종합 랭킹은 27위인데, 대분류의 지식과 미래 준비는 공히 28위로 한 등급 차이가 나고, 기술은 13위로 종합 랭킹을 훌쩍 상회한다. 중분류를 보면 기술 틀(8), 과학집약도(14), IT 통합(18), 적응적 태도(20), 훈련·교육(21)의 5개 영역이 전체 평균 27위보다 앞서고, 자본(32), 규제 틀(47), 인재(50), 비즈니스 민첩성(62)의 4개 영역이 전체 평균보다 떨어진다. 특히, 규제 틀, 인재, 비즈니스 민첩성은 크게 뒤져 있다.

원인이 무엇인지 궁금해지는데 그 실마리는 하드 데이터와 소프트 데이터 항목을 통해 찾을 수 있을 것 같다. 이를 밝히기 위해 먼저 54개 항목 중 상위 10개 항목을 뽑아 랭킹 순으로 정리하면 <표 5>와 같다. 흥미롭게도 상위 10개 항목이 모두 하드 데이터에 속한 것들을 발견할 수 있다. 나아가 이들 항목의 랭킹 추이가 어떨지, 조사가 시작된 2017년도부터 정리해 보았는데 미세한 차이가 있지만 모든 항목의 연도별 랭킹 추이에 거의 변화가 없고, 각 연도 내의 랭킹도 마찬가지로였다.

<표 5> WDCR의 상위 10항목

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
초·중·고 학생:교사 비율	2	1	1	1	1	1
무선 브로드밴드 가입자수	4	5	2	2	2	2
세계 로봇 점유율	-	-	2	2	2	2
SW 불법 복제	2	2	2	2	2	2
전자행정 참가	2	2	5	4	4	4
교육·R&D 분야 로봇 활용	-	-	4	4	4	4
PISA 수학	4	4	4	5	5	5
하이테크 특허	3	3	4	4	5	6
R&D 총지출	3	6	6	6	5	7
고등교육 성과	5	7	6	8	8	8
학위 취득 여성	56 <sup>33)</sup>	9	8	8	6	8

\*-은 해당년도의 평가 기준에 없었던 항목임.

33) 전후 상황으로 보아 56위라는 랭킹은 부자연스러운 듯한데 텍스트에 이렇게 나와 있고, 딱히 더 확인할 방법이 없다.

이번에는 랭킹 하위 10개 항목을 골라서 순서대로 정리해보면 <표 6>과 같이 되었다. 놀랍게도 여기에서는 상위 두 항목인 ‘교육 공적 지출’과 ‘여성 연구원’을 제외한 나머지 하위 8항목 모두가 소프트 데이터였다. 또한, 하위 10항목 역시 2017년도부터의 랭킹 추이나 각 연도 내의 랭킹에서 큰 차이를 보이지 않았다. 게다가 모두가 소프트 데이터에 속하는 10항목 중에서도 하위 8항목의 랭킹은 조사대상 63국·지역 중에서 거의 꼴찌에 해당할 만큼 좋지 못하다.

<표 6> WDCR의 하위 10항목

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
교육 공적 지출	56	57	55	55	57	54
여성 연구원	48	54	54	56	55	55
이민법	54	60	56	56	62	61
디지털·기술 기능	59	48	60	62	62	62
빅데이터 분석·활용	59	56	63	63	63	63
기업의 민첩성	63	63	63	63	64	63
기회와 위협	60	62	63	63	62	63
세계화 태도	33	32	44	50	46	63
국제경험	63	62	63	63	64	63
외국인 고급인력	51	50	51	54	49	63

중분류 랭킹 중에서 비즈니스 민첩성(62), 인재(50), 규제 틀(47)의 랭킹이 현저히 낮은 이유는 다수의 소프트 데이터가 이 속에 포함되어 있을 뿐만 아니라 이들 항목의 랭킹이 현저히 낮기 때문임을 명확히 보여준다. 최하위를 기록하고 있는 글로벌화에 대한 태도(63)가 포함되어 있음에도 불구하고 적응형 태도가 그나마 20위를 유지하게 된 이유도 나머지 항목들이 모두 하드 데이터이면서 랭킹도 높기 때문이라 해석할 수 있다. 반대로 기술 틀(8)이나 과학집약도(14)가 중분류 상위 1, 2위에 오른 이유는 통신기술만 소프트 데이터이고 나머지는 모두 하드 데이터이기 때문이라 생각된다. 하나 더 눈여겨 봐둘 점은 기술 틀의 항목 가운데 디지털기술이 중심이 되는 통신기술(42)은 최하위 랭킹을 차지했다는 사실이다.

한편, EGDI의 전체 랭킹은 14위로서 WDCR의 전체 랭킹 27위를 훨씬

상회하였다. 그 이유는 EGDI 항목들이 WDCR의 기준으로 본다면 하드 데이터이기 때문일 것으로 생각된다. 앞의 <표 4>의 중분류 중 통신인프라(13)의 항목들은 WDCR에서도 좋은 성적이 나온 기술 틀의 항목과 유사하고, 온라인 서비스(10)는 기본적으로 공공서비스를 효율적으로 사용할 수 있도록 정부가 제공하는 것으로서 전자정부 정책을 펼 당시 일본 정부가 다른 영역에 비해 비교적 잘 대처한 영역들이다. 인적 자본(39)의 랭킹이 현저히 떨어지는 이유는 이를 구성하는 하위 항목들이 의무교육 단계에서는 정부의 노력이 다소 효과를 거둘 수 있을지 모르지만, 전반적으로 정부의 정책만으로는 성과를 올리기 어려운 영역이기 때문일 것으로 생각된다.

## V. 맺음말

본문을 통해 2000년 IT기본법 제정을 기점으로 20여 년 동안 시행되어 온 일본 정부의 디지털정책, WDCR과 EGDI에 근거해 지속적으로 추락해 온 일본 디지털 경쟁력의 추이와 현재의 위상을 살펴보고, 강점과 약점 및 그 이유에 대해서도 분석해 보았다.

일본 디지털정책의 변천과 특징에 대해서는 기존의 전자정부 시기와 2018년 8월 각료회의를 계기로 현재까지 의욕적으로 추진되고 있는 디지털정부의 두 시기로 나누어 고찰했다. 정책의 방향은 대체적으로 ICT 통신기반 정비, 행정 수속의 온라인화, 어플리케이션 보급, 디지털 이·활용 촉진, 사이버 보안 강화 쪽으로 진행되어 왔다고 볼 수 있겠다. 막 시작된 디지털정부의 비전은 소사이어티 5.0을 향한 DX 추진으로 정리할 수 있을 것 같다.

그러나 일본 정부의 총력전에도 불구하고 일본의 디지털 경쟁력은 나날이 하락하고 있다. EGDI 14위, WDCR 27위는 세계 3위 경제대국의 위상에 걸맞지 않다. 일본 정부의 디지털정책은 'ICT 통신기반 정비, 행정 수속의 온라인화, 어플리케이션 보급' 즉, 디지털 인프라 구축이란 면에서는 일정 정도 성과를 올린 것으로 생각된다. 이 점은 EGDI와 WDCR의 하드 데이터의 순위를 통해서 확인할 수 있었다. 그러나 그렇다고 해서 일본의 디지털 인프

라가 다른 디지털 선진국보다 잘 되어 있다는 뜻은 아니다.

어쨌든 일본만 놓고 본다면 문제는 하드 데이터가 아니라 소프트 데이터의 랭킹에 있다. 하드 데이터는 DX를 향해 나아가기 위한 최소한의 필요조건이다. DX란 선진적 디지털기술을 매개로 해서 사람들의 가치와 사회 조직 전반에 기민성, 회복력, 개방성이 발휘될 때 실현 가능한 과제이다. 즉, DX는 기술이 아니라 인간의 사고와 행동의 변화 없이는 이루어질 수 없다. WDCR에서 63국·지역 중 60위를 기록한 이민법, 풀지를 기록한 국제경험, 외국인 고급 인재, 글로벌화에 대한 태도, 기업의 기민성, 빅데이터 분석이라는 성적으로는 일본의 디지털 경쟁력은 회복되기 어려울 것이다.

하드 데이터에 강점이 있고 소프트 데이터에 약점이 있다는 것은 뒤집어 생각하면 그만큼 발전의 여지가 많다는 면에서는 희망의 메시지라 할 수 있다. 그러나 그 희망을 성취하는 것은 변화의 가능성이 아니라 그 가능성을 현실화시키는 능력에 달려 있다.

### 〈참고문헌〉

- 김현구(2020) 『일본 다루기 : 달라진 한국』 이상미디어 pp.1-319  
 유영수(2021) 『일본이 선진국이라는 착각 : 어제에 갇힌 일본에서 무엇을 배울 것인가』 휴머니스트 pp.1-295  
 브래드 글로서먼저, 김성훈역(2020) 『피크 재팬 : 마지막 정점을 찍은 일본』 김영사 pp.1-427  
 이명찬(2021) 『일본인들이 증언하는 한일역전』 서울셀렉션 pp.1-400  
 加谷珪一(2019) 『日本はもはや「後進国」』 秀和システム pp.1-224  
 経済産業省(2020) 『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～DXレポート2』 pp.1-56  
 後藤一平、大塚華、西久保史明(2021) 『デジタル改革関連5法について』 『RESEARCH BUREAU 論究』 第18号 内閣調査室 pp.201-202  
 小針泰介(2013) 『国際競争力ランキングから見た我が国と主要国の強みと弱み』 『レファレンス』 国立国会図書館調査及び立法考査局 pp.110-112  
 田谷洋一(2019) 『デジタル・ガバメント実現に向けたわが国の課題—欧州のデジタル先進国の「Digital Government」から学ぶ』 『Research Focus』 日本総研 pp.6-7

일본의 디지털 경쟁력 추이와 현황 ..... 박용구...255

デジタル産業への変革に向けた研究会(2022)『DXレポート2.2(概要)』経済産業省  
p.1

戸堂康之(2010)『途上国化する日本』日本経済新聞出版 pp.1-191

野口悠紀雄(2022)『日本が先進国から脱落する日』プレジデント社 pp.1-288

御厨 貴、本村凌二(2013)『日本の崩壊』祥伝社 pp.1-248

山本真佑(2019)「労働法令のポイント」『労働時報』第3976号 p.13

IMD World Competitiveness Online(검색일:2023.02.01)

Data Center (un.org)(검색일:2023.02.01)

EGOVKB | United Nations > Home(검색일:2023.02.03)

デジタル改革関連法案をわかりやすく解説 | ジチタイムズ (publicweek.jp)(검색일:2023.02.01)

「e-Japan計画」(ndl.go.jp)(검색일:2023.02.03)

会議の名称等について(資料1-1) siryou1\_1.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

『科学技術基本計画』、2016年1月、閣議決定, pp.10-15 ; Society 5.0 - 科学技術政策 -  
内閣府 (cao.go.jp)(검색일:2023.02.03)

【9月27日は何の日】33年前、ソニーがコロンビア・ピクチャーズ買収を発表 | ツ  
ギノジダイ (asahi.com)(검색일:2023.02.03)

社会実情データ図録 図録▽経済成長率の推移 (日本) (sakura.nc.jp)(검색일:2023.02.03)

東芝レビュー2004年7月 (global.toshiba)(검색일:2023.02.03)

siryou5.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

デジタル社会の実現に向けた重点計画 | デジタル庁 (digital.go.jp)(검색일:2023.02.13)

2017\_Digital-Government\_Ranking\_Press\_Release\_Japanese.pdf(idg-waseda.jp)(검  
색일:2023.02.13)

honbun.pdf (ndl.go.jp)(검색일:2023.02.13)

Microsoft Word - ●05 資料3①i-Japan戦略2105(案) v3.doc (soumu.go.jp)(검색  
일:2023.02.13)

デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン(DX推進ガイ  
ドライン)を取りまとめました | みずほ銀行 (mizuho.co.jp)(검색  
일:2023.02.18.)

■ 접수일 : 2023년 02월 22일

심사완료 : 2023년 03월 08일

게재확정 : 2023년 03월 13일

## 〈要旨〉

## 日本のデジタル競争力の推移と現況

朴 容 九

本論文のねらいは、2000年に制定されたIT基本法を起点として20余年間、施行されてきた日本政府のデジタル政策、下落しつつある日本のデジタル競争力の推移と現在の位置、強みと弱み、その理由について考察することである。このため、IMDのWDCRとUNのEGDIを資料として活用する。その結果、以下の結論に到った。

まず、日本のデジタル政策のビジョンは電子政府（e-government）からデジタル政府（digital government）に変わった。デジタル政策の特徴は、ICT通信基盤の整備、行政手続きのオンライン化、アプリケーションの普及、デジタル利活用の促進、ソサイエティ5.0に向けたDX推進へと変遷してきた。

しかし、日本政府の総力戦にもかかわらず、日本のデジタル競争力は日々低下している。その原因はハードデータではなく、劣ったソフトデータのランキングにある。ハードデータはDX(digital transformation)に向けて進むための最小限の必要条件である。DXとは、先端デジタル技術を媒介にして、人間の価値と社会の組織に機敏性(agility)、回復力(resilience)、開放性(openess)が発揮される際、実現可能な課題である。つまり、DXは技術ではなく人間の思考と行動の変化なしには実現できない。WDCRで63国・地域のうち、60位の移民法、63位にランクされた国際経験、外国人の高級人材、グローバル化への態度、企業の機敏性、ビッグデータ分析という成績からは、日本のデジタル競争力は回復できないだろう。

ハードデータに強みがあり、ソフトデータに弱みがあるということは、逆に考えれば発展の余地が多いという面で希望のメッセージといえるかもしれない。しかしながら、その希望を実現するのは、変化の可能性ではなく、その可能性を現実化させる能力にかかっている。

〈Abstract〉

Trend and Status of Digital Competitiveness in Japan

Park, Yong-Koo

The research purpose of this paper is to examine the digital policies of the Japanese government over the past 20 years, the trend of Japan's declining digital competitiveness, its current status, strengths and weaknesses, and the reasons behind them. To this end, the WDCR from IMD and the EGDI from UN are utilized as data. As a result, the following conclusions can be drawn.

First, the vision of Japan's digital policy has shifted from e-government to digital government. The characteristics of digital policy have evolved into ICT communication infrastructure development, online administrative procedures, application distribution, promotion of digital utilization, and DX promotion toward Society 5.0.

However, despite the Japanese government's full-scale efforts, Japan's digital competitiveness is declining day by day. The cause is not hard data, but the ranking of lagging soft data. Hard data is the minimum requirement for moving toward DX. DX is a feasible task when agility, resilience, and openness to human values and social organization are demonstrated through advanced digital technologies. In other words, DX cannot be achieved without changes in human thinking and behavior.

The fact that Japan has strengths in hard data and weaknesses in soft data can be seen as a message of hope in that there is much room for development. However, achieving that hope depends not on the possibility of change, but on the ability to actualize that possibility.

## 쓰카 고헤이와 미즈키 시게루의 '일본군 위안부'

— 『딸에게 들려주는 조국/아버지의 전기』를 매개로 —\*

최은수\*\*

### <目次>

I. 머리말	IV. 목격의 대상으로서의 '위안부'— 그녀들의 목소리를 듣는 것은 누구인가.
II. 쓰카 고헤이와 '일본군 위안부'— '희망'이 조국을 구할 수 있을까?	V. 맺음말
III. 미즈키 시게루와 '일본군 위안부'— 딸에게 '들려줄 수 없는' 아버지의 전기	

Key Words : つかこうへい(Kohei Tsuka), 水木しげる(Shigeru Mizuki), '日本軍慰安婦'("Japanese Military Sexual Slavery"), 在日朝鮮人(Zainichi), 相互텍스트성(Intertextuality)

## I. 머리말

일본 연극계의 혁명가로 알려진 쓰카 고헤이(つかこうへい)<sup>1)</sup>와 일본의 국민

\* 전남대학교 일어일문학과 강사, 일본문화학

\*\* 이 논문은 2022년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임 (NRF-2022S1A5B5A17044081)

1) 쓰카 고헤이는 전후 일본 최초로 대중문학 신인상에 해당하는 나오키상을 수상한 극작가이자 연출가이다. 연극 연출에 있어서 대본을 사용하지 않기로 유명한 쓰카는 날카로운 대사와 속도감 넘치는 연출로 1970년대 이후 일본의 현대연극에 큰 영향을 준 인물로 알려진다. 재일조선인 2세로서 일본명 가네하라 미네오(金原峯雄), 한국명 김봉웅인 쓰카는 대한민국 국적을 가지는 재일조선인 2세로서, 쓰카 고헤이라는 이름은 "언젠가 공평하게(いつか公平に)"라는 일본어로부터 그가 직접 지은 것이다. 1974년 극단 '쓰카 고헤이'

만화가인 미즈키 시게루(水木しげる)<sup>2)</sup>에게는 동시대를 풍미한 연극/만화계의 거장이라는 점 외에도 양자 모두 ‘일본군 위안부’에 대해 말하고 있다는 공통점이 있다.<sup>3)</sup> 그리고 두 사람은 모두 에세이 형식의 “딸에게 들려주는(娘に語る)”으로 시작되는 제목의 저서를 각각 출판하고 있다.<sup>4)</sup> 양 에세이는 재일조선인과

---

사무소(つかこうへい事務所)’를 설립, 1970년대부터 80년대에 걸쳐 일본에서 이른바 ‘쓰카 붐’을 일으켜 연출가로서도 극작가로서도 압도적인 인기를 얻었고, 현재에 이르기까지 일본 연극계는 쓰카 이전과 쓰카 이후로 나뉜다고 말해질 정도로 일본 대중문화의 영역에서 큰 영향력을 가지는 인물이다.

- 2) 요괴 만화가로 알려진 미즈키는 1960년대부터 『게게계의 게타로(ゲゲゲの鬼太郎)』의 제작에 해당하는 ‘무덤의 기타로(墓場鬼太郎)’ 시리즈의 단편을 시작으로 인기를 얻어 『악마군(悪魔くん)』, 『갓과 산페이(河童の三平)』 등이 만화 잡지에서 나아가 애니메이션 텔레비전 드라마로 제작되는 등, 일본 사회에서 요괴를 다룬 만화 장르의 권위자라고 할 수 있다. 또한 그의 요괴 캐릭터들은 모두 구전이나 문헌 속에만 존재하던 것이 미즈키에 의해 최초로 형상화된 것이라고 할 수 있는데, 그런 의미에서 캐릭터의 완성을 위해 끊임 없이 요괴를 연구하고 또 만화를 통해 일본의 요괴를 대중적으로 전파시키는데 기여한 미즈키는 가히 일본의 국민만화가라고 할 수 있을 것이다. 이처럼 요괴 만화의 대가로 알려진 미즈키는 또한 태평양 전쟁 당시인 1943년에 징집되어 뉴기니 전선 라바울에 출병하였고 그 전쟁에서 왼쪽 팔을 잃은 상이군인이기도 하다.
- 3) 쓰카가 『딸에게 들려주는 조국(娘に語る祖国)』(1990년, 光文社) 이후 7년 만에 다시 같은 제목으로 출판한 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편(娘に語る祖国-「満州駅伝」従軍慰安婦編)』(1997, 光文社)에서 제 2차 세계대전 당시의 ‘일본군 위안부’에 대해 직접적으로 묘사하고 있는 것처럼, 미즈키 시게루도 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』에서는 직접적으로 ‘일본군 위안부’에 대해 언급하지 않지만, 그의 대표작 중 하나인 『전원 옥쇄하라!(全員玉碎せよ!)』(1973, 講談社)는 일본군 병사들이 위안소 앞에서 길게 줄을 선 장면으로 시작되고, 나아가 2010년 『카랑코롱 표박기(カランコロン漂泊記)』(小学館) 속 단편 만화 「중군위안부(従軍慰安婦)」에서는 작가의 경험에 기반하여 ‘조선인 위안부’가 직접적으로 묘사되고 있다.
- 4) 만화가 미즈키의 최초의 에세이집은 1975년 출판된 『딸에게 들려주는 아버지의 전기-작은 천국이야기(娘に語るお父さんの戦記-小さな天国の話)』(1975, 河出書房新書)이며, 이 책은 1982년 제목을 바꾸어 『딸에게 들려주는 아버지의 전기(娘に語るお父さんの戦記)』(1982, 河出文庫)로 출판되었다. 1985년에는 가와데서방 신서(河出書房新書)에서 증보판이 나왔고, 나아가 1995년 다시 『미즈키 시게루의 딸에게 들려주는 아버지의 전기(水木しげるの娘に語るお父さんの戦記)』로 제목을 바꾸어 출판된다(河出文庫). 또한 1999년에 다시 『딸에게 들려주는 아버지의 전기 남쪽 섬의 전쟁 이야기(娘に語るお父さんの戦記-南の島の戦争の話)』(社会批評社)로 출판되고 있다. 즉 미즈키의 에세이집 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』는 1975년부터 1999년에 이르는 약 20년간 3번 제목을 수정하여 다섯 차례나 증보판이 나오고 있는 것이다. 한편, 쓰카 고헤이 또한 『딸에게 들려주는

참전군인이라는 각각의 다른 위치에서 ‘일본군 위안부’에 대해 묘사/언급했던 두 거장의 ‘일본군 위안부’에 대한 인식의 일단을 엿보는데 있어서 간과될 수 없는 지점임에도 불구하고, 현재에 이르기까지 그 명확한 내용과 의미에 대한 분석이 이루어지고 있지 않다.

본 연구에서는 “병사와 ‘위안부’의 상당히 인간적인 교제”<sup>5)</sup>에 관해 기술함으로써 1990년대 후반 일본의 자유주의사관 및 전 일본군 병사의 입장을 대변하고 있는 것으로 평가받아온<sup>6)</sup> 재일조선인 2세인 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편(娘に語る祖国-「満州駅伝」従軍慰安婦編)』을 쓰카의 또 다른 에세이인 『딸에게 들려주는 조국(娘に語る祖国)』 및 미즈키 시게루의 에세이와의 관련성을 중심으로 살펴보고자 한다. 주의해야 하는 지점은 쓰카가 기존의 재일조선인과는 상당히 다른 방식의 글쓰기를 지향해 왔으며 ‘전후일본’의 현실을 비판적으로 바라보는 해학적 비유를 즐기는 극본가이기도 하다는 점<sup>7)</sup>에서 ‘일본군 위안부’에 관해 말하고 있는 그의 텍스트를 둘러싸고 오독의 가능성이 존재한다는 점이다. 나아가 오독의 가능성은 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편』을 그의 다른 에세이나 참고문헌에 포함되어 있는 텍스트와의 상호관련성을 고려하지 않았다는 점, 즉 상호텍스트성 관점의 결여로부터 기인하고 있을 가능성이 있다.

이에 본 연구에서는 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부

조국(娘に語る祖国)』(1990, 光文社)과 함께 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편(娘に語る祖国-「満州駅伝」従軍慰安婦編)』(1997, 光文社)을 출판하고 있다.

5) つかこうへい(1997) 『娘に語る祖国-「満州駅伝」従軍慰安婦編』 光文社 pp.16-18

6) 이·욘스쿠(1998) 「愛は植民地を救か」 小森陽一·高橋哲哉編 『ナショナル・ヒストリーを越えて』 東京大学出版会 p.65, 최은수(2019) 「재일작가의 ‘위안부’ 표상-『8월의 저편』과 『다시 오는 봄』을 중심으로」 『일본연구』 제 80호 한국외대 일본연구소 pp.87-92

7) 정대균은 1980년대 이후의 일본 미디어에서 재일조선인은 주로 공적으로 인지된 희생자로서 표상되고 있으며 재일조선인 중에는 이를 적극적으로 받아들여 스스로를 표상하는 경우가 있다고 말한다. 그리고 이와는 상당히 이질적인 형태로 재일조선인이 스스로를 표상하고 있는 예로서 쓰카 고헤이를 들고 있다. 마찬가지로 이연숙은 해학적인 장면이 연이어 등장하는 쓰카의 희극 『전쟁에서 죽지 못한 아버지를 위해(戦争で死ねなかったお父さんのために)』의 저변에는 전후일본의 현실을 냉철히 바라본 쓰카의 비평적 안목이 빛나고 있다고 지적한다. 鄭大均(2011) 「在日コリアン・犠牲者として語られることの意味」 『일본학』 제 32집 동국대일본연구소 pp.21-33, 이·욘스쿠(1998) 前掲論文 pp.62-64

편』을 둘러싼 오독의 가능성을 염두에 두고, 상이군인으로서 ‘일본군 위안부’에 대해 기술/묘사하면서 쓰카와 마찬가지로 “딸에게 들려주는”으로 시작되는 에세이를 집필하고 있는 미즈키 시게루의 ‘일본군 위안부’ 표상에 주목하고자 한다. 본 연구로부터 동시대를 풍미한 일본 연극/만화계의 두 거장의 ‘일본군 위안부’ 언설/표상이 가지는 의미와 문제점이 재일조선인과 참전군인이라는 각각의 위치/아이덴티티와의 관련성으로부터 가시화될 것으로 기대한다.

## II. 쓰카 고헤이와 ‘일본군 위안부’-‘희망’이 조국을 구할 수 있을까?

쓰카 고헤이의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-종군위안부편』에서 ‘일본군 위안부’는 어떤 식으로 말해지고 있을까? 자신의 딸에 들려주는 형식으로 기술된 본 텍스트는 먼저 「종군위안부 문제에서 아빠가 오해하고 있었던 것」이라는 소제목에서 시작된다. 여기에서 쓰카는 “아빠가 여러 병사들과 이야기해본 결과, 지금까지 알고 있었던 지식과는 완전히 다르다는 것을 알았다”<sup>8)</sup>고 말한다. 나아가 실제로 자신이 인터뷰한 전 일본군 병사들과의 대화 내용을 그대로 기술하기도 하는데, 종전 이후 일본인이 아니라는 이유로 일본으로의 도항 허가를 받지 못한 ‘위안부’와 함께 자살한 군졸 이야기나 ‘위안부’를 일본으로 데려온 상관의 이야기 등은 실제 인터뷰 내용에서 발췌된 것이다.<sup>9)</sup> 또한 쓰카가 인터뷰한 한 전 일본군 병사는 당시의 ‘조선인 위안부’들이 강제로 끌려온 것이 아니며, 가난한 가족을 위해 집으로 착실히 돈을 보내는 ‘순정적’인 여자가 많아서 애처로웠다고 말하고 있다.<sup>10)</sup>

이처럼 전 일본군 병사들의 개인적 감상을 그대로 기술하고 있는 쓰카에게 비판이 가해지는 것은 타당해 보인다. 그렇다면 일본 사회에서 차별받아온 재일조선인으로서 ‘언젠간 평등하게’ 되는 세상을 꿈꾸면서 귀화를 거부해온 성공한 재일조선인인 쓰카는 왜 이처럼 ‘위안부’가 아닌 전 일본군 병사의 입장에 보다

8) つかこうへい(1997) 『娘に語る祖国—「満州駅伝」従軍慰安婦編』 光文社 pp.16-18

9) つかこうへい(1997) 上掲書 p.88

10) つかこうへい(1997) 上掲書 pp.88-89

공감하고 있는 것일까? 나아가 재일조선인 3세로서 언젠가 아이덴티티의 위기에 봉착할 자신의 딸에게 들려주는 '조국'의 테마로서 왜 '위안부'가 선택된 것일까?<sup>11)</sup>

단지 아버지는 작가로서 국가의 역사보다 한 인간의 작은 사실, 그때 그 사람의 마음 속 움직임에 관심이 있는 것입니다. 그리고 이 책의 첫 부분에서 말한 것처럼 뭔가 거기서 희망을 발견할 수 없다면 글을 써서는 안된다고 생각하고 있습니다. (중략) 아버지가 연극을 만들 때는 그 상황에서 정신적으로 가장 약한 인간의 입장이 되어 생각해 보자고 정하고 있습니다. (중략) 아버지가 약한 입장의 사람들을 생각하게 된 것은 어쩌면 아버지가 한국인으로서 이 나라에서 살아가고 있다는 사실에서 온 것일지도 모릅니다. (중략) 상대의 입장에 대한 상상력을 교양이라고 하는 것입니다.

이제부터 아버지가 하는 이야기를 상상력을 발휘해서 읽어주기 바랍니다. 지금부터 하는 이야기는 "5분간 할아버지"의 이야기입니다. 그 너도 들은 적이 있을 거야. 벌써 칠십이 넘었는데도 마라톤 대회가 열리면 반드시 참가해서 마지막 5분간 필사적으로 애쓰는, 그 할아버지의 이야기입니다.<sup>12)</sup>

'약한 입장의 인간'에 대한 상상력을 당부하면서 쓰카는 이케다라고 하는 현재 '5분간 할아버지'라고 불리는 전 일본군 병사에 관한 이야기를 시작한다.

11) 식민지 지배/동원의 문제이자 전시 성폭력 문제이기도 한 '일본군 위안부'를 둘러싸고 90년대 후반에 본격화된 성차별과 민족차별에 대한 논의에 대해서는 이미 잘 알려져 있다. 日本の戦争責任資料センター編(1998)『ナショナリズムと「慰安婦」問題』青木書店 pp.68-75, 金富子(1996)『世界女性会議報告書「慰安婦」問題を中心に』アジア経済研究所編『第3世界の働く女性』明石書店 pp.253-261, 金富子(1998)『朝鮮人「慰安婦」問題への視座-フェミニズムとナショナリズム』日本戦争責任資料センター編『ナショナリズムと「慰安婦」問題』青木書店 pp.193-202. 이 논의의 출발점이 된 것이 재일 사상가 서경식의 '내 어머니' 발언이었다고 할 수 있는데 이처럼 '조선인 위안부'의 존재가 재일조선인이나 한국인 민족 남성의 '어머니'로 치환될 때 이러한 치환은 '위안부' 문제를 남성을 대표/주체로 하는 민족 담론의 틀 안으로 끌어들이는 한계를 가진다. 그럼에도 불구하고 '조선인 위안부' 문제에 내재하는 민족차별과 성차별 중 민족차별의 역사를 공유하는 재일조선인이 '위안부'에 대해 언급할 때 우리는 그의 '재일'이라는 위치를 의식하지 않을 수 없을 것이다. 이와 관련하여 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국』이 한국어로 번역 출판되고 있는 반면 그의 또 다른 에세이인 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편』이 국내에는 거의 알려져 있지 않다는 점 또한 각 사회의 인식구조를 반영하는 것으로 간주될 수 있다.

12) つかこうへい(1997) 前掲書 pp.54-56

그는 술집의 텔레비전에 ‘위안부’ 피해자들이 나와 청춘을 돌려 달라, 하다못해 배상이라도 받고 싶다고 외치자 “뭐가 배상이야? 서로 사랑한 두 사람이”라고 분통을 터트리는 인물이다. 그러면서 그는 “나는 순자를 진심으로 사랑했습니다”라며 조선인 ‘일본군 위안부’였던 순자에 대해 말한다. 그녀는 만주에서 만난 경동 출신의 ‘조선인 위안부’로 열다섯 살에 일본인과 그 수하인 조선인에게 속아서 ‘위안부’가 된 여성이다. 이케다는 반전운동의 경험을 가지며 “이런 위안소를 만들어서 저는 일본인으로서, 인간으로서 매우 부끄럽습니다”라고 말하는 인물로서, 위안소에서 순자에게 하모니카를 불어주며 “이것으로 스스로가 거부한 제도에 편승하지 않게 된다”<sup>13)</sup>고 안도한다. 그러나 그에게 주어진 남은 시간 5분을 남겨두고 그는 그녀를 ‘강간’한다.<sup>14)</sup>

이케다 씨는 눈물을 흘리면서 계속했습니다.

“그 마지막 5분만 지켜냈으면 정말 아름다운 추억이었을텐데...”/“마지막 5분”/“그렇습니다. 그랬으면 순자는 언제까지나 나를 특별한 남자로 생각해주었겠지요.”/“그렇게 이케다 씨는 언제나 ‘마지막 5분’에 대해 말하는 것입니다.

그걸 참지 못한 나는, 뭐가 반전주의자인가 하고 부끄러운 마음으로 가득 찼습니다. 나는 이론만으로 이상을 내세우면서 결국은 중요한 순간에 멈출 수 없었던 것입니다. 순자를 사랑했다고 해도, 그것만은 해서는 안 될 일이었습니다.

그로부터 나는 계속해서 그 일만을 생각하고 있었습니다. 왜 참지 못했던 걸까, 이 감정은 무엇일까?<sup>15)</sup>

13) つかこうへい(1997) 前掲書 p.72.

14) つかこうへい(1997) 上掲書 pp.73-74.

15) つかこうへい(1997) 上掲書 pp.76-77. 쓰카의 에세이가 전 일본군 병사의 입장을 대변하고 있는 반면, 재일조선인 작가인 양석일은 이와 같은 전 일본군 병사 측의 모순된 논리를 피해자 여성의 입장에서 반격한다. 전장의 위안소를 배경으로 ‘조선인 위안부’의 삶과 경험을 형상화한 양석일의 『다시 오는 봄(巡りくる春)』은 꼬임에 빠져 ‘위안부’로 끌려가 8년에 걸쳐 ‘위안부’로 살아야 했던 여주인공 순화가 겪어야 했던 강간과 폭력에 초점이 맞춰져 있다. 작품 속에서는 쓰카와 마찬가지로 일본군 병사와 ‘조선인 위안부’의 ‘사랑하고 사랑받는’ ‘연애 관계’가 다수 등장하지만 이와 함께 두 사람 사이에 존재하는 지배/피지배의 관계성이 가시화되고, 또한 ‘조선인 위안부’의 몸과 마음에 각인된 폭력은 죽을 때까지 지워질 수 없는 기억이라는 점이 명시되고 있다. 양석일/김웅교 옮김(2010) 『다시 오는 봄』 페퍼민트 pp.176-282

그로부터 수십 년을 후회하며 살아왔다고 하는 이케다= '5분간 할아버지'는 쓰카가 말하는 '가장 약한 입장의 인간인 것일까? 쓰카가 이 전 일본군 병사에게 깊은 공감을 표하는 것은 그가 '강간'을 행한 범죄자임에도 불구하고 참지 못한 5분을 깊이 후회하며 반성하고 살아왔기 때문이다. 쓰카가 '중군위안부'에 대해 '희망'을 발견하는 지점이 바로 이케다의 후회와 회한으로 가득찬 시간들인 것이며, '위안부'가 강제로 끌려온 전시 성폭력의 참담한 피해자인 대신 '그렇게 비참하지는 않았고' 전 일본군 병사와의 사이에서 '상당히 인간적인 교류'가 이루어졌다고 주장하는 것 또한 가해 병사가 사건 이후 느끼는 후회와 회한에 근거를 두고 있다. 그러나 이연숙이 지적하듯 재일작가 쓰카 고헤이의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부편』속에서 그려지는 '인간적 교류', 즉 병사와 '위안부'의 '사랑'은 식민지와 전쟁의 비참함을 구할 수 있을까?<sup>16)</sup> 이 물음은 재일극작가이자 연출가인 쓰카가 자신의 딸에게 스스로의 '조국'과 관련된 테마로서 '위안부'에 대해 말하고 있다는 점에서, '위안부'의 사랑이 재일조선인의 '조국'을 구할 수 있을까?라는 물음으로 이어진다. 작품을 통해 독자가 느끼는 제멋대로의 카타르시스 속에서 식민지와 전쟁의 현실은 아름다운 이야기로 탈바꿈하며 이야말로 식민지와 제국주의 전쟁을 옹호하는 가장 쉽고도 애매한 수단이 된다는 지적이 가능하다면, 이를 다시 글을 쓰는 작가인 쓰카가 '인간적인 교류'에서 발견한 '희망'이라는 카타르시스 속에서 그의 조국과 식민지 역사는 아름다운 이야기로 탈바꿈하며 이는 식민지와 제국주의 전쟁을 옹호하는 가장 쉽고도 애매한 수단이 될 수 있다고 바꾸어 말할 수 있을 것이다. 그렇다면 쓰카는 그의 '조국'과 식민지 역사에 대해서는 어떤 식으로 설명하고 있을까?

갑자기 조센징이니 차별이니 하는 말만 들어도 1985년생인 너로서는 당황스러울 테니 잠시 일본과 한국에 대해 설명해줄게. 제 2차 세계대전 이전에 일본은 대동아공영권을 만든다는 명목으로(아시아가 한마음이 된다는 뜻이었지만 쉽게 말해 아시아 전체를 일본의 식민지로 만들겠다는 속셈이었지) 한국이나 만주(지금의 중국 동북부)등을 침략했다. 최근에는 일본도 잘살게 되자 '침략하지 않았다'고 태도를 바꾸고 있지만 침략당한 것은 사실이야. 그러나 침략당한 쪽도 자랑은 아니지. 왜냐하면 전쟁을 걸어온 적에게 졌으니까. '침략당한 이유가 없다'는 따위의 주장을 한들 인류가 존재하는 한

16) 이·욘스크(1998) 前掲論文 p.65

그런 말이 통할 리가 없다.(중략) 어차피 인간이란 계급투쟁을 하는 존재다. 사람을 차별할 수 있다니, 그런 쾌감도 없지. 그런 투쟁본능이 있기 때문에 인간은 진보하는 거야. 그래서 아빠는 생각했지. 옛날에 노예 취급을 받았다고 해서 일본을 원망할 게 아니라 우리가 노예 취급을 당할 정도의 나라이며 국민이었다고 생각하자고 이 역설은 약간 지나치긴 하지만 이렇게 태도를 바꿀 수 있는 힘이야말로 내일을 만들어내는 원동력이라고 생각한다. 그리고 이런 발상이야말로 아빠가 가진 생명력의 원천이 아닐까 한다.<sup>17)</sup>

제국주의적 힘의 논리를 긍정=수용한 후 스스로를 피해=희생자로 자기 인식하기보다는 이를 오히려 생명력의 원천으로 삼는 것, 이것이 차별과 억압을 강조해온 기존의 전형적인 재일작가의 글쓰기 방식과 쓰카가 차별화되는 지점이다. 주목해야 하는 점은 제국주의적 힘의 논리에 대한 긍정이 남성에 의한 여성 지배/폭력과 같은 맥락에 위치하며 양자가 서로 상통한다는 점이다. 즉 제국의 식민지 지배라는 강자의 약자에 대한 폭력이 긍정될 수 있다면 남성에 의한 여성 지배/폭력 또한 너무 쉽게 승인=정당화될 수 있다.

문제는 재일조선인으로서 피식민/피차별의 당사자이지만 결코 '위안부'라는 성폭력의 당사자일 수는 없는 쓰카의 '위안부' 언설이 제국=남성중심적 논리의 긍정 위에서 출발하고 있다는 점이다. 더 나아가 그가 재일조선인이라는 이유로 스스로의 의도와는 상관없이 쓰카의 '위안부' 언설이 재일조선인 스스로의 '위안부'라는 전시 성폭력에 대한 긍정으로 수용될 수밖에 없는 사회구조 속에서 그의 목소리가 발신되었다는 점이다.<sup>18)</sup>

17) つかこうへい(1990) 『娘に語る祖国』 光文社 pp.53-55

18) 1990년대 초반 피해당사자의 증언으로부터 '일본군 위안부' 문제가 담론화 되었을 때 중요한 논점 중 하나는 성차별과 민족차별에 관한 논의였다. 당시의 '조선인 위안부'를 둘러싼 민족 담론의 틀이 가지는 상징성을 가장 잘 드러내고 있는 재일사상가 서경식의 "내 어머니를 모독하지 말라(母を辱めるな)"는 발언에는 '위안부'라는 식민주의의 역사와 한일 간의 식민/피식민의 얼룩진 근현대사가 아로새겨진 존재로서의 재일조선인이 가지는 필연적인 관계성이 잘 드러나고 있다. 한국과 일본의 경계에 위치하는 것으로 상정되는 재일조선인은 '위안부'를 중심으로 하는 양국 간의 역사에 대한 사회적 인식을 목격/조망 가능한 위치에 있으면서 한편으로 '위안부'라는 식민주의의 역사를 자기 동일시하면서 보다 민감하게 반응할 수밖에 없는 입장에 있는 것이다. 그러나 주지하듯이 '일본군 위안부' 문제는 일본 군국주의와 식민지 지배, 피식민지 착취/억압과 관련된 문제일 뿐 아니라

### III. 미즈키 시게루와 ‘일본군 위안부’-딸에게 ‘들려줄 수 없는’ 아버지의 전기

한편, 쓰카는 자신의 저서에서 전 일본군 병사들의 전쟁 기억에 근거한 소설, 에세이 등을 참고문헌 목록에 포함시키고 있다. 참고문헌 리스트는 연도순이나 성명, 자음 순으로 정리된 것이 아니라는 점에서 그가 에세이를 집필함에 있어서 중요하다고 간주한 순서대로일 가능성이 있다. 첫 번째 참고문헌은 1947년 미 연합군 사령부의 검열체제 아래에서 출판되어 이후 연극과 영화 등의 형태로 수차례 재현되고 있는 다무라 다이지로(田村泰次郎)의 소설 『춘부전(春婦伝)』이다. 다무라는 중국 전선에서 약 7년간 복무한 전 일본군 병사로서, 패전 이후 일본으로 귀환하자마자 전장에서 ‘조선인 위안부’를 그린 본 소설을 집필했다. 소설의 주요 내용은 전장을 배경으로 하는 ‘조선 출신’ ‘일본군 위안부’와 일본군 하급 병사의 사랑과 동반자살이다. 본 작품은 소설 발표 직후 베스트셀러가 되면서 이듬해에는 연극으로 만들어져 일본 전국을 순회하며 상연되었으며, 그 인기에 힘입어 1948년과 1950년, 그리고 1965년에 이르기까지 세 차례나 영화화되고 있다.<sup>19)</sup> ‘전 일본군 병사의 ‘은밀하고 에로틱한 전쟁 기억’에 근거한 식민주의적 욕망이 투영된 본 작품이야말로 패전 직후부터 1960년대 중반에 이르기까지 일본의 대중문화의 장에서 ‘일본군 위안부’가 ‘섹슈얼리티화된 타자’로 이미지화되는데 있어서 크게 기여했다. 나아가 이러한 ‘상상력’=판타지에 근거하는 소설과는 달리 전 일본군 병사의 ‘전기’에 가까운 에세이 한편이 눈에 띈다. 바로 쓰카와 마찬가지로 “딸에게 들려주는”으로 시작되는 에세이를 집필하고 있는 만화가 미즈키 시게루의 『라바울 전기(ラバウル戦記)』(1994)이다. 그렇다면 쓰카는 미즈키의 전쟁 경험에 기반을 둔 ‘전기물’인 『라바울 전기』(1994)에서 어떤 부분을 참고하고 있는 것일까? 먼저 『라바울 전기』 속 ‘위안

---

제국과 상통하는 남성애 의한 여성 성폭력/착취/억압의 문제라는 점을 기억해야 한다.  
19) 소설 『춘부전』이 세 차례에 걸쳐 영화화되는 일련의 과정과 그 과정 속 ‘조선인 위안부’ 표상의 변용에 관해서는, 최은주(2014) 「전후일본의 ‘조선인 위안부’ 표상, 그 변용과 굴절-『춘부전(春婦伝)』의 출판/영화화 과정에서 드러나는 전후 일본의 전쟁기억/표상/젠더」 『페미니즘 연구』제14권 2호 pp.3-28

소'와 '위안부' 관련 기술에 대해 살펴보자.

상륙했을 때의 코코포는 아직 육군기지로, 분명 103 병탄 병원도 있었고 중군위안부도 있었다. 그녀들은 빠라고 불리고 있었고, 야자림 속 작은 움막에서 한 사람씩 살고 있어서 일요일이나 쉬는 날에 상대를 하는 것이나, 오키나와 사람은 나와빠, 조선인은 조센빠라고 불리고 있었던 듯하다.

그녀들은 징용되어 억지로 끌려온 것으로 병사들과 마찬가지로 열악한 대우를 받고 있어서 보기에 안쓰러웠다.<sup>20)</sup>

그 다음날 빠야(중군위안부)에 가도 된다는 명령이 내려왔다. 바로 가보니 상당히 긴 행렬이 아닌가. 이긴 뭔가 잘못된 게 아닌가 하고 관찰해보니 행렬이 작은 움막까지 걸쳐져 늘어서 있다. 그런 움막이 6채 있었고 모두 50명 정도가 줄을 서 있다.

하는 쪽도 필사적이지만 이렇게 되면 당하는 여자 쪽은 잘못하면 죽는 게 아닌가 싶었다. 50명이나 있다면 몇 시에 끝날지 알 수 없다. 초년병 두세 명과 같이 갔으나 너무도 긴 행렬을 보고 그만두자고들 하여 가까운 토인 부락으로 갔다.<sup>21)</sup>

소설로서 내용 전체가 병사와 '위안부'의 러브스토리인 『춘부전』과 달리 쓰카가 참고문헌 목록에 포함시키고 있는 만화가 미즈키의 『라바울 전기』 속에서 '위안소'와 '위안부'가 등장하는 것은 위의 기술이 전부이다. 짧은 기술로부터 알 수 있는 것은 미즈키는 전장에서 '일본군 위안부'를 목격하고 있고, 또 상관의 명령에 따라 그녀들이 사는 '위안소'에 간 적은 있지만 긴 행렬을 보고 발길을 돌리고 있다는 점이다. 즉 미즈키는 '위안부'를 '목격'하고 있지만 그녀들과 대화를 나누거나 '조우'하지는 않았다. 그럼에도 불구하고 이처럼 짧은 순간의 '목격'은 요괴 만화로 잘 알려져 있지만 전시에 징집되어 한쪽 팔을 잃은 상이군인이기도 한 미즈키의 전쟁 만화나 이후 '일본군 위안부'를 직접적으로 묘사하고 있는 작품을 통해 재현되고 있다. 미즈키의 대표작이자 미즈키 자신이 가장 애착을 가지는 작품이라고 말한 『전원 옥쇄하라!(全員玉碎せよ!)』(1973)는 일본군 병사들이 위안소 앞에서 길게 줄을 선 장면으로 시작되고, 『카랑코롱 표박기(カラ

20) 水木しげる(1994) 『ラバウル戦記』 筑摩書房 p.30

21) 水木しげる(1994) 上掲書 p.67

『ンコロン漂泊紀』(2010) 속 단편 만화 「중군위안부(從軍慰安婦)」에서는 '조선인 위안부'의 비참한 상황이 묘사되고 있다. 『라바울 전기』에서 말하는 “강제로 끌려”와 “열악한 대우”를 받고 있어 “보기에도 안쓰러웠다”는 것이 ‘위안부’에 대한 미즈키의 일관된 입장인 것으로 보인다.

이는 쓰카의 ‘5분간 할아버지’인 이케다가 ‘위안부’에 대해 드러내는 감정과는 사뭇 결이 다른 것이다. 마찬가지로 90년대 초반의 ‘위안부’ 피해자의 증언으로부터 일본 사회에 야기된 그녀들에 대한 ‘배상 문제’에 대해서도 쓰카의 ‘5분간 할아버지’와 전 일본군 병사인 미즈키는 매우 상반된 입장을 견지한다. 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-중군위안부 편』에서 이케다는 술집의 텔레비전에 ‘위안부’ 피해자들이 배상을 말하자 “뭘가 배상이야? 서로 사랑한 두 사람!”라고 분통을 터트리며 등장한다. ‘위안부’에 대해 안쓰러웠다고 말하는 미즈키는 이후 단편 만화 속에서 ‘위안부’를 묘사하며 마지막에 “자주 중군위안부의 배상 문제가 신문에 나오거나 하지만, 그것은 경험 없는 사람에게는 알 수 없을 것이나.... 역시 ‘지옥’이었다고 생각한다. 그러므로 배상은 해야 할 것이리라... 고 언제나 생각하고 있다”<sup>22)</sup>고 말한다. 이것이야말로 전쟁 중에 ‘위안부’를 직접 목격했고 이후 일본 사회에 던져진 화두로서의 ‘중군위안부’ 문제를 통해 그녀들을 다시 상기하게 되었던 전 일본군 병사인 미즈키가 패전 이후 반세기가 경과한 시점에서 도달하게 된 결론이 아니었을까? 미즈키의 단편 만화 「중군위안부」는 1990년 초반의 피해 당사자의 증언으로부터 비롯된 ‘중군위안부’에 대한 일본 정부의 ‘배상’ 논란을 배경으로 하고 있다. 전시 성폭력을 ‘사랑’으로 포장하면서 배상 요구에 분개하는 전 일본군 병사 이케다와는 매우 상반된 반응이라고 할 수 있다. ‘일본군 위안부’와 전장에서 직접 조우, 혹은 목격했던 전 일본군 병사들이 1990년대 초반의 피해자 증언이나 증언으로부터 시작된 담론화, 재판, 배상 요구 등에 서로 다른 반응을 보이고 있는 것을 알 수 있는 대목이다.

주목해야 하는 지점은 이처럼 『라바울 전기』를 포함하여 만화 『전원 옥쇄하라!』 및 「중군위안부」를 통해 ‘위안부’를 언급/표상하고 있는 미즈키가 쓰카의 그것과 같은 제목인 에세이 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』에서는 위안소나

22) 水木しげる(2010) 「從軍慰安婦」『カラコロン漂泊紀』小学館 p.161

‘위안부’ 등에 대해 일절 언급하고 있지 않다는 점이다. 나이가 쓰카가 참고문헌 목록에 포함시키고 있는 미즈키의 『라바울 전기』는 그의 다른 어떤 저서보다도 이를 극명하게 드러내고 있다.

1994년에 출판된 만화 에세이집 『라바울 전기』는 미즈키가 서문에서 밝히듯 세 개의 부분으로 나누어져 있고 각각에 삽입된 그림은 회화의 방식이나 도구 등에서 그 차이가 현저하다. 미즈키는 『라바울 전기』의 첫 부분은 1949년부터 1951년에 걸쳐 출판을 의도하지 않고 그린 그림이며, 두 번째 부분은 1960년경에 『딸에게 들려주는 아버지의 전기 그림판』(가와데서방신사)을 위해 그린 그림이라고 말한다. 마지막 부분은 종전과 함께 이동했던 곳에서 그린 스케치인데, 상기의 인용은 모두 미즈키가 출판을 의도하지 않았었다고 밝히는 첫 번째 부분에 포함된다. 즉 미즈키의 『라바울 전기』로부터 알 수 있는 것은 그가 ‘위안부’나 위안소에 대해 언급하는 것은 패전 직후라고 할 수 있는 1949년-1951년경의 기술이며, 특히 이후에 출판된 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』가 위안소나 ‘위안부’와는 전혀 무관한 ‘아버지의 전쟁 경험’이라는 점이다.<sup>23)</sup>

그렇다면 쓰카는 전장의 지옥 같은 풍경의 일부로 ‘위안소’와 ‘위안부’를 기억하고, 또 이를 언급/묘사하면서도 그와 같은 전쟁 기억을 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』로서는 말하지 못하는 전 일본군 병사의 이중적인 양면성, 혹은 분열된 자아를 이와 같은 사실이 드러나는 미즈키의 에세이집 『라바울 전기』를

23) 미즈키의 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』는 1975년부터 1999년에 이르는 약 20년간 제목을 약간 수정하여 다섯 차례나 증보판이 나오고 있는 상이군인 미즈키의 대표적인 전쟁 기억=전기라고 할 수 있다. 여기에서 ‘일본군 위안부’와 관련된 기술이 누락되고 있는 것은 그가 두 차례에 걸쳐 ‘일본군 위안부’를 만화 속에서 그려내고 있다는 점에서 만화가 미즈키가 오직 ‘만화’라는 장르를 통해서만 ‘일본군 위안부’를 묘사하고자 했던 장르적 구별이지도 않을 뿐더러, 『딸에게 들려주는 아버지의 전기-작은 천국 이야기』(1975)가 ‘위안부’가 묘사된 『전원 옥쇄하라!』(1973) 이후의 작품이라는 점에서 시기적인 문제라고도 볼 수 없다. 그러나 미즈키의 만화 속 ‘위안부’ 묘사는 결코 왜곡이나 미화의 관점에서 문제가 되는 지점이라고는 할 수 없으며, 패전 이후부터 약 1970년대에 이르는 일본 사회에서 ‘일본군 위안부’가 독자의 호기심을 자극하는 주간지의 소재로서 활용되거나 전 일본군 병사들의 수많은 ‘전기’ 속에서 어떤 죄의식도 없이 ‘전장의 성’으로서 기록되고 있었다는 점 또한 고려될 필요가 있을 것이다. 秦郁彦(1999) 『慰安婦と戦場の性』新潮社 p.15, 岩崎稔(1997) 「《国民の語り》への欲望を批判する根拠とは?」『世界』640 岩波書店 pp.86-91

참고문헌에 포함함으로써 지적하고자 했던 것은 아닐까? 이는 쓰카의 『딸에게 들려주는 조국, 「만주역전」-종군위안부 편』을 둘러싼 오독의 가능성과도 연결되는 지점으로서, 쓰카 고헤이와 미즈키 시게루의 '일본군 위안부'에 대한 매우 상반된 것처럼 보이는 인식의 일단을 여기에서 엿볼 수 있을 것이다.

미나코야, 사람에게는 되돌릴 수 없는 시간, 되돌릴 수 없는 사실이 있습니다. 누구나 땅을 치고 후회해도 소용없는 일을 끌어안고 살아가는 것이지요.

그러나 어떤 순간에도 희망을 잃으면 안 됩니다.

되돌릴 수 없는 일을 그저 포기해서는 안 됩니다.

인간은 그 5분을 채워 행복에 넘치는 시간을 늘리기 위해 언제까지나 희망을 가지고 살아가지 않으면 안 되는 것입니다.<sup>24)</sup>

쓰카는 '5분간 할아버지'라는 인물을 통해 한순간을 참지 못해 평생을 회한과 후회로 살아가야 하는 인간의 숙명에 대해 말하고, 여기에 상상력을 덧붙여 '5분간 할아버지'와 '조선인 위안부' 순자를 50여 년 만에 조우시킴으로써 순자가 평안하게 생을 마감하게 한다. 분명 쓰카의 글쓰기 및 '위안부'에 대한 인식은 전 일본군 병사의 논리를 보다 인간적인 측면에서 파악하고 그곳에서 제국과 식민지를 뛰어넘은 '희망'을 발견하려고 했다는 점에서 '일본군 위안부'를 둘러싼 일본의 전중세대 남성주체를 대변/옹호하는 측면이 있다. 이에 반해 전 일본군 병사로서 '종군위안부'를 직접 경험/목격했던 상이군인 미즈키 시게루는 지옥과도 같은 전장의 일부로서 '위안부'를 인식하고 이를 만화로 그려내기도 했으나, 자신의 딸을 청자로 상징하는 『딸에게 들려주는 아버지의 전기』에서는 의도적으로 누락시키고 있다. 즉 쓰카는 전 일본군 병사의 '조선인 위안부'에 대한 기억이 전장을 수식하는 풍경 중 일부로서 망각되거나, 혹은 '아버지의 전기'에서 배제되는 것보다는 '연애' 혹은 '사랑'과 같은 보다 인간적인 감정으로 남는 것에서 어떤 '희망'을 발견했던 것은 아닐까? 쓰카가 '상상력'을 발휘하여 그려내는 이케다와 '조선인 위안부' 순자의 연애=사랑은 분명 '아버지의 전기'로서 말할 수 없는 '지옥'과도 같았던 전쟁범죄보다 '인간적'이며 '희망'적일지도 모른다. 단지 그 인간적인 '희망'은

---

24) つかこうへい(1997) 前掲書 p.200

그것이 쓰카라는 필터/상상력이 아닌 하야시 본인을 통해 ‘일본군 위안부’가 “딸에게 들려주는 아버지의 전기”일수 있을 때 비로소 발견될 것이다.

#### IV. 목격의 대상으로서의 ‘위안부’-그녀들의 목소리를 듣는 것은 누구인가.

이처럼 재일조선인인 쓰카가 말하는 ‘5분간 할아버지’인 이케다=전 일본군 병사와 실제로 전쟁에 징집되었던 미즈키의 ‘일본군 위안부’에 관한 기술은 매우 상반된 것이다. 나아가 이와 같은 서로 다른 ‘일본군 위안부’와 관련된 기억/기술은 제 2차 세계대전 이후 전 일본군 병사들의 전쟁 경험에 근거하는 ‘전기물’이 유행했을 당시 그 전기물 속 ‘위안부’ 기술에서 보이는 두 가지 다른 패턴이기도 하다. 기무라가 지적하듯 1960년대 이후 일본 사회에서는 ‘전기물’이 크게 유행하고 있는데 그러한 기술 속에서 빈번하게 발견되는 ‘일본군 위안부’ 관련 기술은 전장에서의 에로틱한 기억의 일부로서 ‘위안부’를 ‘유사연애’의 관점에서 기술하거나, 혹은 자신과는 전혀 상관없는 ‘공중변소’로서 외면/배제하는 방식으로 분류될 수 있다.<sup>25)</sup> 쓰카가 대변하는 하야시라는 전 일본군 병사가 전장에 해당한다면, 미즈키의 경우 후자에 가까운 인식을 드러낸다. ‘일본군 위안부’를 둘러싼 전 일본군 병사=일본의 전중세대 남성주체의 상반된 인식은

25) 기무라 간(木村幹)은 1960년대를 중심으로 활발하게 간행된 ‘전기물’로 불리는 일군의 문장들은 회고록과 소설, 영화에서 만화에 이르는 장르에 걸쳐져 있어서 당시 일본 문예 작품의 중요 장르 중 하나로 자리 잡고 있었다고 주장한다. 기무라에 의하면 전장에 ‘위안부’가 있었다는 점이 당연시되는 가운데 특히 ‘위안부’에 관한 기술이 상당수 존재하는 전기 속 ‘위안부’에 관한 기술의 동향은 크게 두 가지로 나눌 수 있다. 먼저 자신과는 별개로 위안소=공공변소라는 식의 인식 안에서 ‘위안부’에 대해 기술하는 것이다. 이런 경우 위안소 혹은 ‘위안부’는 자신과는 상관없는 것으로 기피해야 할 대상이 되고 있는데 여기에서 보이는 것은 혐오와 경시의 시선이다. 또 이와는 반대로 위안소와 ‘위안부’를 자신과 매우 개인적이며 밀접한 관련성을 가지는 것으로 기술하는 방식이 있는데 이런 경우 ‘위안부’는 자신을 포함한 전 일본군 병사들의 ‘유사연애’ 대상으로 설정되고 있다고 할 수 있다. 木村幹(2017) 『日本における慰安婦認識:一九七〇年代以前の状況を中心に』 『国際協力論集』25(1) 神戸大学国際協力研究科 pp.24-28

'전기물'이 크게 유행했던 1960~70년대에 한정되지 않고 '위안부' 문제가 담론화된 이후에도 일본 사회에서 공존하고 있었던 것이다. 그렇다면 전 일본군 병사들을 다수 인터뷰했다고 밝히는 쓰카는 미즈키의 『라바울 전기』로부터 전 일본군 병사가 '위안부'에 대해 보이는 두 가지 반응을 감지하고, 기존의 전기물에서 보이는 '위안부'와 관련된 서로 다른 기술 방식이 '일본군 위안부' 문제가 담론화된 이후에도 존재하고 있다는 점을 기술하고자 했던 것일지도 모른다. 나아가 1990년대 '위안부' 피해자의 증언으로부터 일본 사회에서 화두가 된 '배상'과 관련해서도 이케다처럼 배상 요구에 분개하거나, 미즈키처럼 배상이 필요하다고 생각하는 다른 입장이 공존하고 있었다는 점을 드러내고자 했다고도 볼 수 있다.

그러나 이처럼 '일본군 위안부'나 '배상'에 관해 전 일본군 병사들이 서로 상반된 인식을 드러내고 있음에도 불구하고 여기에는 중요한 공통점이 발견된다. '위안부'와의 사랑을 말하면서 배상 요구에 분개하는 '5분간 할아버지'를 약자로 인식하는 쓰카와 '일본군 위안부'들에게 동정을 표하며 배상을 해야 한다고 밝히는 미즈키 모두 그녀들에게 말을 걸고 있지는 않다는 점이다.

쓰카가 배상 요구에 분개하는 가상 인물인 '5분간 할아버지'를 만나게 된 것은 어느 술집에서이다.

“그런데 중군위안부들이 이렇게 이름을 밝히며 나오는데 병사들은 몇백만 명이나 있었을 거고 중군위안부랑 잤다고 하는 병사가 이름을 밝히고 나오지 않는 것도 이상한 이야기네요. 하하하”

“그건 말이 되네.”

텔레비전에서 오랫동안 중군위안부의 이야기가 보도되고 있었습니다.

“우리들의 청춘을 돌려주기 바랍니다. 적어도 배상이라도 해주었으면 합니다.”

그런 목소리가 화면에서 흘러나오는 순간, 아빠 옆에서 마시고 있던 할아버지가 테이블을 치면서 일어났습니다.

“바보 아나!! 뭐가 배상이야, 서로 사랑한 두 사람이”

“나는요, 이런 보도를 볼 때마다 참기 힘들어집니다. 그때 만주에서 위안부들과 함께 살았던 나는, 이런 비참한 일뿐이었다고 강조하고 고발하는 것들을 보면 화가 치밀어요.”<sup>26)</sup>

26)つかこうへい(1997) 前掲書 pp.58-59

이케다라고 하는 5분을 참지 못해 평생을 후회하며 살아왔다고 하는, ‘위안부’를 취한 전 일본군 병사인 ‘5분간 할아버지’가 처음 등장하는 부분이다. 전술했듯이 쓰카는 이외에도 자신이 만나 인터뷰한 전 일본군 병사들과의 대화 내용을 그대로 삽입, 혹은 인용하는 형태로 그들의 목소리를 대변한다. 문제는 전 일본군 병사를 다수 인터뷰했다고 밝히는 쓰카가 텔레비전에 나와서 피해 사실을 호소하는 ‘일본군 위안부’와는 인터뷰를 행하고 있지 않다는 점이다. 그녀들은 쓰카가 말하듯 이름을 밝히고 텔레비전에 나와서 일본의 전쟁범죄를 고발하는 여성들이다. 그녀들의 목소리는 이미 ‘오랜 시간’ 텔레비전을 통해 들었기 때문에 충분하다고 생각했던 것일까? 그렇다면 텔레비전이라는 대중매체를 통해 들려온 ‘위안부’ 피해자들의 고발의 목소리는 과연 쓰카에게 제대로 전달되었다고 말할 수 있을까? 전 일본군 병사들을 ‘다수’ 인터뷰하면서 정작 ‘위안부’ 피해자들에게는 ‘말을 걸지’도 않았던 쓰카는 방송매체를 통해 흘러나오는 그녀들의 목소리를 들을 수 있었던 것일까?

같은 방송매체를 통해 그녀들의 배상 관련 요구를 들으며 “배상은 해야 한다고 생각”한다고 밝히는 미즈키 또한 이 물음에서 결코 자유로울 수 없다. 전 일본군 병사 미즈키는 패전 이후 에세이와 만화를 통해 ‘일본군 위안부’를 묘사하고 그녀들의 비참한 상황을 기술하고 있지만, 그 내용에서 알 수 있듯이 미즈키는 당시에 그녀들을 ‘목격’했을 뿐 그녀들과 ‘조우’하고 있지는 않다. 미즈키가 시종일관 강조하듯 그는 상관의 명령으로 위안소에 갔으나 긴 줄을 보고 포기하고 돌아왔던 것이다. 만화 「중군위안부」에서 묘사되고 있는 ‘조선인 위안부’의 비참한 상황은 그가 우연히 ‘목격’한 것일 뿐이다. 그녀들의 상황을 목격하고도 그는 그녀들에게 다가가거나 혹은 ‘말을 걸’지 않았다. 목격이 조우로 연계되기 위해서는 ‘말을 거는’ 행위가 필요하다. 그렇다면 당시 ‘위안부’ 피해자들의 고발의 목소리는 과연 전 일본군 병사 미즈키에게 전달되고 있었을까? 어쩌면 그는 전시 중에 그러했듯이 여전히 ‘위안부’를 목격하고 있을 뿐 ‘조우’하고 있지 않았던 것은 아닐까? 스피박은 자신의 목소리를 낼 수 없는 하위주체를 ‘서발턴’으로 명명하고 ‘서발턴은 말할 수 있는가?’라는 질문을 던졌다. 그리고 이러한 전 지구적 차별과 억압의 구조 아래 있는 하위주체들의 목소리를 듣기 위해서는 그들에게 ‘말을 거는’ 전략이 필요하다고 말한다. 1990년대 초반 전 일본군 ‘위안

부' 피해자인 김학순의 증언에서 시작된 '위안부' 문제의 담론화는 스피박의 통탄에 찬 이 물음이 '말할 수 없음'에서 '(알아) 들을 수 없음'으로 연결된다는 점을 보여준다.<sup>27)</sup> '위안부'를 기억/표상하고 있지만 그녀들에게 '말을 걸'고 있지는 않은 쓰카와 미즈키는 모두 그녀들의 목소리를 (알아) 듣고 있지 않은 것이다.

## V. 맺음말

본 연구에서는 재일조선인 2세인 쓰카 고헤이의 『딸에게 들려주는 조국, 『만주역전』-중군위안부 편』을 그의 또 다른 에세이인 『딸에게 들려주는 조국』 및 참고문헌에 포함된 미즈키 시게루의 '일본군 위안부' 관련 저작과의 상호텍스트성의 관점에서 살펴보았다. 먼저 지적해야 하는 점은 제국주의적 힘의 논리에 대한 긍정이 강자=제국=남성에 의한 약자=식민지=여성 지배/폭력의 승인=정당화를 용이하게 한다는 점이다. 나아가 쓰카 자신의 의도와는 상관없이 그가 '조국'의 테마로서 '위안부'에 관해 말할 때 재일조선인이라는 이유로 그가 일종의 대표성을 가지게 된다는 점이다. 또한 쓰카가 미즈키의 전장 에세이인 『라바울 전기』를 참고문헌에 넣고 있는 것은 '위안부'를 둘러싼 전 일본군 병사들의 상반된 입장과 반응을 보여주는 한편 '딸에게 들려'줄 수 없는=은폐된 전쟁 기억으로서의 '위안부'에 대한 비판일 가능성이 존재한다. 그러나, 그럼에도 불구하고 '일본군 위안부'를 언급/표상하고 있는 쓰카와 미즈키는 모두 그녀들을

27) 인도 출신 탈식민주의 이론가인 가야트리 스피박은 지배계층의 헤게모니에 종속되거나 접근을 부인당한 그룹, 노동자, 농민, 여성, 피식민지 등 주변부적 부류를 안토니오 그람시가 사용한 용어인 '서발턴'으로 아우르면서 단일하고 고정된 의미와 맥락에 한정되지 않고 계층, 인종, 젠더를 포함할 수 있을 정도로 포괄적이며 자유로운 개념으로서의 서발턴, 즉 전 지구적 차별과 억압의 구조 아래 있는 이러한 하위주체의 '말할 수 없음'을 지적했다. 나아가 그는 모든 말하기는 "그냥 즉시 던져지고 마는 것 같아도 다른 이가 거리를 두고 해독하기 마련"이라고 하면서 서발턴의 '말할 수 없음'이라는 선언이 서발턴이 시도한 '말하기'가 해독의 과정에서 실패했다는 실망에서 나왔다고 말한다. 가야트리 스피박, 태혜숙, 박미선 역(2005) 『포스트식민 이성 비판』 갈무리 pp.425-430

기억/목적하고 있을 뿐 누구도 그녀들에게 ‘말을 걸’지 않았다는 공통점을 가진다. 이 공통점이야말로 ‘일본군 위안부’라는 역사 및 증언자에 대해 드러내는 상반된 인식/반응에도 불구하고 재일조선인의 자기 부정적 아이덴티티와도 연계되는 여성혐오(misogyny)가 당시 혹은 이후에 이르기까지 일본 사회의 근저에 뿌리 깊게 존재하고 있음을 보여주는 지점이라고 할 수 있다.

### 〈참고문헌〉

- 이·욘스크(1998) 「愛は植民地を救うか」小森陽一・高橋哲哉編『ナショナル・ヒストリーを越えて』東京大学出版会 p.65
- 岩崎稔(1997/10) 「『国民の語り』への欲望を批判する根拠とは?」『世界』640 岩波書店 pp.86-91
- 가야트리·C·스피ヴァック(1998) 『사발탄은語る 것이 가능한가』みすず書房 pp. 1-145
- 木村幹(2017) 「日本における慰安婦認識:一九七〇年代以前の状況を中心に」『国際協力論集』神戸大学国際協力研究科 25(1) pp.24-28
- 金富子(1996) 「世界女性会議報告書『慰安婦』問題を中心に」アジア経済研究所編『第3世界の働く女性』明石書店 pp.253-261
- \_\_\_\_\_ (1998) 「朝鮮人『慰安婦』問題への視座-フェミニズムとナショナリズム」日本の戦争責任資料センター編『ナショナリズムと『慰安婦』問題』青木書店 pp. 193-202
- 徐京植(2002) 『半難民の立場から一戦後責任論争と在日朝鮮人』影書房 pp.17-22
- 鄭大均(2011) 「在日コリアン・犠牲者として語られることの意味」『일본학』제 32집 동국대 일본연구소 pp.21-33
- つかこうへい(1990) 『娘に語る祖国』光文社 pp.53-55
- \_\_\_\_\_ (1997) 『娘に語る祖国-『満州駅伝』従軍慰安婦編』光文社 pp.16-18, pp. 72-75, pp.76-77, p.202
- 日本の戦争責任資料センター編(1998) 『ナショナリズムと『慰安婦』問題』青木書店 pp. 68-75
- 秦郁彦(1999) 『慰安婦と戦場の性』新潮社 p.15
- 水木しげる(1973) 『全員玉砕せよ!』講談社 pp.1-504
- \_\_\_\_\_ (1994) 『ラバウル戦記』筑摩書房 p.6, p.30, p.67
- \_\_\_\_\_ (1995) 『水木しげるの娘に語るお父さんの戦記』河出文庫 pp.1-364
- \_\_\_\_\_ (2010) 「従軍慰安婦」『カランコロン漂泊紀』小学館 p.156, pp.158-160, p.161

쓰카 고헤이와 미즈키 시게루의 '일본군 위안부' ..... 최은수...277

- 가야트리 스피박/태혜숙, 박미선 역(2005) 『포스트식민 이성 비판』 갈무리 pp.425-430  
양석일/김응교 옮김(2010) 『다시 오는 봄』 페퍼민트 pp.176-282  
최은주(2014) 「전후일본의 '조선인 위안부' 표상, 그 변용과 굴절-「춘부전(春婦伝)」의  
출판/영화화 과정에서 드러나는 전후일본의 전쟁기억/표상/젠더」 『페미니즘  
연구』 제14권 2호 한국여성연구소 pp.3-28  
\_\_\_\_\_ (2015) 「조선인 위안부의 연애=사랑을 둘러싼 정치-식민주의적/민족적 욕망의  
미디어로서의 '위안부」 『일본연구』 제64호 한국외대 일본연구소 pp.99-117  
최은수(2019) 「재일작가의 '위안부' 표상-『8월의 저편』과 『다시 오는 봄』을 중심으  
로」 『일본연구』 제80호 한국외대 일본연구소 pp.87-92

■ 접수일 : 2023년 02월 22일  
심사완료 : 2023년 03월 08일  
게재확정 : 2023년 03월 13일

〈要旨〉

つかこうへいと水木しげるの‘日本軍慰安婦’  
- 『娘に語る祖国・お父さんの戦記』を媒介に -

崔 恩 綏

在日朝鮮人二世であり日本演劇界の革命家と知られるつかこうへいと、妖怪漫画で有名な水木しげるには、同時代を風味した演劇と漫画界の巨匠であること以外にも、両者共に‘日本軍慰安婦’について語り・表象しているという共通点がある。また、両者は“娘に語る”で始まる表題の著書を出版している。本研究においては、つかのエッセイをめぐる日韓両国社会の‘誤読’の可能性を念頭に入れて『娘に語る祖国—満州駅伝』従軍慰安婦編』を傷病兵として‘慰安婦’について記述・表象しながら『娘に語るお父さんの戦記』を執筆している水木しげるの著作との相互テキスト性の観点から比較分析する。これはつかのエッセイと水木しげるの‘慰安婦’表象から両者の‘日本軍慰安婦’に対する認識を短編的にしか読むことができなかったゆえに生じた日韓両国社会に誤読に対する示唆を提示することになると思われる。またこのような比較分析から両作家と作家たちが代弁する日本社会の‘日本軍慰安婦’をめぐる認識の一端が可視化されることを期待する。

〈Abstract〉

“Japanese Military Sexual Slavery” by Kohei Tsuka and Shigeru Mizuki  
- A Study based on “The Story of the Fatherland/War memories” for Daughter

Choe, Eun-Su

Kohei Tsuka, a second-generation North Korean resident in Japan and revolutionary of the Japanese theater world, and Shigeru Mizuki, famous for his Japanese yokai manga, have something in common that they both talk about and represent the Japanese Military Sexual Slavery. They have also published a book titled “Tell My Daughter.” In this study, we compare and analyze essays by Kouhei Tuka and Shigeru Mizuki from the perspective of mutual text. Kohei Tsuki is a second generation North Korean resident in Japan, and Shigeru Mizuki, a wounded and sick soldier, writes “Dad’s War Record to Tell My Daughter” while describing and representing Japanese Military Sexual Slavery. This is a research method to accurately read both of them’s perceptions of the Japanese Army Japanese Military Sexual Slavery from the text of Kohei Tsuka and Shigeru Mizuki. It is hoped that this comparative analysis will bring into view a part of the Japanese society’s perception of the “Japanese Military Sexual Slavery,” which both writers and writers represent.

## 【書評】



## 安藤宏 著『太宰治論』(東京大学出版会、2021)에 대한 서평

정 세 진\*

21세기 신형 과학기술의 발전(emerging technologies)이 가져온 정보통신 생태의 혁신적 변화는 미래 사회를 향한 인간의 상상력을 오롯이 낙관론에만 머물게 하지 않는다. 현시점의 ‘포스트 휴머니즘(posthumanism)’과 ‘인류세(Anthropocene)’ 위기를 둘러싼 비판적 담론에서 단적으로 드러나 듯이, 문체는 그 속도와 방향을 이해하고 해석하는 가치 규범, 말하자면 과거와 현대의 괴리를 말로써 궁구해 나갈 우리들 스스로의 언어운용능력인 것이다.

이토록 지극히 ‘현대’적인 문체에 대해, 도쿄대학 문학부 교수이자 수십년간 자국내 근대 문학 연구를 리드해 온 안도 히로시(安藤宏)는 저서 『다자이 오사무론(太宰治論)』(2022)를 통해 “인간은 논리와 실증에 기반한 스토익한 영위를 통해서만 현대를 알 수 있다”(47쪽, 이하 책의 내용을 인용 시 쪽수만 표기)는 일견 시대착오적인 연구 윤리로써 맞선다. 과연, 유발 하라리 『사피엔스』(2015)의 발상을 빌릴 것도 없이, 인간은 어느 시대에나 ‘지금’을 알고자 할 때 과거의 시공간을 양식 삼는 일 말고는 딱히 방법을 알지 못한다. 저자는 이러한 인간의 삶의 양식에 내재한 변증법에 지극히 자각적으로, ‘근대’문학 작가 다자이 오사무의 언어전략을 파헤친다. 단순한 작가론을 넘어, 인간의 활동과 사회, 문화적 변동에 대해 방향성을 제시하는 문학 연구의 본령을 탐구해 내고 있다는 데서 본서를 크게 평가할 수 있겠다.

본서에서 가장 먼저 눈에 띄는 점은 1200페이지에 육박하는 압도적인 분량이

---

\* 한국외국어대학교 일본어통번역학과 강사, 일본근현대문학

다. 개요에 해당하는 「서 다자이 오사무의 시공간(序 太宰治の時空間)」을 제외하고 총 4개 부(部)와 40개 장(章) 구성이며, 각 장 사이에는 48편에 이르는 칼럼이 배치돼 있다. 쇼와(昭和) 전반기 격동의 시대부터, 전시하, 전후에 이르기까지, 마르크스주의적인 세계관과 천황제 가족국가관, 나아가 전후민주주의라는 대상을 치열하게 살아낸 다자이의 역사적, 사회적, 전기적 사실이, 방대한 분량의 사료와 초고 조사, 2000년대 이후 공개된 자필 원고 및 신자료의 발굴·분석을 통해 철저하게 검증돼 있다. 지금껏 저자가 단독으로 펴낸 연구서만 보자면 『자의식의 쇼와 문학(自意識の昭和文学)』(至文堂, 1994), 『근대소설의 표현기구(近代小説の表現機構)』(岩波書店, 2012), 『「나」를 만들다: 근대소설의 시도(「私」をつくる: 近代小説の試み)』(岩波書店, 2015) 등, 그 중점은 근대문학의 표현사 연구에 놓여있었다고 볼 수 있다. 다자이만 논고한 단저(單著)는 『다자이 오사무: 연약함을 연기한다는 것(太宰治: 弱さを演じるということ)』(ちくま新書, 2002)가 유일했다. 요컨대, 본서는 대학 졸업 후 사십여 년간 다자이의 과거와 현재, 미래를 응시해 온 저자가 스스로의 라이프 워크를 집대성해 낸 결정체이기도 한 셈이다.

다자이 오사무는 일본의 근현대문학을 대표하는 소설가 중 한 명으로서 그 연구의 축적은 나쓰메 소세키(夏目漱石), 모리 오가이(森鷗外), 아쿠타가와 류노스케(芥川龍之介)에도 견줄 만하다. 이즈미쇼인(和泉書院)에서 1994년부터 2017년까지 총 25권에 걸쳐 간행한 작품론집 『다자이 오사무 연구(太宰治研究)』는 그 단적인 예다. 사후 약 반세기가 흐른 시점에서 일약 도래한 다자이 연구 붐의 중심에는, 안도 히로시를 비롯해 나카무라 미하루(中村三春), 하나다 토시노리(花田俊典), 아마사키 마사즈미(山崎正純)라는 신진 연구자들의 약진이 있었다. 일찍이 마르크스 사상의 세례를 받은 다자이가 <일본로망파(日本浪漫派)>와 결별 후 전후에 <무뢰파(無頼派)>를 대표하는 레지스탕스 작가로 변모한 이력이야 말로 그전까지의 다자이 작품론의 모든 것이었다고 할 수 있다. 반하여 앞의 연구자들은 선행 연구가 만들어낸 일종의 ‘신화학’에 대한 재검토를 주장했다는 점에서 공통된다. 그 중에서도 안도 히로시는 도쿄대학교 문학부 조수로 근무하던 무렵 발표한 논고(安藤宏(1989) 「太宰治・戦中から戦後へ」『国語と国文学』第66巻第5号、東京大学国語国文学会、pp.105-116)에서 국가공동체

와의 “거리(へだたり)”의 상실이라는 새로운 문법을 제시하며 다자이 연구 패러다임에 지각변동을 가져왔다(高橋秀太郎(2009)『研究動向：太宰治』『昭和文学研究』第59卷、昭和文学会、pp.60-63을 참조).

그러나 본서의 가장 큰 특색은 저자가 “아나크로니즘(anachronism)”(47쪽)이라는 키워드를 통해 다자이 문학에서 ‘현대’성을 도출해 내는 프로세스에 있다. 시대착오(時代錯誤)라고 번역되는 ‘아나크로니즘’은 현대의 관점에서 진부하고 구시대적인 사상이나 언동을 냉소하는 말로 알려져 있으나, 메타레벨의 작가와 소설의 작자를 구별하는 텍스트론의 경우에는 언어를 통해 인간으로 하여금 시대 상황에 내재된 위화를 깨닫게 하고, 이에 대한 반동으로써 최첨단의 표현을 생성해 내는 특출한 집필 전략을 가리키기도 한다는 점에 유의할 필요가 있겠다.

이상의 입장에서 본서의 구성과 문제의식 및 학술적 의의를 개략하자면 아래와 같다.

먼저, 「제Ⅰ부 요람기(第Ⅰ部 揺籃期)」는 총 5개 장 구성으로 이른바 “방탕의 피(放蕩の血)”(「学生群」, 「五、彼等(C)敗殘者」, 『座標』1930.09)를 고유의 테마로 했던 다자이의 습작기 시절에 주목한다. 이어진 「제Ⅱ부 『만년』의 세계(『晩年の世界』)」는 다자이의 첫 번째 창작집인 『만년』(1936)이 중심이다. 중앙 문단에 데뷔한 다자이의 작품 세계가 성립한 과정과 외국 문학의 영향, 그리고 독자적인 “자의식 과잉의 요설체(自意識過剰の饒舌体)”(371쪽)를 발견해 나가는 과정에 대한 분석이 총 14개의 장에 걸쳐 이루어 진다. 그리고 「제Ⅲ부 중기의 작품세계(第Ⅲ部 中期の作品世界)」에는 『만년』 간행 후부터 태평양전쟁 개전 전일까지의 작품세계가 11개 장, 「제Ⅳ부 전중에서 전후로(第Ⅳ部 戦中から戦後へ)」에는 태평양전쟁 개전부터 전후 다자이 문학의 종말까지가 13개의 장을 통해 논고 된다. 「제Ⅲ부」의 경우, 저자는 현하 유수의 대지주였던 생가의 ‘계급악(階級悪)’을 고발하는 초기 작품의 모티브가 “죄(罪)” 의식의 생성과 함께 점차 붕괴하는 과정을 밝혀내고 있다. 이윽고 “대타적인 윤리로 향해야 할 심정이 육친과의 애증극(肉親との愛憎劇)”(528쪽)으로 치환되어 가는 구조가 이후의 다자이 문학에 일관된 특징이라고도 주장한다. 이중 저자가 가장 심혈을 기울인 쪽은 단연 「제Ⅳ부 전중에서 전후로」일 것이다. 본장에는 전시하의 천황제 가족국가론을 다자이가 내재화 해낸 방법은 물론, 패전으로 인해 “함께-살다(共に一生

きる”(981쪽)라는 가능성이 “함께--멸망해 간다(共に--滅び行く)”(983쪽)는 비극으로 치닫게 되는 과정까지 규명돼 있다. 가령, 「제Ⅳ부 전중에서 전후로」 중 「제9장 「사양」에 있어서의 “멸망”의 미학(第九章 「斜陽」における“ホロビ”の美学)」의 아래와 같은 부분을 보자.

마르크스주의적 세계관과 천황제 가족국가론. 『사양(斜陽)』의 독창성은, 이 대략적 성격을 달리하는 두 개의 세계관—20세기의 일본을 지배한 패러다임—이 「희생자」의 논리에 의해 하나로 꼬여 모여가는 점에 있다. 애당초 이 양자는 역사적으로 표리해 있으며, 자못 간단히 반전될 수 있는 관계에 있었다. 하야시 후사오(林房雄), 다나카 세이젠(田中清玄), 아카마츠 가즈마로(赤松克麿) 등 180도 전향을 달성한 인물들은 전부 열거할 수 없을 만큼 「마르크스」와 「천황」이 너무도 간단히 상징 변환된 불행한 역사를 우리들은 알고 있다. 이 경우, 공격할 대상은 개개의 이즘(イズム)보다 오히려 이즘에 사로잡힐 수밖에 없는 「개인」의 숙명 그 자체이며, 그것을 위해서는 모든 이즘에 적합할 수 없는 희생자를 그려내는 수단만이 유효함에 틀림없다. 적어도 〈사양〉의 나오 하루(直治)는 「마르크스」에 의해서도 「천황」에 의해서도 「전후민주주의」에 의해서도 결국 구제받지 못했던 것이다. / 새삼 말할 것도 없이, 「소설」이라는 장르의 특질은 「커다란 이야기」를 “작게” 말하는, 말 그대로의 기술에 있다. 세계를 지배하는 이데올로기를 어디까지나 「개인」에게 비근한 레벨로—개인이 스스로의 「몸」에 수육(受肉)해 나가는 프로세스로써—그릴 수 있는지에 소설의 성패가 달려있는 것이다. (988쪽)

위 인용문이 시사하는 바는, 〈이에(家)〉와 〈계급〉과 〈국가〉라는 거대 이데올로기에 대하여 여기에 관계하는 스스로의 아이덴티티가 비소(卑小)함을 주장함으로써, 오히려 그 시대를 향한 위화감을 드러내는 다자이의 언어전략에 대한 착안이라고 할 수 있겠다. 만년의 다자이 문학을 관찰하는 이 “희생자”의 논리를 저자는 “거리의 파토스(へだたりのパトス)”(1017쪽)라 정의한다. 천황제 가족국가라는 관념공동체와의 “거리”를 가공함으로써 자신의 실생활을 객체화 하는 방법은, 말하자면 다자이가 쓰시마 가(津島家)에 흐르는 “방탕의 피”로부터 스스로를 객체화 시켜 나가는 논리이기도 했다. 그러나 일본이 패전하고 연합국의 점령 하에 놓임으로써, 그러한 논리는 맥없이 붕괴하고 만다. 한편, 어떤 시대사조 안에서 자신의 존재가 전부정의 대상이 될 때, 인간은 언제나 ‘타자’라는 운명공동체를 재가공하고 스스로의 존재를 확인하고 싶어하는 법이다. 그리고

그때 비로소 다자이 문학을 규정해 온 구시대의 패러다임 또한 <전후>라는 새로운 상황에 대한 안티 테제로서 새로이 의미 지어지는 것이다. 이 밖에, 본서에 수록된 48편의 칼럼에는 동시대 다자이 문학과 종교, 영화와 연극, 회화 따위와 같은 요소와의 영향관계가 문화론 및 사회론적 측면에서 실증적으로 검토돼 있다. 질적 연구와 양적 연구, 양 쪽을 충족시키기에 부족함이 없다.

이처럼 저자는 다자이 오사무리는 작가가 살아낸 ‘근대’ 안에서 21세기와 통하는 리고리즘적 문학 연구의 본령을 탐색한다. 일찍이 “격동의 시대를 충실하게 살아가고자 하여, 그 생래적인 서투름(不器用さ) 탓에 아나크로니즘을 계속해 연기하고 절망을 깊이 하며 자신의 숙명에 몸 바쳐 간 한 사람의 청년의 모습”(47쪽)을 이다지도 긍정하는 저자의 중용의 자세에 경외를 표하는 바이다. 이러한 귀납법적 고찰은, 문학 연구의 진면목이 ‘인간’과 ‘언어’와 ‘상황’의 가변적인 상호관계를 묻는 발상에 기반한다고 보는(安藤宏(2012)『近代小説の表現機構』岩波書店、pp.8-9) 저자 스스로의 연구 윤리에 대한 실천적 노력 없이는 필시 불가능했을 것이기 때문이다.

다만, 그렇기에 더욱이 저자가 주장하는 리고리즘적 연구 윤리가 소세키, 나가이 가후(永井荷風), 시마자키 도손(島崎藤村), 사토 하루오(佐藤春夫)와 같은 메이지·다이쇼 문학을 대표하는 작가들, 혹은 이른바 <제3의 신인(第三の新人)>들 이후에 등장한 포스트 전후 세대의 계보에서도 유효한가라는 의문을 가지지 않을 수 없다. 신진 연구자로서, 본서가 저자의 지난 40여년에 걸친 연구 활동의 마침표가 아닌, 보다 왕성한 연구 활동의 출사표이길 바라 마지 않는다. 본서에 관철된 리고리즘적 연구 윤리를 원용해 말하자면, 인간은 스스로 살아갈 ‘지금’을 알기 위해 과거의 시공간을 양식 삼을 밖에 그 방법을 모르고, 논리와 실증에 기반한 스토익한 영위 외에 그 길을 옳게 찾아갈 수단은 없기 때문이다.

## 제7회 한국외국어대학교 일본연구소 차세대 연구자상

---

○ 수상논문:

일제강점기 일본인 화가에게 있어 ‘조선적인 것’의 의미  
- 이시이 하쿠테이(石井柏亭, 1882-1958)의 기행서 『그림  
여행(絵の旅)』(1921)에 나타난 타자인식을 중심으로 -

○ 게재호: 일본연구 제91호

○ 수상자: 신민정(申旻正)

○ 한국외국어대학교 일본연구소 차세대 연구자상 선정 이유

본 논문은 일제강점기 일본 중앙화단에서 활동하면서 조선미술전람회의 심사위원으로 조선화단은 물론 한국근대회화를 대표하는 이중섭 외 다수의 화가들에게 영향을 끼쳤던 화가 이시이 하쿠테이(1882-1958)가 식민지 조선에 와서 ‘보고’, ‘그리고’, ‘쓴’ 『그림 여행』을 대상으로 한다. 『그림 여행』이 ‘화가’가 ‘화가’라는 특정 독자층을 대상으로 집필하고 있다는 점에서 다른 기행문과 구별되며, 일제강점기 일본과 조선의 미술 생태계에 대한 귀중한 정보들을 제공하고 있다는 점에서 연구할 가치를 충분히 지니고 있는 것으로 보인다. 연구대상에 대한 선정이유와 타당한 근거 제시를 높이 평가하고 싶다.

『그림 여행』이라는 텍스트를 필자는 당대의 콘텍스트를 설명한 후 그것을 바탕으로 이시이의 화풍과 글을 세분화시켜 논함으로써 자칫 텍스트 분석으로만 제한될 가능성을 미연에 자체방어하고 있다. 콘텍스트와 텍스트를 동시에 취급하는 논리전개 방식은 논문에 생동감을 주면서 동시에 안정감까지 주고 있다.

본 논문의 가치는 그 위상에 비해 국내의 연구성과가 미비한 이시이 하쿠테이

를 소개한 것, 그리고 이시이의 조선인식이 '제국의 (엘리트) 남성주체의 우월적인 시선'이라는 지적에 있다 할 것이다. 또한 화가(예술가)였던 이시이조차 예술적 시선보다는 시종일관 '제국 남성의 우월한 시선'을 지니고 있었다는 연구결과는 각 분야에서 이뤄내고 있는 식민지 조선 연구들과 통합적 의미를 도출시키는 데 일조할 것으로 기대된다. 아울러 본 논문에서는 언급되지 않은 『그림 여행』에 대한 서지학적 정보나 출판 후의 반향 등은 필자의 후속연구 등을 통해 접할 수 있길 희망해 본다.

#### 일본연구소 차세대 연구자상 선정위원회

**한국외국어대학교 일본연구소 차세대 연구자상 수상 소감**

부족한 논문에 의미 있는 상을 주심에 깊이 감사드립니다. 귀중한 심사평으로 충실한 논문이 될 수 있도록 도와주신 심사위원 선생님들께도 진심으로 감사드립니다.

처음 일본어와 일본학을 접했던 모교에서 귀한 상을 받게 되어 보다 의미가 깊습니다. 저를 일본학 연구자로 이끌어주신 교수님들의 은혜에 보답할 수 있도록 더욱 노력하겠습니다. 주신 상에 어울리는 연구자가 될 수 있도록 끊임없이 의심하고 고민하며 노력하겠습니다.

한국외국어대학교 일본연구소의 무궁한 발전과 더불어 학술지 ‘일본연구’가 앞으로도 훌륭한 논문들을 많이 발간해 주시기를 진심으로 기원합니다. 감사합니다.

---

## 일본연구소 규정

---

### 제 1 장 총칙

- 제 1 조(명칭) : 본 연구소는 한국외국어대학교 일본연구소(이하 본 연구소라 한다)라 칭한다.
- 제 2 조(목적) : 본 연구소는 일본의 언어, 문학, 문화, 역사, 정치, 경제 등 인문·사회과학에 관한 종합적인 연구를 통해 한국에서의 일본연구의 발전에 기여함을 목적으로 한다.
- 제 3 조(위치) : 본 연구소는 한국외국어대학교 내에 둔다.
- 제 4 조(사업) : 본 연구소의 사업은 다음과 같다.
1. 학술연구 발표
  2. 세미나 및 강연회 개최
  3. 연구논문집 발간
  4. 연구자료의 수집 및 발간
  5. 국내외 대학 및 연구소와 관련분야의 학술교류

### 제 2 장 조직

- 제 5 조(구성) : 본 연구소는 연구소장 1명, 운영위원 10명 내외, 책임연구원 1명 및 연구위원으로 구성한다.  
단 필요에 따라 자문위원과 객원교수, 초빙연구원 및 연구보조원을 둘 수 있다.
- 제 6 조(소장) : 1) 연구소장은 본 대학교 전임교원 중에서 총장이 임명한다.  
2) 연구소장은 본 연구소를 대표하고 제반사업을 통괄한다.  
3) 연구소장의 임기는 2년으로 하되, 연임할 수 있다.

4) 연구소장의 부재시는 운영위원 중에서 1명에게 그 직무를 위촉 할 수 있다.

- 제 7 조(임원) : 1) 운영위원은 총장의 승인을 받아 연구소장이 임명한다.  
2) 운영위원은 본 규정 제4조의 사업에 대한 기획·운영사항을 심의 의결한다. 임기는 2년으로 하되, 연임할 수 있다.  
3) 연구위원은 본교 전임교원 중에서 임명한다. 임기는 2년으로 하되, 연임할 수 있다.  
4) 책임연구원은 연구소장을 보좌하고, 연구소장의 지시를 받아 각 분담 업무를 처리한다.

제 8 조(고문) : 본 연구소에는 약간명의 고문을 둘 수 있다. 고문은 운영위원회의 심의를 거쳐 연구소장이 위촉하며, 본 연구소의 자문에 응한다.

제 9 조(인문사회연구소사업 책임자) : 인문사회 연구소 사업단을 본 연구소의 제2사업팀으로 한다. 연구책임자의 지위 및 권한을 본 사업이 종료될 때까지 보장함을 원칙으로 한다.

### 제 3 장 운영위원회

제 10 조(운영위원회) : 본 연구소의 원활한 운영을 위하여 운영위원회(이하 본 위원회라고 한다)를 둔다.

제 11 조(위원) : 본 위원회의 위원의 수는 10명 내외로 하고 위원장은 연구소장이 된다.

제 12 조(임무) : 본 위원회는 다음 사항에 대하여 협의한다.

- 1) 연구계획에 관한 사항
- 2) 재정에 관한 사항
- 3) 규정의 개발에 관한 사항
- 4) 기타 본 연구소의 운영에 관련된 사항

제 13 조(의결) : 본 위원회는 재적위원 3분의 2이상의 출석으로 개최하고, 출석위원 과반수 이상의 찬성으로 의결한다.

## 제 4 장 편집위원회

제 14 조(구성) : 편집위원회는 편집위원장, 편집간사, 편집위원으로 구성한다.

- 1) 편집위원장은 운영위원회의 추천을 받아 연구소장이 임명한다.
- 2) 책임연구원은 편집간사를 겸한다.
- 3) 편집위원회는 편집위원장과 운영위원회가 의논한 후 편집위원장이 소집한다.

제 15 조(자격) : 1) 편집위원장은 일본어학, 일본문학, 일본학 분야에서 탁월한 연구실적과 경력을 인정받고 있는 연구자 가운데 운영위원회의 추천을 받아 20여명의 편집위원을 위촉한다.

- 2) 편집위원장의 임기는 3년으로 하되, 연임할 수 있다.
- 3) 편집위원의 임기는 2년으로 하되, 연임할 수 있다.

제 16 조(임무) : 편집위원회는 편집위원장의 주관 하에 투고 논문 심사위원의 위촉에서 학술지 최종 교정에 이르기까지 학술지 발간에 관한 모든 사항을 의논, 결정한다.

## 제 5 장 재정

제 17 조(재정) : 본 연구소의 재정은 본 대학교로부터 지급받는 보조금과 국내외의 찬조금 및 기타의 수입금으로 충당한다.

제 18 조(회계) : 본 연구소의 회계는 본 대학교 재무회계규정에 따른다.

제 19 조(해산) : 1) 본 연구소의 해산은 운영위원회의 의결을 거쳐 총장의 승인을 받아야 한다.

- 2) 본 연구소가 해산할 경우, 그 재산은 본 대학교에 귀속한다.

## 부칙

1. (세칙) 본 규정은 시행에 있어 필요한 세칙은 총장의 승인을 받아 따로 이를 정할 수 있다.
2. (시행) 본 규정은 1990년 9월 1일부터 시행한다.
3. (시행) 본 규정은 1993년 3월 9일부터 개정 시행한다.
4. (시행) 본 규정은 1997년 3월 2일부터 개정 시행한다.
5. (시행) 본 규정은 2003년 3월 2일부터 개정 시행한다.
6. (시행) 본 규정은 2014년 8월 13일부터 개정 시행한다.
7. (시행) 본 규정은 2019년 4월 4일부터 개정 시행한다.
8. (시행) 본 규정은 2019년 5월 24일부터 개정 시행한다.

## 『日本研究』 편집위원회 규정

---

### 1. 목적

이 규정은 한국외국어대학교 일본연구소의 기관지 『日本研究』(Journal of Japanese Studies)에 투고된 논문에 대한 심사 및 게재 여부를 규정하는 것을 목적으로 한다.

### 2. 구성

편집위원회는 편집위원장, 편집간사, 편집위원으로 구성한다.

### 3. 자격

편집위원장은 일본어학, 일본문학, 일본학 분야에서 탁월한 연구실적과 경력을 인정받고 있는 연구자 가운데 운영위원회의 추천을 받아 20여명의 편집위원을 위촉한다.

### 4. 임기

편집위원장의 임기는 3년, 편집위원의 임기는 2년으로 하되, 연임할 수 있다.

### 5. 임무

편집위원회는 편집위원장의 주관 하에 투고 논문 심사위원의 위촉에서 학술지 최종 교정에 이르기까지 학술지 발간에 관한 모든 사항을 의논, 결정한다.

### 6. 투고 논문의 접수

- (1) 투고 논문의 접수에 관한 모든 사항은 편집간사가 총괄한다.
- (2) 편집간사는 투고 요령에 근거하여 투고 논문의 접수 여부를 결정하

고, 그 결과를 투고자에게 통보한다.

#### 7. 심사위원의 위촉

- (1) 편집위원장과 편집간사는 서로 상의하여 투고 논문에 대한 심사위원의 위촉을 위한 편집위원회를 개최한다.
- (2) 편집위원회에서는 투고 논문 한 편에 대하여 심사위원 3명을 위촉한다.
- (3) 심사위원을 선정할 시, 투고자와 동일 기관 소속 심사자는 심사에서 배제한다.

#### 8. 논문 심사 의뢰

- (1) 편집위원장과 편집간사는 심사위원 선정 후 10일 이내에 심사위원의 승낙을 얻은 후 논문의 심사를 의뢰한다.
- (2) 심사위원에게는 온라인(JAMS3.0)을 통해 심사 논문을 배정한다.
- (3) 심사위원은 논문 심사의 의뢰를 받은 후 10일 이내에 논문을 심사하여 논문 심사 내용을 온라인(JAMS3.0)상에 입력한다.

#### 9. 심사위원의 논문 심사

- (1) 심사위원은 편집위원회 규정에 의거하여 논문을 심사하며, 논문 심사는 온라인(JAMS3.0)상에 필요한 사항을 기입함을 원칙으로 한다.
- (2) 심사 기간은 심사 의뢰를 받은 후 10일 이내로 한다.
- (3) 심사 과정에서 투고자에 대한 조회나 문의가 필요한 경우에는 편집간사를 통해서 모든 사항을 처리한다.

#### 10. 논문심사 기준

- (1) 일본학, 일본문학, 일본어학, 일본어교육, 기타 일본연구와 관련된 내용으로 적절한 연구방법에 따라 국내외 학술지에 게재되지 않은 독창적인 내용이어야 한다.
- (2) 논문의 형식은 본 학술지의 투고규정에 맞추어야 한다.

## 11. 논문 평가의 등급

〈최종 평가 점수의 평균〉

- A : 90점 이상 : 원문 게재가
- B : 80-89점 : 수정 확인 후 게재가
- C : 70-79점 : 수정 후 재투고
- D : 70점 미만 : 게재 불가

## 12. 심사 결과의 처리

- (1) 편집위원회는 3명의 심사위원의 심사 결과를 토대로 위의 기준에 의거하여 의논, 처리한다.
- (2) 3명의 심사위원의 심사결과는 투고자가 JAMS 홈페이지에서 확인할 수 있다.

## 13. 심사 항목 및 배점

심사항목	배점
연구의 목적 및 방법	20점
논지의 논리적 전개	20점
학술적 가치와 독창성	20점
학문 분야에의 기여도	20점
선행연구의 이해와 인용도	10점
투고 규정의 준수	10점
합계	100점

## 14. 게재 여부의 결정과 통지

- (1) 편집위원회는 심사 결과에 근거하여 논문의 게재 여부를 결정한다.
- (2) 편집간사는 심사 결과를 심사 종료 후 10일 이내에 투고자에게 통지한다.
- (3) 투고자가 심사결과에 대한 이의신청이 있을 경우, 이를 심사자에게

전달하고 심사자는 투고자의 이의에 대한 답변을 제시하여야 한다. 편집위원회에서는 이를 검토하여 이의 신청에 대한 결과를 투고자에게 고지한다.

#### 15. 기타

- (1) 심사위원의 개인 정보는 일체 공표하지 않는다.
- (2) 논문 심사에 대한 제반 문의는 편집간사를 통해 처리한다.
- (3) 편집위원은 자신이 투고한 논문에 대해서는 일체 관여할 수 없다.
- (4) 투고된 논문이 박사학위 논문일 경우에는 투고규정에 따라 이를 명기하여야 하고, 일반투고 논문과 동일한 심사를 거쳐 게재여부를 결정한다.

#### 16. 부칙

본 규정은 2014년 8월 13일부터 개정 시행한다.

본 규정은 2018년 1월 1일부터 개정 시행한다.

본 규정은 2019년 12월 13일부터 개정 시행한다.

## 『日本研究』 논문투고 규정

---

『日本研究』는 한국외국어대학교 일본연구소의 정기 학술지로서 일본에 관한 어문학 및 문화전반에 걸친 학문적 연구를 목적으로 1년에 4회(매년 3월 30일, 6월 30일, 9월 30일, 12월 30일)발행한다. 논문은 아래의 규정에 의거하여 다른 곳에 게재되지 않은 원고 또는 게재될 계획이 없는 원고를 선정하여 게재 한다.

### (1) 제출원고

- 1) 최초 투고시에는 한글(97이상)으로 원고파일을 JAMS3.0 홈페이지를 통해 제출한다.
- 2) 게재결정통보를 받으면, JAMS3.0 홈페이지를 통해 수정원고 파일을 제출한다.

(2) 마감일자 : 매년 1월 30일, 4월 30일, 7월 30일, 10월 30일까지 제출한다.

(3) 발행일자 : 매년 3월 30일, 6월 30일, 9월 30일, 12월 30일

(4) 제출처 : 한국외국어대학교 일본연구소 JAMS3.0 홈페이지  
(<https://hufs-japan.jams.or.kr/>)

### I. 논문 투고요령

#### 1. 일반사항

가. 게재 대상은 일본과 관련한 인문사회과학 분야의 연구논문이나 서평 및 이에 준하는 내용으로 한다.

나. 투고자격 : 전, 현직 대학 교원, 관련분야 박사학위 소지자 및 석사학위 소지자로 한다.

#### 다. 편집용지

**호틀**의 메뉴 '모양'의 '편집용지(F7)'에서 아래와 같은 기준으로 설정한다.

· 용지 : A4, 용지방향 : 좁게.

· 여백 : 위쪽 60, 아래쪽 60, 왼쪽 50, 오른쪽 50, 머리말 10, 꼬리말0, 제본0.

- 라. 원고분량 : 위의 규격으로 작성된 A4용지 17매~30매 이내(요지포함).
- 마. 외래어 표기 : 문화체육부 고시 제 1995-6호(1995.3.16)의 표기법에 따라 표기하는 것을 원칙으로 한다.
- 바. 요지 : 요지는 영문을 기본으로 하여 본문이 한글일 경우 일본어, 본문이 일본어 또는 영어일 경우 한글 초록을 병기한다. 각 요지의 분량은 위의 규격으로 작성된 A4 각 1매 내로 제한한다. 요지문에도 해당 요지 언어로 성명을 기입한다.
- 사. 게재여부는 심사를 거쳐 편집위원회에서 최종 결정한다.
- 아. 교정은 필자의 책임 하에 행하되 메일을 통해서 한다.
- 자. 게재가 결정된 필자에게는 본 연구지 2부와 별쇄본 20부를 증정한다.
- 차. 학위논문의 축약본이나 그 일부의 경우에는 참고문헌 아래에 이를 명기한다.
- 카. 게재된 논문의 저작권은 원칙적으로 본 연구소에 귀속한다.
- 타. 저작권의 연구소 귀속에 대한 절차와 활용은 다음과 같다.
- ① 저작권에 대한 활용 동의는 게재될 논문을 대상으로 ‘저작권 양도 동의서’를 저자로부터 제출 받으며 본 연구소가 저작권을 갖는다.
  - ② 저작권 활용에 대한 CCL은 온라인 논문 투고 및 심사 시스템(JAMS)과 본 학술지의 개별 논문에 모두 명시한다.

## 2. 논문작성 요령

### 가. 논문제목 및 저자명

- ① 국문-글꼴: 신명조, 크기:14, 글자 속성: 진하게, 장평:100, 자간:0  
줄 간격:140, 정렬 방식: 가운데.
- ② 일문-글꼴: 신명조약자, 기타 국문과 같음.
- ③ 영문-글꼴: 신명조, 기타 국문과 같음  
※ 논문제목이 길 경우에는 글꼴을 장평: 95 또는 90, 자간: -8로 한다.
- ④ 저자명-글꼴: 신명조, 크기:11, 글자 속성: 보통모양, 장평:100, 자간:0, 줄 간격: 140, 정렬 방식: 오른쪽  
※ 제목과 저자명 사이는 두 줄 띄고, 저자명은 한 칸씩 띄어 쓴다.
- ⑤ 저자명 끝에 \*표를 위첨자한 후 소속, 직위, 전공 분야를 각주로 기

입한다. 각주번호 '1'은 블록을 띄워 '글자모양'에서 글자색을 흰색으로 지정하여 감추고, 본문에서 각주가 시작될 때는 '모양'의 '새 번호로 시작'에서 각주번호를 '1'로 한다.

- ⑥ 2인 이상 공동 연구논문의 경우 제 1저자, 제 2저자, ..., 교신저자 순으로 소속, 직위, 전공분야를 기재한다.

#### 나. 목차 및 키워드

[표 만들기] '표'메뉴의 '표만들기(^NT)'에서 '줄 2', '칸 1'로 하여 표가 만들어지면 표의 두 번째 줄에 커서를 놓고 오른쪽 마우스를 클릭하여 '셀나누기'에서 2칸으로 '나누기'한다. 가운데 선을 감추기 위하여 커서를 표 안에 넣고 오른쪽마우스로 '선모양'을 선택한 다음 가운데 선을 '선종류'에서 '투명'으로 설정한다.

- ① < 목 차 > 또는 < 目 次 > : 첫째 줄에 입력(한 자씩 띄우기).  
· 글꼴: 신명조(한글), 신명조약자(한자), 크기: 10, 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: 0, 줄간격: 140, 정렬방식: 가운데.
- ② 목차내용 : 두 셀로 나누어서 내용을 배분한다.
- ③ 셀모양 : 메뉴 '모양'에서 '문단모양(Alt+T)'을 클릭하여 '가운데로'를 해제한 후 '양쪽혼합'을 선택한다.  
· 글꼴: 신명조, 크기: 10, 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: 0, 줄간격: 140, 정렬방식: 왼쪽(왼쪽 여백 2)  
※ 표 넓이는 내용에 따라 8~10cm로 하며, 표 길이는 'F5'클릭한 후 컨트롤키(Ctrl)+방향키로 조절한다.
- ④ 키워드: 논문의 키워드를 5개 선정하여 한국어로 작성된 논문의 경우 일본어와 영어로, 일본어로 작성된 논문의 경우 한국어와 영어로, 영어로 작성된 논문의 경우 한국어와 영어로 모두 병기하는 것을 원칙으로 한다.(글꼴: 중고딕, 크기: 9, 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: -10, 줄간격: 140)  
※ 일문은 신명조약자로 한다.

#### 다. 본문

- 논문을 소제목으로 구분할 경우, <목차>로 정리하여 논문제목 다음에 넣는다. 본문의 장은 I, II, III, IV..., 절은 1, 2, 3, 4, ..., 항은 1), 2),

3), 4) …의 순으로 배열한다.

- 글의 구성형태는 서론-결론 혹은 머리말-맺음말로 한다.
- 논문의 내용 가운데 활자 조판으로 해결될 수 없는 사진이나 도표 등은 그대로 인쇄 가능하도록 전사용지나 백색모조지에 정밀하게 작성하여 첨부한다.
- 모든 연대나 숫자는 서기·算用數字로 씀을 원칙으로 한다.
- 키워드 또는 본문과 본문의 큰 제목사이의 위 2줄, 아래 1줄을 띄우고, 큰 제목과 작은 제목 사이는 1줄을 띄운다. 본문과 작은 제목 사이는 띄우지 않으며, 본문의 첫째 줄과 작은 제목은 메뉴 ‘문단모양’에서 2칸 들여 쓰기 한다.
- ① 국문-글꼴: 신명조, 크기: 10, 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: -10, 줄간격: 160, 정렬방식: 양쪽 혼합, 낱말간격 0, 들여쓰기 2.
- ② 일문-글꼴: 신명조약자, 이외 국문과 같음.
- ③ 영문-글꼴: 신명조, 이외 국문과 같음
- ④ 큰 제목-글꼴: 신명조, 크기: 12, 글자속성: 보통, 장평: 100, 자간: 0, 줄간격: 140, 정렬방식: 가운데
- ⑤ 작은 제목-글꼴: 신명조, 크기: 11, 글자속성: 보통, 장평: 100, 자간: 0, 줄간격: 140, 정렬방식: 왼쪽
- ※ 일문의 경우 글꼴만 신명조약자로 바뀌고 나머지는 국문과 동일함.
- ⑥ 인용-원문의 인용은 행을 새로이 하여 상하를 한 칸 띄운 후, ‘문단설정’에서 들여쓰기 왼쪽여백5, 크기 9, 이외 본문과 동일함.

#### 라. 각주

- 메뉴의 ‘입력’에서 ‘주석’을 클릭하여 각주를 선택한다.
- ① 국문-글꼴: 신명조, 크기: 8.5, 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: -10, 줄간격: 140, 정렬방식: 양쪽 혼합
- ② 일문-글꼴: 신명조약자, 이외 국문과 같음.
- ③ 영문-글꼴: 신명조, 이외 국문과 같음
- ※ 자세한 각주작성 요령은 별도항목 참조

#### 마. 요지

- ① 독립된 페이지로 작성한다.

- ② 첫째 줄 왼쪽 끝에 <Abstract>를 기입한다.
- ③ 요지 내용 : 연구소 편집용지 기준 반페이지 이상 1페이지 이하로 작성한다
- ④ 요지서식
  - 글꼴: 신명 신명조, 크기: 9(제목은 10), 글자속성: 보통모양, 장평: 100, 자간: -10, 줄간격: 140, 정렬방식: 양쪽 혼합.
- ⑤ 사용언어 : 요지는 영문 작성은 필수로 하고, 본문이 한글인 경우 일문 요지를, 일문인 경우 한글 요지를 작성한다.

## II. 각주 및 참고문헌 작성요령

### 1. 국내문헌, 일본문헌, 중국문헌

- ① 단행본인 경우
  - <예> 近藤泰弘(1997)『日本語文法体系と方法』ひつじ書房 p.123
- ② 학술논문인 경우(학위논문 포함)
  - <예> 加藤泰彦(1988)「否定の作用域と文法表示」『上智大学外国語学部紀要』第23 p.130
- ③ 앞에 나온 책과 논문을 다시 인용할 경우
  - <예1> 앞에 인용한 책(논문)을 다시 인용할 경우
    - 국내문헌 : 김용운 앞의 책 p.34
    - 일본 및 중국문헌 : 青木保 前掲書 pp.21-53
  - <예2> 바로 위에서 인용한 책(논문)을 다시 인용할 경우 :
    - 국내문헌 : 같은 책 pp.34-56
    - 일본 및 중국문헌 : 上掲書 pp.34-56
- ④ 번역된 책을 인용할 경우
  - <예> 中根千枝『タテ社会の人間関係』(李光圭訳 『日本社会の性格』一志社 1979) p.34
- ⑤ 단행본이나 논문 전체를 참고한 경우 전체 페이지를 기입한다.
  - <예> 小山清文・袴田光康(2009)『源氏物語の新研究一字治十帖を考える』新典社 pp.7-397

### 2. 영어권 문헌

① 단행본인 경우

〈예〉 Klaiman, M.H.1991. The Grammatical voice. Cambridge University Press, pp.52-64

② 학술논문인 경우

〈예〉 Jacobsen, W.M.1992. The transitive structure of event in Japanese. Studies in Japanese Linguistics 1, Kurushio, pp.52-64

③ 앞에 나온 책과 논문을 다시 인용할 경우

〈예1〉 앞에 인용한 책(논문)을 다시 인용할 경우 :

Michiko Hasekawa, op. cit. p.34.

〈예2〉 바로 위에서 인용한 책(논문)을 다시 인용할 경우 :

Ibid. p.34

④ 단행본이나 논문 전체를 참고한 경우 전체 페이지를 기입한다.

〈예〉 Susan, J.N.1996. The Fantastic in Modern Japanese Literature: The Subversion of Modernity, Routledge, pp.1-272

3. 인터넷 자료인용

① 제작자, 제작년도, 주제명, 웹주소(검색일자)의 순으로 한다.

〈예〉 김철수 2001년 ‘일본의 종교적 특색’

[http://www.dasom.com/religion/japan/shiontoh.htm/kk\\_0101.html](http://www.dasom.com/religion/japan/shiontoh.htm/kk_0101.html)(검색일:2001.12.15)

② 분량이 많은 경우, 인용부분이 페이지로 표시되지 않기 때문에 오른쪽 바의 위치로 표시한다. 예를 들어 (1/10 Bar)의 뜻은 인터넷 전체 자료의 십분의 일에 해당한다.

〈예1〉 정수용 2002년 ‘일본역사교과서 바로잡기’

<http://www.freechal.com/histextbook/kk0101.html>(검색일:2002.12.15)

## 『日本研究』 연구윤리 규정

### 1. 목적

이 규정은 한국외국어대학교 일본연구소의 학술지 『日本研究』의 발간에 있어서 투고자, 편집위원, 심사위원이 지켜야 할 윤리규정과 시행의 지침을 정하는 것을 목적으로 한다.

### 2. 투고자의 윤리규정

#### (1) 책무

투고자는 독창성 있는 논문을 투고해야 하며 투고시 (2)에 예시된 연구 부정행위를 하지 않는다.

#### (2) 연구 부정 행위

##### ① 위조

존재하지 않는 데이터 또는 연구결과 등을 허위로 만들어 내는 행위.

##### ② 변조

연구 재료·장비·과정 등을 인위적으로 조작하거나 데이터를 임의로 변형, 삭제함으로써 연구 내용 또는 결과를 왜곡하는 행위.

##### ③ 표절

다음 각 항목과 같이 일반적 지식이 아닌 타인의 독창적인 아이디어 또는 창작물을 적절한 출처 표시 없이 활용함으로써, 제3자에게 자신의 창작물인 것처럼 인식하게 하는 행위

가. 타인의 저작물 전부 또는 일부를 출처 표시하지 않고 그대로 활용하는 경우

나. 타인의 저작물의 단어·문장구조를 일부 변형하여 사용하면서 출처표시를 하지 않는 경우

다. 타인의 독창적인 생각 등을 활용하면서 출처를 표시하지 않은 경우

라. 타인의 저작물을 번역하여 활용하면서 적절하게 출처를 표시하지 않은 경우

④ 부당한 저자 표시

다음 각 항목과 같이 연구내용 또는 결과에 대하여 공헌 또는 기여를 한 사람에게 정당한 이유 없이 저자 자격을 부여하지 않거나, 공헌 또는 기여를 하지 않은 사람에게 감사의 표시 또는 예우 등을 이유로 저자 자격을 부여하는 행위

가. 연구내용에 대한 공헌 또는 기여가 없음에도 저자 자격을 부여하는 경우

나. 연구내용에 대한 공헌 또는 기여가 있음에도 저자 자격을 부여하지 않는 경우

⑤ 중복게재

연구자가 자신의 이전 연구결과와 동일 또는 실질적으로 유사한 저작물을 출처표시 없이 게재한 후, 연구비를 수령하거나 별도의 연구업적으로 인정받는 경우 등 부당한 이익을 얻는 행위

⑥ (부당 행위)

본인 또는 타인의 부정행위의 의혹에 대한 조사를 고의로 방해하거나 제보자에게 위해를 가하는 행위 등

⑦ (기타)

인문사회분야에서 통상적으로 용인되는 범위를 심각하게 벗어난 행위 등

(3) 윤리위원회 요구사항 준수

투고자는 본 학술지에 게재된 논문에 대하여 문제제기가 있을 때 윤리위원회의 요구사항에 대하여 성실히 임해야 한다.

3. 편집위원의 윤리규정

(1) 게재 여부 결정

편집위원은 투고 논문에 대해 게재 여부를 결정하는 모든 책임을 져야 하며, 투고 논문의 질적 수준과 투고 규정에 근거하여 공정하게 취급하여야 한다.

(2) 심사의 공정성 확보

편집위원은 심사에 영향을 주는 행위를 해서는 아니 되며, 심사가 공정하고, 투명하게 이루어지도록 노력하여야한다.

(3) 비밀 준수

편집위원은 투고된 논문의 평가를 해당 분야의 전문적 지식과 공정한 판단 능력을 지닌 심사위원에게 의뢰하여 객관적인 평가가 이뤄질 수 있도록 하여야 하며, 논문의 게재가 결정될 때까지는 논문에 관한 사항을 공개해서는 안 된다는 비밀유지 원칙을 준수하여야 한다.

(4) 저자정보 관리

편집위원회에서는 학술지 투고 논문의 저자에 대한 소속과 직위를 지속적으로 관리하여 연구윤리 확립에 적극 노력한다.

4. 심사위원의 윤리규정

(1) 공정한 심사

심사위원은 본 연구소로부터 의뢰받은 논문에 대해 정당한 사유 없이 심사를 지연시키지 않으며, 객관적이고 공정하게 평가한다.

(2) 비밀 준수

심사위원은 논문의 게재가 결정될 때까지는 논문에 관한 사항을 공개해서는 안 된다.

(3) 통보

심사과정의 공정성과 투명성이 의심될 경우 이를 본 연구소 편집위원회에 통보해야 한다. 또한 심사 논문이 본 연구윤리 규정에 위반되는 사실을 인지하였을 때에는 이를 편집위원회에 즉시 알려야 한다.

5. 윤리위원회

(1) 구성

윤리위원회는 연구윤리 규정 위반이 있을 때 편집위원장을 위원장으로 하여 운영위원, 편집위원, 외부인사를 포함하여 7명 내외로 구성한다. 단 해당 연구 분야의 전문가가 50% 이상 포함되어야 한다.

(2) 역할

윤리위원회는 연구윤리규정 위반으로 보고된 사안에 대하여 객관적이고 공정하게 조사를 실시한 후 규정위반이 사실로 판명된 경우에는 소장에게 제재조치를 건의할 수 있다.

(3) 제보자의 비밀과 권리 보호

윤리위원회는 부정행위를 인지한 사실 또는 관련 증거를 알린 제보자의 신원을 공개해서는 안 되며 부정행위 신고를 이유로 부당한 대우를 받지 않도록 권리를 보호하여야 한다.

(4) 조사 대상자의 소명 기회 보장

윤리위원회는 연구윤리규정 위반으로 보고 된 연구자에게 의견진술, 이의제기 및 변론의 권리와 기회를 보장하여야 하며 관련 절차를 사전에 알려주어야 한다.

(5) 윤리규정 위반 사실에 대한 조사 절차

윤리위원회는 연구부정행위에 대한 검증 절차로 예비조사, 본조사, 판정의 단계로 진행하여야 한다.

① 예비조사

연구부정행위의 의혹에 대하여 조사할 필요가 있는지 여부를 결정하기 위한 절차를 말하며, 신고 접수일로부터 30일 이내에 착수하여야 한다.

② 본조사

연구부정행위의 사실 여부를 입증하기 위한 절차를 말하며, 윤리위원회는 제보자와 조사 대상자에게 의견진술, 이의제기 및 변론의 기회를 부여한다.

③ 판정

본조사 결과를 확정하고 이를 제보자와 연구윤리규정 위반으로 보고된 연구자에게 문서로 통보하는 절차를 말한다. 단, 판정에 이르는 기간은 예비조사 착수 이후 6개월 이내로 하며 필요에 따라 연장할 수 있다.

④ 신원 비밀 보장

연구윤리규정 위반에 대해 연구소의 최종적인 징계 결정이 내려질 때까지 윤리위원회 위원은 해당 연구자의 신원을 외부에 공개해서는 안 된다.

## 6. 징계 절차 및 사후관리

- (1) 윤리위원회의 징계 건의가 있을 경우, 소장은 운영위원회를 소집하여 징계 여부 및 징계 내용을 최종적으로 결정한다.
- (2) 연구윤리규정을 위반했다고 판정된 연구자에 대해서는 경고, 취소, 투고 금지 등의 징계를 할 수 있다.
- (3) 연구윤리위반이 확정된 논문에 대하여는 확정된 시점 후 최초로 발간되는 학술지에 이를 고지한다.

## 7. 기타

연구윤리규정의 개정과 본 규정에 명시되지 않은 사항은 교육과학기술부 훈령 제260호 연구윤리 확보를 위한 지침과 운영위원회의 결정에 따른다.

### 부칙

- 본 연구윤리 규정은 2007년 12월 1일부터 시행한다.
- 본 연구윤리 규정은 2009년 3월 1일부터 개정 시행한다.
- 본 연구윤리 규정은 2016년 1월 1일부터 개정 시행한다.
- 본 연구윤리 규정은 2018년 1월 1일부터 개정 시행한다.
- 본 연구윤리 규정은 2019년 12월 13일부터 개정 시행한다.

## 한국외국어대학교 일본연구소 차세대연구자상 규정

### 제1조(목적)

1961년 출범한 한국외국어대학교 일본어과는 보다 체계적인 일본연구를 기치로 삼아 1985년 ‘일본문화연구회’를 발족시키고 논문집 『일본문화연구』를 발행하기 시작했다. 이후 ‘일본문화연구회’는 ‘일본문화연구소’(1990), ‘일본연구소’(1993, 이하 본 연구소라 함)로 탈바꿈하며 성장에 성장을 거듭해왔다. 논문집 『일본문화연구』는 본 연구소 출범과 함께 『일본연구』로 이름을 바꾸었을 뿐만 아니라, 현재 연간 4회 발행을 통해 국내는 물론 해외의 일본 연구자들에게 활발한 발표의 장을 제공하며 질적, 양적 발전을 도모하고 있다. 이처럼 우리나라 일본연구의 메카를 꿈꾸며 달려온 본 연구소는 ‘일본문화연구회’의 발족 및 『일본연구』 창간 30주년을 맞이하여 본 연구소의 기관지 『일본연구』에 게재된 논문 중 탁월한 학문적 식견과 창의성을 지닌 논문을 선정하여 시상하기로 하였다.

### 제2조(명칭)

명칭은 ‘한국외국어대학교 일본연구소 차세대연구자상’(이하 차세대연구자상)이라 한다.

### 제3조(대상자)

대상자는 당해년도 본 연구소의 기관지 『일본연구』에 논문을 게재한 박사학위 과정생 및 수료생, 박사학위 취득 후 5년 이내의 연구자로 한다.

### 제4조(선정위원회의 구성)

차세대연구자상 선정 위원회는 『일본연구』의 편집위원장을 위원장으로 하

고, 본 연구소 운영위원회의 추천을 받은 일본학, 일본어학, 일본문학의 각 분야별 2명의 위원으로 구성한다.

#### 제5조(선정위원회 위원의 임기)

차세대연구자상 선정위원회 위원의 임기는 2년으로 하되 본 연구소 운영위원회의 의결을 거쳐 연임할 수 있다.

#### 제6조(심사 및 선정)

차세대연구자상의 심사는 매년 3, 6, 9, 12월에 발행된 『일본연구』에 게재된 논문을 대상으로 논문심사의견서에 기초하여 실시하고, 일본학, 일본어학, 일본문학의 각 분야에서 5편의 수상후보논문을 선별한 후, 분야별로 각 1편을 최종 수상논문으로 선정한다.

#### 제7조(선정 결과의 공표)

차세대연구자상의 선정결과는 다음 해 3월에 발간되는 본 연구소의 기관지 『일본연구』에 다음 항목을 포함하여 공표한다.

- (1) 선정경과
- (2) 수상자명과 수상 논문명
- (3) 수상 이유
- (4) 기타

#### 제8조(시상)

차세대연구자상의 시상은 당해년도 2월에 열리는 일본연구소 편집·운영위원회에서 실시한다.

#### 제9조(규정의 개정)

본 규정에 개정 사유가 발생했을 때는 본 연구소의 운영위원회에서 개정할 수 있다.

#### 부칙

1. 수상 해당자가 없는 경우 선정위원회에서 ‘해당자 없음’을 결정할 수 있으며 그 사유를 3월호에 게시한다.
2. 수상 대상자의 자격은 논문 투고 시점을 기준으로 하며, 공동 투고 논문이 수상 논문으로 선정되었을 경우 주저자를 수상자로 한다.
3. 수상 논문이 이후 연구소 윤리규정을 위반했음이 판명되었을 때에는 선정위원회의 논의를 거쳐 수상을 취소할 수 있다.
4. 본 차세대연구자상 규정은 2016년 1월 1일부터 개정 시행한다.
5. 본 차세대연구자상 규정은 2022년 1월 1일부터 개정 시행한다.

## 韓國外國語大學校 日本研究所 組織

所 長：金東奎 教授

運營委員：文明載 教授 鄭相哲 教授 朴容九 教授 徐載坤 教授

權景愛 教授 李相薰 教授 朴敏瑛 教授 文彰鶴 教授 李昌玟 教授

### 研究委員

語文分科：文明載 教授 (日本古典文學)

權景愛 教授 (日本語學)

鄭相哲 教授 (日本語學)

文彰鶴 教授 (日本語學)

照山法元 教授 (日本語教育)

荻原佐江子 教授 (言語類型學)

徐載坤 教授 (日本近代文學)

朴敏瑛 教授 (日本語學)

金東奎 教授 (日本語學)

筒井照博 教授 (日本語教育)

伊藤沙智子 教授 (日本語教育學)

政經分科：金春植 教授 (日本言論)

李昌玟 教授 (日本經濟)

李相薰 教授 (現代日本政治)

佐東大作 教授 (經濟思想)

歷史·文化分科：朴容九 教授 (日本文化論)

中村八重 教授 (文化人類學)

責任研究員：嚴教欽 (日本古典文學)

### 招聘研究員

日本學分科：魯炳浩 (人間環境學)

許光茂 (日本經濟學)

禹基洪 (日本社會文化)

皮奭熙 (言語文化學)

梁益模 (日本歷史)

金嬪娜 (日本文化政策)

河昇彬 (政治學)

日本文學分科：金炳淑 (日本古典文學)

李珩珠 (日本古典文學)

金仁惠 (日本古典文學)

金英珠 (日本中世文學)

沈終淑 (日本近代文學)

鄭仁英 (日本現代文學)

裴慶娥 (日本古典文學)

李京和 (日本古典文學)

李閔玉 (日本古典文學)

金勁和 (日本近代文學)

崔允楨 (日本近現代文學)

姜素英 (日本比較文學)

柳利須 (日本比較文学)

丁世珍 (日本近代文学)

吳聖淑 (日本近現代文學)

日本語學分科：孫京鎬 (日本語學)

崔瑞暎 (日本語學)

金庚洙 (日本語學)

張希朱 (日本語學)

洪榮珠 (日本語學)

崔聖坤 (日本語學)

## 編輯委員會

編輯委員長：金東奎 (韓國外大)  
編輯幹事：嚴教欽 (韓國外大)  
日本學：朴晋雨 (淑明女大) 李利範 (江原州大)  
李相薰 (韓國外大) 李昌玟 (韓國外大)  
張寅性 (서울대) 纈纈厚 (明治大)  
岡崎哲二 (東京大) 楊孟哲 (台北教育大)  
朴容九 (韓國外大)  
日本文學：盧仙淑 (釜山大) 文明載 (韓國外大)  
申智淑 (啓明大) 徐載坤 (韓國外大)  
鈴木彰 (立教大) 菅原克也 (武蔵野大)  
ミツヨ・ワダ・マルシアーノ (京都大学)  
日本語學：權景愛 (韓國外大) 河在必 (釜山大)  
張元哉 (啓明大) 鄭相哲 (韓國外大)  
生越直樹 (東京大) 宮崎和人 (岡山大)  
蒲谷宏 (早稲田大) 閔丞希 (中源大)

## 日本研究

第95號

2023年 3月 27日 印刷

2023年 3月 30日 發行

發行處 韓國外國語大學校 日本研究所  
(우) 02450  
서울特別市 東大門區 里門路 107  
電話：(02)2173-3935  
Homepage：hufsjapan.hufs.ac.kr  
<https://hufsjapan.jams.or.kr/>  
E-mail：hufsiojs@empas.com/hufsiojs@hufs.ac.kr

發行人 所長 金東奎

印刷 도서출판 영한 (053)254-0209/426-9112  
대구광역시 중구 명륜로 118  
E-mail：youngghan77@hanmail.net